

ANNUAL REPORT

2016

THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

年報



目次

平成28年度の流れ	近代美術館	3
	万代島美術館	4
事業報告		
展覧会	近代美術館	6
	常設展	6
	第1期 工芸の魅力	7
	近代美術館の名品	7
	裸婦一同	7
	第2期 近代美術館の名品	9
	親と子のワクワク美術館②ハテナ?なカタチ	9
	モデルになった、はたらく人々	9
	第3期 近代美術館の名品	11
	美味なるかな!イタリア三昧	11
	没後15年 斎藤義重	11
	第4期 [前期]書か?絵か?	13
	[後期]静かなるもの	13
	近代美術館の名品	13
	モダン/東京	13
	企画展	15
	ジブリの大博覧会	15
	モネ展	17
	ヴェネツィア展	22
	良寛と菴菱湖	29
	共催展	32
	第46回 世界児童画展	32
	MOA美術館長岡児童作品展	32
	長岡市中学校美術部作品展	33
	第18回 亀倉雄策賞受賞記念三木健展	33
	友の会作品展	34
	新潟県ジュニア美術展覧会「長岡展」	34
	こどもものづくり大学校展覧会	35
	所蔵品展	36
	現代のアートとデザイン	36
	美術家の青春 ここから、絵が生まれる	39
	企画展	43
	ピアズリーと日本	43
	スタジオジブリ・レイアウト展	51
	鴻池朋子展「皮と針と糸と」	55
	マリメッコ展	59
教育普及	近代美術館	65
	イベント	65
	館外活動・巡回ミュージアム	65
	地域との 出前講座	69
	連携 ころぼde茶会	70
	刊行物・鑑賞資料	71
	作品解説会	72
	団体の受入れ	73
	学校教育等との連携	74
	観覧料免除	76
	博物館実習	77
	万代島美術館	78
	イベント	78
	刊行物	80
	作品解説会	80
	団体の受入れ	81
	学校教育との連携	82
	観覧料免除	83
	サポートメンバー	84
	博物館実習	84
調査・研究	近代美術館	85
	万代島美術館	87
収集・保存	作品の収集	平成28年度収集作品 88
	作品の保存	美術品の修復 93
		美術品の燻蒸 94
	作品の貸出	美術品の貸出 95
管理・運営	開館及び入館状況	近代美術館 98
		万代島美術館 99
	施設の貸出	近代美術館 100
	アンケート集計	近代美術館 101
		万代島美術館 103
	組織及び業務	105
	職員	105
施設	近代美術館	107
	万代島美術館	109
審議会等	美術館協議会(含自己評価に対する委員評価)	111
	美術品収集委員会	113
沿革	新潟県立美術館友の会	115
		120

平成28年度の流れ（新潟県立近代美術館）

4月	1日(金)	コレクション展第1期開会	10月	1日(土)	ワークショップ「オープン粘土でつくろう」
	16日(土)	映画鑑賞会「プロフェッショナル仕事の流儀 10 スタジオジブリ 鈴木敏夫の仕事」		2日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「ワークショップ カーニバルマスクをつくろう」
	23日(土)	ジブリの大博覧会展関連イベント「ジブリいっぱいカルテットコンサート」		8日(土)	映画鑑賞会「世界美の旅 22 ティツィアーノーヴェネツィアの巨匠」
5月	15日(日)	ジブリの大博覧会展閉会	9日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「ワークショップ カーニバルマスクをつくろう」	
	21日(土)	ワークショップ「コンテを使って～癒やしの絵を描こう～」	16日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」	
	22日(日)	コレクション展第1期閉会	22日(土)	美術鑑賞講座「新潟県立近代美術館 日本画の名品」	
	26日(木)	コレクション展第2期開会	23日(日)	ワークショップ「友の会ボランティアによるとっておきの美術館ツアー」	
	28日(土)	美術鑑賞講座「美術と労働」	30日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」	
6月	3日(金)	企画展「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」開場式	11月	3日(火・祝)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」
	4日(土)	「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」開会 モネ展関連イベント「オープニング記念講演会 モネの遺産」		5日(土)	映画鑑賞会「ツーリスト」
	21日(火)	モネ展関連イベント「夏至の日 音楽の夕べ」		6日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」
7月	25日(土)	美術鑑賞講座「佐渡モッコ 中村木子の生涯と作品」	12日(土)	ヴェネツィア展関連イベント「こらぼ de 茶会」	
	2日(土)	モネ展関連イベント「スペシャルトーク 世界でいちばん幸福な場所—ジヴェルニー—訪問 モネの光を求めて—」	13日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「記念講演会 イタリアとヴェネツィアの歴史と好奇心」	
	13日(水)	モネ展連携イベント「澤クワルテットコンサート～目でさく音、耳でみる絵～」リリックホールで開催	19日(土)	共催展「第18回亀倉雄策賞受賞記念 三木健展」開会	
	14日(木)	博物館実習初日	20日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」	
	16日(土)	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」	27日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」 「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」閉会	
	23日(土)	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」 美術鑑賞講座「印象派とジャポニスム」	12月	3日(土)	ワークショップ「らせんに編む～ストールをつくろう～」
	28日(木)	博物館実習最終日		4日(日)	三木健展関連イベント「開催記念講演」 コレクション展第3期閉会
	30日(土)	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」		8日(木)	コレクション展第4期開会
8月	30日(土)	夏休みこどもアート「じわじわじんわりひろがる 色と形の世界」	10日(土)	映画鑑賞会「花咲ける騎士道」	
	1日(月)	モネ展関連イベント「ママンデー」	11日(日)	「第18回亀倉雄策賞受賞記念 三木健展」閉会	
	8日(月)	モネ展関連イベント「ママンデー」	13日(火)	企画展「良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人」開会	
	15日(月)	モネ展関連イベント「ママンデー」	18日(日)	良寛と巻菱湖展関連イベント「作品解説会」	
	21日(日)	「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」閉会	29日(木)		
9月	27日(土)	ワークショップ「くっつけてつくろう～ホットボンドを使って～」	1月	}	年末年始の休館
	28日(日)	コレクション展第2期閉会		3日(火)	
	1日(木)	コレクション展第3期開会	2月	15日(日)	良寛と巻菱湖展関連イベント「作品解説会」 「良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人」閉会
	3日(土)	映画鑑賞会「オペラ座の怪人」		28日(土)	共催展「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」開会
	9日(金)	企画展「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」開場式		4日(土)	映画鑑賞会「どん底」
	10日(土)	「ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」開会	8日(水)	「新潟県ジュニア美術展覧会 長岡展」閉会	
	11日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「記念講演会 ヴェネツィア・ルネサンスの絵画—特質と革新」	11日(土)	美術鑑賞講座「藤田嗣治と新潟」	
	13日(火)	「巡回ミュージアム」開会 青海総合文化会館（きらら青海）にて	18日(土)	美術鑑賞講座「肖像彫刻の達人 武石弘三郎」	
	18日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「学芸員によるギャラリートーク」	3月	20日(月)	コレクション展第4期閉会
	22日(木)	「巡回ミュージアム」閉会		24日(金)	平成29年度コレクション展第1期開会
24日(土)	美術鑑賞講座「ホイッスラーのヴェネツィア」				
25日(日)	ヴェネツィア展関連イベント「～魅惑のヴェネツィア～愛と夢のコンサート」				

平成28年度の流れ (新潟県立万代島美術館)

4月	17日(日)	所蔵品展「現代のアートとデザイン」閉会
	18日(月)～ 28日(木)	展示替えのため休館
5月	28日(木)	企画展「ピアズリーと日本」開場式
	29日(金・祝)	企画展「ピアズリーと日本」開会
6月	14日(土)	ピアズリーと日本展関連イベント 講演会「衝撃のサロメ」
	28日(土)	ピアズリーと日本展関連イベント 講演会「ピアズリーの魅力を語る」
7月	26日(日)	企画展「ピアズリーと日本」閉会
	27日(月)	展示替えのため休館
8月	15日(金)	企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」開場式
	16日(土)	企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」開会 スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント ギャラリートーク
9月	14日(日)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント 「カオナシがやって来る！」
	21日(日)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント 「カオナシがやって来る！」
10月	10日(土)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント ミュージアム・コンサート
	11日(日)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント 「カオナシがやって来る！」
11月	18日(日)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント 「カオナシがやって来る！」
	24日(土)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント ギャラリー・トーク
12月	2日(日)	スタジオジブリ・レイアウト展関連イベント 「カオナシがやって来る！」
	10日(月・祝)	企画展「スタジオジブリ・レイアウト展」閉会
1月	11日(火)～ 26日(水)	展示替えのため休館
	27日(木)	所蔵品展「美術家の青春」開会
2月	30日(日)	美術鑑賞講座「青春時代のデューラー」
	27日(日)	美術鑑賞講座「横山操と加山又造―戦後日本画の青春時代」

12月	4日(日)	美術鑑賞講座「相澤コレクションの難波田龍起・史男」
	4日(日)	所蔵品展「美術家の青春」閉会
1月	5日(月)～ 16日(金)	展示替えのため休館
	16日(金)	企画展「鴻池朋子展 皮と針と糸と」開場式
2月	17日(土)	企画展「鴻池朋子展 皮と針と糸と」開会 鴻池朋子展関連イベント 鴻池朋子アーティスト・トーク
	23日(金・祝)	鴻池朋子展関連イベント アートコンプレックス & トーク「冬の遠吠え」
3月	28日(水)	年末年始の休館
	3日(火)	鴻池朋子展関連イベント ワークショップ「アートの初めのおつかい」
4月	8日(日)	鴻池朋子展関連イベント トーク「針と糸は物語る～現代のおとぎ話を縫う」
	21日(土)	鴻池朋子展関連イベント 学芸員によるギャラリー・トーク
5月	29日(日)	企画展「鴻池朋子展 皮と針と糸と」閉会
	12日(日)	展示替えのため休館
6月	13日(月)	展示替えのため休館
	3日(金)	企画展「マリメッコ展―デザイン、ファブリック、ライフスタイル」開場式
7月	3日(金)	企画展「マリメッコ展―デザイン、ファブリック、ライフスタイル」開会
	4日(土)	美術鑑賞講座「北欧デザインの魅力」
8月	18日(土)	マリメッコ展関連イベント ワークショップ「「にいがたもよう」オリジナルミニノートづくり」
	26日(日)	

事業報告



常設展(コレクション展)

【趣旨】

当館の所蔵品による展示。

例年どおり、「美味なるかな！イタリア三昧」「書か？絵か？」など企画展にリンクした内容など、4期にわたり三つの展示室ごとにテーマを設けて所蔵品を展示紹介した。

特に本年度は、每期設けている「近代美術館の名品」で、軸や屏風を中心とした日本画を集中的に展示し、素材が脆弱で展示形式が制限されることで展示する機会の少ない作品を見ていただける機会とした。

また、昨年度に引き続き、夏期の親子向け企画「親と子のワクワク美術館」も実施した。



【観覧料】

一般……………430円(340円)

大学・高校生……………200円(160円)

中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※同時期の企画展観覧券で観覧可

第1期 2016年4月1日(金)～5月22日(日)(47日間)

展示室1 工芸の魅力
展示室2 近代美術館の名品
展示室3 裸婦一同

工芸の魅力

【趣旨】

「工芸」の魅力は、作家が素材と対峙して作品を作り上げるということに尽きる。素材の特性を知り尽くした上で、自らが持っている技術を最大限に発揮することで、その素材が持つ美しさや華やかさを表現する。

1960年代以降に登場した現代美術作家の中には、自らが描くヴィジョンを最大限に発揮するために、自らが制作するのではなく、例えば技術のある部分を発注するようになったが、工芸家は正に真逆の存在であり、「自らの手で作る」という、その一点に工芸家が工芸家たる所以があると言える。本展では各分野の工芸作品を展示するとともに、その様々な技法も併せて紹介することで、工芸の魅力を十二分に感じられるよう心掛けた。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館の工芸作品の中からほぼ全ての分野の作品を紹介することで、工芸技術の多様性とその魅力、そして工芸家の技術の高さを紹介することができた。
- ・工芸の技法や素材、また工芸作品の名称の読み方など、工芸に関わる語句を多方面に会場で紹介することで、工芸に親しめるよう心掛けた。

●検討課題

- ・当館所蔵の工芸作品は分野によって偏りがあり、工芸技法や素材の全てを紹介することができなかった。今後は長期的な視点で幅広い収集が必要であろう。

担当 藤田裕彦

裸婦一同

【趣旨】

美術館の展示室で必ずといってよいほど目にする人体の表現。とりわけ裸の女性はなくてはならない存在だといえる。そうした裸体、特に裸婦の表現について、西洋を皮切りに、次いで近代以降の日本での受容と展開を大きく紹介した。そこから裸婦の存在と表現にあらためて着目する機会となった。

【総括】

●評価すべき点

- ・展示機会にあまり恵まれない裸婦を表現した絵画や彫刻を含む展示内容にしなから、裸婦の歴史を大きく紹介することができた。

●検討課題

- ・西洋美術ではロダンなどの彫刻2点のみの出品となり、近代の日本美術に比重が偏ってしまった。

担当 澤田佳三

【出品リスト】

展示室 1 工芸の魅力

作家名	作品名	制作年
五代 伊藤 赤水	無名異線土鉢	1988
三浦 小平二	焼きしめ花瓶「マサイ」	1970
三浦 小平二	青磁鉢	1978
五代 伊藤 赤水	無名異線上花紋壺	2013
三浦 小平	獅子舞大花瓶	1954
齋藤 三郎	色絵唐草窓絵椿模様大壺	1977
齋藤 三郎	白磁連弁文陰刻蓋付壺	1977
齋藤 三郎	辰砂陰刻牡丹花瓶	1948
齋藤 三郎	染付竹林文壺	1970年代
齋藤 三郎	鉄絵筆文輪花皿(6客)	1955-59
堀 浄親	兜盆	1970
三代 本間 琢齋	蠟型鑄銅花鳥文花瓶	1900
市橋 敏雄	白銅置物・萌生	1977
佐々木 象堂	蠟型鑄銅獣装耳小花入	1959
小川 英鳳	銀製・波・花瓶	1969
原 直樹	鑄銅花瓶・銘花苑	1954
原 正樹	プラスのトルソー	1988
二代 宮田 藍堂	蠟型鑄銅ひねり一瞬置物	1976
宮田 脩平	トルソ	1975
岩田 藤七	花器	1960
岩田 久利	花器	1985
高井 進	青磁線文壺	2002
鶴巻 三郎	春の日のマリア	1980
細野 實	雲の標	2002
宮田 宏平(三代藍堂)	蠟型鑄金・終りのない物語「恋秤」	1983
宮田 宏平(三代藍堂)	布留(なら)の佛たち	1966
宮田 亮平	ゲルからの移行皿	1979
伊藤 豊	陶板画・雪山松嶺	1973
亀倉 蒲舟	磨崖	1973
亀倉 康之	枯野	1978
本間 一秋	冬夏青々	1977
原 益夫	エンドレス	1997
内田 宗寛	黒塗中環	1982
初代 本間 琢齋	蠟型鑄銅羅漢鈕香炉	明治初期
柴田 武次	鍛鉄銀象嵌波瀾文香炉	昭和10年代
石山 恵美子	蒼II	1981
広川 青五	OI「スペース・XIII」	2001
香取 秀真	斑紫銅鑄壺	不明
津田 信夫	鑄銅壺・波光連如	1942
佐々木 象堂	鑄銅色絵鸚哥置物	1940
目黒 順三郎	彫漆水葵文箱	1989
堀 政晴	鑄分花器「彩」	1997
玉川 宣夫	木目金花瓶	2009
亀倉 蒲舟	黄銅鑄文飾箱	1937

展示室 2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
小山 正太郎	仙台の桜	1881
浅井 忠	農人	1890
高村 真夫	ラバクール村	1915
岸田 劉生	冬枯れの道路(原宿附近写生)	1916
中村 彝	洲崎義郎氏の肖像	1919
前田 寛治	赤い帽子の女	1925
牧野 虎雄	サンルーム	1929
牧野 虎雄	春去らんとす	1925
佐伯 祐三	広告塔	1927
佐伯 祐三	バンテオン寺院	1928
野間 仁根	花園の友人	1936
安宅 庸雄	鸚鵡と少女	1936
北川 民次	大地	1939
竹谷 富士雄	壺づくりの女	1940
梅原 龍二郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
佐藤 哲三	農婦	1940
海老原 喜之助	燃える	1957
齋藤 義重	赤の跡	不明
桂 ゆき	異邦人	1961
川端 実	作品	1963
木村 忠太	桜樹のある村	1984
柳原 義達	道標 鳩	1974 *
G. ルオー	クラウン	不明 *
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	c1840
T. ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景	c1845
A. フォンタネージ	プジエイ高原	c1858-60
C-F. ドービニー	オワース川 イル・ド・ウォーの夜明け	1869
C. コロー	ピブリ	c1874-75
P. セザンヌ	水浴	1875-77 *
C. ピサロ	ルヴシエンヌの画家の家	1871 *
C. モネ	コロンプの平原、霜	1873
J. デュプレ	羊飼いの	c1883
M. ドニ	夕映えの中のマルト	1892
M. ドニ	ベンガル虎 バッカス祭	1920
A. ロダン	考える人	1880
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52

※ *は寄託作品

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

展示室 3 裸婦一同

作家名	作品名	制作年
A. ロダン	疲れ	1887
A. ブーシェ	朝顔	c1892
北村 四海	空想に耽り居る女	1916
高村 真夫	裸婦	1921
佐藤 哲三郎	裸婦	1930
桑重 儀一	浴する女	不明
満谷 国四郎	裸婦	1923
矢部 友衛	習作	1920
坂田 一男	椅子による裸婦	1924
小出 楯重	ソファの裸体B	1930
藤田 嗣治	私の夢	1947
竹谷 富士雄	廃墟のヴィナス	1947
千野 茂	裸婦	1957
柳原 義達	坐る	1960
小林 哲夫	夢妄	c1976
倉石 隆	イヴ	1982
北村 正信	裸婦立像	不明

第2期 2016年5月26日(木)～8月28日(日)(85日間)

- 展示室1 近代美術館の名品
展示室2 親と子のワクワク美術館② ハテナ? なカタチ
展示室3 モデルになった、はたらく人々

親と子のワクワク美術館② ハテナ? なカタチ

【趣旨】

昨年度より開催している親子向けの展示会の第2回目。今回は、抽象的で思わずハテナ? と思ってしまうような不思議な形態の作品を展示。何に見えるか、何を表しているかなど想像したり、話合ったりしながら、大人から子どもまで、観る楽しみを味わえるような展示会を目指した。

また、会期中、今回展示された色彩豊かで不思議な形態の作品と関連させ、にじみやぼかしの技法を使って、偶然生まれる色とカタチの世界を楽しむワークショップを、学校の教員を講師に迎えて行った。

【総括】

●評価すべき点

- 鑑賞者の想像力を広げるためのヒントを記載したフキダシを、作品付近に取付けるなど工夫をした。
- 先入観を与えないように、キャプションに詳細な作品解説を記載しないなど、普段の展示とは違う試みを行った。

●検討課題

- 上記のような仕掛けを試みたものの、鑑賞者の反応の確認や、仕掛けの検証まで充分に行えなかった。鑑賞者の反応を展示に生かす方法を考えたい。

【関連行事】

・ワークショップ

夏休みこどもアート「じわじわじんわりひろがる 色と形の世界」

7月30日(土) 14:00～16:00 講座室

講師：巻口礼子氏(長岡市立東北中学校教諭)

対象：小学生・中学生

参加者：12名

担当 伊澤朋美



モデルになった、はたらく人々

【趣旨】

現在の私たちの生活の中で「働く」という行為は、生活に密着した義務的なものであり、多くの人々にとって美術とはかけ離れた印象をもたれるかもしれない。しかし、働く人々、農業やその他様々な労働に従事する人々を描いた作品は、例えば農民画として、また大きなジャンルでは風俗画として分類され、数多く存在している。

今回の展示では、作者の描く対象への視線を感じてもらうことを軸として、バルビゾン派の影響やプロレタリア美術についても紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- 「労働」という、比較的身近で鑑賞者が想像しやすいテーマでありながら、所蔵作品の歴史的な流れについても紹介をすることが出来た。また、この事については美術鑑賞講座のテーマとすることで、鑑賞者の理解がより深まるよう工夫した。
- 当館の名品から、展示機会のない寄託作品なども展示することが出来た。

●検討課題

- キャプションや展示が説明的であり、当初重きを置いていた作者の視線について、鑑賞者の興味を引くことが出来ていなかったように思う。展示やキャプションについて工夫が必要であった。

担当 松本美樹

【出品リスト】

展示室 1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
坂本 繁二郎	牛	1915
梅原 龍二郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
岡 鹿之助	朝の城	1970
脇田 和	あらそい	1955
鳥海 青児	二重橋	1956
地主 悌助	石	1966
G. クールベ	エトルタ海岸 夕日	1869
C. コロー	ピプリ	c1874-75
J. デュブレ	羊飼い	c1883
C-F. ドービニー	オワーズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52
【前期】		
加山 又造	月と駱駝	1957
川合 玉堂	春苑	1919
下村 観山	菅公幼児	大正中期
鍋木 清方	桜姫	1923
安田 靱彦	佐久良比東	1939
富田 漢仙	春山飛泉	不明
土田 麦僊	春宵舞妓図	1923
【後期】		
村山 径	朝の火山	1978
竹内 蘆風	極彩色孔雀之図	1926
三輪 昶勢	海女	1937
小林 古径	紫苑	1933
土田 麦僊	牽牛花	昭和初期
土田 麦僊	清暑	1905
佐々木 林風	柳におしどり	不明
山本 自墟	鍔銅鑪香炉	1940
西脇 順三郎	万代橋風景	1941

展示室 2 親子のワクワク美術館② ハテナ？なカタチ

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
村井 正誠	ものうり	1958
山口 薫	林と動物	1958
オノサト トシノブ	同心円	1971
高井 貞二	MIDORI TO UZU	1965
吉原 治良	作品	1935
田中 敦子	作品	1963 *
ヨシダ ミノル	ブルーテント作戦	1966
阿部 展也	R-8	1965
阿部 展也	J E M I N I L A K E	1968
八田 豊	クルクルクル	1966 *
A. ボナルミ	物体	1966 *
L. デル＝ベッツォ	足をもった偉大なる金	1966 *
A. ボモドーロ	予言	1983
渡邊 利旭	門	1965
渡邊 利旭	陽	1968
G. カボグロッシ	表面 308	1959
田淵 安一	輪舞	1961
赤穴 宏	目 II	1963
佐藤 吉五郎	作品B	不明
末松 正樹	群青	1959
岡本 太郎	顔	1965
市橋 敏雄	蠟型青銅パネル 風林花山	1997
C. ヒンマン	休憩	1965 *
C. ヒンマン	ナンバー・エイト	1965 *
C. ヒンマン	ナンバー・ナイン	1965 *
【前期】		
G. カボグロッシ	QUARZO1	1970
G. カボグロッシ	QUARZO2	1970
G. カボグロッシ	QUARZO3	1970
G. カボグロッシ	QUARZO4	1970
品川 工	飛ぶ鳥	1950
品川 工	真昼の夢	1952
品川 工	噛み合い交差する色面	1969
品川 工	噛み合い交差する色面 No.4	1968
【後期】		
G. カボグロッシ	QUARZO6	1970
G. カボグロッシ	QUARZO7	1970
G. カボグロッシ	QUARZO8	1970
G. カボグロッシ	QUARZO9	1970
品川 工	バントマイム1	1952
品川 工	バントマイム2	1952
品川 工	ネガとポジNo.16	1975
品川 工	ネガとポジNo.10	1975

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

展示室 3 モデルになった、はたらく人々

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
牧野 虎雄	麦扱く農婦等	1918
安宅 庸雄	子守と幼児	1935
富川 潤一	浜焼き	1960
C. トロワイヨン	りんごの取り入れ	不明
F. ファン＝ゴッホ	長い棒をもつ農婦	1885 *
浅井 忠	農人	1890
三輪 大次郎	米を洗う女	不明
小泉 成一	小春ノ日和	1888
矢部 友衛	泉・農民百態39 蒲原で	1951
矢部 友衛	アメリカの農村	1940
矢部 友衛	茶刈-静岡県下	1960
竹谷 富士雄	貧しい労働	1954
竹谷 富士雄	壺つくりの女	1940
佐藤 哲三	郵便脚夫宮下君	1931
佐藤 哲三	農婦	1940
佐藤 哲三	針仕事	1940
明田川 孝	越後の乳くばり	1938
明田川 孝	村の娘	1950
【前期】		
三浦 文治	佐渡のイカ干し	1938
【後期】		
三浦 文治	浜	1973

※は寄託作品

第3期 2016年9月1日(木)～12月4日(日)(83日間)

展示室1 近代美術館の名品
展示室2 美味なるかな！イタリア三昧
展示室3 没後15年 斎藤義重

美味なるかな！イタリア三昧

【趣旨】

現代イタリア作家によるリズムカルな造形感覚が見られる作品や、日本人の画家が旅先で描いた異国情緒あふれる風景など、イタリアの魅力を多角的に紹介する試み。

【総括】

●評価すべき点

- ・同時期に開催された企画展「ボストン美術館 ヴェネツィア展」に関連づけたわかりやすいテーマ性と多彩な内容により、来館者から好評を得た。
- ・当館所蔵品の中で、亀倉雄策旧蔵のイタリア作家による作品や長岡現代美術館賞展出品のイタリア作品（寄託作品）が同時代の特性を表すコレクションであることが改めて確認できた。

担当 平石昌子

没後15年 斎藤義重

【趣旨】

斎藤義重は、長岡現代美術館（現長岡商工会議所）の壁面レリーフと前庭を制作するなど、絵画と彫刻の垣根を越えた表現を追求し、戦後日本の美術を牽引してきた先駆者である。

また、1964年から9年間多摩美術大学の教授として多くの学生を育てた。新潟県出身の二村裕子や本田真吾も教え子であり、当館にも作品が収蔵されている。

義重が亡くなってから15年目の節目にあたり、当館が所蔵している義重の全作品（寄託作品を含む）と教え子の作品を展示することで、作家としての姿と優れた教育者としての姿をひもといいた。

【総括】

●評価すべき点

- ・一人の作家に焦点を絞った展示は、ある程度の作品数を所蔵していることが前提となる。今回は寄託作品や教え子の作品のほか、作品パネルを加えるかたちで紹介することができ、長岡とゆかりの深い作家であることを伝えることができた。

●検討課題

- ・抽象的な作品も多いため、作品のキャプションをもう少し膨らませる必要があったかもしれない。しかし、解説がていねいになると作品の見方を狭めてしまうことも考えられるため、適度な情報量でよいと思われる。

担当 宇賀田和雄

【出品リスト】

展示室 1 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
坂本 繁二郎	牛	1915
梅原 龍三郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
岡 鹿之助	朝の城	1970
脇田 和	あらしい	1955
鳥海 青児	二重橋	1956
地主 悌助	石	1966
G. クールベ	エトルタ海岸 夕日	1869
C. コロー	ピブリー	c1874-75
J. デュブレ	羊飼ひ	c1883
C-F. ドービニー	オウズ河、イル・ド・ヴォーの夜明け	1869
C. モネ	コロンブの平原、霜	1873
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52
【前期】		
山本 丘人	湖上嶺	1951
小野 竹喬	黍熟るる島	1917
中村 岳陵	嵐山朝陽・東山夕照	1926
竹内 栖鳳	睡郷	1930
小林 古径	飛鶴	1930
菱田 春草	放鶴	1904
吉川 霽華	逍遙	1904
佐々木 象堂	色絵鴉哥置物	1940
小杉 放菴	春秋屏風	1937
【後期】		
工藤 甲人	夜	1963
竹内 栖鳳	秋陽	1926
富田 溪仙	鶴の樂籠図	不明
宇田 荻邨	鷹ヶ峰	1933
土田 麦僮	山茶花	1933
横山 大観	早春	1924
下村 観山	入日	1915
橋本 雅邦	秋景山水図	1892
川合 玉堂	溪山晚秋	c1930
椿 椿山	梅竹凍雀図	不明

展示室 2 美味なるかな！イタリア三昧

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
M. マリーニ	馬	1953
M. マリーニ	騎手のための構想・習作	1955
カッサンドル	VENEZIA	1951
横山 操	【中央公論】表紙 1966年6月号「ゴンドラ」	1966
「クリエイション」	17号表紙	1993
上村 次敏	イタリア、パピアの大聖堂	1993
安宅 安五郎	伊太利亞アッシジ	1922
鈴木 力	聖者の街'89 (アッシジ)	1989
鈴木 力	中世の街 (カンポ広場シエナ)	1989
鈴木 力	海に向かって (シシリア)	1999
三輪 晃久	苑	1974
E. マーリ	無題	1959
E. マーリ	置物	1959
G. カボグロッシ	CAPOGROSSI	1966
L. フォンタナ	空間概念 期待	1962
R. ビアンコ	3D	1966 *
E. スカナヴィーノ	覚書	1961 *
J. アルヴィアーニ	揺らぐ肌理のある表面	1966 *
E. カステラーニ	無題	1964
E. カステラーニ	白の表面 No.40	1966 *
E. カステラーニ	白の表面 No.41	1966 *
阿部 展也	作品B	1962
阿部 展也	O-Roma	1964
阿部 展也	SCRITTURA IN BIANCO	1963
阿部 展也	R-29	1967
吾妻 兼治郎	MU-766	1976 *
高橋 秀	ピンクの中の思考	1971
高橋 秀	春	1970
高橋 秀	アリスの月 (黒)	1976
高橋 秀	アリスの月 (白)	1976
【前期】		
G. デ・キリコ	不思議な部屋の吟遊詩人	1972
M. マリーニ	騎手	1950
M. マリーニ	馬と赤い騎手	1977 *
B. ブルーニ	無題 (アフロディーテの髪)	c1990
B. ブルーニ	星月夜	1989
長崎 真人	ベニス (1)	1966
長崎 真人	ベニス (2)	1966
長崎 真人	ナポリ (2)	1966
長崎 真人	ローマ コロセウム	1966
長崎 真人	ローマ テベレエ川	1966
長崎 真人	ローマ	1966
渡辺 義雄	ローマ、文化宮殿	1956
渡辺 義雄	ヴァチカン市国、サンピエトロ大聖堂	1956
L. デル・ベッツォ	レオナルド・ダ・ヴィンチ	1977 *
田中 一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」	1998
田中 一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」	1998
【後期】		
E. グレコ	無題	1955
E. グレコ	無題	1955
E. グレコ	裸婦	1976
E. グレコ	ルナ	1961
M. カンビーリ	ディアボロ遊び	1954
M. カンビーリ	無題 (客人)	1958
長崎 真人	ベニス (3)	1966
長崎 真人	ローマ 門	1966
長崎 真人	ローマ	1966
長崎 真人	ナポリ (3)	1966
長崎 真人	ミラノ 女	1966
渡辺 義雄	ミラノ、ドゥオモ	1956
渡辺 義雄	フィレンツェ、アカデミア美術館	1956
I. ルビ	展覧会「モーダ・イタリア」	1988
	(復刻世界のポスター 100より) (1995復刻)	
田中 一光	サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」 GD264	1998

展示室 3 没後15年 斎藤義重

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
斎藤 義重	作品 I	1957
斎藤 義重	赤の跡	1959
斎藤 義重	作品 (赤)	1960 *
斎藤 義重	作品 (Blue)	1961
斎藤 義重	無題	1961 *
斎藤 義重	無題	1967 *
斎藤 義重	はり絵	不明 *
斎藤 義重	無題	不明 *
斎藤 義重	無題	不明 *
斎藤 義重	"反対称" 三角形No.1	1976
斎藤 義重	"反対称" 三角形No.2	1976
斎藤 義重	"反対称" 正八面体プラトンの多面体	1978
本田 真吾	実相#116	1997
【前期】		
斎藤 義重	やじるべえ	1951
二村 裕子	ZONE73-8-1	1973
二村 裕子	ZONE74-2-1	1974
二村 裕子	ZONE74-2-5	1974
【後期】		
斎藤 義重	"反対称" 対角線	1977
二村 裕子	ZONE76-8-1	1976
二村 裕子	ZONE76-8-2	1976
二村 裕子	ZONE77-1-4	1977

※ *は寄託作品

回廊

竹田 康宏 Under the leaves 1994

ロビー

市村 司 作品 I 1965 *

第4期 2016年12月8日(木)～2017年3月20日(月・祝)(84日間)

前期：12月8日(木)～1月29日(日)

後期：1月31日(火)～3月20日(月・祝)

展示室1 前期：書か？絵か？ 後期：静かなるもの

展示室2 近代美術館の名品

展示室3 モダン／東京

書か？絵か？

【趣旨】

企画展「良寛と巻菱湖」に合わせて、書のことにも目を向け、書なのか、絵なのか迷う絵画的な書と、書的な絵画とをご覧いただいた。

書を読むだけの文学性から解き、視覚上の形象性の優位を表している書や、また、書的な筆触や行為性、記号性を取り入れた絵画など、書と絵画との接近が国内ばかりでなく欧米でも、第二次世界大戦後、一九六〇年代中頃まで見られた。その時代の作品を中心に、その前史となるシュルレアリスムのミロの作品や、書の上での近代的自我の目覚めである中村不折や河東碧梧桐の書等を交えて展示した。

【総括】

●評価すべき点

- ・書の美術的見方を提示できた。
- ・美術における書の影響を考えることができた。

●検討課題

- ・常設展全般にわたり、企画展のようなイベント性の高さに踊らされるのではなく、常時収蔵し展示され、身近に見ることのできる作品が地元にあることのすばらしさを感じられるような状況にいかにつけていくかということが大きな課題と考える。

担当 松矢国憲

静かなるもの

【趣旨】

「静けさ」を感じる作品を①沈黙する「もの」②静閑なる「季節」③潜む「意思」の3つの章に分けて展示した。章を追うごとに作品をただ外側から鑑賞するだけでなく内側へと迫っていき、どこに「静けさ」を感じるか、鑑賞されるお客様に委ねるような展示にした。

【総括】

●評価すべき点

- ・鑑賞者に作品の印象を委ねる展示方法について良かったとの感想があった。
- ・他の展示室と同じ作者の作品をいくつか展示したところ、作風が対照的な作品の展示になりお客様に関心を抱かれた。

担当 藤田裕彦

●検討課題

- ・作品によっては映り込みがあり鑑賞しづらいとの声があった。また展示の雰囲気重視のため、キャプションの文字が細く読みにくくなってしまった。見やすさと雰囲気の両立する展示を目指したい。

担当 渡邊一麦

モダン／東京

【趣旨】

「モダン」という言葉は「モダニズム」を発祥として、現在ではどちらかというと、何となく新しいもの、ハイカラなものを表す言葉として使われているが、本来は「近代主義」と訳される。「近代主義」をひとことで言うと、「本来からある要素のみを残して、新たに加わった要素を排除する」という意味がある。もともとは建築用語であり、「モダニズム建築」と言えば、無駄の無い建物を表すのである。

とは言え、「モダン」の意味はどちらかというと、ハイカラなもののお洒落なものという印象が強い。中でも、人々が最も「モダン」と感じていたのは「東京」という大都市だった。本展では「モダン／東京」と題して、主に東京という都市が、戦前から戦後にかけてどのように「モダン」都市となったのか、また作家が東京をどのように「モダン」に描いていたのか、そして人々がどんなものに「モダン」を感じていたのかを紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館の所蔵品を「1.銀座」、「2.たてもの」、「3.形」、「4.絵画」、「5.モダンその後」と5つのカテゴリーに分類し紹介することで、当館の所蔵品を系統的にまた、単独ではなかなか紹介しにくい小品を展示することができた。
- ・展覧会的構成に加え、当時のたてものの実景写真や書籍を併せて展示することで、博物的にも都市の変貌を多角的に本主題について紹介することができた。

●検討課題

- ・当館所蔵作品だけでは本主題を多角的に紹介するには限界がある。今後、同主題で開催した場合、同じような展示構成にならざるを得ない。

【出品リスト】

展示室 1

【前期】書か？絵か？		
作家名	作品名	制作年
一 記号		
岡本 太郎	顔	1965
比田井 南谷	作品64-25	1964
山口 長男	作品	1980
山口 長男	作品	1982
山口 長男	人体群像3人	1983
山口 長男	作品	不明
向井 修二	作品	1964 *
中村 木子	作品C	c1955
J. ミロ	太陽の讃歌11	1975
J. ミロ	太陽の讃歌26	1975
J. ミロ	太陽の讃歌28	1975
J. ミロ	太陽の讃歌31	1975
二 行為		
江口 草玄	風無門自開	1964
井上 有一	αNo.35	1954
中村 木子	作品	c1955
江口 草玄	不動明王	1964
白髪 一雄	志賀#107	1973
田淵 安一	輪舞	1961
川端 実	作品	1963
E. スカナヴィーノ	覚書	1961 *
三 点画		
坂本 善三	流	1982
李 禹煥	線より	1976
中村 木子	噴達	c1951
江口 草玄	作品No.6	1955
李 禹煥	コレスボンダンセ	1993
中村 不折	七言絶句	c1930 *
河東 碧梧桐	鶴栖君子樹	不明 *
江口 草玄	野ばら	1950
山口 長男	作品	不明

※*は寄託作品

【後期】静かなるもの

作家名	作品名	制作年
第1章 沈黙する「もの」		
阪本 文男	バラの座	1981
赤穴 宏	白い卓上のリンゴ	1982
塚谷 恵津子	静物 凍豆腐のある(2)	1972
浜口 陽三	レモンとさくらんぼ	1959
三芳 悌吉	廃船の中で	1976
三芳 悌吉	雪景の中の静物(戦場ヶ原)	1971
第2章 清閑なる「季節」		
横山 操	《中央公論》表紙絵 1966(昭和41)年4月号「春」	1966
三芳 悌吉	浜木綿	1970
安宅 安五郎	《越後風景六拾四図》越後国上五合庵	1939
佐藤 哲三	越後の秋	1937
富岡 惣一郎	雪原	1971
中山 隼郎	凍る影	1988
第3章 潜む「意思」		
東山 魁夷	森の静寂	1964
三輪 晃勢	トキ	1963
山崎 隆夫	雨	1993
小島 丹彦	待つ	1965
鳥越 憂	雪の季節	1972
千野 茂	裸婦	1957
木下 晋	101年の胎動	2001

展示室 2 近代美術館の名品

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
浅井 忠	農人	1890
小山 正太郎	婦人	1891
萬 鉄五郎	木の間風景	1918
吉原 治良	静物	1929
イサム・ノグチ	女(リシ・ケシュにて)	1956
滝谷 国四郎	裸婦	1923
牧野 虎雄	サンルーム	1929
牧野 虎雄	秋近き濱	1934
長谷川 利行	風景	1931
佐藤 哲三	農婦	1940
北川 民次	大地	1939
梅原 龍二郎	紫禁城	1942
安井 曾太郎	読書	1942
難波田 龍起	森の詩	1960
脇田 和	あらしい	1955
末松 正樹	ボン・ポワイヤージュ	1962
阿部 展也	太郎	1949
菅井 汲	ナショナルルートNo.12	1964
白髪 一雄	白色のひろがり	1965
山口 長男	漠	1972
高橋 秀	アリスの月(白)	1976
高橋 秀	アリスの月(黒)	1976
岡 鹿之助	朝の城	1970
F. ボテロ	頭像	1989
堂本 尚郎	黒い太陽-W	1973
栢森 琢也	海の幸	1978
猪熊 弦一郎	犬とネクタイ	1991
G. カボグロッシ	表面 308	1959
金 昌烈	水滴	1974
國領 経郎	遠い海	1987
J-E. ミレイ	アリス・グレイの肖像	1859
C. モネ	クロンプの平原、霜	1873
C. コロー	ピプリ	1874-75
G. ルオー	晩秋 No.3	1948-52
A. ロダン	考える人	1880

【前期】

東山 魁夷	森の静寂	1964
-------	------	------

【後期】

武石 弘三郎	母	1917
横山 操	朔原	1959

ロビー

【前期】

富岡 惣一郎	作品	1961
--------	----	------

【後期】

佐藤 可士和	ポスター：CD「Smag」	2000-01
--------	---------------	---------

回廊

竹田 康宏	Under the leaves	1994
-------	------------------	------

展示室 3 モダン／東京

作家名	作品名	制作年
【全会期】		
高村 真夫	女	1920年代後半
鈴木 良二	つれづれ	1928
赤穴 宏	日本橋の赤レンガ	不明
峰村 リツ子	日本橋風景	1929
カッサンドル	L.M.S Best way	1928
B. ニコルソン	1946 Painting	1946
E. ハルラッハ	ロシアの恋人たち	1908 (1940鑄造)
里見 勝三	赤と緑の静物	1928
矢部 友衛	習作	1920
佐々木 象堂	銅銅色絵鸚哥置物	1940
津田 信夫	銅銅色・波光連如	1942
山本 自燼	銅銅燻香炉	1940
佐々木 象堂	銅銅燻文香炉	1924
山本 自燼	銅銅瓶掛	1939
柴田 武次	鍛鉄銀象嵌波瀾文香炉	昭和10年代
村井 正誠	ものうり	1958
三輪 晃勢	街	1951
北村 正信	裸婦立像	不明
北村 四海	女性立像	1926
【前期】		
太田 三郎	「現代の洋画(版画号)」 第23号よりカフェーの女	1914
堺 時雄	シルエット	1926
深澤 素一	新東京百景「昭和通ガソリンヤ」	1929
深澤 素一	新東京百景「芝増上寺」	1929
深澤 素一	新東京百景「築地」	1929
深澤 素一	新東京百景「清洲橋」	1930
深澤 素一	新東京百景「京橋」	1932
平川 清蔵	「版画」第11輯より 或る彫刻科のアトリエ	1926
【後期】		
谷中 安規	カフェー	1932
堺 時雄	《窓辺》あるいは《窓辺の女》	1927
荒谷 直之介	婦人像	1940
深澤 素一	新東京百景「柳はし」	1929
深澤 素一	新東京百景「坂下門」	1931
深澤 素一	新東京百景「築地」	1929
深澤 素一	新東京百景「言問橋」	1930
深澤 素一	築地風景	1933
谷中 安規	研究所にて	1932

企画展



ジブリの大博覧会

【趣旨】

前年度から引き続いて、「思い出のマーニー×種田陽平展」と「ジブリの大博覧会展」との二つの展示構成によってスタジオジブリの映画美術を紹介した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・観覧者数が近代美術館開催企画展最高となった。
- 検討課題
 - ・ジブリ作品の人気により、観覧者数としては最高になったが、美術作品を鑑賞するという状態では無く、アミューズメントを体験しているという状態であった。こうした状態をいかに通常の美術展へ目を向けさせ、足を運んでもらうきっかけにするか、また、展示物に触れようとする好奇心や楽しみばかりではなく、作品や資料を守りつつどうやって楽しむかという鑑賞マナーの醸成が必要と思われた。

【開催日・その他】

- =2016年4月1日(金)～5月15日(日) (41日間)=
- ※全体会期は3月5日(土)～5月15日(日) (65日間)
- 主催：ジブリの大博覧会新潟展実行委員会、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟
- 後援：長岡市、長岡市教育委員会、(公財)長岡市芸術文化振興財団、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7
- 特別協賛：KDDI、アイフルホーム
- 協賛：EPSON、ア・ファクトリー
- 企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館
- 協力：長岡造形大学
- 観覧料：一般……………1,300円 (1,100円)
- 大学・高校生……………1,100円 (900円)
- ※中学生以下無料
- ※()内は有料20名以上の団体料金
- ※前売券は当日料金より300円引き

【関連行事】

- ・コンサート
- 「ポッチャリーノ弦楽四重奏団によるジブリいっぱいコンサート」
- 4月23日(土) 14:00～14:45 講堂
- 参加者数：160名

【図録】

①思い出のマーニー×種田陽平展オフィシャルガイド

仕様：A4判変形（27.5×21.0cm） 96頁

発行：株式会社KADOKAWA

内容：ごあいさつ

第1章 映画「思い出のマーニー」ができるまで

第2章 思い出のマーニー×種田陽平展

第3章 美術監督・種田陽平にせまる

②ジブリの大博覧会パンフレット

仕様：A4判 38頁

編集：スタジオジブリ

発行：スタジオジブリ

内容：ごあいさつ

宣伝に興味のなかった僕が、映画の宣伝をしながら
考えてきたこと 鈴木敏夫

風の谷のナウシカ／天空の城ラピュタ／となりのトトロ／火垂るの墓／魔女の宅急便／おもひでぽろぽろ／紅の豚／海がきこえる／平成狸合戦ぽんぽこ／耳をすませば／On Your Mark／もののけ姫／ホーホケキョとなりの山田くん／千と千尋の神隠し／猫の恩返し／ギブリーズepisode2／ハウルの動く城／ゲド戦記／崖の上のポニョ／借りぐらしのアリエッティ／コクリコ坂から／風立ちぬ／かぐや姫の物語／思い出のマーニー

スタジオジブリ1984-2015



【関連記事】

●新聞

長岡よみうり（4/3）

読売新聞（5/16）

朝日新聞（5/16）

【観覧者数】

※4/1～5/15

有料観覧者数	当日	61,454
	前売	18,294
無料観覧者数	招待	2,580
	無料	36,443
	免除	2,582
総観覧者数		121,353
有料率（%）		65.72

※全会期（3/5～5/15）

有料観覧者数	当日	89,476
	前売	29,687
無料観覧者数	招待	3,897
	無料	55,610
	免除	3,747
総観覧者数		182,417
有料率（%）		65.32

担当 松矢国憲





マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展

【趣旨】

印象派の巨匠クロード・モネ（1840-1926）が生涯手元に残した作品は、遺族の手を経てパリのマルモッタン美術館に寄贈され、現在世界有数のモネ・コレクションとなっている。本展は同館所蔵品から、モネが10代で描いたカリカチュアをはじめ、その代名詞となった《睡蓮》や、最晩年のジヴェルニー連作までの代表作など88点を精選して紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・マルモッタン・モネ美術館側の監修者と綿密な打合せを重ね、モネの大作や素描など各章ごとの特徴に合わせた展示空間を実現することができた。
- ・教育普及の面では出前授業の実施や中越地区内の小中学校教頭会での広報活動、全県の小中学校への割引券配布を行った結果、学校観覧が通常より多い55校にのぼった。また「ママンデー」という小さな子供が声を出してもよい日を設け、子育て世代から好評を得た。
- ・実行委員会を構成するメディアを中心に、イベントやサイン制作やSNSを含めて多面的に広報展開を行い、幅広い層の開拓に成果を上げた。

●検討課題

- ・東京、福岡、京都、新潟の4会場巡回だったが、本展の代表作とされた《印象、日の出》が新潟のみ不出品であったため、県内の美術ファンを東京に向かわせる部分があったことは否めない。他会場との条件の差が著しく大きい場合は、事前段階で慎重を期すべきだろう。

【開催日・その他】

=2016年6月4日(土)～8月21日(日) (71日間)=

主 催：新潟県立近代美術館、マルモッタン・モネ美術館、TeNYテレビ新潟、モネ展新潟実行委員会

後 援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本、長岡市、長岡市教育委員会、(公財)長岡市芸術文化振興財団、新潟県小学校長会・新潟県中学校長会、新潟県特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FMながおか80.7、新潟・フランス協会、JR東日本新潟支社

協 賛：第一生命、光村印刷、損保ジャパン日本興亜、アークベル

協 力：エールフランス航空／KLMオランダ航空、日本通運、新潟県立美術館友の会

企画協力：NTVヨーロッパ

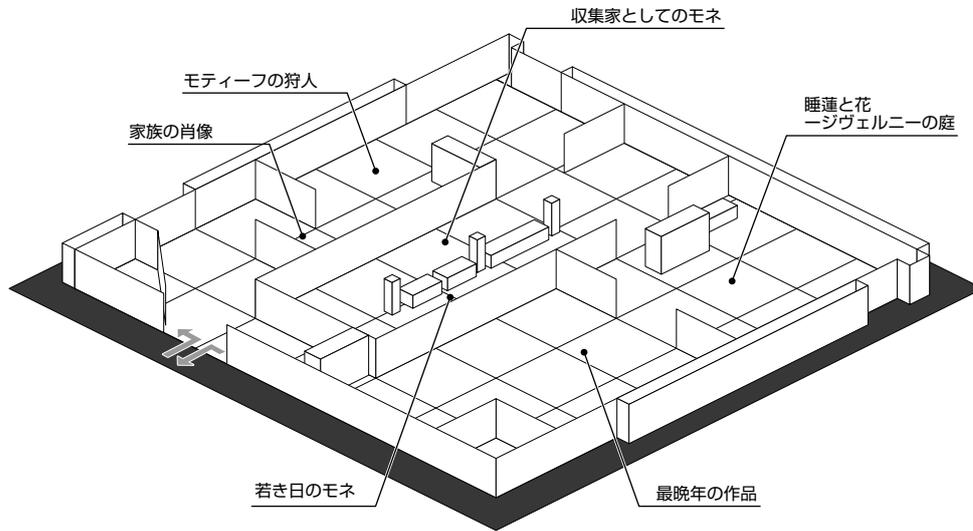
特別協賛：大成建設

観覧料：一般……………1,500円 (1,300円)

大学・高校生……………1,300円 (1,100円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・オープニング記念講演会

「モネの遺産」

6月4日(土) 14:00～15:30 講堂

講師：マリアヌ・マチュー氏（マルモッタン・モネ美術館副館長）

通訳：今津京子氏（NTVヨーロッパ）

参加者数：165名

・スペシャルトーク

「世界でいちばん幸福な場所—ジヴェルニー訪問 モネの光を求めて—」

7月2日(土) 14:00～15:30 講堂

講師：原田マハ氏（作家）

参加者数：188名 *事前応募総数：335通532名

・美術鑑賞講座

「印象派とジャポニスム」

7月23日(土) 14:00～15:30 講堂

講師：藤田裕彦（当館学芸課長）

参加者数：51名

・コンサート

「マルモッタン・モネ美術館開館記念日『夏至の日 音楽の夕べ』」

6月21日(火) 17:45開演 エントランスホール

演奏：東京フィルハーモニー交響楽団 フルート三重奏

参加者数：300名

「澤クワルテットコンサート～目ででき音、耳でみる絵～」

7月13日(水) 13:30開演

会場：長岡リリックホール・コンサートホール

参加者数：337名

・ママンデー

①8月1日(月)

②8月8日(月)

③8月15日(月)



【図録】

仕様：A4判変形 192頁

編集：東京都美術館、日本テレビ放送網、マルモッタン・モネ美術館

執筆：マリアヌ・マチュー（マルモッタン・モネ美術館副館長 収蔵品担当）、オーレリー・ガヴォワル（マルモッタン・モネ美術館 学芸担当）、クレール・グーデン（マルモッタン・モネ美術館 学芸担当）、大橋菜都子（東京都美術館学芸員）、後藤結美子（京都市美術館学芸員）、平石昌子（新潟県立近代美術館学芸員）、渡抜由季（福岡市美術館学芸員）

制作：印象社

印刷：光村印刷

発行：日本テレビ放送網

内容：ごあいさつ

「《印象、日の出》から「睡蓮」まで」マリアヌ・マチュー ジョルジュ・ド・ベリオ・コレクションの傑作—マルモッタン美術館の印象派コレクションの誕生

モネの遺産—マルモッタン美術館のミシェル・モネ・コレクション

- 1 家族の肖像
- 2 若き日のモネ
- 3 収集家としてのモネ
- 4 モティーフの狩人
- 5 睡蓮と花—ジヴェルニーの庭
- 6 最晩年の作品

「モネとルノワール—書簡に見える画家の肖像」大橋菜都子

モネ関連年譜

関連地図

モネ：日本語文献目録

出品作品リスト



【関連記事】

●新聞

7月2日(土) 新潟日報

ステージへようこそ 澤クワルテットコンサート／澤和樹
(東京藝術大学学長・バイオリニスト)

その他 栃尾タイムス (4/15)

みつけ新聞 (5/5)

長岡新聞 (5/7、6/7、6/9、6/21、7/16)

十日町新聞 (5/12)

村上新聞 (5/15)

妻有新聞 (5/20)

十日町タイムス (5/28)

新潟日報 (6/3、8/16)

〈連載〉

・読売新聞「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」

①モネ《テュイルリー公園》／平石昌子 (7/16)

②ルノワール《新聞を読むクロード・モネ》／青木善治 (7/20)

③モネ《小舟》／松本奈穂子 (7/27)

④モネ《睡蓮》／松本美樹 (7/29)

⑤モネ《バラの小道 ジヴェルニー》／宮下東子 (8/5)

●雑誌

越後花だより 初夏

おでかけなび 春号

月刊新潟Komachi 4月25日号

ビバ! アミーゴ 群馬よみうり 4月29日

月刊新潟Komachi 5月25日号「田辺誠一、語る! 「モネ展」の魅力」

カルチャーにいがた 6~8月

ジャックランド 6月号

月刊CARREL 6月号

月刊にいがた 6月25日号

月刊庄内小僧 6月号

月刊ウインド 7月「タイラのイラストルポ」

WEEK! 7月1日号「澤クワルテット」

暮らしの通信 6月25日

月刊新潟Komachi 6月25日号「「モネ展」好評開催中！」

財界にいがた 7月号

●テレビ

6月3日 TeNY 夕方ワイド新潟一番 中継

6月4日 TeNY スッキリ!モネ展SP「きょう新潟開幕」

6月25日 TeNY ぶらぶら美術博物館

7月16日 TeNY スッキリ!モネ展SP「絶対に見たい究極の7作品」

7月30日 TeNY ぶらぶら美術博物館 (再)

6月5日~8月19日 TeNY 究極のモネ展 (深夜ミニ枠4分)

TeNYニュースワイド

(5/18、5/27、5/30、5/31、6/1、6/2、6/3、6/4、

6/16、6/22、6/28、7/5、7/7、7/14、7/17、

7/17、7/19、7/21、7/26、7/29、8/8、8/16)

●ラジオ

6月3日 FM新潟 SOUND SPLASH / 藤田裕彦

6月13日 FM PORT 79.0 マリーズセレクション / 藤田裕彦

7月8日 FM PORT 79.0 Sw!tch / 平石昌子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	60,506
	前売	17,718
無料観覧者数	招待	6,681
	無料	9,307
	免除	4,041
総観覧者数		98,253
有料率 (%)		80

担当 平石昌子

【出品リスト】

*全点ともマルモッタン・モネ美術館所蔵。 No.は図録番号。

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(縦×横cm)
家族の肖像					
4	ピエール=オーギュスト・ルノワール	新聞を読むクロード・モネ	1873年	油彩、カンヴァス	61.7×50.0
5	ピエール=オーギュスト・ルノワール	クロード・モネ夫人の肖像	1873年	油彩、カンヴァス	58.0×48.5
6	クロード・モネ	トゥルーヴィルの海辺にて	1870年	油彩、カンヴァス	38.0×46.0
7	クロード・モネ	海辺のカミーユ	1870年	油彩、カンヴァス	30.0×15.0
8	クロード・モネ	幼いミシェル・モネの肖像	1878-79年	油彩、カンヴァス	46.0×37.0
9	クロード・モネ	ジャン・モネの肖像	1880年	油彩、カンヴァス	47.0×38.0
10	クロード・モネ	ボンボン付きの帽子をかぶったミシェル・モネの肖像	1880年	油彩、カンヴァス	47.0×37.0
11	クロード・モネ	青いセーターを着たミシェル・モネ	1883年	油彩、カンヴァス	46.5×38.5
13	ブランシュ・オシュデ=モネ	水辺にて	1929年	油彩、カンヴァス	60.0×73.0
14	ブランシュ・オシュデ=モネ	ソレム=ムセルの家	年記なし	油彩、カンヴァス	54.0×73.0

モチーフの狩人

48	クロード・モネ	鉄道橋、アルジャントゥイユ	1874年	油彩、カンヴァス	14.0×23.0
49	クロード・モネ	雪の効果、日没	1875年	油彩、カンヴァス	53.0×64.0
50	クロード・モネ	霧のヴェトゥイユ	1879年	油彩、カンヴァス	60.0×71.0
51	クロード・モネ	プールヴィルの海岸、日没	1882年	油彩、カンヴァス	60.0×73.0
52	クロード・モネ	ドルチェアクアの城	1884年	油彩、カンヴァス	92.0×73.0
53	クロード・モネ	ヨット、夕暮れの効果	1885年	油彩、カンヴァス	54.0×65.0
54	クロード・モネ	断崖とボルト・ダモン、朝の効果	1885年	油彩、カンヴァス	50.0×61.0
55	クロード・モネ	オランダのチューリップ畑	1886年	油彩、カンヴァス	54.0×81.0
56	クロード・モネ	ポリーの肖像	1886年	油彩、カンヴァス	74.0×53.0
57	クロード・モネ	白いクレマチス	1887年	油彩、カンヴァス	92.0×52.0
58	クロード・モネ	ジヴェルニーの黄色いアイリス畑	1887年	油彩、カンヴァス	45.0×100.0
59	クロード・モネ	ヴェルヴィの橋	1889年	油彩、カンヴァス	65.4×92.5
60	クロード・モネ	クルーズ川の渓谷、夕暮れの効果	1889年	油彩、カンヴァス	65.0×81.0
61	クロード・モネ	オンフルール港の舟	1917年	油彩、カンヴァス	50.0×61.0

収集家としてのモネ

27	ウジェーヌ・ドラクロワ	エトルタの断崖、馬の脚	1838年	水彩、紙	15.0×20.0
28	ウジェーヌ・ドラクロワ	ディエップ近くの断崖	1852-55年	水彩、紙	20.0×30.7
29	ウジェーヌ・ドラクロワ	蛇にたじろぐ虎	1858年	ペン・墨、紙	17.5×22.7
30	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	ラ・コート=サン=タンドレからル・グラン=ランへ向かう道	1880年	水彩、紙	15.5×24.0
31	ヨハン・バルトルト・ヨンキント	ポール=ヴァンドル	1880年	水彩、紙	17.0×24.0
32	ウジェーヌ・ブーダン	舟と漁師	年記なし	水彩、紙	13.0×19.0
33	ウジェーヌ・ブーダン	浜辺に上げられた舟	年記なし	水彩、紙	16.0×24.0
34	ウジェーヌ・ブーダン	海上の小帆船	年記なし	淡彩・石墨、紙	13.0×19.0
35	ウジェーヌ・ブーダン	浜辺の釣り舟	年記なし	水彩・石墨、紙	16.0×27.0
36	カミーユ・ピサロ	レ・ブイユの小道、ポントワーズ	年記なし	エッチング	52.7×45.7
37	カミーユ・ピサロ	自画像	1890-91年	エッチング	24.0×22.0
38	オーギュスト・ロダン	洞窟の中の若い母	1885年	ブロンズ	38.0×28.0
39	オーギュスト・ロダン	牧神とニンフ	1886年頃	石膏	34.0×25.0
40	ピエール=オーギュスト・ルノワール	リヒャルト・ワーグナーの肖像	1882年	鉛筆、紙	31.0×24.0
41	ピエール=オーギュスト・ルノワール	ココの肖像	1907年	石膏	21.0
42	リチャード・ギノ	ルノワールの肖像	1913年	テラコッタ	16.0
43	ジャン=ルイ・フォラン	施しを乞う共和政	年記なし	ブロンズ	50.0×12.0
44	ポール・シニャック	ルーアン	年記なし	水彩、紙	28.5×40.0
45	ポール・シニャック	カオールのヴァラントレ橋	年記なし	水彩、紙	26.0×38.5
46	ポール・シニャック	ヴェネツィア	1908年	水彩、紙	19.2×25.0
47	ポール・シニャック	グロワ島でのマグロ漁船の出発	1923年	水彩、紙	28.0×38.0

ジョルジュ・ド・ペリオ・コレクションの傑作—マルモッタン美術館の印象派コレクションの誕生

2	クロード・モネ	テュイルリー公園	1876年	油彩、カンヴァス	54.0×73.0
---	---------	----------	-------	----------	-----------

若き日のモネ

15	クロード・モネ	正面を向いたノルマンディーの老女	1857年	木炭・鉛筆・パステルによるハイライト、灰色の紙	24.0×16.0
16	クロード・モネ	ピアノの前の若い女	1858年	鉛筆・パステルによるハイライト、茶色の紙	31.5×23.5
17	クロード・モネ	とがった鼻をもつ若い女	1858年	鉛筆、茶色の紙	31.8×24.0
18	クロード・モネ	アドルフ・フィリップ・デヌリー	1858年	鉛筆、茶色の紙	32.0×24.0
19	クロード・モネ	劇作家フランソワ・ニコライ、通称クレルヴィル	1858年	鉛筆、茶色の紙	32.0×24.6
20	クロード・モネ	ジュール・ド・プレマリー	1858年	鉛筆、灰色の紙	31.0×23.7
21	クロード・モネ	キュクメルに基づく年金生活者	1858年	パステル・サンギース、茶色の紙	31.0×23.2
22	クロード・モネ	テオドール・ペロケ	1858年	鉛筆、灰色の紙	31.5×24.0
23	クロード・モネ	ウジェーヌ・スクリブ	1859年	鉛筆、茶色の紙	32.0×24.0
24	クロード・モネ	アレクサンドル・ユルシュル・セリエ、通称フェリックス	1860年	鉛筆、茶色の紙	31.5×23.8
25	クロード・モネ	演劇界の小バンテオン	1860年	鉛筆・グアッシュによるハイライト、茶色の紙	34.0×48.0
26	クロード・モネ	女性の頭部	1862-63年	油彩、カンヴァス	52.0×41.0

睡蓮と花—ジヴェルニーの庭

12	ポール・ボラン	クロード・モネ	1911年	石膏	59.0×41.0
62	クロード・モネ	小舟	1887年	油彩、カンヴァス	146.0×133.0
63	クロード・モネ	睡蓮	1903年	油彩、カンヴァス	73.0×92.0
64	クロード・モネ	睡蓮	1907年	油彩、カンヴァス	100.0×73.0
65	クロード・モネ	睡蓮とアガパンサス	1914-17年	油彩、カンヴァス	140.0×120.0
66	クロード・モネ	キスゲの花	1914-17年	油彩、カンヴァス	150.0×140.5
67	クロード・モネ	アイリス	1924-25年	油彩、カンヴァス	105.0×73.0
68	クロード・モネ	睡蓮、柳の反映	1916-19年	油彩、カンヴァス	130.0×157.0
69	クロード・モネ	睡蓮	1916-19年	油彩、カンヴァス	200.0×180.0
70	クロード・モネ	睡蓮	1916-19年	油彩、カンヴァス	130.0×152.0
71	クロード・モネ	睡蓮	1917-19年	油彩、カンヴァス	100.0×300.0

最晩年の作品

72	クロード・モネ	しだれ柳	1918-19年	油彩、カンヴァス	100.5×100.5
73	クロード・モネ	しだれ柳	1918-19年	油彩、カンヴァス	100.0×120.0
74	クロード・モネ	しだれ柳	1918-19年	油彩、カンヴァス	100.0×100.0
75	クロード・モネ	しだれ柳	1921-22年	油彩、カンヴァス	116.0×89.0
76	クロード・モネ	ジヴェルニーの庭	1922-26年	油彩、カンヴァス	93.0×74.0
77	クロード・モネ	睡蓮の池	1918-19年	油彩、カンヴァス	73.0×105.0
78	クロード・モネ	日本の橋	1918-24年	油彩、カンヴァス	89.0×100.0
79	クロード・モネ	日本の橋	1918-24年	油彩、カンヴァス	89.0×116.0
80	クロード・モネ	日本の橋	1918-24年	油彩、カンヴァス	89.0×100.0
81	クロード・モネ	日本の橋	1918-19年	油彩、カンヴァス	74.0×92.0
82	クロード・モネ	日本の橋	1918-24年	油彩、カンヴァス	89.0×100.0
83	クロード・モネ	日本の橋	1918-24年	油彩、カンヴァス	89.0×100.0
84	クロード・モネ	バラの小道	1920-22年	油彩、カンヴァス	92.0×89.0
85	クロード・モネ	バラの小道、ジヴェルニー	1920-22年	油彩、カンヴァス	89.0×100.0
86	クロード・モネ	バラの庭から見た家	1922-24年	油彩、カンヴァス	81.0×92.0
87	クロード・モネ	バラの庭から見た家	1922-24年	油彩、カンヴァス	81.0×93.0
88		クロード・モネのパイプ		テラコッタ	17.8
89		クロード・モネの眼鏡		レンズ、金属	12.0×7.6
90		クロード・モネのパレット		木	31.0×50.0



ボストン美術館
ヴェネツィア展
魅惑の都市の500年

【趣旨】

本展では世界屈指の観光地として知られ、長きにわたって芸術の中心地であったヴェネツィアに光をあて、16世紀から現代までの約500年に及ぶ美のハイライトを、ボストン美術館の所蔵品約130点によってたどった。ヴェネツィア・ルネサンスを代表する画家たちをはじめ、モネなどヴェネツィアに惹きつけられた印象派の画家、レースやガラスなど贅を極めた工芸品の数々まで、多分野にわたる作品の数々により、華麗なヴェネツィアの芸術文化を紹介した。特に、当館では、木版によるヤコポ・デ・バルバリノの《ヴェネツィア鳥瞰図》を、当館の所蔵による同作品とともに比較展示が実現した。

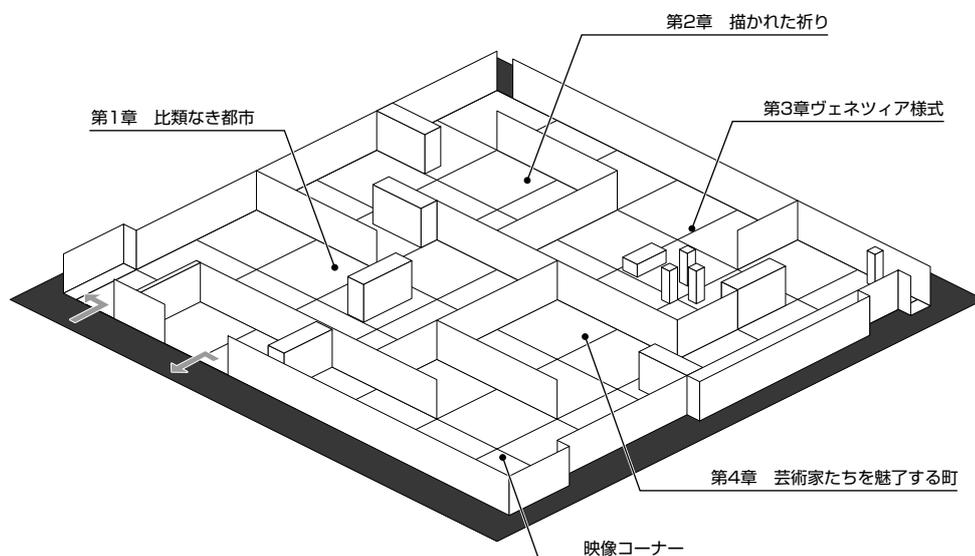
【総括】

- 評価すべき点
 - ・本展によって人々のヴェネツィアへの興味や憧憬を喚起できた。
 - ・多彩なイベントを実施し、幅広い層にはたらきかけ、特にフォトロケは好評であった。
 - ・鑑賞資料をホームページに掲載するなど、新たなアピールを実行できた。
- 検討課題
 - ・企画側との役割分担や連携体制が後手になった。
 - ・多くのイベントを開催したが、これらの周知や内容をニュース・記事と広告を通して効果的にアピールするにはどうすべきか、メディア各社と検討する必要がある。

【開催日・その他】

＝2016年9月10日(土)～11月27日(日) (69日間)＝
 主催：新潟県立近代美術館、ボストン美術館、新潟日报社、NST、ヴェネツィア展新潟展実行委員会
 後援：アメリカ大使館、イタリア大使館
 長岡市、長岡市教育委員会、新潟県小学校長会、新潟県中学校長会、新潟県特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、エフエムラジオ新潟、FM PORT、FM ながおか80.7、新潟日報美術振興財団、新潟イタリア協会

特別協賛：フィアット新潟・アルファ ロメオ新潟
 協賛：損害保険ジャパン日本興亜、日本写真印刷
 協力：日本航空、日本貨物航空
 企画：NHKプロモーション
 観覧料：一般……………1,200円 (1,000円)
 大学・高校生……………1,000円 (800円)
 ※中学生以下無料
 ※ () 内は有料20名以上の団体料金及び前売券料金



【関連行事】

・記念講演会

「ヴェネツィア・ルネサンスの絵画―特質と革新」

9月11日(日) 14:00~15:30 講堂

講師：越川倫明氏（東京藝術大学美術学部教授）

聴講者数：81名

「イタリアとヴェネツィアの歴史と好奇心」

11月13日(日) 14:00~15:30 講堂

講師：マリオ・ベルヴェルシ氏（新潟イタリア協会会長）

聴講者数：81名

・美術鑑賞講座

「ホイッスラーのヴェネツィア」

9月24日(土) 14:00~15:30 講堂

講師：平石昌子（当館学芸課長代理）

聴講者数：40名

・コンサート

「～魅惑のヴェネツィア～愛と夢のコンサート」

9月25日(日) 14:00~ 講堂

演奏：五十嵐郊味氏（オペラ歌手）、

西脇直美氏（新潟県教諭）

鑑賞者数：150名

・ワークショップ

「カーニヴァルマスクをつくろう」

日時：10月2日(日)/9日(日) 13:00~15:00

講師：宇賀田 和雄（当館副参事）

参加者数：15名/12名

・映画鑑賞会

10月8日(土) 14:00~15:00~ 講堂

「ティツィアーノ―ヴェネツィアの巨匠―」(1997年 30分)

鑑賞者数：42名/5名

11月5日(土) 14:00~

「ツリスト」(2010年 103分)

鑑賞者数：94名

・学芸員によるギャラリートーク

9月18日(日)/10月16日(日)/30日(日)/11月3日(祝・木)/
6日(月)/20日(日)/27日(日) 14:00~ 企画展示室

トーク：宮下東子（当館学芸課長代理、9/18/11/3/11/27）

伊澤朋美（当館主任学芸員、10/16/11/6）

松本奈穂子（当館美術学芸員、10/30/11/20）

参加者数：50名/20名/25名/40名/25名/30名/60名（合計250名）

・フォトロケ

フォトロケ de カーニヴァル！

日時：会期中随時



【図録】

仕様：280×230mm 204ページ

編集：名古屋ボストン美術館

NHK

NHKプロモーション

発行：NHK

NHKプロモーション

内容：序「ヴェネツィアの歴史と視覚文化」／フレデリック・

イルチマン

ヴェネツィア展関連地図

第1章 比類なき都市

第2章 描かれた祈り

第3章 ヴェネツィア様式

- ・コラム「印刷本と版画」／越川倫明
- ・コラム「イザベラ・スチュワート・ガードナー夫人とヴェネツィア、そして日本」／井上瞳
- ・コラム「ヴェネツィアが見た「日本の青年」」／宮永郁恵
- ・コラム「ムラーノ・ガラスのコンチェルト——大平洋一の創造過程」／宮永郁恵

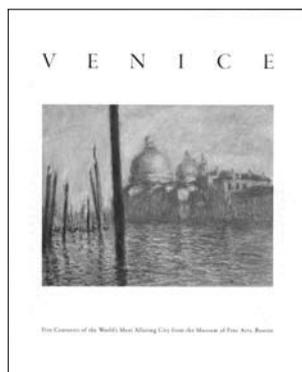
第4章 芸術家たちを魅了する町

- ・コラム「モネとヴェネツィア」／水木祥子
- ・コラム「『紙の都』ヴェネツィア——旅行者と読者たちへの魅惑」／ベンジャミン・ワイス

作家解説

参考文献

出品リスト



【関連記事】

●新聞

9月11日(日) 新潟日報 特集記事

「水の都 美への誘い」

9月29日(木) 新潟日報

「美術館に行こう ヴェネツィア展(上)」／近藤フジエ(新潟大学名誉教授)

9月30日(金) 新潟日報

「美術館に行こう ヴェネツィア展(下)」／近藤フジエ(新潟大学名誉教授)

10月29日(土) 新潟日報文化欄

「展覧会へようこそ 水の都の魅力 多角的に」／宮下東子

その他 新潟日報 (8/25、9/10、9/26、10/5、10/19、11/4、11/5、11/13)

長岡新聞 (9/22、9/27、11/22)

十日町新聞 (9/1)

妻有新聞 (9/3)

信濃毎日新聞 (10/1)

〈連載〉

・新潟日報

「ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」

①クロード・モネ《ヴェネツィアの大運河》／松本奈穂子 (11/2)

②ロレンツォ・ロット《聖母子と聖ヒエロニムス、トレンティーノの聖ニコラウス》／松本奈穂子 (11/3)

③ドメニコ・ティントレット《少年の肖像》／宮下東子 (11/4)

④リーノ・タリアピエトラ《瓶》／宮下東子 (11/5)

⑤カナレット《サンジョルジョ・マッジョーレ聖堂：サンマルコ沖に望む》／宮下東子 (11/6)

●雑誌

月間キャレル10月号「『ヴェネツィア展』の楽しみ方」

(見開き2頁)

●テレビ

11月21日(月) NHK新潟放送局

お昼はじょんのびくらし情報便「ミニキテ」

コーナー／宮下東子

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	11,487
	前売	5,108
無料観覧者数	招待	2,290
	無料	1,825
	免除	1,341
総観覧者数		22,051
有料率 (%)		75.3

図録販売数 397冊 (一般388冊、友の会9冊)

音声ガイド貸出数：2,922台

担当 宮下東子

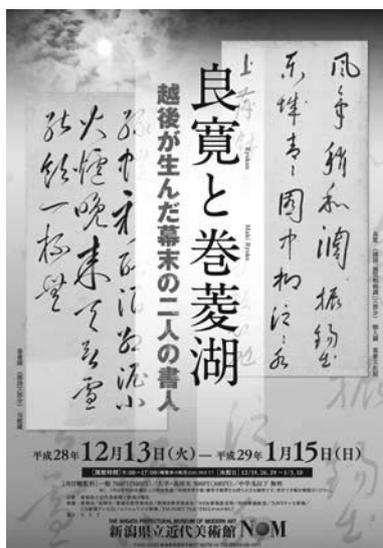
【出品作品リスト】 * 全点ともボストン美術館所蔵。ただし※は当館蔵。

作品名	作家名	制作年	技法・材料	寸法(縦×横cm)
I 比類なき都市 Section One: A City Apart from All Others				
ユニークな景色 The Unique Physical Setting				
ヴェネツィア鳥瞰図	ヤコボ・デ・バルバリ	1500年(16世紀後半の刷り)	木版、紙	133.6×277.2 ※
ヴェネツィア鳥瞰図	ヤコボ・デ・バルバリ	1500年	木版、紙	139.0×282.0
サン・マルコ沖を行くゴンドラの列	フランチェスコ・グアルディ	1780-93年頃	油彩、カンヴァス	98.1×138.1
サン・ジョルジョ・マッジョーレ聖堂： サン・マルコ沖に望む	カナレット	1726-30年頃	油彩、カンヴァス	46.3×63.2
ヴェネツィアのフォンテゲット・デッラ・ファリーナ (穀物取引所)	カナレット	1735年頃	油彩、カンヴァス	37.1×51.1
ヴェネツィアのパノラマ景観	フランチェスコ・チッターリオ	1840-60年頃	アクアチント、紙	41.5×111.4
サン・マルコ広場：レオンチーニ小広場から望む	カルロ・ボンティ	1858-75年	写真、鶏卵紙	25.7×35.6
「カーニヴァルの木曜日」の祝祭	カナレット原画/ ジョヴァンニ・パッティスタ・ブルストロン版刻	1766年頃(19世紀の刷り)	エッチング、エングレーヴィング、紙	52.0×68.4
ドゥッカラ宮殿の「巨人の階段」	カルロ・ボンティ	1862年	写真、鶏卵紙	35.7×27.2
ため息橋：ドゥッカラ宮殿の角から望む	パオロ・サルヴィアーティ	1860-90年頃	写真、鶏卵紙	24.4×18.9
大運河に面したコンタリーニ邸	カルロ・ナヤ	1860-80年頃	写真、鶏卵紙	13.6×10.0
ダリオ邸	カルロ・ボンティ	1860-70年	写真、鶏卵紙	33.4×25.7
アルブリッツィ小運河	パオロ・サルヴィアーティ	1860-90年頃	写真、鶏卵紙	24.3×19.0
梁の上の子供たち	カルロ・ナヤ	1860-80年頃	写真、鶏卵紙	23.9×18.4
陽気な日のヴェネツィアの街角	エツレ・ティート	1891-99年	油彩、カンヴァス	54.0×80.6
マルゲーラの塔	カナレット	1740-44年	エッチング、紙	47.0×64.4
ヴェネツィアの潟に停泊する2隻の漁船	アリナーリ社	1900年頃	写真、鶏卵紙	19.3×24.5
ヴェネツィアの潟に浮かぶ漁船	アリナーリ社	1900年頃	写真、鶏卵紙	19.0×24.5
ランタンのある玄関間	カナレット	1740-44年	エッチング、紙	37.5×50.8
連作〈グロッテスキ〉より、第3葉：ネロ帝の墓	ジョヴァンニ・パッティスタ・ピラネージ	1747-49年	エッチング、紙	52.5×70.2
ヴェネツィアの肖像画 Portraits of the Venetians				
ヴェネツィア統領バスクアーレ・マリビエーロの肖像	ジェンティーレ・ベッリーニ	1460-62年頃	テンペラ、板	53.3×42.5
ヴェネツィア統領フランチェスコ・ヴェニエールの肖像	ティツィアーノ原画/版刻者不詳	1554年	木版、紙	39.3×27.5
「コッレージョの間」で儀式を主宰するヴェネツィア統領アルヴィーゼ・モチェーニコ	チェーザレ・ヴェチェッリオ(?)	1575年	木版、紙	34.0×43.0
ヴェネツィア統領マリノ・グリマーニ	チェーザレ・ヴェチェッリオに帰属	1595年頃	木版、紙	40.3×26.8
ヴェネツィア統領夫人モロジーナ・グリマーニ	チェーザレ・ヴェチェッリオに帰属	1595年頃	木版、紙	40.2×27.2
スルタン、スレイマーン大帝	作者不詳	1540-50年頃	木版、紙	87.6×34.3
レバントの海戦(オスマン帝国に対するヴェネツィア共和国、ローマ教皇庁、スペイン連合軍の勝利)	マルティエーノ・ロータ	1571年もしくはそれ以降	エッチング、紙	16.3×19.7
男と少年の肖像	ジョヴァンニ・パッティスタ・モローニ	1545-50年頃	油彩、カンヴァス	98.1×83.5
45歳の男性の肖像	ドメニコ・ティントレット	1590年頃	油彩、カンヴァス	103.5×92.4
少年の肖像	ドメニコ・ティントレット	1580-85年頃	油彩、カンヴァス	64.8×55.3
聖職者の肖像	ヤコボ・パッサーノ	1576年頃	油彩、カンヴァス	81.3×65.1
II 描かれた祈り A Pious People				
大教会堂のある町 A City of Great Churches				
サンタ・マリア・デッラ・サルテ祭の日の祝典	カナレット原画/ ジョヴァンニ・パッティスタ・ブルストロン版刻	1766年頃(19世紀の刷り)	エッチング、エングレーヴィング、紙	51.9×68.4
復活祭の日にサン・ザッカリア聖堂を訪問するヴェネツィア統領	カナレット原画/ ジョヴァンニ・パッティスタ・ブルストロン版刻	1766年頃(19世紀の刷り)	エッチング、エングレーヴィング、紙	51.9×68.2
聖人と預言者への崇敬 Devotion to Saints and Prophets				
マグダラの聖マリア	バルトロメオ・ヴィヴァリーニ	1480-90年頃	テンペラ、板	56.8×36.0
聖母子と聖ヒエロニムス、トレンティーノの聖ニコラウス	ロレンツォ・ロット	1523-24年	油彩、カンヴァス	94.3×77.8
アレクサンドリアの聖カタリナの祈り	ティツィアーノ・ヴェチェッリオ	1567年頃	油彩、カンヴァス	119.1×100.0
聖ロクス	ティツィアーノ原画/ドメニコ・ダッレ・グレケ版刻	16世紀半ば	木版、紙	38.7×22.8

荒野の聖ヒエロニムス	ティツィアーノ原画/ジュゼッペ・スコラーリ版刻	16世紀後期	木版、紙	53.5×37.2
聖ヒエロニムスに顕れる聖母の幻視	ヤコボ・ティントレット原画/ アゴスティーノ・カラッチ版刻	1588年	エングレーヴィング、紙	42.7×30.5
六人の聖人	ティツィアーノ原画/ニコロ・ボルドリーニ版刻	16世紀半ば	木版、紙	38.0×53.7
聖母に祈りを捧げる聖ドミニクス	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	1737-39年	油彩、紙（カンヴァスに貼り付け）	36.8×55.9
聖シモン・ストックに顕れる聖母の幻視	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ原画/ ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ版刻	1749年	エッチング、紙	61.5×40.4
聖家族とパオラの聖フランチェスコ、聖ルイージ（アロイシウス）・ゴンザーガ	フランチェスコ・カベッラ	1760年代初期	油彩、カンヴァス	167.3×121.9
アブラハムの供犠	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピットーニ	1750-55年	油彩、カンヴァス	81.6×64.8
キリストの生涯 The Life of Christ				
受胎告知	ティツィアーノ原画/ヤコボ・カラリオ版刻	1538-39年頃	エングレーヴィング、紙	45.5×34.5
羊飼いの礼拝	ティツィアーノ原画/ジョヴァンニ・ブリット版刻	1535-40年頃	木版、紙	39.8×50.0
東方三博士の礼拝	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	1753年頃	エッチング、紙	43.0×28.6
連作〈エジプト逃避のピクチャレスクな諸場面〉より、第16葉：舟に乗り込む聖家族	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	1753年	エッチング、紙	24.7×37.4
キリストの洗礼	ジローラモ・モチェット	1507-16年頃	エングレーヴィング、紙	49.0×35.9
足なえの男を癒すキリスト	ヤコボ・パッサーノ	1568-71年頃	油彩、カンヴァス	74.6×84.8
キリストの嘲弄	ヤコボ・パッサーノ、フランチェスコ・パッサーノ	1580年代	油彩、カンヴァス	189.2×135.2
連作〈十字架の道行き〉より、タイトル・ページ	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	1749年	エッチング、紙	25.6×21.8
連作〈十字架の道行き〉より、第10番：衣を脱がされるキリスト	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	1749年	エッチング、紙	27.4×21.5
連作〈十字架の道行き〉より、第14番：キリストの埋葬	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	1749年	エッチング、紙	26.5×21.9
天使たちに支えられる死せるキリスト	パオロ・ヴェロネーゼ	1580-88年頃	油彩、カンヴァス	98.1×71.4
天使に支えられる死せるキリスト	ジュゼッペ・スコラーリ	16世紀後期	木版、紙	46.2×31.0
宗教美術のスペクタクル The Venetian Taste for Grand Spectacle in Religious Art				
モーセの発見	ヴェロネーゼ原画/ ジョン・バプティスト・ジャクソン版刻	1741年	キアロスкуро木版、紙	56.3×37.9
東方三博士の礼拝	ドメニコ・ティントレット	1600-10年頃	油彩、カンヴァス	152.1×295
シモンの家での饗宴	ヴェロネーゼ原画/ ヴァランタン・ルフェーヴル版刻	1682年	エッチング、紙	46.2×82.2
III ヴェネツィア趣味 Venetian Style				
古代神話 Subjects from Ancient Greek and Roman Mythology				
ユピテルと裸婦	パオロ・ヴェロネーゼ	1560年代	油彩、カンヴァス	27.0×101.0
ディアナとアクタイオン	パオロ・ヴェロネーゼ	1560年代	油彩、カンヴァス	26.0×101.0
メレアグロスから猪の頭を受け取るアタランテ	パオロ・ヴェロネーゼ	1560年代	油彩、カンヴァス	25.7×101.0
『ポリフィロの夢』	フランチェスコ・コロナ著/ アルドゥス・マヌティウス出版	1499年	170点の木版画による挿絵本	30.6×22.2×3.8
ヴィーナスとキューピッド	ティツィアーノ原画/ニコロ・ボルドリーニ版刻	1566年	キアロスкуро木版、紙	30.8×23.4
ルクレティアの凌辱	ティツィアーノ原画/コルネリス・コルト版刻	1571年	エングレーヴィング、紙	37.3×26.6
ヴェネツィアの室内 Venetian Interiors				
美術批評家たち：サン・ジョルジョ・デッリ・スキアヴォーニ同信会館にて	ジョゼフ・リンドン・スミス	1894年	水彩、紙	76.2×116.2 (Sight)
ドゥッケーレ宮殿の「コッレージョの間」	ウィリアム・ピット・ブレブル・ロングフェロー	19世紀後期	水彩、紙	24.4×28.3
外国使節を歓迎するヴェネツィア統領	カナレット原画/ ジョヴァンニ・バッティスタ・ブルストロン版刻	1766年頃 (19世紀の刷り)	エッチング、エングレーヴィング、紙	52.0×67.8
バルバロ邸の室内	ウォルター・ゲイ	1902年	油彩、カンヴァス	90.5×100.3
ベンゾン邸（連作〈ファサードの裏側〉より）	マティアス・シャラー	2007年	写真、アルミニウム板に印画紙	180.0×180.0
豪華な織物と服飾 Luxury Fabrics and Costume				
レティチェッラ・レースのテーブル・カバー	イタリア製	16世紀（デザイン）、17世紀（製作）	亜麻布、ヴェネツィア・ポイント・レース	72.0×162.0
『高貴で有徳な婦人たちのレース図案集』第一巻	チェーザレ・ヴェチェッリオ画	1591年	79点の木版画入り挿絵本	14.0×20.8×1.6

レースの胸飾り	イタリア (ヴェネツィア) 製	17世紀に製作、19世紀に仕立て直し	亜麻布、厚みのあるヴェネツィア・ポイント・レース	29.0×42.0
婦人用の高底靴 (チョピン)	イタリア、ヴェネツィア製	17世紀後期-18世紀初期	金色のレースで縁取りされたシルク・ベルベット、亜麻布の裏地、シルク・サテンのリボン、金糸で編まれた縁取り、金属の釘、木材、革	14.0×11.1×23.0
『世界各地の古今の服飾』	チェーザレ・ヴェチェッリオ著・画	1590年	420点の木版入り挿絵本	19.0×12.6×4.6
婦人用の高底靴 (チョピン)	イタリア (ヴェネツィア) 製	1590-1610年	木材の上加工した革、金属の飾り紐	30.2×16.2×24.0
『諸国服飾集』より、「高底靴を履いたヴェネツィアの高級娼婦」	ピエトロ・ベルテッリ	1589年	手彩色を施したエングレーヴィング、クリーム色の黄の目紙	11.2×8.2
金糸を織り込んだ深紅の絹のダマスク織	イタリア製	16世紀	金糸で浮織を施したシルク・ダマスク織	108.5×55.4
ベルベットのカズラ (司祭用ミサ服)	イタリア製	16世紀半ば	絹、ベルベット	110.0
ビザール・デザインによるサーモン色の絹織	フランスもしくはイタリア (ヴェネツィア?) 製	1700-10年	絹糸と金糸で浮織を施したシルク・ダマスク織	113.0×53.3
金糸・銀糸を織り込んだ絹織	フランスもしくはイタリア (ヴェネツィア?) 製	18世紀初期	経糸と緯糸で文様を織り出したシルク・サテン (ランパス織)	113.0×54.6
召使もしくはゴンドラ漕ぎの帽子	イタリア製	18世紀後期	絹、銀、銀糸のリボン、銀のタッセル、亜麻布の裏地	17.8×24.5×23.0
『ヴェネツィアの街角に見るさまざまな職業の人々』	ガエターノ・ゲラルド・ゾンビーニ著	1785年	63点のエッチング入り挿絵本	52.8×37.0×2.5
カーニバル用のフード	イタリア (ヴェネツィア?) 製	19世紀後期	シルク・タフタ、ボタンが付いたシルク・レース	87.0×67.0
仮面	イタリア (ヴェネツィア) 製	19世紀後期	パビエ・マシエ、白い顔料	12.0×11.5×10.0
ティーガウン	マリアーノ・フォルトゥーニ (デザイン)	1920年頃	絹、ベルベット、金銀の顔料によるステンシル彩色、絹の平織、プリーツ、ガラス製ビーズ	155.0
ツーピースの「デルフォス」ドレスとジャケット	マリアーノ・フォルトゥーニ (デザイン)	1937年頃	ドレス：プリーツ加工のシルク・サテン、ガラス・ビーズ ジャケット：シルク・ベルベット、金色の顔料によるステンシル彩色、ガラス・ビーズの縁取り	82.6 (jacket) 142.2 (dress) 98.0×5.1 (belt)
緑色のヴェネツィア・ビーズのネックレス	アメリカもしくはヨーロッパ製	1925年頃	ガラス・ビーズ、ガラスをつなぎ合わせた環状のタッセル	55.5×6.0×6.0
ピンクのヴェネツィア・ビーズのネックレス	イタリア (ヴェネツィア) 製	1950年代	ガラス・ビーズ、糸、金属	63.5
近現代におけるムラーノ・ガラス	Modern and Contemporary Murano Glass			
花瓶	カルロ・スカルパ (デザイン) / ヴェネーニ社 (製作)	1940年頃	ガラス、黄色と黒のガラス棒を配した縞模様	12.9
デキャンタ	ヴェネーニ社	1957年頃	透明ガラス、青色と黄色のガラス棒を交互に配した縞模様	36.5
デキャンタ (『モランディ風ボトル』シリーズより)	ジオ・ボンティ (デザイン) / ヴェネーニ社 (製作)	1955-62年頃	褐色の半透明ガラスと淡青色の被せガラスによるインカルモ	34.6
裸婦	ジャン (ハンス)・アルプ (デザイン) / エジディオ・コスタンティーニ (製作)	1964年	宙吹きガラス、手による成形	25.7×12.7×34.0
鳩	ジャン (ハンス)・アルプ (デザイン) / エジディオ・コスタンティーニ (製作)	1964年?	宙吹きガラス、手による成形	26.4
鳥	マックス・エルンスト (デザイン) / エジディオ・コスタンティーニ (製作)	1964年	宙吹きガラス、手による成形	38.4×22.2×8.3
瓶	リーノ・タリアピエトラ	1998年頃	宙吹きガラス	68.6
黒い線と天使の赤い髪	大平洋一 (デザイン) / リヴィオ・セレーナ (宙吹き) / ジャコモ・バルビーニ (カット・研磨)	2002年	ガラス粉末を利用した吹きガラス、金箔	27.0×15.2

IV 芸術家たちを魅了する町		The City Interpreted by Foreigners			
ヴェネツィアと印象派		Venice and the Impressionists			
サン・マルコ小広場	ジャン＝バティスト＝カミーユ・コロー	1828年	油彩、紙	15.9×25.1	
サンタ・マリア・デッラ・サルテ聖堂：サン・ジョルジョ島から望む	ウジェーヌ・レイ・ブーダン	1895年	油彩、カンヴァス	46.3×65.4	
ヴェネツィアの大運河	クロード・モネ	1908年	油彩、カンヴァス	73.7×92.4	
ヴェネツィアの帆掛け船	フェリックス・ジーム	19世紀後半	油彩、カンヴァス	21.5×32.5	
サン・マルコ聖堂の磔刑礼拝堂	フランク・ヒル・スミス	1871年	油彩、カンヴァス	73.0×52.1	
雪の日のサンティ・ジョヴァンニ・エ・パオロ広場	ウィリアム・グラハム	1879年	油彩、カンヴァス	33.7×60.0	
ヴェネツィアの運河	アントニオ・レイナ・マネスカウ	19世紀後期-20世紀初期	油彩、カンヴァス	75.0×43.2	
カロリーナ	ウォルター・リチャード・シッカート	1903-04	油彩、カンヴァス	46.0×38.1	
ヴェネツィアの女たち	ウォルター・リチャード・シッカート	1903-04	油彩、カンヴァス	45.7×57.2	
日本の芸術家たち		Influence on Japanese Artists			
紅毛フランカイノ湊	作者不詳	1805 (文化2) 年12月	大判錦絵	22.4×34.7	
ヴェニス <small>の</small> 運河	吉田博	1925 (大正14) 年	多色刷木版、紙	41.7×28.0	
ヴェニス <small>の</small> 夕	吉田博	1928 (昭和3) 年	多色刷木版、紙	26.0×18.2	
ホイッスラーとその追隨者たち		Whistler and His Followers			
ノクターン (〈第一ヴェネツィア連作〉より)	ジェイムズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	1879-80年	エッチング、紙	20.5×29.5	
邸館の入口 (〈第一ヴェネツィア連作〉より)	ジェイムズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	1879-80年	エッチング、紙	29.9×20.3	
邸館 (〈第一ヴェネツィア連作〉より)	ジェイムズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	1879-80年	エッチング、紙	25.1×35.9	
旗竿 (〈第一ヴェネツィア連作〉より)	ジェイムズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	1879-80年	エッチング、紙	34.8×16.5	
ジュデッカ島	ジェイムズ・マックベイ	1925年	ドライポイント、紙	20.1×33.5	
ジュデッカ島から望むサンタ・マリア・デッラ・サルテ聖堂	アーネスト・デイヴィッド・ロス	1925年	エッチング、紙	34.9×25.5	
サン・マルコ広場	フランク・デュヴェネック	1883年	エッチング、紙	36.0×31.4	
サン・マルコ小広場	ジョン・マリ	1907年	エッチング、紙	24.1×30.2	
ヴェネツィアの造船職人たち	ドナルド・ショー・マクラフラン	1910年頃	エッチング、紙	23.1×27.9	
ヴェネツィア、遅い午後	エドワード・スタイケン	1913年	フォトグラヴェール、紙	20.0×28.0	
ヴェネツィアの邸館 (ヘンリー・ジェイムズ著『鳩の翼』の挿画として出版)	アルヴィン・ラングドン・コバーン	1906年	フォトグラヴェール、紙	21.1×12.9	
水彩画の伝統		The Watercolor Tradition			
バルトロメオ・コッレオーニ騎馬像の頭部	ジョゼフ・リンドン・スミス	1894年	水彩、紙	94.9×63.5	
サン・ジョルジョ島の眺望	エドワード・ダーリー・ポイト	1911年	水彩、紙	38.0×48.2	
大運河の午後	エドワード・ダーリー・ポイト	1911年	水彩、紙	38.0×48.2	
サン・バルナバ小運河	エドワード・ダーリー・ポイト	1911年	水彩、紙	48.2×35.5	
サンタ・マリア・デイ・ミラーコリ聖堂近くの橋	アダム・ヴァン・ドーレン	2005年	水彩、グワッシュ、パステル、オリブ色の質の目紙	49.0×64.8	
サン・バルナバ聖堂の鐘塔	アダム・ヴァン・ドーレン	1986年	水彩、グラフィット、ウォーヴ紙	29.0×24.0	
ヴェネツィアの景観	アダム・ヴァン・ドーレン	2005年	水彩、グワッシュ、グラフィット、赤の質の目紙	53.3×40.6	
現代の写真家たち		Contemporary Photographers			
カサノヴァが弔辞／ Gondolaを送る：サン・マルコ広場	アルノ・ラファエル・ミンキネン	2003年	写真、ゼラチン・シルヴァー・プリント	50.5×60.5	
ヴェニス・ポートフォリオII (6枚組)	ヴェーラ・ルッター	2005-06年	写真、ゼラチン・シルヴァー・プリント (一点制作)	53.3×63.7 each	
サンタ・マリア・デッラ・サルテ聖堂	アベラルド・モレル	2006年	写真、ゼラチン・シルヴァー・プリント	61.0×50.8	



良寛と巻菱湖

越後が生んだ幕末の二人の書人

【趣旨】

江戸時代末、越後（新潟県）には二人の書人が輩出される。一人は禅僧・良寛（1758—1831）、もう一人は、書家・巻菱湖（1777—1843）。

良寛は、出雲崎に生まれ、禅僧として生涯、庵を構えず過ごした。飄逸なその書は、所縁の地元の各家で大事にされ続け、その独自性が高く評価され、今日珍重されている。

一方、巻菱湖は、新潟（現西蒲区福井）に生まれ、巻の鋳湯付近で遊び育ったと言われている。

書家となってからは、門弟一万人と言われ、その書風は、全国を風靡し、市河米庵、貫名海屋とともに幕末の三筆に数えられている。

本展では、幕末の同時期に新潟が輩出したこの二人の書人の書と比較し、社会における書の趨勢をとおして時代を見つめ直し、それぞれの書の魅力を、六つの視点から探った。

【総括】

●評価すべき点

- ・これまで同時に語ることのなかった越後の二人書人を提示でき、眼を向ける契機となった。
- ・巻菱湖を検証するための新出の巻菱湖作品が発見できた。

●検討課題

- ・新聞記事掲載、テレビ番組製作の広報協力を得たが、広がりには繋がらなかった。古い時代の作品への関心が薄れてきている点をどのように立て直すか、当館ばかりではない難問である。

【開催日・その他】

=2016年12月13日(火)~2017年1月15日(日)(25日間) =

主催：新潟県立近代美術館、新潟日报社

後援：新潟市、長岡市、新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、BSN新潟放送、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM ながおか80.7

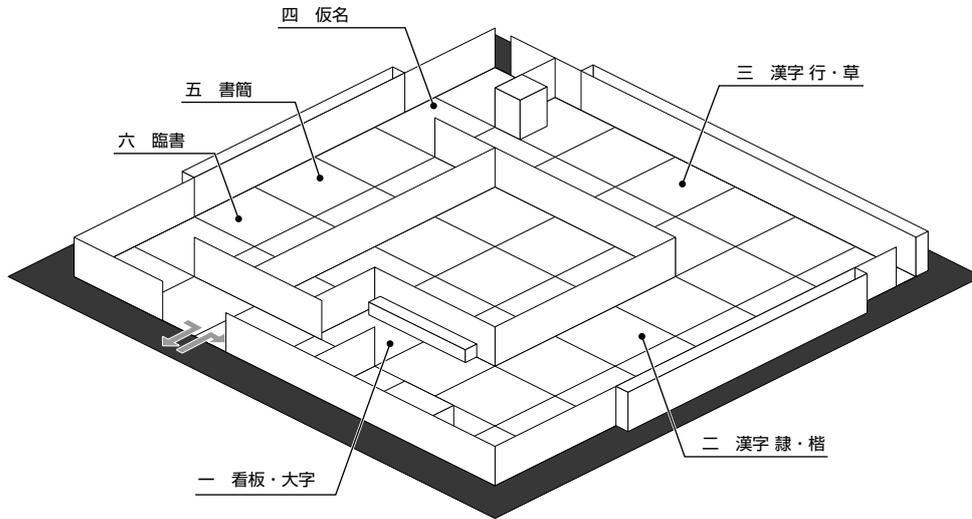
協力：NST

観覧料：一般……………700円（500円）

大学・高校生……………500円（300円）

※中学生以下無料

※（ ）内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・解説会
12月17日(日)／1月15日(日) 企画展示室
参加者数：30名／30名

【図録】

仕様：B5判 64頁
編集：新潟県立近代美術館
発行：新潟県立近代美術館
内容：謝辞

ごあいさつ

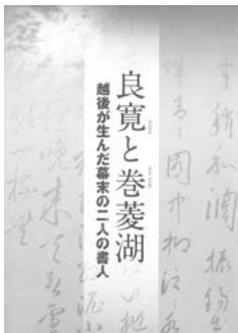
- 図版 一、看板・大字
二、漢字 隸・楷
三、漢字 行・草
四、仮名
五、書簡
六、臨書

良寛と巻菱湖 越後の二人の書人

良寛と巻菱湖略年譜

参考文献

作品略解



【関連記事】

●新聞

12月23日(金) 新潟日報
展覧会へようこそ「良寛と巻菱湖」／松矢国憲
1月5日(木) 長岡新聞
「偉人が遺した足跡を見て学ぶ」
その他 新潟日報 (12/14)

●テレビ

12月29日(木) N S T
年末良寛特別番組 良寛と巻菱湖 越後出身 二人の書人

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	1,305
無料観覧者数	招待	385
	無料	53
	免除	139
総観覧者数		1,882
有料率 (%)		69.3

担当 松矢国憲

【出品リスト】

◎重要文化財 ○新潟県指定文化財 ●新潟市指定文化財

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	所蔵	
1	良寛	心月輪	江戸期	板・刻字	個人蔵	○
2	良寛	修身	江戸期	紙本軸装	個人蔵	
3	良寛	家伝煉製	江戸期	板・刻字	新潟市歴史博物館蔵	●
4	良寛	御水飴所	江戸期	板・刻字	新潟市歴史博物館蔵	●
5	巻菱湖	愛日	江戸期	紙本軸装	巻菱湖記念時代館蔵	
6	巻菱湖	所如	江戸期	紙本軸装	新潟市巻郷土資料館蔵	
7	巻菱湖	鐵塔法明窟	天保九年（一八三八）	板・刻字	長岡市宮本町法明院蔵	
8	巻菱湖	楷草帳	文化十一年（一八一四）	紙本粘葉本	新潟県立図書館蔵	
9	巻菱湖	司空表聖詩品	江戸期	紙本粘葉本	新潟市巻郷土資料館蔵	●
10	巻菱湖	隷書自詠詩	江戸期	紙本軸装	巻菱湖記念時代館蔵	
11	巻菱湖	三国志抄	天保元年（一八三〇）	絹本軸装	当館蔵	
12	巻菱湖	楷書唐詩帖	江戸期	絹本折帖	巻菱湖記念時代館蔵	
13	良寛	題娥眉山下橋杭	文政十年（一八二七）頃	紙本軸装	個人蔵	
14	良寛	冬夜長	文政十三年（一八三〇）	紙本軸装	個人蔵	
15	良寛	南無天満大自在天神	江戸期	紙本軸装	個人蔵	
16	良寛	漢詩「風氣稍和調」	江戸期	紙本六曲一隻屏風	個人蔵	◎
参考	巻菱湖	唐詩（部分）	江戸期	六曲一隻屏風	個人蔵	
17	良寛	七言詩「芳草萋々緑連天」	江戸期	紙本軸装	個人蔵	◎
18	良寛	七言絶句「頭髮蓬々」	江戸期	紙本軸装	個人蔵	○
19	良寛	漢詩「今日乞食」ほか	江戸期	六曲一双屏風	個人蔵	○
20	巻菱湖	漢詩	江戸期	紙本六曲一双屏風	当館蔵	
21	巻菱湖	行書唐詩帖	江戸期	絹本折帖	巻菱湖記念時代館蔵	
22	巻菱湖	草書唐詩帖	江戸期	絹本折帖	巻菱湖記念時代館蔵	
23	巻菱湖	漢詩「寒江淡落暉」	江戸期	紙本軸装	新潟県立図書館蔵	
24	巻菱湖	《陶淵明詩飲酒》	江戸期	紙本軸装	巻菱湖記念時代館蔵	
25	巻菱湖	七言絶句「志誨」	天保十一年（一八四〇）	紙本軸装	新潟県立図書館蔵	
26	良寛	俚謡「庭の白石」	江戸期	紙本額装	B S N新潟放送蔵（新潟市美術館寄託）	
27	良寛	和歌一首「なすすけ」	文化・文政期	紙本軸装	当館蔵	
28	良寛	和歌一首「ひさかたの」	文政四年（一八二一）頃	紙本軸装	当館蔵	
29	良寛	和歌「うちつけに」	文政十三年（一八三〇）	紙本軸装	一般財団法人 黒船館蔵	
30	巻菱湖	手習歌	江戸期	二曲一隻屏風	巻菱湖記念時代館蔵	
31	巻菱湖	書簡 儀八郎宛（二月廿日付）	江戸期	紙本軸装	新潟県立図書館蔵	
32	巻菱湖	書簡 鷗辺・軺所・ 半村宛（正月廿三日付）	江戸期	紙本卷子	巻菱湖記念時代館蔵	
33	良寛	維馨老尼宛書簡	文化十五年（一八一八）	紙本軸装	新潟市美術館蔵	
34	良寛	臨さざなみ帖（秋萩帖）	江戸期	紙本軸装	個人蔵	
35	巻菱湖	臨米芾書天馬賦	江戸期	紙本粘葉本	新潟市巻郷土資料館蔵	

共 催 展

第46回 世界児童画展

第27回MOA美術館児童作品展 長岡会場

【趣旨及び総括】

世界児童画展は1970年3月に大阪で開かれた万国博覧会を機に開催されて、今年で46回目を迎えた。この展覧会は、子どもたちの感性と理性の調和のとれた成長を願い、子どもたちが自らつくり出す造形文化の支援と、国境を越えて世界の人々を繋ぐ国際相互理解を目的として開催してきている。

今回は、日本と世界43の国と地域から約77,000点の応募があり、このうち新潟県からの応募作品では特別賞、特選を合わせて11点が選ばれた。新潟県展では、これらに加え、新潟県からの応募で「入選」となった110点を含む、計249点を展示した。

【開催日・その他】

=2016年8月5日(金)~8月11日(木・祝)(7日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：公益財団法人 美育文化協会、TeNYテレビ新潟、新潟県立近代美術館

後 援：外務省、文部科学省、新潟県教育委員会、読売新聞社、公益財団法人 日本美術教育連合、全国造形教育連盟

協力：べんてる株式会社

観覧料：無料

来場者数：1,328名（1日あたり約190名）

担当 宇賀田和雄

【趣旨及び総括】

MOA美術館児童作品展は、子供たちの創作活動の奨励をめざし「生命を尊ぶ心」や「心豊かな人間」形成を目的に、日本国内のみならず海外も含めて414会場で開催されてきた。

長岡会場では、新潟県教育委員会のほか、長岡市・長岡市教育委員会をはじめとして、県内各メディアの後援を得て、1,608点の応募作品の中から186点が選ばれ、県民ギャラリーに10月12日(水)から19日(水)まで展示された。918名の方が観覧され、特に週末は多くの親子連れで盛況であった。

また、10月16日(日)には表彰式が行われた。入賞した児童の作品がスクリーンに映し出される中、一人ひとり賞状が授与された。

児童及び児童の保護者・家族にとって県を代表する美術館で表彰・展示されたという経験は、かけがえのない経験として心に残るものとなり、地域の芸術振興に大きく寄与する作品展・表彰式となった。

【開催日・その他】

=2016年10月12日(水)~10月19日(水)(8日間)=

主 催：MOA美術館

後 援：文部科学省、外務省、厚生労働省、農林水産省、日本ユネスコ国内委員会、公益財団法人日本PTA全国協議会、公益社団法人全国子ども会連合会、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟、全国新聞社事業協議会、公益財団法人海外日系人協会、全国連合小学校長会、新潟県長岡地域振興局、新潟県教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会、新潟日報社、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UXテレビ新潟、エフエムラジオ新潟、(株)長岡新聞社、ケーブルテレビのエヌ・シー・ティ、FMながおか80.7

協 賛：公立大学法人長岡造形大学、北越銀行、大光銀行、長岡西病院、木村医院、べんてる、アオキ住建、イタヤ、コイズミ、中村量工業、小川塗装、藤塚工務店、太田屋、ホテルサンパレス、新潟グリーン産業、本間材木店、山本板金、中山左官、池端電気商会、フィロ稲門塾他計22社

観覧料：無料

会場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

担当 丸山実

第20回長岡市中学校美術部 作品展

【趣旨及び総括】

長岡市内の中学校美術部の活動の成果を発表する場として、今回が20回目の開催となる。今回は、16校297名、256点の作品が展示された。

長岡悠久ライオンズクラブから事業を引き継いだ長岡造形大学が主催となってから2回目の展覧会となる。地域連携事業として、中学校美術部の活動への参加や作品の展示企画、作品の講評、作品展の広報など、長岡造形大学が主体となり造形教育の活性化を目指した。

【開催日・その他】

=2016年11月5日(土)~6日(日)(2日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

共 催：新潟県立近代美術館、長岡悠久ライオンズクラブ

後 援：長岡市教育委員会

観覧料：無料

来場者数：807名（1日あたり約400名）

【関連行事】

作品講評会

日 時：11月5日(土)13:00~14:30

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

講 師：長谷川克義氏（長岡造形大学 美術・工芸学科 准教授）

中村和宏氏（長岡造形大学 美術・工芸学科 准教授）

参加校：8校美術部員

担当 宇賀田和雄

第18回亀倉雄策賞受賞記念 三木健展 [りんごデザイン研究所] 新潟巡回展

【趣旨】

JAGDA（公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会）初代会長の故亀倉雄策のコレクションを所蔵する館として、氏を讃えて創設された「亀倉雄策賞」の受賞作家作品展を継続開催することで、更なるグラフィックデザインの発展に寄与する。

本年度も前回と同様、公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、JAGDAによる三者主催で実施。JAGDA新人賞展は、長岡造形大学NIDホール（10月22日(土)~26日(水)）で実施された。

展示内容としては、第18回亀倉雄策賞受賞作となった、「APPLE+学び方のデザイン「りんご」と日常の仕事 | 三木健展」(egg)の告知のポスターをはじめ、その背景にある、教育プログラム「APPLE」が、映像、模型、パネルなどで立体的に紹介された。デザインに関心のある若年層を中心に盛況であった。

【開催日・その他】

=11月19日(土)~12月11日(日)(18日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：公立大学法人長岡造形大学、新潟県立近代美術館、公益社団法人日本グラフィックデザイナー協会

協 賛：株式会社プロテック

協 力：クリエイションギャラリーG8、亀倉雄策賞事務局、株式会社インターオフィス

後 援：大阪芸術大学

観覧料：無料

来場者数：1,414名

【関連イベント】

開催記念講演

12月4日(日)10:30~12:00(開場10:00~)

講 師：三木健氏

会 場：講堂

参加者数：94名

担当 藤田裕彦、伊澤朋美

第20回新潟県立美術館 友の会作品展

【趣旨及び総括】

友の会会員の制作した作品を募集し、会員の結束を図りながら、美術館の運営や活動に協力することを目的として、平成9年度に企画、以来開催を続けている。

第20回展では、会員の作品を中心に展示し、またワークショップで制作した作品、アートカフェをはじめ友の会の活動の様子を、近代美術館ギャラリーに展示した。

また、来場者にもワークショップと同様の作品を作成してもらい、楽しんでいただいた。

展示作業および来場者の対応は会員が中心となって行い、開催期間中に146名の来場者があった。

万代島美術館のエントランスでも友の会の活動内容をDVDで紹介した。

【開催日・その他】

=2016年12月20日(火)～12月25日(日)(6日間)=

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：新潟県立美術館友の会

観覧料：無料

担当 佐藤夏代（友の会事務局）

第47回新潟県ジュニア 美術展覧会「長岡展」

【趣旨及び総括】

感性豊かな子どもの育成と美術振興をねらいとして、47年間継続している全県規模のコンクールである。今回は、県内653の幼稚園、小・中学校、特別支援学校等から31,938点の応募があった。9名の審査員により選ばれた2,060点を新潟市、柏崎市、長岡市、上越市の4会場に巡回展示した。

長岡展会場である当館には、10日間の会期中に3,036名の入場があり、家族で美術鑑賞を楽しむ場となった。

【開催日・その他】

会 場：新潟展 2016年12月3日(土)～12月15日(木)
新潟県民会館ギャラリーにて

柏崎展 2017年1月19日(木)～1月24日(火)
柏崎市ソフィアセンターにて

長岡展 2017年1月28日(土)～2月8日(水)
新潟県立近代美術館にて

上越展 2017年2月11日(土)～2月16日(木)
上越市民プラザにて

主 催：新潟日報社、新潟県教育委員会、新潟県立近代美術館、新潟県美術教育連盟、新潟市教育委員会、長岡市教育委員会、上越市教育委員会、柏崎市

後 援：新潟日報美術振興財団

入場料：無料

審査員(敬称略)

3～5歳	戸潤幸夫（新潟県立大学教授）
小学校1年	新野貴則（山梨大学准教授）
小学校2年	橋本光明（信州大学名誉教授）
小学校3年	林 耕史（群馬大学教授）
小学校4年	石上城行（埼玉大学准教授）
小学校5年	大泉義一（横浜国立大学准教授）
小学校6年	竹井 史（愛知教育大学教授）
中学校1～3年	佐藤哲夫（新潟大学教授）
特別支援学校	大嶋 彰（立教大学特任教授）

担当 青木善治

長岡造形大学2016年度 こどもものづくり大学校作品展覧会 ～こども×カタチ展～

【趣旨及び総括】

長岡造形大学主催事業「こどもものづくり大学校」は、ものづくりによって豊かな感性と創造力をはぐくみ、また日常生活では体験できない自由な発想の場を提供する、小学校3～6年生を対象に行われる講座である。同大学のキャンパスを主な活動場所とし6クラス156名の子どもが参加した。例年当館でもそのうちの1講座を学外ワークとして担当していたが、今回は造形大講師陣が全講座を受け持つことになり、講座を当館で実施することはなかった。

本展覧会は、年間を通してガラス、陶芸、版画、木工、クラフト…と、多彩な10講座を受講した子どもたちの創造力あふれる作品の数々を展示し、こどもものづくり大学校の活動を紹介するものである。今年度は358点の作品が展示され、会期中は作品を出品した子どもの家族を中心とした来場者でにぎわった。

【開催日・その他】

＝2017年3月18日(土)～3月26日(日)(6日間)＝

会 場：新潟県立近代美術館 ギャラリー

主 催：長岡造形大学

共 催：新潟県立近代美術館

後援 長岡市、長岡市教育委員会、新潟日报社、長岡新聞社、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、ケーブルテレビのエヌ・シティ、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM ながおか80.7

観覧料：無料

来場者数：680名（1日あたり約110名）

担当 宇賀田和雄

所蔵品展



感じる・見つめる・考える 現代のアートとデザイン

【趣旨】

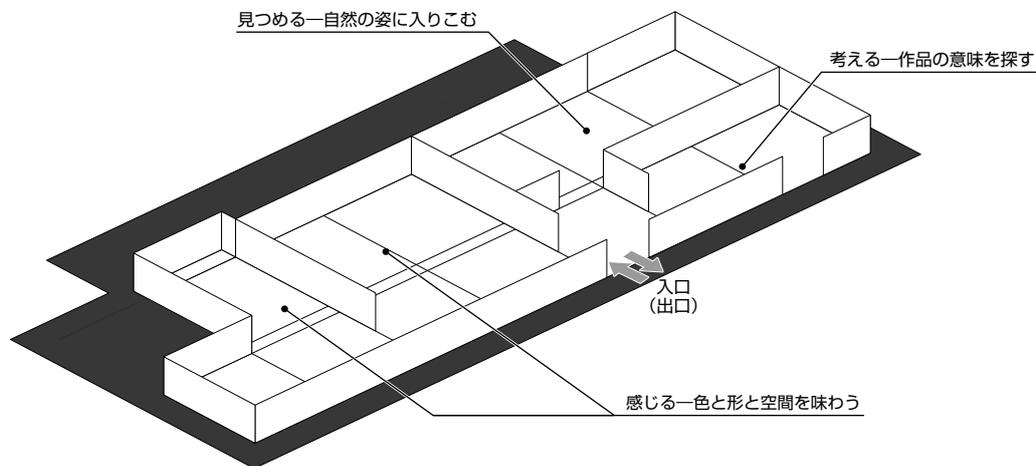
所蔵品から2000年前後に制作された新しい作品を中心に構成した。3つのテーマに沿って作品を分類し、「感じる—色と形と空間を味わう」では岡村桂三郎、八木幾朗らの大型作品や齋内佐斗司の立体作品、「見つめる—自然の姿に入りこむ」では日本画を中心に植物や生物、風景を描いた作品、「考える—作品の意味を探す」では森村泰昌や福田美蘭、浅葉克己や佐藤卓らのデザイン作品を展示し、様々な分野の作品を紹介した。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・ 空間を広くとり、テーマごとに独立した3室にしたことで通常とは趣の異なる展示空間となり、所蔵品を新鮮な目で楽しんでもらうことができた。
 - ・ 見る際にイメージをふくらませる材料として、キャプションと共に作者の言葉を付した。アンケートでも好意的な意見が寄せられた。
- 検討課題
 - ・ 会期が短かったため全体としては入館者が少なく、所蔵品の魅力を多くの人に伝えることができなかった。

【開催日・その他】

- = 2016年4月1日(金)~4月17日(日)(16日間) =
- ※ 全体会期は3月12日(土)~4月17日(日)(34日間)
- 主 催：新潟県立万代島美術館
- 後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ほかほラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社
- 観覧料：一般……………310円 (250円)
- 大学・高校生……………150円 (120円)
- ※ 中学生以下無料
- ※ () 内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

- ・学芸員による作品解説会
4月3日(日)／4月10日(日)／4月17日(日)
14:00～ 展示室
参加者数：15名／7名／7名

【観覧者数】

※4/1～4/17

有料観覧者数	当日	513
無料観覧者数	招待	263
	無料	78
	免除	82
総観覧者数		936
有料率 (%)		54.8

※全会期 (3/12～4/17)

有料観覧者数	当日	1,280
無料観覧者数	招待	368
	無料	186
	免除	137
総観覧者数		1,971
有料率 (%)		64.9

担当 池田珠緒

【出品リスト】

タイトル	作家名	生没年	素材・技法	サイズ（縦×横×高cm）	制作年
感じる					
① 魚図	八木幾朗	1955-	紙、岩絵具、墨、箔	180.0×1440.0	1980
② 円形のジャングルジム	菅原健彦	1962-	紙、岩絵具、顔料、箔	243.3×488.0	1993
③ 泉	岡村桂三郎	1958-	板、岩絵具	295.0×960.0	2003
④ Chuckwill's Widow	舟越直木	1953-	ブロンズ・彩色	200.0×145.0×65.0	1993
⑤ 走る童子	藪内佐斗司	1953-	ブロンズ・彩色	46.0×56.0×79.0(4体) 46.0×25.0×79.0 46.0×34.0×79.0	1996
⑥ WATERFALL	千住博	1958-	紙、岩絵具、胡粉	194.0×266.0	2000
⑦ 水路-王の方舟	山口啓介	1962-	紙・エッチング	120.0×234.0	1990
⑧ Sound-40	白木ゆり	1966-	紙・エッチング、ドライポイント	172.2×120.5	2001
⑨ 光彩図	仲山計介	1948-	紙、岩絵具	112.5×225.0	1996
⑩ いつの世までも	清水伸	1947-	キャンバス、油絵具	245.0×306.0	2000
⑪ いけにえ	野見山暁治	1920-	キャンバス、油絵具	182.0×227.0	1995
⑫ 死を悼みて濡れた紫の水瀬に立つ者V	中村一美	1956-	綿布、アクリル絵具	300.4×240.3	2003
⑬ RITES OF PASSAGE	斉藤典彦	1957-	紙、絹、岩絵具	335.0×260.0	2000
⑭ DHL	丸山直文	1964-	綿布、アクリル絵具	230.0×230.0	1992
⑮ 花 I	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑯ 花 II	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑰ 花 III	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑱ 花 IV	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑲ 花 V	キース・ヘリング	1958-1990	紙・シルクスクリーン印刷	91.5×127.0	1990
⑳ 睡蓮と柳	ロイ・リキテンスタイン	1923-1997	ステンレス・スチール板・スクリーン印刷	147.3×264.6	1992
㉑ イーゴル・ストラヴィンスキー	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	205.9×89.2	1981
㉒ パラード	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	203.0×101.5	1981
㉓ パラード（フランス作曲家三部作）	デイヴィッド・ホックニー	1937-	紙・セリグラフ	206.0×104.0	1981-82
㉔ サルヴァトーレ・フェラガモ展「華麗なる靴」	田中一光	1930-2002	紙・オフセット印刷	206.0×145.4	1998
㉕ ポスター：CD「Smay」	佐藤可士和	1965-	紙・オフセット印刷	102.8×291.0	2000-01
㉖ 作品集「視覚の地平 visionary ∞ scape」ポスター	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.8×73.0	2004
㉗ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.8×73.0	2004
㉘ VISIONARY GENE+m -a	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005
㉙ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005
㉚ //	勝井三雄	1931-	紙・シルクスクリーン印刷	103.2×73.0	2005
見つめる					
㉛ あるく 私の生活基本形 千秋・長岡 2009年6月20日～28日	秋山さやか	1971-	様々な種類の糸、千秋と長岡市内で見つけた様々な素材、ポリエステル布	60.0×65.0	2009
㉜ 生命の讃歌-鹿（白月）	中野嘉之	1946-	紙、岩絵具	220.0×110.0	1998
㉝ 生命の讃歌-鹿（黒月）	中野嘉之	1946-	紙、岩絵具	220.0×110.0	1998
㉞ 降	竹内浩一	1941-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×180.0	2000
㉟ 罌粟花（春）	林潤一	1943-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×130.0	1998
㊱ 山百合（夏）	林潤一	1943-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	230.0×130.0	1998
㊲ 牡丹図	渡辺信喜	1941-	紙、岩絵具、胡粉、銀泥、箔	168.0×370.0	1989
㊳ 山水-くするる2	伊藤彬	1940-	紙、墨、木炭	182.0×546.0	1997
㊴ Life 6点	永井一正	1929-	紙・シルクスクリーン印刷	103.0×72.7	1999
㊵ 空との距離 II	日高理恵子	1958-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、胡粉	240.0×240.0	2002
㊶ 道二題	村田茂樹	1946-	紙、岩絵具、水干絵具、墨、箔	227.3×162.1	1991
㊷ 瀬	箱崎睦昌	1946-	紙、岩絵具、墨、箔	182.0×380.0	1999
㊸ 宵の星	大野俊明	1948-	紙、岩絵具、水干絵具、墨	162.0×388.0	1989
㊹ 阿吽	坂爪勝幸	1947-	陶・焼き締め	各34.0×44.0×96.5	1994
考える					
㊺ 住宅メーカーのデザイン思想 「ミサワデザイン 2009 ハウハウス」ポスター -1	浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊻ //	-2 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊼ //	-3 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊽ //	-4 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊾ //	-5 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊿ //	-6 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	19.0×73.0	2009
㊽ //	-7 浅葉克己	1940-	紙・デジタルプリント	145.6×103.0	2009
㊿ プッシュ大統領に話しかけるキリスト	福田美蘭	1963-	板、アクリル絵具	130.3×162.0	2002
㊽ ぶれちゃった写真（アムステルダム国立美術館）	福田美蘭	1963-	板、アクリル絵具	181.8×227.2	2003
㊾ Death of Father	森村泰昌	1951-	カラー写真に透明メディウム	266.6×346.0	1991
㊿ 21_21 DESIGN SIGHT 企画展「water」ポスター -1	佐藤卓	1955-	紙・デジタルプリント	145.5×103.0	2007
㊽ //	-2 佐藤卓	1955-	紙・デジタルプリント	145.5×103.0	2007
㊿ HIROSHIMA APPEALS 2013 ポスター	葛西薫	1949-	紙・オフセット印刷	102.0×72.0	2013
㊽ //	ポスター原画 葛西薫	1949-	紙・コラージュ	72.1×42.0	2013



美術家の青春 ここから、絵が生まれる

+ 特集展示 色と線・難波田史男

【趣旨】

所蔵品から美術家が10代から30代の若い時期に制作した作品を選び、西洋美術、日本画、洋画、版画、写真など様々なジャンルの所蔵品を紹介した。特集展示として、32歳で亡くなった難波田史男の作品48点を出品し、その画業を概観した。また、牛腸茂雄31歳の作品《SELF AND OTHERS》の全点を展示した。

【総括】

●評価すべき点

- ・様々なジャンルの所蔵品を紹介するよい機会となった。
- ・キャプションには制作時年齢を記載し、解説文には美術家にとってどのような時期に制作されたかの説明を盛り込み、展覧会と作品に対する理解を深める一助とした。

●検討課題

- ・広報費用がなく周知が行き届かなかったこともあり、入場者数が伸びなかった。
- ・テーマ展の内容を効果的に伝えるための工夫がより必要だった。

【開催日・その他】

=2016年10月27日(木)~12月4日(日)(36日間)=

主 催：新潟県立万代島美術館

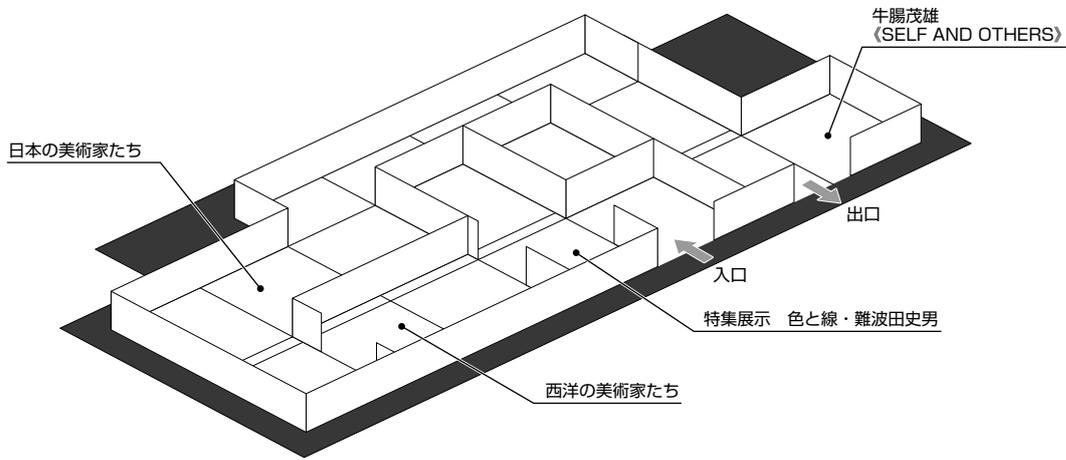
後 援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟日報社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞新潟支局、産経新聞新潟支局、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、N S T、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぼかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

観覧料：一般……………310円(250円)

大学・高校生……………150円(120円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金



【関連行事】

・美術鑑賞講座

「青春時代のデューラー」
10月30日(日) 14:00～

NICOプラザ会議室
講師：桐原浩（当館業務課長）
参加者数：11名

「横山操と加山又造 — 戦後日本画の青春時代」
11月27日(日) 14:00～

NICOプラザ会議室
講師：池田珠緒（当館主任学芸員）
参加者数：21名

「相澤コレクションの難波田龍起・史男」
12月4日(日) 14:00～

NICOプラザ会議室
講師：長嶋圭哉（新潟県教育庁文化行政課主任学芸員）
参加者数：14名

・学芸員による作品解説会

11月6日(日)／13日(日)／20日(日) 14:00～
展示室
参加者数：8名／8名／10名

【関連記事】

●テレビ

11月13日(日) BSN
県政ナビ「美術館へ行こう！」／池田珠緒

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	952
無料観覧者数	招待	333
	無料	98
	免除	166
総観覧者数		1,549
有料率 (%)		61.5

担当 池田珠緒

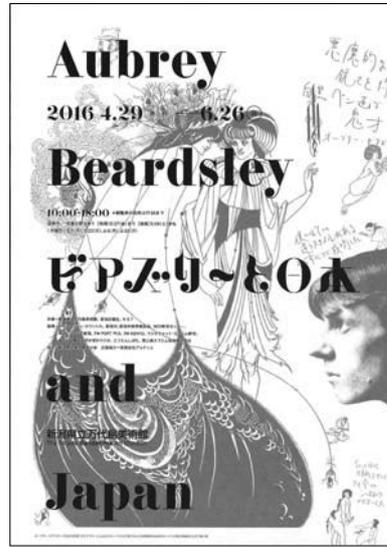
【出品リスト】

※制作時年齢は生年を0歳として計算
(制作時が誕生日以前であることが判明している場合は、その時点での年齢)

作品名	作家名	生没年	制作年	制作時年齢	技法または素材	寸法 (縦cm×横cm)
特集展示 色と線 難波田史男 (1941-1974)						
1	鳥		1961年	20歳	水彩、紙	35.6×24.1
2	デッサン		1961年	20歳	水彩、紙	16.6×203.4
3	無題		1962年	21歳	水彩、紙	38.0×53.3
4	無題		1962年	21歳	水彩、紙	38.0×53.5
5	無題		1962年	21歳	水彩、紙	30.0×46.6
6	デッサン		1963年	22歳	水彩、紙	27.0×38.2
7	デッサン		1963年	22歳	インク、紙	27.0×38.2
8	デッサン		1963年	22歳	インク、紙	26.7×37.7
9	彩色画		1965年	24歳	水彩、紙	19.5×35.0
10	彩色画 いてまいます		1965年	24歳	水彩、紙	18.5×31.7
11	彩色画		1965年	24歳	水彩、紙	23.6×35.3
12	デッサン		1966年	25歳	水彩、紙	25.5×35.3
13	デッサン		1966年	25歳	水彩、紙	19.5×30.8
14	夏の川とボート		1967年	26歳	水彩、紙	20.0×31.5
15	海底電線		1967年	26歳	水彩、紙	20.5×31.5
16	デッサン		1967年	26歳	水彩、紙	25.0×37.0
17	覚書		1967年	26歳	水彩、紙	21.0×28.0
18	少年と海の神話		1967年	26歳	水彩、紙	20.3×31.5
19	無題		1967年	26歳	水彩、紙	23.5×35.0
20	哲学者		1967年	26歳	インク、紙	20.3×31.5
21	無題		1968年	27歳	水彩、紙	20.7×31.8
22	デッサン		1968年	27歳	水彩、紙	20.5×31.5
23	無題		1968年	27歳	水彩、紙	21.3×32.3
24	桜の散る頃	難波田史男	1968年	27歳	水彩、紙	23.0×30.5
25	花の精のおどり	1941-1974	1968年	27歳	水彩、紙	21.4×28.4
26	デッサン		1968年	27歳	インク、紙	20.3×31.2
27	デッサン		1968年	27歳	インク、紙	19.0×30.0
28	無題		1969年	28歳	水彩、紙	21.0×32.0
29	彩色画		1969年	28歳	水彩、紙	32.2×20.4
30	無題		1970年	29歳	水彩、紙	20.3×31.3
31	白い太陽		1970年	29歳	水彩、紙	31.3×20.3
32	湖底		1970年	29歳	水彩、紙	20.5×31.7
33	彩色画		1970年	29歳	水彩、紙	19.5×30.5
34	無題		1971年	30歳	水彩、紙	20.4×31.5
35	無題		1971年	30歳	水彩、紙	32.8×48.6
36	無題		1971年	30歳	水彩、紙	31.8×47.8
37	無題		1971年	30歳	水彩、紙	20.8×24.7
38	詩人の空		1971年	30歳	水彩、紙	19.7×28.7
39	無題		1971年	30歳	水彩、紙	23.8×30.5
40	無題		1972年	31歳	水彩、紙	20.5×31.7
41	無題		1972年	31歳	水彩、紙	20.3×31.5
42	無題		1972年	31歳	水彩、紙	20.3×32.0
43	彩色画		1973年	32歳	水彩、紙	20.4×31.5
44	山なみ		1973年	32歳	水彩、紙	20.5×31.7
45	海の朝		1973年	32歳	水彩、紙	20.0×31.6
46	白い月		1973年	32歳	水彩、紙	20.7×31.7
47	無題		1974年	32歳	水彩、紙	20.5×31.6
48	無題		1974年	32歳	水彩、紙	20.5×31.5

西洋の美術家たち							
49	黙示録 扉絵 聖母子を仰ぎ見るヨハネ					木版、紙	32.0×18.2
50	黙示録 初版扉絵 ヨハネの殉教					木版、紙	39.3×28.1
51	黙示録 第1図 七つの燭台を見るヨハネ					木版、紙	39.5×28.2
52	黙示録 第2図 神の玉座を囲む二十四人の長老					木版、紙	39.2×28.0
53	黙示録 第3図 四人の騎者					木版、紙	39.6×28.1
54	黙示録 第4図 第五および第六の封印を切る					木版、紙	39.3×28.1
55	黙示録 第5図 風を止める四位の天使					木版、紙	39.5×28.3
56	黙示録 第6図 喇叭を吹く七位の天使	アルブレヒト・デューラー	1471-1528	1498年初版 (1511年の版)	27歳 (初版時)	木版、紙	39.4×28.1
57	黙示録 第7図 エウフラテス河畔の四位の天使					木版、紙	39.5×28.3
58	黙示録 第8図 書物を食べるヨハネ					木版、紙	39.3×28.3
59	黙示録 第9図 太陽の女性と七頭の竜					木版、紙	39.2×27.9
60	黙示録 第10図 聖ミカエル、竜を倒す					木版、紙	39.2×28.2
61	黙示録 第11図 海から上る獣と仔羊の角をもつ獣					木版、紙	39.3×28.1
62	黙示録 第12図 仔羊の前の選ばれしものたち					木版、紙	39.3×28.0
63	黙示録 第13図 バビロンの娼婦					木版、紙	39.4×28.0
64	黙示録 第14図 深淵の鍵をもつ天使と新しきエルサレム					木版、紙	39.4×28.3
65	アリス・グレイの肖像	ジョン・エヴァレット・ミレイ	1829-1896	1859年	30歳	油彩、板	22.5×17.5
66	青い肩かけのブルターニュ婦人			1887年	19歳	水彩、紙	27.3×21.5
67	サン・ブリアクの収穫	エミール・ベルナル	1868-1941	1887年	19歳	水彩、紙	20.5×26.5
68	レゼビアン-サン・ブリアクの小湾			1888年	20歳	水彩、紙	21.0×27.0
69	アヴェン川の大きな赤い帆			1889年	21歳	水彩、紙	31.0×19.5
70	夕映えの中のマルト	モーリス・ドニ	1870-1943	1892年	22歳	油彩、カンヴァス	130.0×71.0
71	小さな浴女たち すわる二人の浴女					木版、紙	4.3×5.8
72	小さな浴女たち 水に入る					木版、紙	4.9×6.6
73	小さな浴女たち 草の上に横たわる浴女たち					木版、紙	4.0×6.6
74	小さな浴女たち 水から上がる					木版、紙	5.6×6.6
75	小さな浴女たち 下着姿の女の子ふたり					木版、紙	4.4×5.8
76	小さな浴女たち 下着を脱ぐ女の子	フェリクス・ドゥアール・ヴァロトン	1865-1925	1893年	28歳	木版、紙	4.4×5.8
77	小さな浴女たち 太陽のもとで遊ぶ					木版、紙	4.4×5.8
78	小さな浴女たち 風に驚く浴女たち					木版、紙	4.5×6.0
79	小さな浴女たち 子供のいる浴女					木版、紙	4.4×5.8
80	小さな浴女たち 白鳥と浴女					木版、紙	4.5×6.0
81	怠惰					木版、紙	20.1×24.0
82	時の仙境シリーズ・薄暮	アンリ・リヴィエール	1864-1951	1901年	37歳	カラー・リトグラフ	60.0×24.0
83	時の仙境シリーズ・満月			1901年	37歳	カラー・リトグラフ	60.0×24.0
日本の美術家たち							
84	仙台の桜	小山正太郎	1857-1916	1881年	24歳	油彩、カンヴァス	39.5×60.8
85	熊野風景1			1905年頃	18歳	墨、紙	44.8×27.8
86	熊野風景2			1905年頃	18歳	墨、紙	44.8×27.8
87	熊野風景3			1905年頃	18歳	墨、紙	44.8×27.4
88	熊野風景4	土田麦僊	1887-1936	1905年頃	18歳	墨、紙	44.8×27.8
89	熊野風景5			1905年頃	18歳	墨、紙	44.8×27.4
90	舞妓素描			1919年	32歳	墨、顔料、紙	44.5×32.0
91	巴里の女スケッチ			1922-23年	35-36歳	鉛筆、紙	48.0×30.5
92	浦津	速水御舟	1894-1935	1911年	17歳	絹本彩色	101.6×41.2
93	異端 下絵	小林古径	1883-1957	1914年頃	31歳	墨、鉛筆、コンテ、顔料、紙	120.0×230.0
94	ドント・オープン	宮芳平	1893-1971	大正中期	20代中頃	パステル、紙	134.8×171.8 二曲一隻屏風
95	裸婦	村山槐多	1896-1919	1916年	20歳	木炭、紙	57.5×38.7
96	洲崎義郎氏の肖像	中村彝	1887-1924	1919年	32歳	油彩、カンヴァス	83.0×64.0
97	少女図	奥村土牛	1889-1990	1926年	37歳	絹本彩色	58.3×55.2
98	広告塔	佐伯祐三	1898-1928	1927年	29歳	油彩、カンヴァス	80.5×53.0
99	バンテオン寺院			1928年	30歳	油彩、カンヴァス	65.5×59.5
100	豊饒群雀	郷倉千靱	1892-1975	1928年	36歳	絹本彩色	各173.0×298.0 四曲一雙屏風
101	瓦焼場風景	佐藤哲三	1910-1954	1928年	18歳	油彩、カンヴァス	38.0×45.5
102	郵便脚夫宮下君			1931年	21歳	油彩、カンヴァス	87.8×42.2
103	月と駱駝	加山又造	1927-2004	1957年	30歳	紙本彩色	131.5×163.0
104	母子	横山操	1920-1973	1958年	38歳	岩絵具、布	181.5×182.0
牛腸茂雄 (1946-1983) 《SELF AND OTHERS》							
105-165	SELF AND OTHERS (全61点)	牛腸茂雄	1946-1983	1977年	31歳	モノクローム・プリント	各24.5×36.2

企 画 展



ビアズリーと日本

【趣 旨】

19世紀末のイギリスで脚光を浴びた夭折の鬼才オーブリー・ビアズリー [1872-1898] は、日本美術、特に浮世絵からも学び、6年に満たない創作期間に数々の傑作を残した。中でもオスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』の挿画は有名である。彼の作品の影響は遠く日本にも伝わり、大正時代の美術にはその名残を感じさせる作品が多くある。本展では、ビアズリーを軸に、英国と日本を行き交った美の交流を約270点の作品により概観する。

【総 括】

●評価すべき点

- ・巡回展ではあったが、新潟独自に県出身作家落谷虹児の貴重書を県立図書館から拝借し展示に加えたほか、館蔵書籍も追加し、内容を補強できた。
- ・巡回にはなかった作品解説を適宜加えた。「学芸員からのひとこと」と題してデザインも工夫し、内容もわかり易くしたことで、来館者に好評だった。
- ・展示作品は小さく、描写の細かいものが多く、またケース内展示が殆どだったが、来館者がより近づいて見られるように展示に工夫を凝らした。

●検討課題

- ・巡回展参加段階では、関与の仕方が見極められず、遠慮してしまったことが悔やまれる。参加館担当での意見交換や共同研究を深化できればよかった。
- ・特に日本へのビアズリー影響圏の問題を、現代まで伸ばして、漫画・イラストやアニメまで拡張して構成できたならば、新たな問題提起として、現在の漫画・アニメファンにも訴求でき、新たな観客層の開拓にもつながった可能性がある。

・美術ファンには知られているとはいえ、「ビアズリー」の名前を浸透させ、動員をはかるためには、知名度のある漫画家の講演会に加えて、その他のイベントも工夫する余地があったが、準備できなかった。

【開催日・その他】

=2016年4月29日(金・祝)~6月26日(日)(55日間)=

休館日：5/9(月)、5/23(月)、6/6(月)、6/20(月)

主 催：新潟県立万代島美術館、新潟日报社、N S T

後 援：プリティッシュ・カウンシル、新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ばかぼかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協 力：新潟県立美術館友の会

企画協力：有限会社アルティス

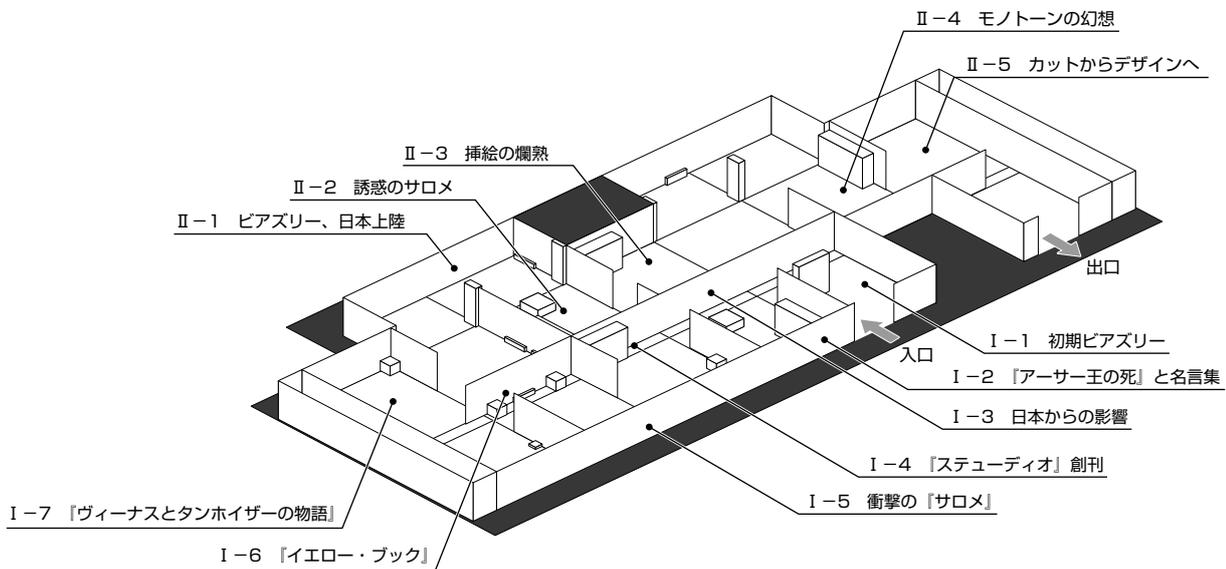
観覧料：一般……………1,000円(800円)<800円>

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は20名以上の団体料金

※< >は前売券料金



【関連行事】

・講演会①

「衝撃のサロメ」

5月14日(土)14:00~15:30 NICOプラザ会議室

講師：河村錠一郎氏（一橋大学大学院 言語社会研究科
名誉教授）

参加者数：23名

・講演会②

「ビアズリーの魅力を語る」

5月28日(土)14:00~15:00 NICOプラザ会議室

講師：魔夜峰央氏（漫画家）

参加者数：120名/サイン会：参加者数50名（限定）

・作品解説会

5月8日(日)/5月22日(日)/6月5日(日)/6月19日(日) 展示室

参加者数：4回計54名



【図録】

仕様：207×147mm 288頁

監修：河村錠一郎

執筆・編集：河村錠一郎、スティーヴン・キャロウェイ、伊藤伸子、占部敏子、桐原浩

編集協力：見原由紀子

表紙デザイン：斉藤紀久美

制作：印象社

発行：有限会社アルティス

内容：会場会期

ごあいさつ

謝辞

目次

論文「オーブリー・ビアズリー — 新進イラストレーター」

スティーヴン・キャロウェイ

論文「ビアズリーとリケッツ — イギリスのジャポニスム」

河村錠一郎

図版

第I章

セクション1 初期ビアズリー

セクション2 『アーサー王の死』と『名言集』

— 見出された才能

セクション3 日本からの影響

セクション4 『ステューディオ』創刊

— ビアズリーのマスコミ・デビュー

セクション5 衝撃の『サロメ』

セクション6 『イエロー・ブック』

— ビアズリー時代の光芒

セクション7 『ヴィーナスとタンホイザーの物語』

— 早すぎた死

第II章

セクション1 ビアズリー、日本上陸

セクション2 誘惑のサロメ

セクション3 挿画の爛熟

セクション4 モノトーンの幻想

セクション5 カットからデザインへ

カタログ

出品作家略歴 占部敏子編

関連年表 桐原浩編

キャロウェイ論文英語原文



【関連記事】

●新聞

新潟日報 (4/29、5/21(タ))

朝日新聞 (5/12、6/3)

読売新聞 (5/17)

〈連載〉

新潟日報文化欄「ビアズリーと日本」展

「〈上〉若き落谷虹児に影響 緻密さ鋭敏な感性で同調」／桐原浩 6/8

「〈下〉水島爾保布に類似性 イメージ浸透 本人は困惑」／桐原浩 6/9

●雑誌（記事広告）

『月刊キャレル』4月号 記事広告見開き2ページ

『月刊キャレル』5月号 記事広告1ページ

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,648
	前売	502
無料観覧者数	招待	983
	無料	285
	免除	348
総観覧者数		5,766
有料率 (%)		72.0

担当 桐原浩

【出品リスト】

第1章 セクション1 初期ビアズリー							
カタログNo.	作家名	作品タイトル	制作年	技法(材質)	所蔵者	前期	後期
1	フレデリック・ヘンリー・エヴァンス	オーブリー・ピアズリーの肖像	1894年頃	プラチナ・プリント	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
2	フレデリック・ヘンリー・エヴァンス	オーブリー・ピアズリーの肖像	1894年	フォトグラヴェール	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
3	オーブリー・ピアズリー	バガニーニ	1888年(原画) 1925年(出版)		K.コレクション	○	○
4	オーブリー・ピアズリー	ジェームズ・マックニール・ホイッスラーのサインの諷刺画	1893年頃	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
5	オーブリー・ピアズリー	“信仰の擁護者(英国国王の称号)ドガ作”	1893年頃	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
6	オーブリー・ピアズリー	マスター・レオ	1893年	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
7	オーブリー・ピアズリー	マーゼリー	1893年	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
8	オーブリー・ピアズリー	“国王は、チェス盤の上を歩く(行動を起こす)”	1893年	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
9	オーブリー・ピアズリー	C・V・スタンフォードの肖像スケッチ	1893年	ペン、墨、グラフィット	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
10	オーブリー・ピアズリー	詩人の残骸	1892年頃	墨、ウォッシュ	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○

第1章 セクション2 『アーサー王の死』と『名言集』 -見出された才能							
11-22	オーブリー・ピアズリー	サー・トマス・マロリー著『アーサー王の死』(全12冊)	1893-94年		うつのみや妖精ミュージアム	○	○
23-24	オーブリー・ピアズリー	サー・トマス・マロリー著『アーサー王の死』(全2巻)	1893-94年		京都女子大学図書館/栃木県立美術館/K.コレクション	○	○
25	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(『アーサー王の死』第1巻序文)	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
26	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(『アーサー王の死』第4編第10章)	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
27	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(『アーサー王の死』第7編第19章)	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
28	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(『アーサー王の死』第13編第17章)	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
29	オーブリー・ピアズリー	グィネヴィア王妃、五月祭に馬を駆る(左) (『アーサー王の死』第19編第1章)	1893-94年頃	ペン、墨	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
30	オーブリー・ピアズリー	グィネヴィア王妃、五月祭に馬を駆る(右) (『アーサー王の死』第19編第1章)	1893-94年頃	ペン、墨	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
31	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(『アーサー王の死』第20編第12章)	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
32	オーブリー・ピアズリー	章頭飾り原画(ランスロット脚、海を渡る) 『アーサー王の死』第20編第18章	1893-94年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
33	オーブリー・ピアズリー	ウォルター・ジェロルド編『シドニー・スミス&R・プリンズリー・シェリダン名言集』	1893年		K.コレクション	○	○
34	オーブリー・ピアズリー	ウォルター・ジェロルド編『チャールズ・ラム&ダグラス・ジェロルド名言集』	1893年		K.コレクション	○	○
35	オーブリー・ピアズリー	ウォルター・ジェロルド編『サミュエル・フット&セオドア・フック名言集』	1894年		K.コレクション	○	○
36	オーブリー・ピアズリー	カット原画	1893年	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
37	オーブリー・ピアズリー	カット原画	1893年	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○

第1章 セクション3 日本からの影響							
38	オーブリー・ピアズリー	マダム・シガールの誕生日	1890年代	写真製版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
39		『美術の50年 1849-1899:「アート・ジャーナル」誌からの論文・挿画選集』206頁	1900年		K.コレクション	○	○
40	葛飾北斎	『北斎漫画』十二編	1878(明治11)年 [初版:1834(天保5)年]	木版	一橋大学附属図書館	○	○
参考	葛飾北斎	『北斎漫画』	1878(明治11)年 [初版:1834(天保5)年]	木版	一橋大学附属図書館	○	○
41	オーブリー・ピアズリー	ウォルター・ジェロルド編『シドニー・スミス&R・プリンズリー・シェリダン名言集』	1893年		個人蔵、新潟	○	○
42	クリストファー・ドレッサー	『日本-その建築、美術、工芸』	1882年		一橋大学附属図書館/K.コレクション	○	○
43	サー・エドウィン・アーノルド	『ジャポニカ』	1891年		K.コレクション	○	○
44-46	サミュエル・ビング編	『芸術の日本』全3巻(各12冊合本)	1888年から1891年		K.コレクション	○	○
47	ウォルター・クレイン	尾を広げた孔雀を表すフリーズ用壁紙	1878年(原画)	多色刷り木版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
48	ウォルター・クレイン	アーモンドの花とつばめ(フリーズ用壁紙)	1878年(原画)	多色刷り木版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
49	トーマス・W・カトラー	『日本の装飾図案入門』	1880年		一橋大学附属図書館	○	○
50		『バタフライ』7号	1899年		K.コレクション	○	○
51	チャールズ・リケッツ	喜歌劇『ミカド』のための3着の衣装デザイン	1926年	水彩	ヴィクトリア&アルバート美術館	○	○
52	歌川芳藤	五拾三次之内・猫之怪	1847-52(弘化4-嘉永5)年	木版(大判錦絵)	ヘリング・アン氏	○	○
53	溪斎英泉	傾城道中双媒 大磯 見立吉原 五十三對 尾張屋 糸にし	1825(文政8)年頃	木版(大判錦絵)	千葉市美術館	○	○
55		型紙(葡萄唐草文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋	武蔵大学	○	○
56		型紙(花縞文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋	武蔵大学	○	○
57		型紙(雀に葵文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋、糸	武蔵大学	○	○
58		型紙(紺型 雪輪・扇面に秋草文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋	武蔵大学	○	○
59		型紙(雪輪に梅・紅葉文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋	武蔵大学	○	○
60		型紙(草花文様)	19世紀後半から20世紀初期(幕末から明治)	紙、柿渋、糸	武蔵大学	○	○

第1章 セクション4 「ステューディオ」創刊 -ビアズリーのマスコミ・デビュー						
61	オープリー・ビアズリー	「ステューディオ」創刊号	1893年		K.コレクション/個人蔵、新潟	○ ○
62		「ステューディオ」冬号	1898 - 99年冬		K.コレクション	○ ○
63	オープリー・ビアズリー	「ステューディオ」宣伝ポスター	1895年 (印刷)	リトグラフ、凸版活字印刷、淡緑色の紙	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
64	オープリー・ビアズリー	いかに黒魔術が、魔神アソミュエルによって新参者に明かされたか (『ベル・メル・マガジン』第1巻第2号)	1893年		個人蔵、新潟	○ ○
65	オープリー・ビアズリー	ユダの接吻 (『ベル・メル・マガジン』第1巻第3号)	1893年		個人蔵、新潟	○ ○
66	オープリー・ビアズリー	ジョージ・エジャトン著『キーノーツ』(キーノーツ叢書)	1893年		京都女子大学図書館	○ ○
67	オープリー・ビアズリー	ケネス・グレアム著『異教の書』(キーノーツ叢書)の扉絵原画	1893年	墨	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
68	オープリー・ビアズリー	ヘンリー・ハーランド著『灰色の薔薇』(キーノーツ叢書)	1895年		京都女子大学図書館	○ ○
69	オープリー・ビアズリー	スタンリー・V・マカウア著『音楽の鏡』(キーノーツ叢書)	1895年		一橋大学附属図書館	○ ○
70	オープリー・ビアズリー	H・D・トレイル著『野蛮なイギリス人』	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
71	オープリー・ビアズリー	〈キーノーツ叢書〉内容見本	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
72	オープリー・ビアズリー	ジョン・デイヴィッドソン著『戯曲集』	1894年		K.コレクション	○ ○

第1章 セクション5 衝撃の「サロメ」						
73	オープリー・ビアズリー	オスカー・ワイルド著『サロメ』(英訳版)	1894年		京都女子大学図書館 / K.コレクション	○ ○
74-90	オープリー・ビアズリー	「ビアズリーによるオスカー・ワイルド著『サロメ』の挿画のためのドローイング集」	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
74	オープリー・ビアズリー	表紙デザイン	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
75	オープリー・ビアズリー	月の中の女	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
76	オープリー・ビアズリー	タイトル頁デザイン	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
77	オープリー・ビアズリー	挿画一覧表のデザイン	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
78	オープリー・ビアズリー	孔雀の裳裾	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
79	オープリー・ビアズリー	黒いケーブ	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
80	オープリー・ビアズリー	プラトニックな嘆き	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
81	オープリー・ビアズリー	ヨカネーンとサロメ	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
82	オープリー・ビアズリー	ヘロディア登場	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
83	オープリー・ビアズリー	ヘロデ王の目	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
84	オープリー・ビアズリー	ベリー・ダンス	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
85	オープリー・ビアズリー	サロメの化粧Ⅰ	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
86	オープリー・ビアズリー	サロメの化粧Ⅱ	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
87	オープリー・ビアズリー	踊り手の褒美	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
88	オープリー・ビアズリー	クライマックス	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
89	オープリー・ビアズリー	長椅子のサロメ	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○
90	オープリー・ビアズリー	章末飾り	1906年	ライン・ブロック	個人蔵、東京	○ ○

第1章 セクション6 「イエロー・ブック」 -ビアズリー時代の光芒						
91	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第1巻内容見本の表紙デザイン原画	1894年第1 四半期	ペン、墨、ウォッシュ	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
92	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第1巻	1894年		一橋大学附属図書館 / 新潟県立近代美術館	○ ○
93	オープリー・ビアズリー	ジョン・ラムステン・プロバートの蔵書票原画	1893年	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
94	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第2巻	1894年		一橋大学附属図書館 / 新潟県立近代美術館	○ ○
95	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第3巻	1894年		一橋大学附属図書館 / 新潟県立近代美術館	○ ○
96	オープリー・ビアズリー	ワーグナー崇拜者 (『イエロー・ブック』第3巻)	1890年代	写真製版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
97	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第4巻	1895年		一橋大学附属図書館 / 新潟県立近代美術館	○ ○
98	オープリー・ビアズリー	「イエロー・ブック」第5巻	1895年		一橋大学附属図書館	○ ○
103	オープリー・ビアズリー	J・トドハンター作『嘆息の喜劇』、W・B・イエーツ作『心願の国』のためのポスター	1894年	カラー・リトグラフ	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
104	オープリー・ビアズリー	《イゾルデ》(復刻)	1899年 (印刷)	ライン・ブロック、カラー・リトグラフ	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
105	オープリー・ビアズリー、J・B・クラーク、ウィリアム・ストラング	ルキアノス著『ルキアノスの本当の話』	1894年		京都女子大学図書館	○ ○
106	オープリー・ビアズリー	ふくらはぎからの誕生	1893-94年 (原画) 1906年 (出版)	ライン・ブロック	京都女子大学図書館	○ ○
107	オープリー・ビアズリー	ルキアノスの不思議な生き物	1893-94年 (原画) 1906年 (出版)	ライン・ブロック	京都女子大学図書館	○ ○
108	オープリー・ビアズリー	「モルグ街の殺人」	1894年頃	ライン・ブロック	K.コレクション	○ ○
109	オープリー・ビアズリー	「黒猫」	1894年頃	ライン・ブロック	K.コレクション	○ ○
110	オープリー・ビアズリー	「アシャー家の崩壊」	1894年頃	ライン・ブロック	K.コレクション	○ ○
111	オープリー・ビアズリー	「赤死病の仮面」	1894年頃	ライン・ブロック	K.コレクション	○ ○

第1章 セクション7 「ヴィーナスとタンホイザーの物語」 -早すぎた死						
112	オーブリー・ビアズリー	愛の鏡	1895年	グラファイトによる下絵の上にペン、インク、ウォッシュ	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
113	オーブリー・ビアズリー	ジャスティン・ハントリー・マッカーシーの詩「少し離れて」の挿画	1895年		K.コレクション	○ ○
114	オーブリー・ビアズリー	W・ルーディング著『悪しき母性』	1896年		K.コレクション	○ ○
115	オーブリー・ビアズリー	書斎で書物を選ぶピエロ	1896年	写真製版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
116	オーブリー・ビアズリー	〈ピエロ・ライブラリー〉のためのプリント	1896年	黄褐色の製本用クロスに暗緑色のインクで印刷	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
117	オーブリー・ビアズリー	H・デ・ヴィア・スタックプール著『ピエロ!』	1896年		K.コレクション	○ ○
118	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』創刊号	1896年		京都女子大学図書館 / K.コレクション / 個人蔵、新潟	○ ○
119	オーブリー・ビアズリー	大修道院長	1890年代	写真製版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
120	オーブリー・ビアズリー	果物を運ぶ召使い	1890年代	写真製版	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
121	オーブリー・ビアズリー	オーブリー・ビアズリー著・挿画『丘の麓で、その他 韻文・散文集』	1904年		K.コレクション	○ ○
122	オーブリー・ビアズリー	オーブリー・ビアズリー著・挿画『丘の麓で、その他 韻文・散文集』特装版	1904年		京都女子大学図書館	○ ○
123	オーブリー・ビアズリー	大判クリスマス・カード (『サヴォイ』創刊号付録)	1896年	ライン・ブロック	K.コレクション	○ ○
124	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第2号	1896年		京都女子大学図書館 / K.コレクション / 個人蔵、新潟	○ ○
125	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第3号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
126	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第4号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
127	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第5号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
128	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第6号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
129	オーブリー・ビアズリー	『ラインの黄金』第4図 (『サヴォイ』第6号表紙原画)	1896年	墨	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
130	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第7号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
131	オーブリー・ビアズリー	『サヴォイ』第8号	1896年		京都女子大学図書館	○ ○
132	オーブリー・ビアズリー	アレクサンダー・ポー著『髪盗み』	1896年		京都女子大学図書館 / K.コレクション	○ ○
133	オーブリー・ビアズリー	『オーブリー・ビアズリー後期作品集』第96図 (恋文)	1901年 (印刷)	ライン・ブロック	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
134	オーブリー・ビアズリー	オーブリー・ビアズリー著『ヴィーナスとタンホイザーの物語—ロマンティック小説』	1907年		京都女子大学図書館	○ ○
135	オーブリー・ビアズリー	『ヴィーナスとタンホイザーの物語—ロマンティック小説』口絵・タイトル頁 (未使用)	1895年 (原画)	ライン・ブロック、凸版活字印刷	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
136	オーブリー・ビアズリー	アリ・ババ	1897年 (原画)	ライン・ブロック	ヴィクトリア&アルバート美術館	○ ○
137	オーブリー・ビアズリー	女を鞭打つユウエナリス	1896年 (原画) 1906年 (出版)	ライン・ブロック	京都女子大学図書館	○ ○
138	オーブリー・ビアズリー	白鳥の踊りを踊るバシラス (パテュルルス)	1896年 (原画) 1906年 (出版)	ライン・ブロック	京都女子大学図書館	○ ○
139	オーブリー・ビアズリー	ポーズを取るバシラス (パテュルルス)	1896年 (原画) 1906年 (出版)	ライン・ブロック	京都女子大学図書館	○ ○
140	オーブリー・ビアズリー	アーネスト・ダウソン著『たまゆらのピエロ』	1897年		京都女子大学図書館	○ ○
141	オーブリー・ビアズリー	『オーブリー・ビアズリー 50葉の素描集』	1897年		京都女子大学図書館	○ ○
142-147	オーブリー・ビアズリー	『テオフィル・ゴージェ著恋愛小説「モーバン嬢」のための6点の素描集』	1897年 (原画) 1898年 (出版)		京都女子大学図書館	○ ○
142	オーブリー・ビアズリー	口絵：モーバン嬢	1898		京都女子大学図書館	○ ○
143	オーブリー・ビアズリー	ダルペール			京都女子大学図書館	○ ○
144	オーブリー・ビアズリー	理想の女性を求めるダルペール			京都女子大学図書館	○ ○
145	オーブリー・ビアズリー	鏡台の前の婦人			京都女子大学図書館	○ ○
146	オーブリー・ビアズリー	薔薇を持った婦人			京都女子大学図書館	○ ○
147	オーブリー・ビアズリー	猿を連れた婦人			京都女子大学図書館	○ ○
148	オーブリー・ビアズリー	ベン・ジョンソン著『ヴォルポーネあるいは狐』	1898年		京都女子大学図書館 / K.コレクション	○ ○
149	オーブリー・ビアズリー	『オーブリー・ビアズリー 50葉の素描集 II』	1899年		京都女子大学図書館	○ ○
参考	オーブリー・ビアズリー	エミール・ゾラ (『1893年の絵画』)	1893年 (出版)		個人蔵、新潟	○ ○
参考	オーブリー・ビアズリー	マダム・レジャーヌ (『1894年の絵画』)	1894年 (出版)		個人蔵、新潟	○ ○
参考	オーブリー・ビアズリー	マダム・レジャーヌ (『イラストレイテッド・アメリカン』表紙)	1894年 (出版)		個人蔵、新潟	○ ○
参考	フランク・ハイゼンブラグ	素描 (『チャップ=ブック』1895年1月15日号)	1895年 (出版)		個人蔵、新潟	○ ○
参考		『ステューディオ』第13巻第62号 ビアズリーの追悼記事	1898年		個人蔵、新潟	○ ○
参考	オーブリー・ビアズリー	スカーレット・バストラル	1898年 (出版)		個人蔵、新潟	○ ○
参考		『アンウィンのチャップ=ブック 1899-1900』	1900年		個人蔵、新潟	○ ○
参考		『オーブリー・ビアズリーとイエロー=ブック』	1903年		個人蔵、新潟	○ ○

第II章 セクション1 ピアズリー、日本上陸					
150		『白樺』第1巻第3号	1910年		我孫子市白樺文学館 ○ ○
151		『白樺』第2巻第9号	1911年		我孫子市白樺文学館 ○ ○
152		『假面』第2巻第8号	1913年		横浜美術館(長谷川幹氏寄贈) ○ 復刻本
153		『學鑑』第21年第22号	1917年		個人蔵 ○ ○
154		『學鑑』第23年第8号	1919年		個人蔵 ○ ○
155		『意匠美術写真類聚 第1期第2輯 ピアズリー装画集』	1922年		個人蔵、栃木 ○ ○
156		喜多村進著『ピアズレーと其藝術』	1923年		河野哲二氏 ○ ○
157		『女性』第6巻第6号	1924年		小野高裕氏 ○ ○
158		『婦人グラフ』第1巻第2号	1924年		弥生美術館 ○ ○
159		『詩と版画』12輯	1925年		宇都宮美術館 ○ ○
160		荒川金之助訳・註、オスカー・ワイルド著『サロメ』	1928年		うつのみや妖精ミュージアム ○ ○
161		阿部謙太郎訳、オスカー・ワイルド著『サロメ：仏和対訳』	1935年		うつのみや妖精ミュージアム ○ ○
第II章 セクション2 誘惑のサロメ					
162	永瀬義郎	サロメ(『假面』第4巻第5号)	1915年		横浜美術館(長谷川幹氏寄贈) ○ 復刻本
163	山六郎	サロメ(『女性』第3巻第2号)	1923年		小野高裕氏 ○ ○
164	山六郎	益田太郎冠者著『狂戀のサロメ』挿画(『苦楽』第5巻第12号)	1926年		小野高裕氏 ○ ○
165	高島華宵	大正十年四月十九日 電氣館で見たる セタバラのサロメ	1921年?	ペン、墨	弥生美術館 ○ ○
166	高島華宵	サロメ(野口武美著『運命の指輪』挿画)	1926年		弥生美術館 ○ ○
167	高島華宵	サロメ(便箋表紙)	1920年代後半(大正末から昭和初年代)		弥生美術館 ○ ○
168	陽成二	サロメ	1928年	ブロンズ	個人蔵 ○ ○
169	陽成二	サロメ	1928年	水彩、墨	宇都宮美術館 ○ ○
170	竹中英太郎	江戸川乱歩ほか著『江川蘭子』	1931年		平野義久氏 ○ ○
171	谷中安規	舞踏	1934年	木版、裏彩色	宇都宮美術館 ○ ○
第II章 セクション3 挿画の爛熟					
172	名越国三郎	『初夏の夢』	1916年		弥生美術館 ○ ○
173-183	水島爾保布	谷崎潤一郎著『人魚の嘆き』挿画	1919年		弥生美術館 ○ ○
184	落谷虹児	『睡蓮の夢』挿画	1924年	インク	個人蔵 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『二つの幻影』	1923年		新潟県立図書館 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『睡蓮の夢』	1924年		新潟県立図書館 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『悲しき微笑』	1924年		新潟県立図書館 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『銀砂の汀』	1924年		新潟県立図書館 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『私の詩画集』	1925年		新潟県立図書館 ○ ○
特別展示	落谷虹児	『銀の吹雪』	1926年		新潟県立図書館 ○ ○
185	落谷虹児	氷柱の金魚(『主婦之友』第9巻第7号挿画)	1925年	インク、墨	一般財団法人 石川武美記念図書館 ○ ○
186	落谷虹児	氷柱の金魚(『主婦之友』第9巻第6号挿画)	1925年	インク、墨	一般財団法人 石川武美記念図書館 ○ ○
参考		『日本挿画選集』	1930年		新潟県立万代島美術館 ○ ○
188	茂田井武	ねずみとねごとこおろぎ(『月夜とめがね』挿画)	1954年	鉛筆、墨	ちひろ美術館 ○ ○
191	ウォルター・クレイン	エドモンド・スペンサー著『妖精の女王』挿画	1896年	ペン、インク、ホワイト	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
192	ウォルター・クレイン	エドモンド・スペンサー著『妖精の女王』第1巻	1894-97年		K.コレクション ○ ○
193	チャールズ・リケッツ	マイケル・ドレイトン著『ニンフィディア・ミューズの楽園』	1896年		K.コレクション ○ ○
194	チャールズ・リケッツ	L・アプレイウス著『クビドとプシュケの愛の物語』	1901年		K.コレクション ○ ○
195	シドニー・ハーバート・サイム	罪の花	1897年頃	ペン、インク	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
196	シドニー・ハーバート・サイム	かの忌まわしい洞穴の突然の発見	1901年(出版)	ペン、墨、淡彩、チャイニーズ・ホワイト	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
197	シドニー・ハーバート・サイム	いかさま野郎、あるいは、安びか物をしっぽでかき集める強奪者	1923年	墨	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
198	シドニー・ハーバート・サイム	ちょっと! (『お化け動物』のための挿絵)	1920年代	墨	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
199	ジョン・オースティン	シェイクスピア著『ハムレット - デンマークの王子』	1922年		K.コレクション ○ ○
200	アラスター	テオフィル・ゴージェ著『モバン嬢』のための挿画	1920年代	インク、彩色	ヴィクトリア&アルバート美術館 ○ ○
201	アラスター	オスカー・ワイルド著『サロメ』(仏語版)	1925年		K.コレクション ○ ○
202	アラスター	アベ・プレヴォー著『マノン・レスコー』(英訳版)	1928年		K.コレクション ○ ○
203	ハリー・クラーク	ホロフェルネスを殺すユディット	20世紀初期	墨	K.コレクション ○ ○
204	ハリー・クラーク	エドガー・アラン・ポー著『怪奇小説集』	1919年		K.コレクション ○ ○
205	ハリー・クラーク	ゲーテ著『ファウスト』	1925年		K.コレクション ○ ○
参考	ロナルド・バルフォー	オマル・ハイヤーム著『ルバイヤート』	1920年		個人蔵、新潟 ○ ○
参考	ジョン・オースティン	『小猿ほか』	1921年		個人蔵、新潟 ○ ○

第II章 セクション4 モノトーンの幻想							
208	田中恭吉	木立（仮題）	制作年不詳	ペン、黒インク	和歌山県立近代美術館	○	/
209	田中恭吉	踊り子（仮題）	制作年不詳	ペン、黒インク	和歌山県立近代美術館	/	○
210	田中恭吉	冬虫夏草	1914年	木版	宇都宮美術館	○	○
211	田中恭吉、恩地孝四郎	萩原朔太郎著『月に吠える』	1917年		うらわ美術館	○	○
212	恩地孝四郎	裸形のくるしみⅢ	1914年	木版	宇都宮美術館	○	○
213	恩地孝四郎	抒情 太陽 顔に照る	1915年	木版	宇都宮美術館	○	○
214	恩地孝四郎	抒情 苦悩のうちに光る	1915年	木版	宇都宮美術館	○	○
216	恩地孝四郎	題名不詳	1915年頃	インク	個人蔵	/	○
217	恩地孝四郎	題名不詳	制作年不詳	インク、彩色	個人蔵	○	/
218	藤森静雄	夜のピアノ	1914年	木版	宇都宮美術館	○	○
219	藤森静雄	こころのかげ	1914年	木版	宇都宮美術館	○	○
220	藤森静雄	亡びゆく肉	1915年	木版	宇都宮美術館	○	○
221	藤森静雄	すすりなくたましひ	1915年	木版	宇都宮美術館	○	○
222	長谷川潔	風（イェーツの詩に寄す）	1915年	木版	京都国立近代美術館	○	/
223	長谷川潔	トラビスト修道院礼拝堂	1915年	木版	横浜美術館	/	○
224	長谷川潔	洋人の庭	1916年	木版	京都国立近代美術館、横浜美術館	○	○
225	長谷川潔	堀口大学著『月光とピエロ』	1919年		うらわ美術館	○	○
226	長谷川潔	日夏耿之介著『轉身の頰』	1917年		うらわ美術館	○	○
227	永瀬義郎	池畔	1922年	木版	宇都宮美術館	○	○
228	橘小夢	安珍と清姫	1920年代中頃（大正末期）	ペン、墨	弥生美術館	○	○
229	橘小夢	天魔	1932年	プロセス版（印刷）	個人蔵	○	○
230	橘小夢	嫉妬	1934年	凸版画	個人蔵	○	○
233	谷中安規	画稿3	1926年頃	ペン	飯田市美術館（日夏耿之介記念館）	○	○
236-238	谷中安規	内田百閒著『お伽噺集 王様の背中』	1934年		大野隆司氏	○	○
239	武井武雄	『銅版繪本 地上の祭』	1938年	石版、エッチング	和歌山県立近代美術館	○	○
240	武井武雄	『アオイ書房十周年記念書窓版画帖十連聚 其六 宇宙説』	1942年	石版、エッチング	うらわ美術館/和歌山県立近代美術館	○	○
第II章 セクション5 カットからデザインへ							
241	山六郎	妖姫タマル（『女性』第2巻第6号）	1922年		小野高裕氏	○	○
242	山六郎	扉絵（『女性』第3巻第3号）	1923年		小野高裕氏	○	○
244	橘文二	扉絵（『女性』第5巻第1号）	1924年		小野高裕氏	○	○
245	山名文夫	扉絵（『女性』第5巻第3号）	1924年		小野高裕氏	○	○
246	山六郎	扉絵（『女性』第6巻第5号）	1924年		小野高裕氏	○	○
247	山名文夫	甲賀三郎ほか著『吉祥天女の像』挿画（『女性』第11巻第1号）	1927年		小野高裕氏	○	○
248	山六郎	田中栄三著『新劇女優浮沈録』カット（『女性』第11巻第2号）	1927年		小野高裕氏	○	○
249	山六郎	扉絵（『女性』第11巻第3号）	1927年		小野高裕氏	○	○
250	橘文二	扉絵（『苦楽』第1巻第2号）	1924年		小野高裕氏	○	○
251	岩田専太郎	山路健著『蛇責め』挿画（『苦楽』第1巻第5号）	1924年		小野高裕氏	○	○
252	岩田専太郎	東健而著『音楽の行儀作法』挿画（『苦楽』第3巻第4号）	1925年		小野高裕氏	○	○
253	山名文夫	江戸川乱歩著『闇に蠢く』挿画（『苦楽』第5巻第3号）	1926年		小野高裕氏	○	○
254	山六郎	『演劇・映画』第1巻第2号	1926年		小野高裕氏	○	○
255	山六郎	『演劇・映画』第1巻第3号	1926年		小野高裕氏	○	○
256	山六郎	カット原画（『女性』第11巻第2号掲載）	1927年	インク	西村美香氏	○	○
257	山名文夫	扉絵原画（『女性』第9巻第2号掲載）	1926年	墨	資生堂企業資料館	○	/
258	山名文夫	扉絵原画（『女性』第10巻第3号未使用原画）	1926年	墨	資生堂企業資料館	/	○
260	山名文夫	扉絵（『女性』第12巻第4号）	1927年		資生堂企業資料館	○	○
263	山六郎、山名文夫	『女性のカット』	1928年		個人蔵、栃木/小野高裕氏	○	○
264	山六郎、山名文夫	里見淳著『四葉の首飾』	1923年		小野高裕氏	○	○
265	山六郎	吉井勇著『夜の心』	1924年		小野高裕氏	○	○
266	山六郎	鈴木泉三郎著『鈴木泉三郎戯曲全集』	1925年		小野高裕氏	○	○
267	山六郎	里見淳著『今年竹』	1927年		小野高裕氏	○	○
268	内藤良治	カット原画	制作年不詳	ペン、墨	弥生美術館	○	○
269	内藤良治	カット原画	制作年不詳	ペン、墨	弥生美術館	○	○
270	内藤良治	カット原画	制作年不詳	ペン、墨	弥生美術館	○	○
271	内藤良治	カット原画	制作年不詳	ペン、墨	弥生美術館	○	○
272	小村雪岱	資生堂『銀座』	1921年		資生堂企業資料館	○	○
273	小村雪岱	資生堂『化粧』	1922年		資生堂企業資料館	○	○
274	山名文夫、前田貢、井深徹	資生堂『粧ひ』	1932年		資生堂企業資料館	○	○
275	矢部季	三須裕著『新しい束髪結び方』表紙・裏表紙	1925年		資生堂企業資料館	○	○
276	矢部季	資生堂石鹸	1925年		資生堂企業資料館	○	○
277	矢部季	資生堂包装紙	1925年		資生堂企業資料館	○	○
278-282	小林かいち	彼女の青春（4点組+封筒）	1925-26年頃	木版	個人蔵	○	○
283-287	小林かいち	君待つ宵（4点組+封筒）	1925-26年頃	木版	個人蔵	○	○
288-292	小林かいち	旅愁（4点組+封筒）	1920年代後半（大正末期から昭和初期）	木版	個人蔵	○	○



スタジオジブリ・レイアウト展

【趣旨】

スタジオジブリの「レイアウト」は、一枚の紙にそのカットで表現されるすべてが描かれた映画の設計図にあたるもの。スタジオジブリ・三鷹の森ジブリ美術館全面協力のもと「風の谷のナウシカ」から「思い出のマーニー」まで、宮崎監督直筆のレイアウトを中心に高畑・宮崎監督がジブリ以前に手掛けた作品も含め、およそ1,400点のレイアウトを公開した。ジブリ作品の魅力を支える根幹ともいえる、とっておきの“秘密”にふれる展覧会。

【総括】

- 評価すべき点
 - ・巡回展の16会場目となる中では最多となる約1,400点の作品を展示し、最も充実した内容にすることができた。
 - ・館の内外にフォトロケーションを設置し、娯楽的要素も高められた。
- 検討課題
 - ・直近に近代美術館で「ジブリの大博覧会」が開催されたことを最大要因として、入館者数が目標に大きく届かなかった。開催日程をはじめとする企画元との調整に課題を残した。

【開催日・その他】

=2016年7月16日(土)～10月10日(月・祝)(84日間)=

主催：新潟県立万代島美術館、TeNYテレビ新潟、スタジオジブリ・レイアウト展新潟展実行委員会

企画制作協力：スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館

協力：エプソン販売、ウォルト・ディズニー・スタジオ・ジャパン

後援：新潟市、新潟市教育委員会、新潟県小学校長会・中学校長会・特別支援学校長会、新潟県高等学校長協会、読売新聞新潟支局、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ほかほかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

協賛：スタジオアリス、JVIS

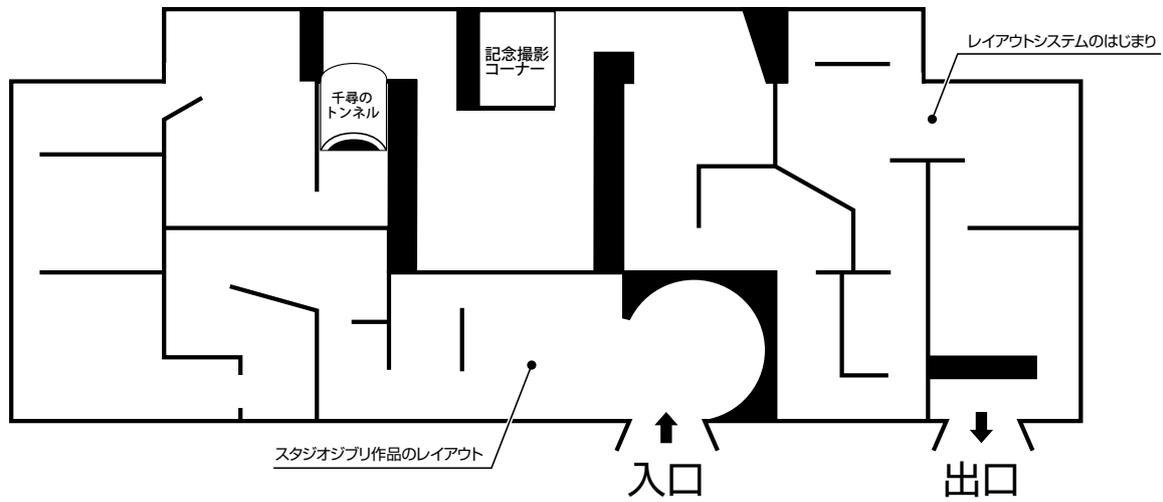
観覧料：一般……………1,200円(1,000円)〈1,000円〉

大学・高校生……………1,000円(800円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売券料金



【関連行事】

・ギャラリートーク

7月16日(土) 11:00～ 展示室

講師：田中千義氏（スタジオジブリ）、大平真理子氏
（TeNYアナウンサー）

参加者数：25名

9月24日(土) 14:00～ 展示室

講師：小池利春氏（新潟市マンガ・アニメ情報館副館長）、
大平真理子氏（TeNYアナウンサー）

参加者数：20名

・ミュージアム・コンサート

9月10日(土) 11:30～12:00 ロビー

出演：新潟市ジュニア合唱団

参加者数：120名

・カオナシがやって来る！（カオナシとの撮影会）

8月14日(日)／8月21日(土)／9月11日(日)／9月18日(日)
／10月2日(日)

各回11:00～／13:00～／15:00～

ロビー

参加者数：368名／347名／337名／530名／397名



【図録】

仕様：A4判変形 460頁（12頁の補遺あり）

編集：株式会社スタジオジブリ

発行：日本テレビ放送網株式会社

デザイン：彦根大助

編集担当：齊藤睦志、筒井亮子

編集協力：井筒理枝子、及川静

印刷・製本：図書印刷株式会社

内容：はじめに

レイアウトはアニメーション映画制作のキイ・ポイント／高畑勲

レイアウト変遷史／大塚康夫

映画『ゲド戦記』を制作しながら学んだ、絵コンテと

レイアウトの重要性／宮崎吾郎

ジブリアニメの二つの遠近法／藤森照信

24分の1コマの核／行定勲

動画の卵／山口晃

宮崎駿のレイアウトと『アルプスの少女ハイジ』の革命／小黒祐一郎

展示物「レイアウト」について／用語解説

イントロダクション

第1部 スタジオジブリ作品のレイアウト

第2部 「レイアウトシステム」のはじまり

風立ちぬ、かぐや姫の物語

高畑勲・宮崎駿・スタジオジブリ作品年表

展示作品リスト



【関連記事】

●新聞

7月29日(金) 朝日新聞

「レイアウト展」ジブリ体感 Nao☆さん・村井杏さん対談

その他 朝日新聞 (7/16)

読売新聞 (8/6)

毎日新聞 (8/16)

新潟日報 (8/24)

●テレビ

7月16日(土) 「夕方ワイド新潟一番」(生中継)

●ラジオ

7月16日(土) FM にいがた 生中継

FM PORT 生中継

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	26,411
	前売	2,923
無料観覧者数	招待	2,752
	無料	8,807
	免除	1,481
総観覧者数		42,374
有料率 (%)		69.2

担当 澤田佳三

【出品リスト】

作品名	点数
スタジオジブリ作品のレイアウト	
風の谷のナウシカ	46
天空の城ラピュタ	77
となりのトトロ	29
魔女の宅急便	3
火垂るの墓	25
紅の豚	30
おもひでぽろぽろ	65
平成狸合戦ぽんぽこ	58
海がきこえる	10
耳をすませば	23
On Your Mark	3
もののけ姫	92
ホーホケキョ となりの山田くん	25
千と千尋の神隠し	463
猫の恩返し	7
ゲド戦記	12
ハウルの動く城	69
崖の上のポニョ	40
借りぐらしのアリエッティ	16
コクリコ坂から	20
思い出のマーニー	17
レイアウトシステムのはじまり	
アルプスの少女ハイジ	35
母をたずねて三千里	42
未来少年コナン	24
ルパン三世(TV)	7
ルパン三世カリオストロの城	8
じゃりン子チエ	23
名探偵ホームズ	34
赤毛のアン	10
セロ弾きのゴーシュ	4
風立ちぬ	27
かくや姫の物語	50

合計 1,394



鴻池朋子展「皮と針と糸と」

【趣旨】

絵画、彫刻、映像など、様々なメディアを駆使し、現代の神話を描くアーティスト、鴻池朋子（1960- 秋田県出身）の個展。前年開催の「根源的暴力」（神奈川県民ホールギャラリー）が群馬県立近代美術館と当館に巡回したものであり、当館が3会場目。新潟会場にあわせタイトルと内容を一部変更して開催した。幅24mにおよぶ作品《皮綴帳》をはじめ、「縫う」という手法を使った作品に焦点をあて、「人はなぜ”つくる”のか」というアートの根本的な問いを鑑賞者に投げかけた。

【総括】

●評価すべき点

- ・ 鴻池氏は「物語の絵画展」(H22)、「ジバング展」(H25)などで紹介し反響のあった作家。個展を通じ、作家や作品、ひいては現代の美術表現の在り方について、より深く感じ取る機会を県民に提供した。
- ・ 巡回展であっても開催地ごとに内容を変化させたいという作家の意向もあり、新潟会場のテーマを「縫う」に定め、出品作品を一部変更、また新潟県埋蔵文化財調査事業団から県内出土の縄文石器、土器を借用展示するなど地域に根ざした展示となった。
- ・ 多種のイベント開催により、作家はもちろん、外部の団体や個人との交流を深め、美術館として新しい試みを行うことができた。
- ・ 県内高校、下越地域の中学校の美術部宛てに鑑賞のポイントをまとめた文書を送付、美術を学ぶ大学生、専門学校生にも案内を厚くするなど若年層への働きかけを行った。

●検討課題

- ・ そもそも美術に興味のある層には満足度が高く、リピーターや県外客も見られたが、美術に関心の薄い層に波及させることができなかった。
- ・ 学校との連携について、今後も新しい試みや工夫をしていきたい。

【開催日・その他】

=2016年12月17日(土)~2017年2月12日(日)(48日間)=

【休館日】

12月19日(月)、12月28日(水)~1月3日(火)、1月16日(月)、1月30日(月)

主 催：新潟県立万代島美術館／新潟日报社／N S T

後 援：新潟市、新潟市教育委員会、NCV新潟センター、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、FM KENTO、ラジオチャット・エフエム新津、エフエム角田山ぽかぽかラジオ、エフエムしばた、燕三条エフエム放送株式会社

企画協力：一般財団法人セゾン現代美術館

協 力：VOLCANOISE、新潟県立美術館友の会

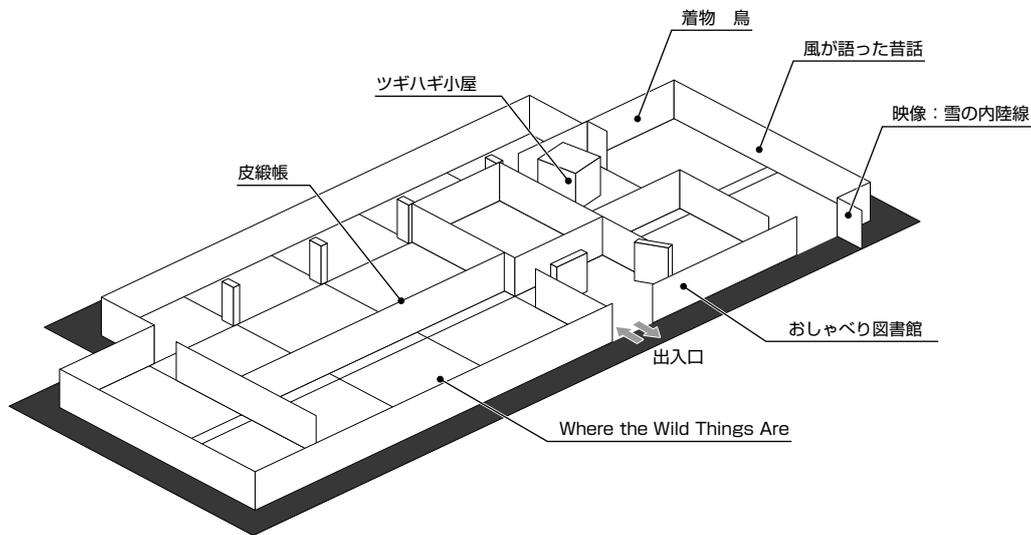
観覧料：一般……………1,000円(800円)(800円)

大学・高校生……………800円(600円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売料金



【関連行事】

- ・「鴻池朋子 アーティスト・トーク」
12月17日(土) 14:00~15:30 展示室
出演：鴻池朋子氏（進行：今井課長代理）
参加者数：90名
- ・アートコンプレックス&トーク「冬の遠吠え」
12月23日(金・祝) 14:00~16:00 展示室
出演：山川冬樹氏（ホーメイ歌手、アーティスト）、鴻池朋子氏
*前半は出演者2名によるパフォーマンス、後半は出演者2名+担当学芸員によるトーク
参加者数：100名
- ・トーク「針と糸は物語る～現代のおとぎ話を縫う」
1月21日(土) 14:00~15:30 展示室
講師：村井まや子氏（神奈川大学外国語学部教授 比較文学・おとぎ話）、鴻池朋子氏
参加者数：115名
- ・ワークショップ「アートの初めてのおつかい」
*参加者が作家となって、ナビゲーター（学芸員）から頼まれた“おつかい”を作品から持ち帰り、語り合うワークショップ。
1月8日(日) 14:00~ 展示室
参加者数：3名
- ・学芸員によるギャラリー・トーク
1月29日(日) 14:00~15:00 展示室
ゲスト：坂本里英子（本展企画者、セゾン現代美術館学芸員）
参加者数：50名

- ・当館学芸員によるギャラリー・トーク
2月12日(日) 14:00~15:00 展示室
参加者数：12名

- ・「皮絵のかけら」
牛革の端材を使ってキーホルダーを自由に作ることできるコーナーを会期中ロビーに設置。材料準備は、万代島美術館サポートメンバーおよび、近代美術館ボランティアメンバー（新潟県立美術館友の会会員からの有志）が行った。



【図録】

書籍名：鴻池朋子『根源的暴力』
 仕様：13.0×21.0cm 154頁
 著者：鴻池朋子
 ブックデザイン：小川順子
 発行所：羽鳥書店(2015)
 印刷所：株式会社 山田写真製版所
 製本所：株式会社 渋谷文泉閣
 内容：・目次

- ・裂け目にて(奥脇嵩大)
- ・ゆっくりと停止(鴻池朋子)
- ・迎え入れる手(坂本里英子)
- ・作品一覧
- ・展覧会記録

*本書は、展覧会「根源的暴力」(2015年、神奈川県民ホールギャラリー)の記録をベースに書籍として発行されたもの。



【関連記事】

●新聞

- 12月17日(土) 新潟日報
 「「縫う」に焦点 鴻池朋子展 胸打つアートの世界」
- 1月20日(金) 新潟日報
 「浮かび上がる物語の痕跡」
- 2月2日(木) 新潟日報「日報抄」

●テレビ

- 12月16日(金) N S T
 「みんなのニュース」*開場式、内覧会の様子

●雑誌

- 月刊ウインド 2017年2月号
 「鴻池朋子展—皮と針と糸と」を味わい尽くす①
- 月刊ウインド 2017年3月号
 「鴻池朋子展—皮と針と糸と」を味わい尽くす②

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	3,348
	前売	547
無料観覧者数	招待	1,088
	無料	339
	免除	305
総観覧者数		5,627
有料率 (%)		69.2%

担当 今井有

【出品リスト】

* 所蔵先に表記のないものは作家蔵

作品名	制作年	技法、素材	サイズ	所蔵
1 ヤマナメクジと月	2015年	牛革、ミクストメディア	h270×w410×d90cm	一般財団法人 セゾン現代美術館
2 ある東北の博物館職員の語り	2015年	本	h6×w80×d49cm	
3 素焼粘土、土器	2015年	素焼粘土、水彩／縄文土器(新潟県南魚沼郡湯沢町・川久保遺跡出土)		土器：新潟県教育委員会
4 ある人類学者の語り	2015年	本	h6×w80×d49cm	
5 あたらしい皮膚 #2 オオカミ	2015年、2016年	牛革、木パネル、水彩	h135×w175×d5cm	
6 映像「縫う」	2015年	(撮影：長谷川拓郎)	19min.30sec.	
7 秋田地図	2012年	水彩、紙	h100×w52×d3cm	
8 映像「美術館ロッジ」	2013年	(撮影：長谷川拓郎)	16min.32sec.	
9 ジオラマ	2013年	ミクストメディア	h81×w130×d123cm	
10 ピンクッション おまえを食べるためだよ	2015年	ミクストメディア、藤製お裁縫箱	h30×w28×d28cm	
11 テーブルランナー	2016年	ミクストメディア		
12 風が語った昔話	2015年	ミクストメディア	h238×w220×d3cm	
13 12人のホワイト	2015年	牛革、水性クレヨン		
14 着物 鳥	2015年	羊毛フェルト、鳥の羽、布	h327×w203cm	高橋コレクション
15 ツギハギ小屋	2015年	アルミフレーム、牛革、綿	h2800×w2470×d3560cm	
16 ある女の語り	2015年	本	h6×w80×d49cm	
17 素焼粘土 ヘビ	2015年	素焼粘土、水彩		
18 版画(頭が鹿の角)	2016年	銅版画、ドライポイント	h37.5×w32×d3.5cm	
19 版画(動物頭にこどもの脚)	2016年	銅版画、ドライポイント	h37.5×w32×d3.5cm	
20 版画(ウサギの心臓)	2016年	銅版画、エッチング	h37.5×w32×d3.5cm	
21 planet #2 high notes	2013年	ミクストメディア (FRP, スタイロフォーム, etc.)	h80×w90×d90cm	
22 羽皮絵	2015年、2016年	牛革、水彩、キャンパス	h42×w32×d2cm	
23 コウモリ皮絵	2015年	牛革、水彩、キャンパス	h73×w61×d2cm	
24 ドローイング、石斧、石器、巢		鉛筆、紙、素焼粘土、水彩／縄文時代石器(石鏃・石錐・両極剥離石器・三脚石器・板状石器・打製石斧／新潟県南魚沼郡湯沢町・川久保遺跡出土)		石器：新潟県教育委員会
25 版画 山と星	2015年	木版画	h39.5×w34×d3.5cm	
26 版画 こどもの顔(大)	2015年	木版画	h47×w62.3×d3.5cm	
27 版画 顔 #2	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
28 版画 顔 #1	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
29 版画 二頭狼とこども	2015年	木版画	h42.7×w48×d3.5cm	
30 版画 ヘビ	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
31 版画 岩の上の人	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
32 版画 こどもの顔(小)	2015年	木版画	h47×w55×d3.5cm	
33 版画 フクロウと雷光	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
34 版画 彗星	2015年	木版画	h55×w47×d3.5cm	
35 双頭カタツムリ	2014年	鉛筆、紙	h37×w42×d2.2cm	
36 古事記	2014年	鉛筆、紙	h60×w57×d2.2cm	
37 山水	2014年	鉛筆、紙	h51.5×w59×d2.2cm	
38 オオカミ子ども	2014年	鉛筆、紙	h47.5×w62.5×d2.2cm	
39 Stone: haematite	2013年	鉛筆、紙	h80×w100×d3cm	
40 狼 頭巾	2014年	鉛筆、紙	h40.7×w57.5×d2.2cm	
41 夜鷹	2014年	鉛筆、紙	h52×w64.5×d2.2cm	
42 かぐや姫	2014年	鉛筆、紙	h60×w72×d2.2cm	
43 赤い心臓 #1	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
44 赤い心臓 #3	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
45 赤い心臓 #2	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
46 赤い心臓 #4	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
47 皮絵 オオカミ	2015年	牛革、ミクストメディア	h280×w270cm	
48 インスタレーション 陶物(すえもの)	2015年	陶物		
49 皮絵 赤い水	2015年	牛革、ミクストメディア	h300×w263cm	
50 皮絵 魚(腹開き)	2015年	牛革、ミクストメディア	h295×w240cm	
51 影絵灯籠	2015年	ミクストメディア	h40×ø30cm	
52 皮着物 イワシ(口開き)	2015年	牛革、ミクストメディア	h327×w245cm	
53 皮着物 赤い川	2015年	牛革、ミクストメディア	h372×w295cm	
54 白無垢	2015年	シルク、ミクストメディア	h430×w216cm	
55 湖ジオラマ	2013年	ミクストメディア	h24×w56×d58cm	
56 あたらしい皮膚 #1	2016年	牛革、木パネル、ミクストメディア	h170×w150×d5cm	
57 アクロバット #2	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
58 青い木立	2016年	牛革、ミクストメディア	h170×w150×d5cm	
59 あたらしいほね	2016年	牛革、木パネル、ミクストメディア	h170×w150×d5cm	個人蔵(群馬県立近代美術館寄託)
60 皮綴帳	2015年	牛革、クレヨン、水彩	h600×w2400cm	高橋コレクション
61 アクロバット #3	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
62 Where the Wild Things Are	2014年	牛革、クレヨン、水彩	h390×w345cm	
63 アクロバット #1	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
64 アクロバット #4	2016年	陶物、牛革	h45×w45×d15cm	
65 planet #1 first words	2013年	ミクストメディア (FRP, スタイロフォーム, etc.)	h60×w50×d50cm	
66 おしゃべり図書館				
67 映像「雪の内陸線」	2015年	(撮影：長谷川拓郎)	11min.21sec.	



マリメッコ展 — デザイン、ファブリック、ライフスタイル

【趣旨】

フィンランドを代表するデザインハウス、マリメッコの国内初となる大規模な巡回展。ファブリック約50点、ヴィンテージドレス約60点、デザイナーのスケッチなど、フィンランド・デザイン・ミュージアム所蔵の計200点以上の展示作品に加え、著名デザイナーへのインタビュー、ヘルシンキのマリメッコ本社にあるプリント工場の映像も展覧会のために撮り下ろされた。多彩な視点からマリメッコの60年以上にわたる歴史をたどり、個性あふれるデザイナーの仕事ぶりや活躍を紹介した。

【総括】

●評価すべき点

- ・当館初のファッション関連の展示となり、新たな来館者層を開拓することができた。
- ・北欧デザインに対する関心の高さ、ブランド自体の人気にも後押しされ、女性を中心に幅広い年代の来場者があった。
- ・当館の広さと天井高を活かし、巡回他会場とは異なる展示空間を造り出すことができた。
- ・にいがたもよう研究所の協力により開催したワークショップでは多くの参加者に楽しんでいただき、好評だった。

●検討課題

- ・新聞、雑誌、テレビを中心とした従来の広報手段に加え、新たにより効果的な広報手段を模索する必要もあった。

【開催日・その他】

=2017年3月4日(土)~3月31日(金)(26日間)=

※全体会期は3月4日(土)~6月11日(日)(93日間)

主催：新潟県立万代島美術館、UX新潟テレビ21、マリメッコ展新潟展実行委員会、フィンランド・デザイン・ミュージアム、朝日新聞社、新潟日報社

協賛：こだま印刷、アフタヌーンティー・ティールーム、アークベルグループ ピアンベール、カーテン専門館デコワールド、万代シティ ビルボードプレイス

後援：フィンランド大使館、新潟市、新潟市教育委員会

協力：Visit Finland (フィンランド政府観光局)、フィンエア、フィンエアーカーゴ

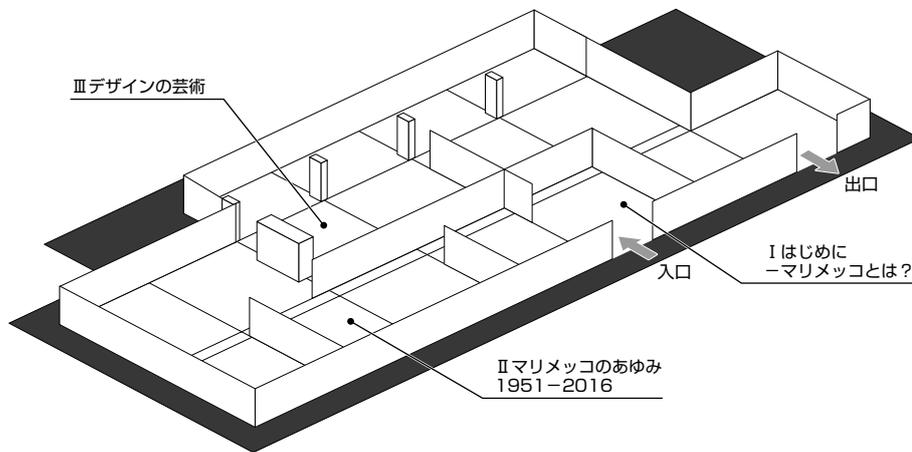
観覧料：一般……………1,100円(900円)<900円>

大学・高校生……………900円(700円)

※中学生以下無料

※()内は有料20名以上の団体料金

※〈 〉内は前売料金



【関連行事】

- ・ 美術鑑賞講座
「北欧デザインの魅力」
3月18日(土) 14:00～ NICOプラザ会議室
講師：今井有(当館業務課長代理)
参加者数：70名
- ・ ワークショップ
「にいがたもよう」オリジナルミニノートづくり
3月26日(日) 13:00～ ロビー
参加者数：152名
- ・ 親子写真撮影会
3月28日(火) 10:30～ ロビー
主催：新潟日报社
参加者数：73名

【図録】

- 仕様：24.5×18.5cm 240頁
編集・構成：フィンランド・デザイン・ミュージアム、朝日新聞社
- 執筆：ユッカ・サヴォライネン（フィンランド・デザイン・ミュージアム）、ハリー・キヴィリンナ（フィンランド・デザイン・ミュージアム）、平泉千枝（元ふくやま美術館）、廣田理紗（島根県立石見美術館）、高木友絵（朝日新聞社）、荻原由希子（朝日新聞社）
- 翻訳：クリストファー・スティヴンズ、中村雅子、和田侑子、貝塚朱雅子
- 編集協力：岩田高明、大橋次郎、クロステック
表紙・函デザイン：田辺智子（田辺智子デザイン室）
デザイン：米山菜津子
制作：青幻社
印刷：こだま印刷
発行：朝日新聞社
- 内容：ごあいさつ（日本側主催者）
はじめに（フィンランド・デザイン・ミュージアム館長 ユッカ・サヴォライネン）
マリメッコー1951年より続く、プリントづくりの芸術（www.marimekko.jp）
ESSAY 1 マリメッコとフィンランド・デザイン（ハリー・キヴィリンナ）
I はじめにーマリメッコとは？
II マリメッコの歩み1951ー2016
1 創業者、アルミ・ラティア
2 ヴォッコ・ヌルメスニエーマリメッコ初の正社員デザイナー
3 マイヤ・イソラのコレクション
4 アンニカ・リマラと洋服
5 リーサ・スヴァント
6 国際的な評価
7 マリ・ヴィレッジ
8 ライフスタイル
9 新しいデザイナーたち
10 アルミ・ラティアの遺産
11 1991年、キルスティ・パーッカネンとの新たな門出
12 原点への回帰
13 マリメッコの今





- Ⅲ デザインの芸術
- 1 ストライプと四角形
 - 2 色と遊ぶ
 - 3 《ルオント》《オルナメンツァ》《ヨナス》シリーズ
 - 4 アンニカ・リマラのデザイナー・コインの表と裏
 - 5 ひとつのモチーフのヴァリエーションー《タルハ》《ヨケリ》《ケイダス》
 - 6 《ライネ》《イソ・ライネ》《リンッシ》
 - 7 マイヤ・イソラ、絵画とファブリック
 - 8 脇阪克二、絵画とファブリック
 - 9 ペンツァティ・リンダ、ファブリックと服
 - 10 石本藤雄、スケッチとコレクション
 - 11 図案から商品へ

INTERVIEW 1 ヴォッコ・ヌルメスニエミ

INTERVIEW 2 石本藤雄

REPORTAGE ファブリックができるまでーマリメッコ本社の工場を訪ねて

ESSAY 2 フィンランドの自然とマリメッコのデザイン (廣田理紗)

ESSAY 3 マリメッコの到来ーなぜ日本でかくも愛されたのか (平泉千枝)

マリメッコ年表

デザイナープロフィール

主要参考文献

作品リスト

【関連記事】

●新聞

3月2日(木) 新潟日報
「マリメッコ展 暮らし彩る北欧デザイン」

3月4日(土) 新潟日報夕刊
「北欧デザインに夢中」

その他 新潟日報 (3/4、3/25)
読売新聞 (3/5)

〈連載〉

・朝日新聞「マリメッコ展へようこそ」(3/30、3/31)

●テレビ

3月4日(土) UX
「まるどりっ」※会場中継／池田珠緒

3月14日(火) UX
「ナマ+トク」／池田珠緒

3月31日(金) UX
「ナマ+トク」※ロビーにスタジオ設置／池田珠緒

●ラジオ

3月21日(火) FM PORT
「ソトカラ」／池田珠緒

●雑誌

『月刊ウィンド』2017年4月号

【観覧者数】

有料観覧者数	当日	5,985
	前売	2,825
無料観覧者数	招待	689
	無料	1,119
	免除	333
総観覧者数		10,951
有料率 (%)		80.4

担当 池田珠緒、今井有

【出品リスト】

※本リストは 作品No、種別、《作品名》(和訳)、デザイナー名、制作年、素材等をフィンランド・デザイン・ミュージアムの監修に従って記載(情報が不明の場合は記載なし)

※作品は全て、フィンランド・デザイン・ミュージアム所蔵

I : はじめに—マリメッコとは？	
I-1	写真：集合住宅のインテリア、1960年代 / カーテンのファブリック《キヴェット》(石)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1956年
I-2	写真：アルミ・ラティアの家族の別荘、ポォーカルス、1964年 / 壁紙の図案《ムイヤ》(老女)、デザイン：マイヤ・イソラ、1960年
I-3	写真：リーサ・スヴァントのドレスを着用したモデル、ニューヨーク、1964年
I-4	写真：建築家ウルヨ・クッカプロのアトリエのインテリアより、1960年代末頃 / クッションの図案《パブリカ》(パブリカ)、デザイン：マイヤ・イソラ、1965年
I-5	ファブリック《イソト キヴェット》(大きい石)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1959年
I-6	ファブリック《セイレーニ》(サイレン)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
I-7	ファブリック《ウニコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
I-8	ファブリック《カイヴォ》(泉)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
I-9	ファブリック《ケイサリククルヌ》(ヨウラクユリ)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1967年
I-10	ファブリック《ユメ》(夢)、図案デザイン：脇阪克二、1969年
I-11	ファブリック《ライネヘティバ》(さざめき)、図案デザイン：石本藤雄、1988年
I-12	ファブリック《プトキノトコ》(当時書かれたフィンランドの本の題名、プリントになっている植物はバセリ的一种)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1957年
II : マリメッコの歩み 1951-2016	
II-0-1	写真：パレス・ビルディングのマリメッコのディズブレイ、ヘルシンキ、1952年
II-0-2	写真：マイヤ・イソラがデザインしたファブリック《モルシアン》(花嫁)で覆われたベッド、1960年
II-0-3	写真：マイヤ・イソラが1971年にデザインしたファブリック《トゥーリ》(風)がかけられた個人宅の階段、1971年代初め頃
II-0-4	写真：ヘルシンキ、エテラエスプラナディのマリメッコのショップ、インテリア・デザイン：ステファン・リンドフォロス、1992年
II-1 : 創業者、アルミ・ラティア	
II-1-1	写真：マリメッコ初のファッション・ショー、服飾デザイン：リーッタ・インモネン、1951年
II-1-2	写真：マリメッコ創業者アルミ・ラティア、1950年代
II-1-3	写真：ドレス 服飾デザイン：リーッタ・インモネン、1951年
II-1-4	インテリア誌「カウニス・コティ」(美しい家)の表紙に使用された写真、1950年 / カーテンの図案《ランプトゥ》(ランプ)、デザイン：マイヤ・イソラ、1950年
II-1-5	マリメッコのロゴ候補、1954年
II-1-6	マリメッコのロゴ候補、1954年
II-1-7	マリメッコのロゴ候補、1954年
II-1-8	広告のスクラップ・ブック、1954-67年
II-1-9	ヴォッコ・ヌルメスニエミによる広告向けのドローイング、1959-60年
II-1-10	マリメッコのショップのサイン、1955年
II-2 : ヴォッコ・ヌルメスニエミ—マリメッコ初の正社員デザイナー	
II-2-1	写真：浜辺に腰をおろすヴォッコ・ヌルメスニエミ、1950年代
II-2-2	写真：ヴォッコ・ヌルメスニエミがデザインしたドレス、1959年
II-2-3	写真：ヴォッコ・ヌルメスニエミがデザインしたドレス、1959年
II-2-4	ファブリック《ロッチェ》(造語)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1958年
II-2-5	ファブリック《ティーベット》(チベット)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1953年
II-2-6	ドレス《ピフラヴァ》、1959年 / ファブリック《ヘンニカ》(女性の名前)、1958年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
II-2-7	ドレス / ファブリック《エラマンランカ》(玉の緒)、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1959年、素材：コットン
II-2-8	ドレス《キュラティエ》 / ファブリック《クウルピイロ》(かくれんぼう)、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1959年、素材：コットン
II-2-9	シャツ《ヨカポイカ》(すべての少年)、1956年 / ファブリック《ピッコロ》(ピッコロ[擬音])、1953年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
II-3 : マイヤ・イソラのコレクション	
II-3-1	写真：絵具で図案を描くマイヤ・イソラ、ヘルシンキ郊外のアトリエにて、1960年代
II-3-2	写真：マリメッコの手作業の印刷工房、1953年
II-3-3	写真：マイヤ・イソラのアトリエ、1961年
II-3-4	ファブリック《シルッキクイッカ》(カンムリカイツブリ)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1961年
II-3-5	ファブリック《ロッキ》(カモメ)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1961年
II-3-6	ファブリック《ドンブラ》(ネックの長い弦楽器)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1960年
II-3-7	ファブリック《マーライスルース》(田舎の薔薇)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
II-4 : アンニカ・リマラと洋服	
II-4-1	写真：マリメッコの印刷所で撮影されたアンニカ・リマラ、1960年代
II-4-2	写真：ドレス《カトリッリ》 / ファブリック《ブケッティ》(ブーケ)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1964年
II-4-3	ドレス《ルドミラ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ、1962年 / ファブリック《バルブンライタ》(小枝のストライプ)と《ヘデルマピトゥシ》(フルーツのレース)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1959年、素材：コットン
II-4-4	ドレス《デュエット》 / ファブリック《ヘデルマコリ》(フルーツ・バスケット)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1963年、素材：コットン
II-4-5	ドレス《ピトゥミ》 / ファブリック《ブケッティ》(ブーケ)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1963年、素材：コットン
II-4-6	ドレス《ソッケリ》、1966年 / ファブリック《ルーク》(ハッチ)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1963年、素材：コットン
II-4-7	ドレス《サニアインネン》、1966年 / ファブリック《ビルヴィ》(雲)、1963年、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、素材：コットン
II-4-8	ドレス《カラヴァレ》 / ファブリック《クッカ》(花)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年、素材：コットン
II-4-9	ドレス《メドゥーサ》 / ファブリック《クッカ》(花)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年、素材：コットン
II-5 : リーサ・スヴァント	
II-5-1	写真：リーサ・スヴァント、1963年頃
II-5-2	写真：マリメッコの織物工房、1963年
II-5-3	写真：リーサ・スヴァントがデザインしたドレス、1964年

II-5-4	写真：ドレス《オラウケリ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント、1964年
II-5-5	写真：コート《レツィーナ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント、1973年 / ファブリック《セミラミス》(セミラミス)、図案デザイン：脇阪克二、1972年
II-5-6	写真：コート《ハラッカ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント、1974年 / ファブリック《コッタライネン》(ムクドリモドキ)、図案デザイン：脇阪克二、1974年
II-5-7	写真：ドレス《コルッピ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント、1974年 / ファブリック《ティエトゥ》(道)、図案デザイン：脇阪克二、1974年
II-5-8	ドレス《クッコ》、デザイン：リーサ・スヴァント、1961年、素材：ウール
II-5-9	ドレス《セベリ》、デザイン：リーサ・スヴァント、1963年、素材：ウール
II-5-10	ドレス《カーリメッコ》、デザイン：リーサ・スヴァント、1964年、素材：ウール
II-5-11	コート《ヴァトゥッシ》、デザイン：リーサ・スヴァント、1967年、素材：コットン・ベルベット
II-5-12	ドレス《キカプー》 / ファブリック《ルートのライタ》(スクエアストライプ)、服飾・図案デザイン：リーサ・スヴァント、1973年、素材：コットン
II-5-13	ドレス《オクターヴィ》 / ファブリック《ルートのライタ》(スクエアストライプ)、服飾・図案デザイン：リーサ・スヴァント、1973年、素材：コットン
II-6：国際的な評価	
II-6-1	『スポーツ・イラストレイテッド』誌の表紙、1960年12月26日号
II-6-2	『ヴォーグ』誌の記事、1965年、写真撮影：ゴードン・パークス
II-6-3	『ライフ』誌の記事、1966年8月8日号、写真撮影：トニー・ヴァッカー
II-6-4	『ライフ』誌の記事、1962年6月15日号
II-6-5	『エル』誌の表紙、1965年7月22日号
II-6-6	デザイン・リサーチ社パンフレット、1964年
II-6-7	ドレス《ハイルヘイマ》、1959年 / ファブリック《ナスティ》(小さい無頭釘)、1957年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
II-6-8	ドレス《レイッキ》 / ファブリック《ピルプト パルプト》(フィンランド童謡から派生した言葉)、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1959年、素材：コットン
II-6-9	ドレス《サラマンテリ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ、1965年 / ファブリック《ギャレリア》(ギャラリー)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1954年、素材：コットン
II-7：マリ・ヴィレッジ	
II-7-1	写真：実験的住宅《マリタロ》(マリ・ハウス)、設計：アアルノ・ルースヴォリ、1967年
II-7-2	写真：《マリサウナ》入口から中を見た様子、設計：アアルノ・ルースヴォリ、1968年
II-7-3	写真：《マリサウナ》外観、設計：アアルノ・ルースヴォリ、1968年
II-8：ライフスタイル	
II-8-1	写真：マリメッコの商品が陳列された棚、1965年 / 《タマラ》(女性の名前、デザイン：マイヤ・イソラ、1960年) 柄の箱 / 《パブリカ》(パブリカ、デザイン：マイヤ・イソラ、1965年)、柄のタオル / シャツ《ヨカボイカ》(すべての少年、デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1956年)
II-8-2	サングラスの広告写真、サングラス・デザイン：アンニカ・リマラ、1966年
II-8-3	商品のスケッチとカラー・サンプルが貼りつけられたノート、制作：アンニカ・リマラ、1963年
II-8-4	ヴォッコ・ヌルメスニエミがデザインした帽子、1959年 / ファブリック《スオランピ》(沼)、《プレニッカ》(メダル)、《ヴァルケア ヴァルサ》(白い子馬)
II-8-5	サングラス、デザイン：アンニカ・リマラ、1966年、素材：プラスチック
II-8-6	ジャージー素材の服《タサライタ》(均一な横縞)、デザイン：アンニカ・リマラ、1968年
II-8-7	バッグ《オルカラウック》(ショルダー・バッグ)、デザイン：リストマッティ・ラティア、石本藤雄、1972年
II-9：新しいデザイナーたち	
II-9-1	写真：脇阪克二と、彼自身による図案《ブ プー》(ブ プー)の下絵、1975年 ※III-8に展示
II-9-2	ファブリック《カルセリ》(回転木馬)、図案デザイン：脇阪克二、1973年
II-9-3	ファブリック《クミセヴァ》(エコー)、図案デザイン：脇阪克二、1971年
II-9-4	ファブリック《フロ》(小川)、図案デザイン：脇阪克二、1971年
II-9-5	ドレス《キヴィ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント / ファブリック《カタラ》(嘘の、騙しの、ベテンの)、図案デザイン：脇阪克二、1970年、素材：コットン
II-9-6	ドレス《コルッピ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント / ファブリック《ティエトゥ》(道)、図案デザイン：脇阪克二、1974年、素材：コットン
II-9-7	ドレス《フレガッティ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント / ファブリック《コッタライネン》(ムクドリモドキ)、図案デザイン：脇阪克二、1974年、素材：コットン
II-9-8	ドレス《アステッコ》 / ファブリック《カルッキ》(キャンディ)、服飾・図案デザイン：ベンツィ・リンタ、1971年、素材：コットン
II-9-9	ドレス《ピコミ》 / ファブリック《ロリナ》(どくどく[水の音])、服飾・図案デザイン：ベンツィ・リンタ、1972年、素材：コットン
II-9-10	ドレス《リドッキ》 / ファブリック《キルヨ》(スベクトル)、服飾・図案デザイン：ベンツィ・リンタ、1974年、素材：コットン
II-9-11	ドレス / ファブリック《ロイツ》(魔法の呪文)、服飾・図案デザイン：ベンツィ・リンタ、1976年、素材：コットン
II-10：アルミ・ラティアの遺産	
II-10-1	写真：石本藤雄とファブリック《タイガ》(シベリア地方の針葉樹林)、1978年 ※III-10に展示
II-10-2	写真：着物風ドレス / ファブリック《キヴィリッコ》(ユキノシタ科の植物)、デザイン：脇阪克二、1975年
II-10-3	写真：着物風ドレス / ファブリック《キヴィリッコ》(ユキノシタ科の植物)、デザイン：脇阪克二、1975年
II-10-4	ファブリック《マラス》(冬眠に入る前の11月)、図案デザイン：石本藤雄、1986年
II-10-5	ファブリック《コスキ》(急流)、図案デザイン：石本藤雄、1986年
II-10-6	ドレス《ペリラウタ》 / ファブリック《ルートの》(四角)、服飾・図案デザイン：マルヤ・スナ、1984年、素材：機械編みウール
II-10-7	ドレス《クニンガス》 / ファブリック《ルートの》(四角)、服飾・図案デザイン：マルヤ・スナ、1984年、素材：機械編みウール
II-11：1991年、キルスティ・パーッカネンとの新たな門出	
II-11-1	ファブリック《バイヴァンタサアヤ》(赤道)、図案デザイン：エルヤ・ヒルヴィ、2003年
II-11-2	ドレス&コート《マーパッコ》、デザイン：マルヤ・スナ、1993年、素材：機械編みリネン
II-11-3	ドレス《スルカ》、デザイン：ミカ・ピーライネン、1995年、素材：レーヨン
II-11-4	コート、デザイン：リトヴァ・ファッラ、2004年、素材：ウール混合
II-12：原点への回帰	
II-12-1	ファブリック《ヘトキア》(ひととき)、図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2003年
II-12-2	ファブリック《カイク》(こだま)、図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2004年
II-12-3	ファブリック《アアルニ》(宝物)、図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2007年
II-12-4	ドレス、服飾デザイン：ミカ・ピーライネン、2004年 / ファブリック《トゥーリ》(風)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1971年、素材：コットン
II-12-5	ドレス《ヴァラモ》、服飾デザイン：ミカ・ピーライネン、2008年 / ファブリック《サモヴァーリ》(サモワール[ロシアの湯沸し器])、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1970年、素材：コットン
II-12-6	ドレス《トゥリオリ》、服飾デザイン：サム・ユッシ・コスキ、2008年 / ファブリック《ベルゴラ》(パーゴラ[日陰棚])、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1965年、素材：コットン
II-12-7	ドレス《オウエラ》、服飾デザイン：ノーラ・ニニコスキ、2011年 / ファブリック《カタラ》(嘘の、騙しの、ベテンの)、図案デザイン：脇阪克二、1970年、素材：コットン

II-12-8	ドレス《クバリ》、服飾デザイン：ノーラ・ニニコスキ / ファブリック《ルオラ》(洞窟)、図案デザイン：イェンニ・ロベ、2011年、素材：シルク
II-12-9	ニットウェア、デザイン：ノーラ・ニニコスキ、2011年、素材：コットン
II-12-10	ドレス《パステリ》、ファブリック《サブルーナ》(テンプレート)、服飾・図案デザイン：サトゥ・マールネン、2012年、素材：コットン
II-12-11	ドレス《タスマ》、服飾デザイン：ミカ・ビーライネン / ファブリック《ティッピ》(テープ)、図案デザイン：テイヤ・プーラネン、2014年、素材：コットン
II-13：マリメッコの今	
II-13-1	ガラス製品《スカット マッカラッラ》(すり落ちるソックス)、デザイン：アヌ・ベンティネン、2009年
II-13-2	食器《オイヴァ》(見事な)、デザイン：サミ・ルオツァライネン、2009年 / 図案《ラシマット》(使い込まれたラグ)と《シールトラブータルハ》(市民菜園)、デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2009年
II-13-3	ファブリック《ラシマット》(使い込まれたラグ)、図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2009年
II-13-4	ファブリック《シールトラブータルハ》(市民菜園)、図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2009年
II-13-5	食器《オイヴァ》(見事な)コレクションより《サーバイヴァキルヤ》(お天気日記)、デザイン：サミ・ルオツァライネン、2009年 / 図案《クースカヤスカリ》(フィンランドの島)、デザイン：アイノ=マイヤ・メツォリ、2012年
II-13-6	ファブリック《クースカヤスカリ》(フィンランドの島)、図案デザイン：アイノ=マイヤ・メツォリ、2012年

Ⅲ：デザインの芸術

III-1：ストライプと四角形	
III-1-1	写真：カイヴォイストのアルミ・ラティアのアパートメント、ヘルシンキ、1972年
III-1-2	写真：ドレス《クロークス》、1959年 / ファブリック《ピッコロ》(ピッコロ[擬音])、1953年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ
III-1-3	写真：ドレス《キヴィアルカ》、1957年 / ファブリック《ピッコロ》(ピッコロ[擬音])、1953年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ
III-1-4	写真：ドレス《タキラ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ、1967年 / ファブリック《ギャレリア》(ギャラリー)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1954年
III-1-5	ファブリック《ティリスキヴィ》(煉瓦)、図案デザイン：アルミ・ラティア、1952年
III-1-6	布地サンプル、図案《ピッコロ》(ピッコロ[擬音])、デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1953年
III-1-7	ドレス《クロークス》、1959年 / ファブリック《ピッコロ》(ピッコロ[擬音])、1953年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
III-1-8	ドレス《キヴィアルカヘル》、1958年 / ファブリック《ペベ》(ペベ)、1955年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
III-1-9	ドレス《アルクバイタ》、1957年 / ファブリック《ギャレリア》(ギャラリー)、1954年、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
III-1-10	ドレス《リンヤヴィーッタ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ、1965年 / ファブリック《ギャレリア》(ギャラリー)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1954年、素材：コットン
III-1-11	ドレス《タキラ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ、1967年 / ファブリック《ギャレリア》(ギャラリー)、図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1954年、素材：コットン
III-1-12	図案《スルハネン》(フィアンセ)のための下絵、紙にグワッシュ、マイヤ・イソラ、1971年
III-2：色と遊ぶ	
III-2-1	図案《ナスティ》(小さな無頭釘)のカラーサンプル、デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1957年
III-2-2	様々な図案のカラーサンプル、デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、1958-59年、図案：《キツサンヴィークセトゥ》(猫のひげ)、《シダンクッカ》(ハートフラワー)、《ロル》(短いシンプルな]ポエム/韻)、《イリ ライダン》(船外)
III-2-3	ドレス《イロイネン タッキ》、1960年、ファブリック《ナドヤ》(女性の名前、1959年)ほか、服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌルメスニエミ、素材：コットン
III-3：《ルオント》《オルナメンティ》《ヨーナス》シリーズ	
III-3-1	写真：プリンテックス / マリメッコ共同工場、ヘルシンキのソルナイネン、1960年
III-3-2	写真：マイヤ・イソラの自宅、1961年
III-3-3	様々な図案のカラーサンプル、デザイン：マイヤ・イソラ、1957-59年、図案：《プトキノトコ》(当時書かれたフィンランドの本の題名、プリントになっている植物はバセリ的一种)、《カタヤ》(ジャクシン)、《マンティ》(松)、《コルビ》(深い森)
III-3-4	ファブリック《カタヤ》(ジャクシン)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1962年
III-3-5	ファブリック《サツウラ》(鞍)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1960年
III-3-6	ファブリック《タンツ》(ダンス)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1960年
III-3-7	ファブリック《カチューサ》(女性の名前)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1960年
III-3-8	様々な図案のカラーサンプル、デザイン：マイヤ・イソラ、1960年、図案：《クルクネン》(ジングルベル)、《ロマンッシ》(ロマンス)、《タンツ》(ダンス)、《ピドット》(祝宴)
III-3-9	ファブリック《ノア》(ノア)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1961年
III-3-10	ファブリック《ヨーナス》(男性の名前)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1961年
III-4：アンニカ・リマラのデザインーコインの表と裏	
III-4-1	写真：ヘルシンキのマリメッコ工場のオフィスにたたずむアンニカ・リマラ、1963年頃
III-4-2	図案《クルーナ》(コインの表)のための下絵、アンニカ・リマラ、厚紙にグワッシュ、1967年
III-4-3	ファブリック《クラヴァ》(コインの裏)、図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年
III-4-4	ドレス《パッシ》 / ファブリック《クラヴァ》(コインの裏)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-4-5	ドレス《ヒッパ》 / ファブリック《クルーナ》(コインの表)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-4-6	ドレス《ミュリュスキュチュフテュ》 / ファブリック《クラヴァ》(コインの裏)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-5：ひとつのモチーフのヴァリエーションー《タルハ》《ヨケリ》《ケイダス》	
III-5-1	写真：ドレス《モンレツポス》 / ファブリック《ケイダス》(オアシス)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年
III-5-2	図案《ヨケリ》(ジョーカー)のための水彩画、アンニカ・リマラ、1967年
III-5-3	ファブリック《ケイダス》(オアシス)、図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年
III-5-4	ファブリック《タルハ》(庭)、《ヨケリ》(ジョーカー)、《ケイダス》(オアシス)を使った服を説明する商品カード、1967年
III-5-5	ドレス《ヒッパインキ》 / ファブリック《ヨケリ》(ジョーカー)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年、素材：コットン
III-5-6	ドレス《パヴィルヨンキ》 / ファブリック《ケイダス》(オアシス)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-5-7	ドレス《パッシ》、1967年 / ファブリック《タルハ》(庭)、1963年、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、素材：コットン
III-5-8	ドレス《カシノ》 / ファブリック《ケイダス》(オアシス)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-5-9	ドレス《パヴィルヨンキ》 / ファブリック《ケイダス》(オアシス)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1967年、素材：コットン
III-6：《ライネ》《イソ ライネ》《リンッシ》	
III-6-1	図案《イソ ライネ》(ビッグウェーブ)のための下絵、アンニカ・リマラ、紙にグワッシュ、1966年
III-6-2	ファブリック《ライネ》(波)、図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年
III-6-3	ドレス《ティーラ》 / ファブリック《ライネ》(波)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年、素材：コットン
III-6-4	ドレス《ティーラ》 / ファブリック《イソ ライネ》(ビッグウェーブ)、服飾・図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年、素材：コットン

III-6-5	写真：ドレス《ピーロ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ / ファブリック《リンッシ》(レンズ)、図案デザイン：カーリナ・ケッロマキ、1966年、素材：コットン
III-6-6	ドレス《ピーロ》、服飾デザイン：アンニカ・リマラ / ファブリック《リンッシ》(レンズ)、図案デザイン：カーリナ・ケッロマキ、1966年、素材：コットン
III-6-7	ドレス《リース》、服飾デザイン：ミカ・ピーライネン、2010年 / ファブリック《リンッシ》(レンズ)、図案デザイン：カーリナ・ケッロマキ、1966年、素材：ポリエステル
III-7：マイヤ・イソラ、絵画とファブリック	
III-7-1	図案《キマライネン》(マルハナバチ) のための水彩画、マイヤ・イソラ、1969年
III-7-2	ファブリック《キマライネン》(マルハナバチ)、2013年、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1967年
III-7-3	図案《マックス ヤ モリツ》(ドイツの絵本『マックスとモーリッツ』) のための下絵、マイヤ・イソラ、紙にグワッシュ、1971年
III-7-4	ファブリック《マックス ヤ モリツ》(ドイツの絵本『マックスとモーリッツ』)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1968年
III-8：脇阪克二、絵画とファブリック	
III-8-1	図案《カリッカ》(ブロック) のためのインク画、脇阪克二、1975年
III-8-2	図案《カリッカ》(ブロック) のための水彩画、脇阪克二、1975年
III-8-3	ファブリック《カリッカ》(ブロック)、図案デザイン：脇阪克二、1975年
III-8-4	図案《イヴ》(イヴ) のための水彩画、脇阪克二、1971/72年
III-8-5	ファブリック《イヴ》(イヴ)、図案デザイン：脇阪克二、1971/72年
III-8-6	ドレス《ヴァスキ》、服飾デザイン：リーサ・スヴァント / ファブリック《イヴ》(イヴ)、図案デザイン：脇阪克二、1971/72年、素材：コットン
III-8-7	図案《アダム》(アダム) のための水彩画、脇阪克二、1971/72年
III-8-8	ファブリック《アダム》(アダム)、図案デザイン：脇阪克二、1971/72年
III-8-9	図案《プロ》(小川) のための水彩画、脇阪克二、1971年
III-8-10	ファブリック《プロ》(小川)、図案デザイン：脇阪克二、1971年
III-9：ベンツィー・リント、ファブリックと服	
III-9-1	写真：服のために色を選ぶベンツィー・リント、1970年代
III-9-2	写真：メンズスーツ《クスキ》、デザイン：ベンツィー・リント、1972年
III-9-3	ベンツィー・リントがデザインした服のための製品カードと生地サンプル、1973年
III-9-4	図案《ハッター》(綿菓子/雲) のカラー・サンプル、デザイン：ベンツィー・リント、1970年
III-9-5	ドレス《オイクスルク》 / ファブリック《ハッター》(綿菓子/雲)、服飾・図案デザイン：ベンツィー・リント、1970年、素材：コットン
III-9-6	図案《ヒッピーライタ》(飛び跳ねるストライプ) のための水彩画、ベンツィー・リント、1973年
III-9-7	ドレス《フヴィラ》 / ファブリック《ヒッピーライタ》(飛び跳ねるストライプ)、服飾・図案デザイン：ベンツィー・リント、1973年、素材：コットン
III-9-8	図案《カンガストゥス》(蟹気楼) のための水彩画、ベンツィー・リント、1974年
III-9-9	ドレス《テレーズ》 / ファブリック《カンガストゥス》(蟹気楼)、服飾・図案デザイン：ベンツィー・リント、1974年、素材：コットン
III-10：石本藤雄、スケッチとコレクション	
III-10-1	写真：図案《マイセマ》(風景) のコレクションよりファブリック使用例、1982年
III-10-2	図案《ヤマ》(ジャマ) のための水彩画、石本藤雄、1977年
III-10-3	図案《ヤマ》(ジャマ) のフィルム、石本藤雄、1977年
III-10-4	ファブリック《スモ》(スモ)、図案デザイン：石本藤雄、1977年
III-10-5	図案《マイセマ》(風景)、《リンヌンペサ》(鳥の巣)、《バルヴィ》(パッチ[春の雪のない地面のスポット]) のための小さなスケッチ、石本藤雄、1982年
III-10-6	図案のためのスケッチ、石本藤雄、1982年
III-10-7	コレクションのためのスケッチ、石本藤雄、1982年
III-10-8	ファブリック《マイセマ》(風景)、図案デザイン：石本藤雄、1982年
III-10-9	図案《フート》(叫び声) のための水彩画、石本藤雄、1981年
III-10-10	図案《タイガ》(シベリア地方の針葉樹林) のための下絵、石本藤雄、紙にグワッシュ、1978年
III-10-11	ファブリック《タイガ》(シベリア地方の針葉樹林)、図案デザイン：石本藤雄、1978年
III-10-12	ファブリック《オストヤッキ》(オストヤッキ)、図案デザイン：石本藤雄、1983年
III-10-13	コレクション《イン カルフ》(おおくま座) の図案のカラー・サンプル、デザイン：石本藤雄、1983年
III-11：図案から商品へ	
III-11-1	図案《ブ プー》(ブ プー) のための下絵、脇阪克二、紙にグワッシュ、1975年
III-11-2	ファブリック《ブ プー》(ブ プー)、図案デザイン：脇阪克二、1975年
III-11-3	コレクション《リトル・ビーブル》の製品より、図案《ブ プー》(ブ プー)、図案デザイン：脇阪克二、1975年
III-11-4	ファブリック《イン スオム》(大きいうろこ)、図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年
III-11-5	コンパース社のシューズ、2011年 / ファブリック《スオム》(うろこ)、図案デザイン：アンニカ・リマラ、1965年
III-11-6	ファブリック《マンシッカヴオレト》(イチゴの山々)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1969年
III-11-7	ドレス、服飾デザイン：ミカ・ピーライネン、2001年 / ファブリック《マンシッカヴオレト》(イチゴの山々)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1969年
III-11-8	バッグ、デザイン：ミカ・ピーライネン、2001年 / ファブリック《マンシッカヴオレト》(イチゴの山々)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1969年
III-11-9	写真：カーテン、1960年代 / ファブリック《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-10	『アビターレ』誌の表紙、1967年10月号
III-11-11	『ライフ』誌の記事、1966年8月8日号 写真撮影：トニー・ヴァッカーロ
III-11-12	ファブリック《イン ウニッコ》(大きなケシの花)、2014年、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
追加出品	ファブリック《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-13	ファブリック《ピエニ ウニッコ》(小さなケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-14	ドレス《ウルリカ》、服飾デザイン：サム＝ユッシ＝コスキ、2009年 / ファブリック《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年、素材：シルク
III-11-15	子ども用の長靴、2005年 / 図案《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-16	木靴、2005年 / 図案《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-17	《ウニッコ》(ケシの花) の図案が展開された製品、2003-09年、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-18	バッグ《アマボラ》、2009年 / ファブリック《ウニッコ》(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
III-11-19	写真：青色の《ウニッコ》(ケシの花) の塗装が施されたフィンエアエアバスA340機、2012年、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年

イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題	講師	内容	参加者数
6月4日(土)	14:00~15:30	モネ展	オープニング記念講演会「モネの遺産」	マリアヌ・マチュー氏 (マルモッタン・モネ美術館副館長) 通訳：今津京子氏	モネ展の監修者がマルモッタン・モネ美術館のモネ・コレクションの成り立ちや展覧会の見どころを紹介	165
7月2日(土)	14:00~15:10	モネ展	スペシャルトーク「世界でいちばん幸福な場所—ジヴェルニー訪問 モネの光を求めて—」 (新潟県立美術館友の会との共催)	原田マハ氏 (作家)	『ジヴェルニーの食卓』など美術をめぐる小説で大人気の作家が独自の視点で語る応募総数335通532名	188
9月11日(日)	14:00~15:30	ボストン美術館 ヴェネツィア展	ヴェネツィア・ルネサンスの絵画—特質と革新 (新潟県立近代美術館友の会との共催)	越川倫明氏 (東京藝術大学美術学部教授)	企画展監修者の講師が、ヴェネツィア・ルネサンスの画家たちなどについて紹介	81
11月13日(土)	14:00~15:40	ボストン美術館 ヴェネツィア展	イタリアとヴェネツィアの歴史と好奇心	マリオ・ベルヴェルシ氏 (新潟イタリア協会会長)	イタリアの名称の起源、世界遺産、歴史、カーニバルなど、様々な話題で紹介	81
12月4日(日)	10:30~12:00	第18回亀倉雄策賞記念三木健展 [りんごデザイン研究所]	第18回亀倉雄策賞記念 三木健展 開催記念講演	三木健氏 (デザイナー)	自身の展開する教育プログラム「APPLE」について、スライドや映像を交えて紹介	94

計609名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	講座名	講師	内容	参加者数
5月28日(土)	14:00~15:00	コレクション展第2期 展示室3「モデルになった、はたらく人々」	美術と労働	松本美樹 (当館学芸課職員)	美術の中で労働はどのように扱われてきたのか、美術史の流れも振り返りながら作品を紹介	3
6月25日(土)	14:00~15:00		佐渡モッコ 中村木子の生涯と作品	松矢国憲 (当館専門学芸員)	当県出身の書家・中村木子の生涯と作品を、関連作家の作品とともに紹介	5
7月23日(土)	14:00~15:30	モネ展	印象派とジャポニスム	藤田裕彦 (当館学芸課長)	日本美術がどのようにフランスに渡り、どのような影響を印象派に与えたのか解説	51
9月24日(土)	14:00~15:30	ボストン美術館 ヴェネツィア展	ホイッスラーのヴェネツィア	平石昌子 (当館学芸課長代理)	ホイッスラーの代表作であるエッチング版画集「第1ヴェネツィア連作」を中心にその魅力をひもとく	40
10月22日(土)	14:00~15:30	コレクション展2期・3期	新潟県立近代美術館 日本画の名品	宮下東子 (当館学芸課長代理)	当館の日本画の名品について、画像の分析や他作品との比較により解説	25
2017年2月11日(土)	14:00~15:30		藤田嗣治と新潟	澤田佳三 (万代島美術館業務課長代理)	藤田嗣治と新潟の関わりについてひもとく	21
2017年2月18日(土)	14:00~15:30		肖像彫刻の達人・武石弘三郎	伊澤朋美 (当館主任学芸員)	地元長岡市出身の彫刻家・武石弘三郎の制作した作品のうち、初期の作例を中心に紹介	15

計160名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講師	内容	参加者数
5月21日(土)	14:00~16:00	コレクション展第2期	コンテを使って～癒やしの絵を描こう～ (新潟県立美術館友の会との共催)	宇賀田和雄 (当館副参事)	展示作品から1点選んでコンテで模写をする	3
7月30日(土)	14:00~16:00	コレクション展第2期 展示室2「親と子のワクワク美術館② ハテナ? なカタチ」	じわじわじんわりひろがる色と形の世界 (新潟県立美術館友の会との共催)	巻口礼子氏 (長岡市立東中学校教諭)	にじみやぼかしの技法を使って、偶然生まれる色と形の世界を楽しむ	12
8月27日(土)	14:00~16:00		くっつけてつくろう～ホットボンドを使って (新潟県立美術館友の会との共催)	青木善治 (当館学芸課長代理)	竹ひごなどをホットボンドでつなぎ表現する	6
10月1日(土)	14:00~16:00		オープン粘土でつくろう (新潟県立美術館友の会との共催)	青木善治 (当館学芸課長代理)	オープン粘土で様々な形を作る	9
10月2日(土)	13:00~15:00	ボストン美術館 ヴェネツィア展	カーニバルマスクを作ろう	宇賀田和雄 (当館副参事)	既製の無地のマスクに自由に装飾し、独自のマスクを制作	15
10月9日(日)	13:00~15:00					12
10月23日(日)	11:00~12:00		友の会ボランティアによるとっておきの美術館ツアー (新潟県立美術館友の会との共催)	井上千恵子、山本正明、山本節子、渡部学、春日正利 (友の会ボランティアガイド)	美術館「通」の友の会有志が、館の外周りなど、とっておきの「美術館のお気に入り」を紹介する。	16
12月3日(土)	14:00~16:00		らせんに編む～ストールを作ろう～ (新潟県立美術館友の会との共催)	中川アイ氏 (編み物教室講師)	ガーター編みによりらせん状のストールを制作	10

計83名

対話型鑑賞

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	ナビゲーター	内 容	参加者数
7月16日(土)	11:00~	コレクション展 第2期	ギャラリートーク「美術でおしゃべり」	伊澤朋美 (当館主任学芸員)	ナビゲーターと来館者と話し合いながら、みつけたり考えたりしながら所蔵品を鑑賞	7
7月23日(土)				青木善治 (当館学芸課長代理)		2
7月30日(土)				宮下東子 (当館学芸課長代理)		4

計13名

映画鑑賞会

開催日	時間	関連展覧会名	タイトル	内 容	参加者数
4月16日(土)	14:00~	ジブリの大博覧会	プロフェッショナル仕事の流儀10 スタジオジブリ 鈴木敏夫の仕事	2006年/日本/ 82分	18
9月3日(土)	14:00~		オペラ座の怪人	1925年/アメリカ/ 76分	16
10月8日(土)	14:00~	ボストン美術館 ヴェネツィア展	ティツィアーノ~ヴェネツィアの巨匠~	1997年/日本/ 30分	42
	15:00~				5
11月5日(土)	14:00~	ボストン美術館 ヴェネツィア展	ツーリスト	2010年/アメリカ/ 103分	94
12月10日(土)	14:00~		花咲ける騎士道	1952年/フランス/ 100分	10
2017年 2月4日(土)	14:00~		どん底	1936年/フランス/ 92分	19

計204名

コンサート

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	講師他	内 容	参加者数
4月23日(土)	14:00~ 14:45	ジブリの大博覧会	ポッチャリーノ弦楽四重奏団による ジブリいっぱいカルテット	ポッチャリーノ弦楽 四重奏団	企画展に合わせてジブリ映画の曲を演奏	160
6月21日(火)	17:45~ 18:15	モネ展	夏至の日 音楽の夕べ 協力：(公財)長岡市芸術文化振興財団	名雪裕伸氏、十亀有子氏、若松純子氏 (東京フィルハーモニー交響楽団 フルート三重奏)	マルモッタン・モネ美術館の開館記念日に合わせたフルートコンサート	300
9月25日(日)	14:00~ 14:40	ボストン美術館 ヴェネツィア展	~魅惑のヴェネツィア~ 愛と夢のコンサート	五十嵐郊味氏 (ソプラノ) 西脇直美氏 (ピアノ)	イタリアやヴェネツィアを感じられるオペラコンサート	150

計610名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	講師他	内 容	参加者数
11月12日(土)	10:30~ 15:30	ボストン美術館 ヴェネツィア展	こらぼ de 茶会 (新潟県立美術館友の会との共催)	長岡大学茶道部	企画展「ヴェネツィア展」の内容を意識した道具立てによりお茶会をおこなった	150

計150名

体験コーナー

開催期間	時間	関連展覧会名	体験コーナー名	担当	内容	材料
4月1日(金)~ 5月22日(日)	9:00~ 17:00	コレクション展第5期 展示室2「近代美術館の名品」	ズバリ!この作者の作品は?2	宇賀田和雄 (当館副参事)	当館の所蔵品について知る	印刷 上質紙
5月26日(木)~ 8月28日(日)	9:00~ 17:00	コレクション展第2期 展示室2「親と子のワクワク美術館② ハテナ?なカタチ」	ならべてならべてこすったら...	宇賀田和雄 (当館副参事)	カボグロッシの作品パターンから形をとりだし、自由に配置し、こすりだして楽しむ	上質紙 鉛筆 色鉛筆
9月1日(木)~ 12月4日(日)		コレクション展第3期 展示室2「美味なるかな!イタリア三昧」				
12月8日(木)~ 3月31日(金)		コレクション展第4期 展示室2「近代美術館の名品」				

館外活動・地域との連携

巡回ミュージアム

【趣旨及び総括】

巡回ミュージアムは、所蔵作品の中から作品を選定し、県内を巡回展示するもので、広く県民に美術鑑賞の機会を提供し、文化振興を図ることを目的としている。

本年度は、糸魚川市で開催した。これを大人だけでなく、子どもたちの鑑賞教育の機会とできるよう、会期中に小学生などを動員することを前提に、「名品と親しむ」と題し、話し合いながら楽しめる作品を中心に選定した。

また教育委員会に依頼し、小学校の児童を動員してもらい対話型鑑賞を行ったことは、質の高い美術品の鑑賞機会が少ない児童にとってまたとない機会となり、よい形で教育委員会との協働ができた。

また、会場の壁にワイヤーのレールがあったことと、壁付き展示ケースがあったことにより、通常ではあまり選ぶことのない屏風など大型の日本画作品を展示紹介することができた。

【開催地・開催期日・その他】

会場：青海総合文化会館（きらら青海）

会期：平成28年9月13日(火)～22日(木・祝)(10日間)

観覧時間：9:00～17:00（ただし9月16日(金)は21:00まで）

主催：新潟県立近代美術館、糸魚川市教育委員会

後援：新潟日報社、NHK新潟放送局、エフエムラジオ新潟、FM PORT 79.0、糸魚川市、糸魚川市文化協会、(株)上越タイムス社

観覧料：無料

出品点数：26点

入場者数：1,331名

【関連行事】

・9月13日(火)

9:00～ オープニングセレモニー

9:30～ 作品解説会

10:30～ 対話型鑑賞会（糸魚川市立市振小学校）

13:30～ 作品解説会

15:00～ 作品解説会

・9月16日(金)

10:00～ 対話型鑑賞会（糸魚川市立田沢小学校5年生、糸魚川市立青海小学校5・6年生）

11:00～ 対話型鑑賞会（糸魚川市立青海小学校1・2年生）

13:30～ 対話型鑑賞会（糸魚川市立青海小学校3・4年生）

担当 宮下東子、青木善治、宇賀田和雄

【出品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年
1	野間 仁根	花園の友人	1936年
2	三輪 晃久	森	1977年
3	川合 清	白粧	1983年
4	横山 操	林	1968年
5	中島 萬木	待春	1967年
6	加山 又造	白い華	1995年
7	番場 春雄	雪に遊ぶ	1935年
8	岩田 正巳	母と子	不明
9	上野 泰郎	佳きおとづれ	1992年
10	工藤 甲人	夜	1963年
11	竹谷 富士雄	シノンの町の屋根	1971年
12	宮 芳平	きざはし	1959～64年
13	富岡 惣一郎	富士雪景	不明
14	小野 末	岩山（スペイン）	1958年
15	前田 常作	人間風景No.13	1960年
16	佐藤 哲三	帰路	1954年
17	須田 国太郎	水辺の草（杜若）	1947年
18	高間 惣七	パンダの花と青い鳥	1971年
19	三芳 悌吉	オルガンの上	1977年
20	赤穴 宏	白い卓上のリンゴ	1982年
21	細野 稔人	鳥と少女	1976年
22	三岸 節子	風景	1924年
23	中川 一政	李朝三島手偏壺図	1949年
24	海老原 喜之助	市場	1937年
25	鷹山 宇一	花	不明
26	佐藤 哲三	鳩	1954年

出前講座

No.	月 日	時 間	対 象	内 容	担当者	受講者数
1	5月6日(金)	9:45~10:35	新潟大学教育学部附属長岡中学校 3年2組 (41名)	研究会単元の一環としての授業 「モネ 一生追いつづけたもの」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	41
2	6月7日(火)	11:10~12:40	新潟デザイン専門学校 モンセラート美術大学 学生 18名+3名	「日本画の基礎知識」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	21
3	6月10日(金)	9:35~10:20 10:40~11:25	長岡市立上組小学校 6年生 (2クラス 37+37名)	「学芸員ってどんなお仕事でしょう」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	74
4	6月24日(金)	13:15~14:15	長岡市立高等総合支援学校 3年生43名+職員・介助者15名	「美術館に行こう！」 (所蔵品の画像による対話型鑑賞とモネ展の紹介)	伊澤朋美 (当館主任学芸員)	58
5	6月24日(金)	14:00~14:45	見附市立上北谷小学校 5・6年生(14+7名)	「モネって知っている?~○○○の画家~」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	21
6	6月28日(火)	8:40~9:25 9:30~10:15 10:35~11:20 11:25~12:10	見附市立葛巻小学校 5年生(1組26+2組25名) 6年生(1組32+2組32名)			115
7	6月29日(水)	10:35~11:20	長岡市立上小国小学校 5・6年生(11+8名)			19
8	6月29日(水)	13:00~	長岡市立越路中学校美術部 生徒31名+職員2名			33
9	7月5日(火)	9:30~10:15 10:35~11:20	長岡市立和島小学校 5・6年生(37+32名)			69
10	7月6日(水)	9:40~10:25 10:45~11:30	長岡市立才津小学校 5・6年生(23+25名)			48
11	7月12日(火)	9:35~10:20	長岡市立宮本小学校 5・6年生(11+11名)			22
12	7月13日(水)	10:35~11:20	長岡市立洩海小学校 5・6年生(10+15名)	25		
13	7月15日(金)	9:45~10:35 10:45~11:35	新潟大学教育学部附属長岡中学校 3年1組・3組(41+40名)	「モネ 一生追いつづけたもの」	宮下東子 (当館学芸課長代理)	81
14	8月23日(火)	13:30~15:30	四郎丸児童館 小学1~3年生 約60名	「つなげて つなげて」	青木善治 (当館学芸課長代理)	70

計697名



こらぼ de 茶会

毎年企画展に合わせて開催するお茶会は、本年度は「ポストン美術館 ヴェネツィア展」の会期中に実施した。舟や青海波をあしらった水指や茶碗、「海と真珠」をかたどった菓子など、ヴェネツィアの海を連想させる道具立てにより実施された。

共 催：新潟県立美術館友の会

日 時：11月12日(土) 10:30～15:30

会 場：新潟県立近代美術館ロビー

呈 茶：長岡大学茶道部

参加者数：150名

担当 宮下東子



刊行物・鑑賞資料

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成28年度年間スケジュール	平成28年度の企画展とコレクション展の日程及び内容、年間のイベントなどをまとめたもの	A4判変形(展開サイズ210×376mm)蛇腹4つ折り 4色×4色	35,000部	2016年4月1日	
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」46号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4判)4頁	10,000部	2016年4月12日	美術館所感/スタジオジブリの夢の世界へ! / モネ展監修者マリアヌヌさんインタビュー ようこそ、モネの「秘密の花園」へ / 私とこの1点 高松二郎《カギ#233》 / 美術館をもっと楽しもう 見附市との連携活動、鑑賞教育活動の現場から / Catalogue Guide 郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち / 近美のおすすめ / お世話になってますシリーズ8 印刷機 / 編集部からのひとこと
新潟県立近代美術館だより「雪椿通信」47号	美術館からの情報発信として一般来場者向けに編集したもの	A3二つ折り(A4判)4頁	10,000部	2016年7月4日	美術館所感/アートリンク2016、コレクション展スタンブラリー実施中! / ポストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年 / 私とこの1点 オーギュスト・ロダン《考える人》 / 「良寛と巻菱湖」展を控えて / コレクション展紹介 没後15年斎藤義重、親と子のワクワク美術館② ハテナ? なカタチ / Catalogue Guide 常設展 ポケットガイド&コレクションガイド / キンビのおすすめ / お世話になってますシリーズその9 温湿度計 / 編集部からのひとこと
平成27年度年報	平成27年度の活動報告	A4判134頁	350部	2017年3月10日	
企画展「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」ジュニアガイド	「マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展」の子ども向けガイドブック	A4二つ折り(A5判)4頁	10,000部	2016年6月4日	モネってどんな人? / ジヴェルニーの庭 / モネあれこれ / マルモッタン・モネ美術館について
企画展「ポストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」鑑賞シート「拡大! 《ヴェネツィア鳥瞰図》」	《ヴェネツィア鳥瞰図》を紹介する鑑賞シート。当館所蔵作品の紹介に加え、ポストン美術館所蔵の版の違いなど解説。会場内ソファ上に配置し、自由に手に取り、読み終えたらその場に返すようにした	A3両面カラー(印刷機にて作成)パウチ加工	2部	2016年9月10日	
企画展「ポストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」ワンポイント解説	「ポストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」の見どころや作品解説をまとめた内容をホームページ上で公開	PDF、1.74MB	—	2016年9月10日	500年前のヴェネツィア地図 ポストン美術館と新潟県立近代美術館の所蔵品を比較展示 / “セレニッシモ・プリンチベ(晴朗この上ない君主)”といわれた、ヴェネツィアの統領 / なぜ? キリストの不安、ヒエロニムスの涙、そして…将来の受難を暗示 一油絵の美しさと表現力 / 印刷本によってヨーロッパ中に広がったヴェネツィアのニードル・レース / あのモネも、ヴェネツィアの光に魅せられた バルバロ邸から描いた風景
企画展「良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人」図録	「良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人」の公式図録	B5判、64頁	700部	2016年12月25日	謝辞 / ごあいさつ / 一、看板・大字 / 二、漢字隷・楷 / 三、漢字 行・草 / 四、仮名 / 五、書簡 / 六、臨書 / 松矢国憲「良寛と巻菱湖 越後の二人の書人」 / 良寛と巻菱湖 略年譜 / 参考文献 / 作品略解
巡回ミュージアム糸魚川展 鑑賞のてびき	「巡回ミュージアム」のためのセルフガイド	A3二つ折り 4頁 モノクロ(リングラフにて作成)	1,000部	2016年9月13日	

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会への理解を深め、より充実した鑑賞の機会となるように、学芸員による作品解説会を行った。コレクション展は毎週土曜日の午前11時から、企画展は毎週日曜日の午後2時から、それぞれの会場で行った。参加者がなかった解説会については、記録から除いた。

企画展(日曜日 14:00～)

コレクション展(土曜日 11:00～)

企画展 展覧会名 期日	人数	コレクション展 展覧会名 期日	人数
ジブリの大博覧会 ※会場内の混雑による観覧者の安全確保のため実施せず		工芸の魅力 近代美術館の名品 裸婦一同 5月21日	1
		小計	1
モネ展 マルモッタン・モネ美術館蔵 ※会場内の混雑による観覧者の安全確保のため実施せず		近代美術館の名品 親子のワクワク美術館② ハテナ?なカタチ モデルになった、はたらく人々	
ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年		5月28日	1
9月17日	50	6月11日	15
10月16日	20	6月18日	6
10月30日	25	6月25日	2
11月 3日	40	7月 2日	20
11月 6日	25	7月 9日	30
11月20日	30	7月16日	7
11月27日	60	7月23日	2
小計	250	7月30日	4
		8月27日	2
良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人		小計	89
12月18日	30	近代美術館の名品 美味なるかな!イタリア三昧 没後15年斎藤義重	
1月15日	30	9月 3日	2
小計	60	9月10日	1
企画展合計	310	9月17日	1
		9月24日	7
		10月 1日	5
		10月22日	4
		10月29日	3
		11月 5日	2
		11月12日	3
		11月19日	15
		11月26日	4
		小計	47
		書か?絵か? (前期) 静かなるもの (後期) 近代美術館の名品 モダン/東京	
		12月17日	4
		12月24日	4
		1月 7日	5
		1月14日	7
		1月21日	2
		1月28日	1
		2月 4日	8
		2月11日	2
		2月18日	4
		2月25日	3
		3月 4日	4
		小計	44
		新収蔵品を中心に 近代美術館の名品 怪奇・夢・幻	
		3月25日	1
		小計	1
		コレクション展合計	182

団体の受入れ

団体の来館者を受入れ、希望があった団体には作品解説等を行った。

2016年度団体観覧対応実施一覧（申告があった団体のみ記載）

一般団体		※ *印は解説等をおこなった団体	
ジブリの大博覧会			
4月 4日(月)	公益財団法人長岡市国際交流協会	34名	
4月 7日(木)	障害者支援施設しづみ園	7名	
4月 9日(土)	社会福祉法人更正社仁会地域活動支援センターⅡ型かりん	17名	
4月 13日(水)	長岡市社会福祉協議会	24名	
4月 20日(水)	自立生活センター新発田	23名	
4月 22日(金)	ふれんどり〜ミルはまなす	17名	
4月 22日(金)	燕・西蒲原福祉会梨の里	25名	
4月 22日(金)	夢工房	32名	
4月 22日(金)	長岡市社会福祉協議会社会福祉センターサービス	24名	
4月 23日(土)	ワークセンター豆の木	27名	
4月 27日(水)	のんびり青山の会	52名	
4月 28日(木)	社会福祉法人白蓮福祉会ワークセンターふぁみりー	25名	
5月 10日(火)	指定障がい福祉サービス事業所ハウス道芝	23名	
5月 11日(水)	社会福祉法人長岡福祉協会サンスマイル	23名	
5月 12日(木)	なないろ（魚沼市）	35名	
5月 13日(金)	日本マンガ・アニメ専門学校	34名	
計16団体	小計	422名	

モネ展			
6月 4日(土)	上越タイムス社ツアー	12名	
6月 7日(火)	長岡市社会福祉協議会社会福祉センターサービス	31名	
6月 7日(火)	石川美術愛好会	52名	
6月 9日(木)	大島コミュニティセンター	*21名	
6月 9日(木)	佐久市立近代美術館友の会	*44名	
6月 15日(水)	長岡市社会福祉協議会社会福祉センターサービス	32名	
6月 22日(水)	福島ツーリストサービス(株)	47名	
6月 23日(木)	サクラレ福住	6名	
6月 26日(日)	五泉市公民館美術教室	22名	
6月 26日(日)	福島ツーリストサービス(株)	46名	
6月 26日(日)	新潟交通	10名	
6月 28日(火)	つくし工房	24名	
6月 28日(火)	福島ツーリストサービス(株)	44名	
6月 30日(木)	サクラレ福住	7名	
7月 1日(金)	柏崎美術会	*9名	
7月 5日(火)	小林古径記念美術館友の会	*38名	
7月 6日(水)	中通コミュニティセンター	19名	
7月 7日(木)	新潟市美術館協力会	*26名	
7月 7日(木)	長岡市社会福祉協議会社会福祉センターサービス	17名	
7月 10日(日)	小林古径記念美術館友の会	44名	
7月 10日(日)	高山婦人会	16名	
7月 12日(火)	水彩画クラブ亀田	22名	
7月 14日(木)	県退職女教員の会中越支部	13名	
7月 14日(木)	NSG	54名	
7月 16日(土)	頸城バスグリーンツアー	37名	
7月 20日(水)	フカミ美術	31名	
7月 20日(水)	関川村商工会女性部	21名	
7月 21日(木)	デイサービスほこまめ	7名	
7月 23日(土)	大人の休日倶楽部	276名	
7月 27日(水)	三条市嵐南公民館	17名	
7月 29日(金)	大人の休日倶楽部	106名	
7月 29日(金)	長岡市三島郡小中学校教頭会	14名	
7月 30日(土)	新潟・フランス協会	35名	
7月 31日(日)	庄交ミリオントツアー	41名	
8月 6日(土)	新潟交通の旅くれよん	44名	
8月 10日(水)	柏崎市中央地区コミュニティ振興協議会	33名	
8月 19日(金)	チャレンジ夢クラブ	29名	
計37団体	小計	1,347名	

ボストン美術館 ヴェネツィア展			
9月 14日(水)	新潟教弘友の会	*57名	
9月 15日(木)	新潟教弘友の会	*52名	
9月 21日(水)	おぶせミュージアム・中島千波館友の会	17名	
9月 28日(水)	阪之上コミュニティセンター	*11名	
10月 6日(木)	燕西蒲法人会	30名	
10月 12日(水)	三条市大島公民館	*26名	
10月 12日(水)	胎内市赤十字奉仕団	45名	
10月 13日(木)	安曇野市立豊科近代美術館友の会	35名	
10月 15日(土)	富山県民会館文化友の会	*33名	
10月 18日(火)	胎内市中央公民館	*27名	
10月 22日(土)	パティストーニ指揮「東京フィルハーモニー交響楽団」と「ヴェネツィア展」鑑賞ツアー	*7名	
11月 13日(日)	高崎市医師会	12名	
11月 16日(水)	長岡市社会福祉協議会身体障害者デザイナーズ	28名	
11月 17日(木)	小口様	21名	
11月 24日(木)	十日町市下条公民館	*5名	
計15団体	小計	406名	

良寛と巻菱湖			
12月 15日(木)	出雲崎総合大学（出雲崎町公民館）	*44名	
12月 18日(日)	ゆきつばき会	41名	
12月 18日(日)	謙慎書道会甲信北越展	23名	
1月 6日(金)	長岡市社会福祉協議会身体障害者デザイナーズ	23名	
計4団体	小計	131名	

幼稚園・保育園		※ *印は解説等をおこなった団体	
ジブリの大博覧会			
4月 15日(金)	恵和保育園	72名(5名)	
4月 19日(火)	恵和保育園	53名(2名)	
4月 28日(木)	長岡和光幼稚園 なごみ保育園	32名(4名)	
計3団体	小計	157名	

モネ展			
7月 21日(木)	恵和保育園	80名(5名)	
7月 27日(水)	長生保育園	50名(4名)	
計2団体	小計	130名	

コレクション展第4期			
3月 14日(火)	みどり保育園	*21名(4名)	
計1団体	小計	21名	

幼・保合計 308名

総合計 2,614名

学校教育との連携

●図工・美術、および部活動等での利用

学校のカリキュラムで来館した学校等団体に展覧会鑑賞の機会を提供した。

対話型鑑賞を積極的に提案し、特に、市の芸術鑑賞推進の施策で来館する小千谷市の小学校5年生には対話型鑑賞の実施を勧めた。

また、本年度は「モネ展」が開催され、学校からの関心が高く、夏期休業中に中学校部活動の団体を数多く受け入れた。

【対話型鑑賞の実施】

(児童・生徒756名+引率者83名)

4月19日(火)	小千谷市立吉谷小学校	(5年)	9名(1名)
4月19日(火)	小千谷市立和泉小学校	(5年)	20名(2名)
4月21日(木)	小千谷市立東小千谷小学校	(5年)	42名(3名)
4月21日(木)	小千谷市立東山小学校	(5年)	3名(2名)
4月27日(水)	小千谷市立千田小学校	(5年)	23名(2名)
5月11日(水)	小千谷市立南小学校	(5年)	20名(2名)
6月28日(火)	十日町市立松之山小学校	(1-6年)	63名(15名)
7月1日(金)	長岡市立六日市小学校	(5・6年)	18名(2名)
7月12日(火)	長岡市立高等総合支援学校	(高等部3年)	35名(14名)
9月13日(火)	長岡市立立上通小学校	(3年)	28名(2名)
9月14日(水)	小千谷市立小千谷小学校	(5年)	74名(4名)
9月14日(水)	長岡フレンドリールーム	(小中学生)	6名(5名)
9月27日(火)	長岡市立上組小学校	(6年)	73名(4名)
9月28日(水)	長岡市立浦瀬小学校	(6年)	15名(1名)
10月13日(木)	新潟市立西内野小学校	(6年)	101名(5名)
10月18日(火)	小千谷市立片貝小学校	(5年)	30名(2名)
10月18日(火)	燕市立小池中学校	(1年)	61名(4名)
10月27日(木)	小千谷市立小千谷小学校	(5年)	73名(3名)
11月24日(木)	柏崎市立鱒石小学校	(5・6年)	21名(3名)
12月9日(金)	見附市立見附中学校	(1-3年)	11名(5名)
2月2日(木)	出雲崎町立出雲崎小学校	(3年)	30名(2名)

【展覧会解説の実施】

(児童・生徒1,315名+引率者130名)

モネ展

6月17日(金)	長岡市立栖吉小学校	(6年)	77名(3名)
6月21日(火)	長岡市立江陽中学校	(1年)	151名(13名)
6月29日(水)	長岡市立山古志中学校 美術部	(3年)	2名(3名)
6月29日(水)	長岡市立西中学校 美術部	(1・2年)	17名(1名)
6月30日(木)	弥彦村立弥彦中学校 美術部	(1-3年)	14名(1名)
6月30日(木)	長岡市立越路中学校 美術部	(1-3年)	28名(1名)
7月8日(金)	魚沼市教育委員会	(中2・3)	2名(2名)
7月8日(金)	長岡凜晴学院	(1-3年)	23名(3名)
7月12日(火)	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	76名(4名)
7月13日(水)	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	39名(1名)
7月13日(水)	新潟県立長岡明徳高等学校	(社会人講座)	14名(1名)
7月14日(木)	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	72名(4名)
7月15日(金)	新潟県立長岡商業高等学校	(2年)	39名(3名)
7月26日(火)	長岡市立太田中学校 美術部	(1-3年)	6名(4名)
7月26日(火)	新潟市立南浜中学校 美術部	(2・3年)	11名(1名)
7月26日(火)	柏崎市立東中学校 美術部	(1-3年)	12名(2名)
7月26日(火)	新潟県立燕中等教育学校 美術部	(2-5年)	22名(3名)
7月28日(木)	南魚沼市立塩沢中学校 美術部	(1-3年)	8名(1名)
8月1日(月)	柏崎市立第一中学校 美術部	(1-3年)	11名(1名)
8月1日(月)	新潟市立龜田中学校 美術部	(1・2年)	20名(1名)
8月2日(火)	三条市立第三中学校 美術部	(1-3年)	26名(1名)
8月3日(水)	加茂市立葵中学校 美術部	(1-3年)	21名(1名)
8月5日(金)	柏崎市立鏡が沖中学校 美術部		18名(2名)
8月5日(金)	新潟市立龜田西中学校 美術部	(1-3年)	21名(2名)
8月5日(金)	新潟県立長岡工業高等学校 美術部	(1-3年)	12名(2名)
8月8日(月)	南魚沼市立六日町中学校 美術部	(1-3年)	19名(1名)
8月8日(月)	魚沼市立広神中学校 美術部	(1・3年)	9名(1名)
8月8日(月)	長岡市立岡南中学校 美術部	(1・2年)	15名(2名)
8月8日(月)	長岡市立東北中学校 合唱部		15名(1名)
8月9日(火)	魚沼市立堀之内小学校	(6年)	28名(4名)
8月9日(火)	上越市立直江津中学校 美術部	(1-3年)	16名(1名)
8月10日(水)	三条市立下田中学校 美術部	(1-3年)	24名(3名)

8月10日(水)	新発田市立東中学校 美術部	(1-3年)	15名(1名)
8月10日(水)	新潟県高等学校文化連盟	(1-3年)	57名(10名)
8月16日(火)	小千谷市立小千谷中学校 美術部	(1-3年)	27名(1名)
8月17日(水)	新潟市立小新中学校 美術部	(1-3年)	25名(1名)
8月19日(金)	新潟県立新潟向陽高等学校	(3年)	5名(2名)

ヴェネツィア展

9月29日(木)	新潟県立長岡明徳高等学校	(1-4年)	167名(29名)
10月13日(木)	長岡市立新町小学校	(1年)	59名(4名)

コレクション展第4期

2月3日(金)	長岡市立脇野町小学校	(2年)	20名(2名)
2月7日(火)	長岡市立脇野町小学校	(2年)	31名(2名)
2月8日(水)	長岡市立脇野町小学校	(3年)	41名(4名)

【展覧会鑑賞のみ】

(児童・生徒881名+引率者99名)

ジブリの大博覧会

4月15日(金)	小千谷市立総合支援学校	(1-3年)	10名(4名)
4月17日(日)	南魚沼市立六日町中学校 文化部	(1-3年)	21名(1名)
4月22日(金)	長岡市立高等総合支援学校	(高等部3年)	4名(4名)
4月27日(水)	魚沼市教育委員会	(中学2・3年)	3名(2名)
4月30日(土)	長岡市立越路中学校 美術部	(1-3年)	21名(1名)
5月2日(月)	見附市立西中学校 美術部	(1-3年)	18名(1名)
5月2日(月)	新潟県立白根高等学校	(1年)	78名(5名)
5月6日(金)	県立長岡聾学校 中学部	(1-3年)	5名(6名)
5月7日(土)	柏崎市立第一中学校 美術部	(1-3年)	14名(1名)
5月10日(火)	新潟市立坂井輪中学校	(3年)	6名(1名)
5月10日(火)	新潟県立小出特別支援学校	(中学部2・3年)	9名(5名)
5月10日(火)	魚沼市立須原小学校	(6年)	23名(2名)
5月11日(水)	長岡市立上組小学校	(6年)	74名(3名)
5月12日(木)	新潟県立長岡聾学校 小学部	(1・2・4年)	10名(6名)
5月14日(土)	長岡市立小国中学校 美術部	(1-3年)	12名(1名)
5月14日(土)	南魚沼市立塩沢中学校 文化部美術班	(1-3年)	10名(1名)

モネ展

6月8日(水)	長岡市立上組小学校	(特別支援学級)	15名(6名)
6月10日(金)	柏崎市立高柳小学校	(5・6年)	13名(2名)
6月11日(土)	新潟県立長岡商業高等学校 美術部	(美術部)	8名(1名)
6月18日(土)	新潟県立五泉高等学校 美術部	(1-3年)	22名(1名)
7月2日(土)	阿賀町立阿賀津川中学校	(2・3年)	6名(3名)
7月7日(木)	新潟県立長岡聾学校	(高等部2年)	4名(2名)
7月7日(木)	新潟県立長岡聾学校	(高等部1年3組)	4名(2名)
7月10日(日)	長岡市立秋葉中学校 美術部	(3年)	14名(1名)
7月10日(日)	長岡市立秋葉中学校 美術部	(1・2年)	16名(1名)
7月13日(水)	新潟県立小出特別支援学校 川西分校	(高等部2年)	8名(4名)
8月4日(木)	新潟県立新潟中央高等学校 美術部	(1-3年)	12名(2名)
8月6日(土)	南魚沼市立大和中学校 美術部	(1-3年)	14名(1名)
8月8日(月)	長岡市立東北中学校 吹奏楽部	(1-3年)	52名(1名)

コレクション展第3期

9月13日(火)	長岡市立立越小学校	(3年)	75名(5名)
----------	-----------	------	---------

ヴェネツィア展

9月16日(金)	長岡市立高等総合支援学校		6名(1名)
11月5日(土)	長岡市立南中学校 美術部	(1-3年)	4名(1名)
11月5日(土)	長岡市立旭岡中学校 美術部	(1・2年)	6名(2名)
11月5日(土)	新潟大学教育学部附属長岡中学校 美術部	(1・2年)	9名(1名)
11月5日(土)	長岡市立秋葉中学校 美術部	(1・2年)	14名(2名)
11月8日(火)	長岡市立立越小学校	(5・6年)	25名(1名)
11月19日(土)	長岡市立小国中学校 美術部	(1・2年)	11名(1名)
11月23日(水)	南魚沼市立塩沢中学校 美術部	(1・2年)	5名(1名)

コレクション展第4期

1月17日(火)	長岡市立上組小学校	(6年)	73名(3名)
1月28日(土)	柏崎市立第二中学校	(1・2年)	7名(1名)
3月7日(火)	長岡市立江陽中学校	(1年)	140名(9名)

●施設見学

美術館の施設についての学習での利用に供し、子どもたちの質問などに回答した

9月13日(火) 長岡市立日越小学校 (3年) 75名(5名)

●職場体験

学校からの希望に応じて、職場体験を受け入れた

8月25日(休) 長岡市立堤岡中学校 (2年) 1名

●子ども学芸員作品解説

長岡市立上具に小学校6年生の総合的な学習の時間・図工の取組として、児童が当館で学習の成果を来館者に披露する「子ども学芸員」の活動をおこなった。学校と美術館が連携し、以下の日程で一年間かけて取り組んだ。

4月20日(水) 年間の活動について打合せ

5月11日(水) 美術館自由鑑賞

6月10日(金) 出前講座「学芸員って、どんなお仕事でしょう」の実施

9月27日(火) 全児童が来館し、クラスごとに対話型鑑賞を体験

1月17日(火) 子ども学芸員として自身が解説する作品の選定

2月 4日(土) 児童による作品解説会「子ども学芸員」の実施
(コレクション展示室にて)

●その他

国語の授業として当館を利用

11月29日(火) 三条市立裏館小学校 (6年) 50名(2名)

●教員研修会の受入れ

要望があった場合、学校教員の研修会の会場として館の施設を提供。講師や展覧会の開設等を行った

4月21日(休) 長岡市三島郡美術教育研究会 85名

5月10日(火) 長岡市教育センター研修講座 31名

6月24日(金) 三条市小学校教育研究協議会図画工作部 24名

10月26日(水) 長岡小学校長会 60名

12月14日(火) 長岡市三島郡美術教育研究会 20名

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

月	期間	日数	開催企画展名称	企 画 展									コレクション展									月計
				学 校 等						障がい者	介助	合計	学 校 等						障がい者	介助	合計	
				小中・特			高校						小中・特			高校						
				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率				校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率				
4	1~30	27	ジブリの大博覧会	7	(152)	18	1	4	4	1,061	345	1,432	0	0	0	0	0	0	3	1	4	1,436
	1~15	14		11	(201)	29	1	78	5	760	278	1,150	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1,151
5	17~22	6											0	0	0	0	0	0	4	3	7	7
	26~31	5											0	0	0	0	0	0	9	2	11	11
6	1~	3											0	0	0	0	0	0	2	1	3	3
	4~30	23	モネ展 マルモッタン・ モネ美術館所蔵	9	(380)	45	2	30	2	837	311	1,225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,225
7	1~31	27		9	(108)	17	15	324	41	902	352	1,636	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,636
8	1~21	21		18	(376)	26	8	101	16	747	290	1,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,180
	23~28	6											0	0	0	0	0	0	7	2	9	9
9	1~9	8											0	0	0	0	0	0	7	2	9	545
	10~30	19	ボストン美術館 ヴェネツィア展 魅惑の都市の 500年	6	(271)	21	2	173	30	218	94	536	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10	1~30	26		4	(324)	18	0	0	0	288	88	394	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11	1~27	24		8	(95)	12	0	0	0	313	86	411	0	0	0	0	0	0	0	0	0	413
	29~30	2											1	(50)	2	0	0	0	0	0	0	
12	1~4	4											0	0	0	0	0	0	1	0	1	1
	8~11	4											1	(11)	5	0	0	0	3	2	10	10
	13~28	14	良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末 の二人の書人	0	0	0	0	0	0	41	10	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	4~15	11		0	0	0	0	0	0	70	18	88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
	17~31	13											2	(80)	4	0	0	0	3	2	9	
2	1~28	24											5	(181)	14	0	0	0	18	2	34	34
3	1~20	18											1	(140)	9	0	0	0	20	5	34	47
	24~31	7											0	0	0	0	0	0	9	4	13	
合 計	306			72	(1,907)	186	29	710	98	5,237	1,872	8,103	10	(462)	34	0	0	0	87	26	147	8,250

*小学校・中学校及び特別支援学校（初等部・中等部）の児童生徒は観覧料無料のため、免除者数合計には含まない。（表中カッコ書きの数値）

平成28年度 夏休み期間 観覧料免除者数（再掲）7/23～8/21

月	期間	日数	展 覧 会 名	高校生	月 計	合 計
7	23~31	8	モネ展 マルモッタン・モネ美術館所蔵	3	3	18
8	1~21	21	モネ展 マルモッタン・モネ美術館所蔵	15	15	

博物館実習

【趣 旨】

学芸員資格取得を目指す学生等のための博物館実習を実施し、8名の実習生を受け入れた。美術館学芸員の諸業務に関する講義のほか、各分野の作品の取り扱いについて実習を行った。後半には「展覧会計画」として、展覧会を計画・立案、図面や要項の作成、展示、撤収までのひとつおりの流れを体験する演習を行った。また、準備を重ねコレクション展出品作品の作品解説を行ったりするなど、学芸業務を実際に体験させることに重点をおいた。

【実習期間】

7月14日(木)～7月28日(木) ※土・日・祝日を除く

【実習生の所属および受け入れ人数】

新潟大学	2名
長岡造形大学	3名
新潟産業大学	1名
女子美術大学	1名
京都造形大学	1名



【カリキュラム】

月日	時限	内 容	担 当
7月14日(木)	1	開講式・館の概要説明、オリエンテーション	館長・副館長、伊澤
	2	展覧会见学（「コレクション展第2期」・「モネ展」）	宮下・平石
	3	バックヤード見学	伊澤
	4	講 義：博物館運営に関わる法律・現在の博物館を取り巻く状況	藤田
7月15日(金)	1	講 義：学芸課の業務／展覧会の企画から礼状まで	藤田
	2	講 義：作品の収集・分類・保管とデータベース管理	平石・伊澤
	3	実 習：作品の取り扱い・展示・点検（平面作品）	松矢・宇賀田
	4		
7月19日(火)	1	講 義：ミュージアムエデュケーション	宮下
	2	講 義：作品の調査・研究	松矢
	3		
	4	講 義：美術館と地域連携／ボランティアと友の会	青木
7月20日(水)	1	実 習：作品の取り扱い・展示（軸・屏風）	宮下
	2		
	3	実 習：作品の取り扱い・展示（彫刻）	伊澤・平石
	4	講 義：総務課の業務／施設管理・安全対策	高尾、太平BS、セコム
7月21日(木)	1	講 義：美術館のサービスと来館者の視点	総務課・囃託員
	2	講 義：美術館の広報	宇賀田
	3	講 義：作品の保存・修復	松矢
	4	実 習：作品の取り扱い・展示（工芸）	藤田
7月22日(金)	1	実 習：展覧会計画①（作品・テーマ選定）	伊澤・平石・松本(奈)
	2		
	3		
	4		
7月25日(月)	1	実 習：展覧会計画②（リスト、図面、開催要項作成）	伊澤・平石・松本(奈)
	2		
	3	実 習：作品解説会説明、準備①	平石・伊澤
	4		
7月26日(火)	1	実 習：展覧会計画③（パネル・キャプション等の作成）	伊澤・平石・松本(奈)
	2		
	3	実 習：作品解説会準備②	平石・伊澤
	4		
7月27日(水)	1	実 習：作品搬入、展示作業	伊澤・平石・松本(奈)
	2		
	3	実 習：展示講評、撤収作業	学芸課・伊澤・平石・松本(奈)
	4		
7月28日(木)	1	実 習：作品解説会準備③	平石・伊澤
	2		
	3	実 習：作品解説会（一般公開）	平石・学芸課
	4	講 義：作品解説会・講評／実習のまとめ・閉講式	平石・学芸課／館長・伊澤

8時50分出勤 実習場所は講座室を基本とする

- ①9:00～10:20 (80分) ②10:40～12:00 (80分)
③13:10～14:30 (80分) ④14:50～16:10 (80分)

担当：伊澤朋美、平石昌子、松本奈穂子

イベント

講演会

開催日	時間	関連展覧会名	演題	講師	内 容	会場	備考	参加者数
5月14日(土)	14:00～15:40	ビーズリーと日本	衝撃のサロメ	河村錠一郎氏 (一橋大学大学院言語 社会研究科名誉教授)	オスカー・ワイルドが、聖書の 短い記述を改変して新たなサロ メ像を創作したこと、さらにビ ーズリーが独自の解釈をもって 挿画を描いたことなどを解説。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	23
5月28日(土)	14:00～15:00	ビーズリーと日本	ビーズリーの魅力 を語る	魔夜峰央氏 (漫画家)	制作者ならではの独自の視点で ビーズリー作品について語って いただいた。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	120
7月16日(土)	11:00～12:00	スタジオジブリ・ レイアウト展	ギャラリートーク	田中千義氏(スタジオ ジブリ)/大平真理子氏 (TeNYアナウンサー)	スタジオジブリスタッフが、レ イアウトならではの魅力を解説。	展示室内	要観覧券	25
9月24日(土)	14:00～15:00	スタジオジブリ・ レイアウト展	ギャラリートーク	小池利春氏(新潟市 マンガ・アニメ情報 館)/大平真理子氏 (TeNYアナウンサー)	ジブリ作品のクオリティーの高 さとその秘密を、レイアウト作 品をもとに解説。	展示室内	要観覧券	20
12月17日(土)	14:00～15:30	鴻池朋子展「皮と 針と糸と」	鴻池朋子 アーティ スト・トーク	鴻池朋子氏 (出品作家)	本展出品作が生まれるまでの過 程や、最近の作品について作家 本人に語っていただいた。	展示室内	要観覧券	90
12月23日 (金・祝)	14:00～16:00	鴻池朋子展「皮と 針と糸と」	アートコンプレッ クス&トーク「冬 の遠吠え」	山川冬樹氏(ホーム イ歌手、アーティスト)/ 鴻池朋子氏(出品作家)	山川冬樹氏と鴻池朋子氏による 展示室内でのパフォーマンスと トーク。	展示室内	要観覧券	100
1月21日(土)	14:00～15:30	鴻池朋子展「皮と 針と糸と」	トーク「針と糸は 物語る～現代のお とぎ話を縫う」	村井まや子氏(神奈川 大学外国語大学教授)/ 鴻池朋子氏(出品作家)	おとぎ話の語りや、縫うという 行為に内在する力を主なテーマ としたトーク。	展示室内	要観覧券	115
1月29日(日)	14:00～15:00	鴻池朋子展「皮と 針と糸と」	学芸員によるギャ ラリー・トーク	坂本里英子氏(セゾ ン現代美術館学芸員、 今井有(万代島美術 館業務課長代理)	本展企画者である坂本氏ととも に、展示室内を巡りながら、出 品作品について語った。	展示室内	要観覧券	50

計543名

美術鑑賞講座

開催日	時間	関連展覧会名	講座名	講師	内 容	会場	備考	参加者数
10月30日(日)	14:00～15:35	所蔵品展 美術家 の青春	青春時代のデュー ラー	桐原浩 (当館業務課長)	展覧会出品作家であるアルプ レヒト・デューラーについて、家 族や環境などの背景について説 明、10～20代に手がけた作例 を紹介した。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	11
11月27日(日)	14:00～15:10	所蔵品展 美術家 の青春	横山操と加山又造 一戦後日本画の青 春時代	池田珠緒 (当館主任学芸員)	横山操、加山又造の作品を中心 に、戦後日本画の作例と、その 特徴を紹介。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	21
12月 4日(日)	14:00～15:40	所蔵品展 美術家 の青春	相澤コレクション の難波田龍起・史男	長嶋圭哉 (新潟県教育庁文化行政課主任学芸員)	旧相澤美術館の主要コレクション であった難波田龍起・史男作 品の魅力を紹介し、故・相澤直 人館長の難波田父子への思いを 振り返った。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	14
3月18日(土)	14:00～15:30	マリメッコ展ー デザイン、ファブ リック、ライフス タイル	北欧デザインの魅力	今井有 (当館業務課長代理)	当館が所蔵する亀倉雄策旧蔵の 工芸品などについても触れなが ら、マリメッコや北欧デザイン の特徴や魅力について解説。	NICOプラザ会議室 (万代島ビル11階)	聴講無料	70

計116名

ワークショップ

開催日	時間	関連展覧会名	ワークショップ名	講師	内 容	会場	備考	参加者数
1月8日(土)	14:00～15:00	鴻池朋子展「皮と 針と糸と」	アートの初めての おつかい	今井有 (当館業務課長代理)	ナビゲーターである学芸員から 頼まれた「おつかい」を作品か ら持ち帰り、参加者同士で語り 合うワークショップ。	展示室内	要観覧券	3
3月26日(土)	13:00～16:30	マリメッコ展ー デザイン、ファブ リック、ライフス タイル	「にいがたもよう」 オリジナルミニ ノートづくり	にいがたもよう研究所	にいがたもよう研究所がデザ インしたカラフルで可愛い「に いがたもよう」を切り貼りして、 オリジナル表紙のミニノートを 制作。	美術館ロビー	参加無料	152

計155名

コンサート

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	講師等	内 容	会場	備考	参加者数
9月10日(土)	11:30~12:00	スタジオジブリ・レイアウト展	ミュージアム・コンサート	新潟市ジュニア合唱団	ジブリアニメ関連の曲や誰もが耳にしたことのある楽曲を中心に演奏。	美術館ロビー	参加無料	120

計120名

その他のイベント

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	講師等	内 容	会場	備考	参加者数
5月28日(土)	15:30~16:15	ピアズリーと日本	漫画家魔夜峰央氏によるサイン会	魔夜峰央氏(漫画家)	講演会後のサイン会。	美術館ロビー	参加無料	50
8月14日(日)								368
8月21日(日)								347
9月11日(日)	11:00~13:00	スタジオジブリ・レイアウト展	カオナシがやって来る!		スタジオジブリ作品「千と千尋の神隠し」に登場するキャラクター、カオナシとの撮影会。	美術館ロビー	申込不要	337
9月18日(日)	13:00~15:00							530
10月2日(日)								397
1月21日(土)	15:40~16:20							鴻池朋子展「皮と針と糸と」
12月17日(土)~2月12日(日) *「鴻池朋子展」会期中	10:00~18:00	鴻池朋子展「皮と針と糸と」	皮絵のかけら		牛革の端材を使って簡単なキーホルダーを作ることのできるコーナーをロビーに設置(自由参加)。	美術館ロビー	参加無料	*

小計2,044名

総合計2,978名

*自由参加のためカウントせず

*参考：展覧会共催社、協賛社等が主催したイベント

開催日	時間	関連展覧会名	イベント名	講師等	内 容	会場	備考	参加者数
8月11日(木)~8月21日(日)								
9月17日(土)~9月19日(月)	10:00~18:00	スタジオジブリ・レイアウト展	スタジオアリス 来場記念撮影会		「千と千尋の神隠し」の世界に入り込んだような写真を撮影。	美術館ロビー	申込不要 有料	402
9月22日(木)~9月25日(日) *計21日								
3月28日(火)	10:30~15:00	マリメッコ展ーデザイン、ファブリック、ライフスタイル	にいがた、びより×マリメッコ展 親子写真撮影会		新潟日報社ウェブサイト「にいがた、びより」の企画「親子写真撮影会」をマリメッコ展開催中の美術館ロビーで実施。(撮影: studio Roop)	美術館ロビー	要申込 有料	73

小計475名

刊行物

刊行物名	概要	仕様	発行部数	発行日	内容
平成28年度年間スケジュール	平成28年度の企画展と所蔵品展の日程及び内容、年間のイベント予定などをまとめたもの。	A4判 観音四つ折り	55,000部	2016年4月1日	展覧会予定／開館カレンダー／美術鑑賞講座／新潟県立近代美術館スケジュール／観覧料免除／乳幼児・障害者向け施設案内／サポートメンバー募集／友の会案内／市内美術館紹介／駐車場案内／交通案内
新潟県立万代島美術館だより「B.island」No.15	美術館からの情報発信として一般来館者向けに編集したものの。	A3判二つ折り(A4版)4頁	5,000部	2016年4月1日	2016年度の企画展／2016年度の所蔵品展／ピアズリーと日本／スタジオジブリ・レイアウト展／鴻池朋子展／イベントピックアップ「生誕100周年 トーベ・ヤンソン展 ムーミンがびじゅつかんにやってくる!」、「日韓近代美術家のまなざし-「朝鮮」で描く 講演会「近代期の京城=ソウル、おんなたちの『モダン』と『伝統』」、「生誕100年 亀倉雄策展 講演会「亀倉雄策の東京オリンピックと大阪万博」、「世界遺産 京都・醍醐寺展 法要「醍醐の祈り」／「生誕100年 亀倉雄策展」をふりかえって」／「京都・醍醐寺展」を終えて」／NIIGATA アートリンク／サポートメンバーを募集しています／新潟県立近代美術館の企画展案内／開館基本情報、交通案内
新潟県立近代美術館 研究紀要 第16号	学芸員による研究報告	A4判 56頁	400部	2017年3月31日	・桐原浩「水島爾保布とピアズリー—行樹社展と『モザイク』を中心に」 ・青木善治「美術館と学校教育との連携に関する一考察—対話型鑑賞研修会における教師の変容事例から—」 ・伊澤朋美「武石弘三郎作《船田兵吾像》について」 ・伊澤朋美「ボランティアの自主性・創造性を生かした活動への試みとして—「友の会ボランティアによるとおきの美術館ツアー」取組報告」 ・松矢国憲「新収蔵 中村彝、洲崎義郎宛て書簡類について」【英文要旨】

作品解説会

来館者サービスの一環として、展覧会中に学芸員による作品解説会等を行っている。
いずれも美術館に興味と親しみを感じていただくためのもので、来館者に興味をもって参加していただいた。

企画展		所蔵品展		企画展		所蔵品展	
ピアズリーと日本		現代のアートとデザイン		鴻池朋子展 皮と針と糸と		美術家の青春	
期日	人数	期日	人数	期日	人数	期日	人数
5月 8日(日)	18名	4月 3日(日)	15名	2月12日(日)	12名	11月 6日(日)	8名
5月22日(日)	15名	4月10日(日)	7名			11月13日(日)	8名
6月 5日(日)	15名	4月17日(日)	7名			11月20日(日)	10名
6月19日(日)	6名						
(4回)		(3回)		(1回)		(3回)	
小計	54名	小計	29名	小計	12名	小計	26名
						総合計	11回
							121名

団体の受入れ

団体来館のうち、希望があった場合、作品解説や施設紹介をおこなった。

ピアズリーと日本

6月 2日(休)	日本アニメ・マンガ専門学校	25名(引率2名)
6月 9日(休)	佐久市立近代美術館友の会	45名
6月10日(金)	胎内市中央公民館	4名(引率1名)
6月24日(金)	新潟国際自動車大学校カーデザイン科	5名(引率1名)

スタジオジブリ・レイアウト展

7月21日(休)	三条市大島公民館	18名
----------	----------	-----

鴻池朋子展 皮と針と糸と

1月21日(土)	新潟大学教育学部	12名
1月26日(休)	新潟日報カルチャースクール	7名(引率1名)
2月 2日(休)	長岡造形大学	40名(引率3名)

合計164名

学校教育との連携

●図工・美術の授業及び部活動での利用－展覧会の鑑賞

学校のカリキュラム等で来館した学校団体に展覧会の鑑賞の機会を提供した。

特に希望のあった学校団体に関しては、学芸員による作品解説を行った。

[学芸員による作品解説を行った学校] 145名
(児童・生徒134名+引率者11名)

ピアズリーと日本
5月31日(火) 長岡市立江陽中学校 (1・2・3年) 16名(1名)

スタジオジブリ・レイアウト展

7月27日(水) 上越市立直江津中学校 (1・2・3年) 22名(1名)
8月 2日(火) 新潟市立亀田西中学校 (1・2・3年) 13名(2名)
8月 4日(水) 燕市立燕中学校 (1・2・3年) 15名(1名)
8月 4日(水) 新潟市立黒崎中学校 (1・2・3年) 25名(1名)
10月 6日(水) 新潟市立下山中学校 (1・2年) 10名(1名)

鴻池朋子展

12月27日(火) 田上市立田上中学校 (1・2年) 18名(2名)
12月27日(火) 新潟市立東新潟中学校 (1・2年) 13名(1名)

マリメッコ展

3月28日(火) 新潟工業高等学校 (3年) 2名(1名)

[展覧会鑑賞のみの学校] 358名
(児童・生徒324名+引率者34名)

ピアズリーと日本
4月29日(金) 新潟向陽高等学校 (1・2・3年) 8名(2名)
5月29日(日) 村上市立村上東中学校 (1・2・3年) 18名(1名)
6月26日(日) 新潟工業高等学校 (2・3年) 4名(1名)

スタジオジブリ・レイアウト展

7月26日(火) 新潟市立石山中学校 (1・2・3年) 18名(1名)
7月26日(火) 村上市立荒川中学校 (1・2・3年) 14名(1名)
7月26日(火) 新潟市立豊浦中学校 (1・2・3年) 11名(1名)
7月26日(火) 新潟市立巻西中学校 (1・2・3年) 8名(1名)
7月30日(土) 新潟向陽高等学校 (1・2・3年) 21名(2名)
7月30日(土) 阿賀町立阿賀津川中学校 (2・3年) 11名(2名)
8月 4日(水) 新潟市立横越中学校 (1・2・3年) 8名(1名)
8月 4日(水) 新潟市立光晴中学校 (1・2・3年) 15名(1名)
8月 5日(金) 新潟市立白新中学校 (2・3年) 11名(2名)
8月 6日(土) 新潟向陽高等学校 (1・2・3年) 16名(2名)
8月17日(水) 村上市立朝日中学校 (2・3年) 10名(1名)
8月23日(火) 柏崎市立第一中学校 (1・2年) 12名(1名)
8月28日(日) 新潟市立新津第二中学校 (1・2年) 31名(－)

美術家の青春

10月27日(水) 長岡商業高等学校 (1・2年) 19名(2名)
10月27日(水) 高田北城高等学校 (1・2年) 15名(1名)
10月27日(水) 上越総合技術高等学校 (1・2年) 9名(1名)
10月27日(水) 帝京長岡高等学校 (1・2・3年) 8名(1名)

鴻池朋子展

12月17日(土) 新潟向陽高等学校 (1・2・3年) 10名(2名)
1月 5日(水) 新潟工業高等学校 (2・3年) 4名(1名)
1月21日(土) 柏崎市立第一中学校 (1・2年) 10名(1名)
2月 5日(日) 豊栄高等学校 (1・2年) 9名(2名)
2月12日(日) 新潟青陵高等学校 (1・2年) 8名(1名)

マリメッコ展

3月21日(火) 新潟市立南浜中学校 (1・2年) 16名(2名)

●校外学習・総合学習

学校教育、特に中学校の校外学習及び総合学習での利用に供した。希望のあった場合は目的に応じて施設や職業に関する質問への対応や案内を行った。

[学芸員による解説を行った学校] 135名
(児童・生徒123名+引率者12名)

ピアズリーと日本

5月 6日(金) 新潟市立潟東中学校 (2年) 3名(1名)
5月13日(金) 新潟市立坂井輪中学校 (2年) 15名(－)
5月18日(水) 新潟市立上山中学校 (2年) 4名(－)
5月18日(水) 新潟市立加治川中学校 (2年) 3名(－)
5月18日(水) 新潟市立黒崎中学校 (2年) 12名(1名)
5月20日(金) 胎内市立黒川中学校 (2年) 6名(1名)

スタジオジブリ・レイアウト展

7月20日(水) 新潟江南特別支援学校 (高等部2年) 12名(3名)
8月 5日(金) 加茂市立葵中学校 (1・2・3年) 15名(1名)
9月 6日(火) 見附市立新潟小学校 (3・4年) 28名(3名)
10月 6日(水) 新潟市立本丸中学校 (1年) 12名(－)

美術家の青春

11月 4日(金) 新潟市立濁川小学校 (6年) 5名(－)

鴻池朋子展

12月20日(火) ヒューマンキャンパス高等学校(新潟学習センター) (2・3年) 4名(1名)

マリメッコ展

3月 9日(水) 新潟市立白南中学校 (1年) 4名(1名)

[展覧会鑑賞のみの学校] 209名
(児童・生徒177名+引率者32名)

現代のアートとデザイン

4月17日(日) ヒューマンキャンパス高等学校(新潟学習センター) (1・2・3年) 20名(8名)

ピアズリーと日本

5月12日(水) 加茂市立若宮中学校 (2年) 6名(－)
5月19日(水) 新潟市立西川中学校 (2年) 5名(－)
5月20日(金) 新潟市立白井中学校 (2年) 11名(1名)
5月24日(火) 加茂市立加茂中学校 (2年) 10名(－)
5月24日(火) 新潟市立新津第五中学校 (2年) 29名(－)
6月21日(火) 関川村立関川中学校 (2年) 5名(－)

スタジオジブリ・レイアウト展

9月15日(水) 月ヶ岡特別支援学校 (高等部2年) 9名(6名)
9月15日(水) 長岡市立高等総合支援学校 (2年) 5名(1名)
9月29日(水) 村上特別支援学校 (高等部2年) 5名(1名)
9月29日(水) 村上特別支援学校 (高等部2年) 11名(7名)
10月 5日(水) 五泉市適応指導教室 (小・中学生) 1名(4名)
10月 7日(金) 長岡聾学校 (中学部3年) 1名(2名)

美術家の青春

10月28日(金) 加茂市立加茂中学校 (1年) 23名(－)
11月 1日(火) 新潟市立下山中学校 (不明) 5名(－)
11月11日(金) 村上市立神納中学校 (2年) 3名(－)
11月22日(火) 新潟市立岡方中学校 (2年) 4名(－)
11月24日(水) 新潟江南特別支援学校 (高等部1年) 4名(2名)

鴻池朋子展

2月 2日(水) 新潟明訓高等学校 (不明) 20名(－)

観覧料免除

新潟県立近代美術館規則第13条の規定に基づき、学校教育活動として観覧する場合の生徒及び小中学校・特別支援学校・高等学校の引率者、心身障がい者及びその介助者等に対し、観覧料を免除した。

また、学校からの要請があった場合、その内容に応じて解説・案内・レクチャーなどを行った。

展覧会名	会期	日数	学 校 等						障がい者	介助	合 計
			小中・特			高校					
			校数	児童・生徒	引率	校数	生徒	引率			
現代のアートとデザイン	4月1日～4月17日	16	0			1	20	8	46	8	82
ピアズリーと日本	4月29日～6月26日	55	14	(143)	6	2	12	3	267	60	348
スタジオジブリ・レイアウト展	7月16日～10月10日	84	21	(291)	27	11	88	22	1,012	332	1,481
美術家の青春	10月27日～12月4日	36	5	(40)	0	5	55	7	89	15	166
鴻池朋子展	12月17日～2月12日	48	3	(41)	4	5	35	7	208	51	305
マリメッコ展	3月4日～3月31日	26	2	(20)	3	1	2	1	256	71	333
合 計		265	45	(535)	40	25	212	48	1,878	537	2,715

*小学校、中学校及び特別支援学校（初等部・中等部）の児童生徒は観覧料無料のため、免除者数合計には含まない。（表中カッコ書きの数値）

夏休み期間 観覧料免除者数（再掲）

展覧会名	期間	日数	校数	生徒
スタジオジブリ・レイアウト展	7月16日～8月31日	45	4	13

サポートメンバー (新潟県立万代島美術館ボランティア組織)

新潟県立万代島美術館では、美術館と県民とをより親しく結びつけることを目的として、新潟県立万代島美術館サポートメンバーを組織している。本年度は下記のとおり活動を行った。

【ねらい】

- 1 来館者に生涯学習の機会と場を提供する。
- 2 美術館の活動を共有し、美術館への関心と関わりを深めることにより、美術館の愛好者を増大する。

【登録人数】 (H29年3月現在)

8名

【活動内容】

展覧会に付随するイベントへの協力、万代島美術館の活動や展覧会業務に必要な活動への協力

- ・各展覧会広報活動（ポスター、チラシ発送）への協力
- ・「ピアズリーと日本」展 講演会、サイン会 実施補助
- ・「スタジオジブリ・レイアウト展」撮影会 実施補助
- ・「鴻池朋子展」工作コーナー「皮絵のかげら」材料準備
- ・「鴻池朋子展」イベント（アーティストトーク、「冬の遠吠え」、「針と糸は物語る」）実施補助
- ・図書、作家資料、新聞切り抜き等整理

※なお、「鴻池朋子展」工作コーナー「皮絵のかげら」材料準備については、近代美術館ボランティアメンバー（新潟県立美術館友の会会員からの有志）にも活動に参加いただいた。

【課題】

- ・各展覧会のイベントへの協力、ポスター・チラシ等の発送などを中心に活動していただいた。
- ・近代美術館ボランティアメンバーとの協働活動を実施できた。今後、このような活動を増やせるか、友の会とも協議していく必要がある。

博物館実習

【趣旨】

学芸員資格取得を目指す学生のために博物館実習を実施し、10名の実習生を受け入れた。各分野についての講義の他、作品の点検・取扱いの指導も行った。研究課題として所蔵品を使った展覧会企画を各自が発表し、学芸員の仕事について学んだ実習の総まとめとした。

【実習期間】

7月26日(火)～28日(木)、8月2日(火)～4日(木) 計6日間

【実習生の所属および受入人数】

新潟大学	3名
長岡造形大学	2名
京都造形芸術大学	2名
成安造形大学	1名
帝京大学	1名
桜美林大学	1名
	合計10名

【カリキュラム】

日	時限	内 容	担 当
7月26日(火)	1	開校式／館長講話／オリエンテーション	館長／池田
	2	施設案内／企画展見学	池田／澤田
	3	博物館法／美術館の課題	桐原
	4	研究課題（課題説明、資料収集）	池田
7月27日(水)	1	展覧会の企画・運営 総論	桐原
	2	作品の点検・取り扱い（平面）	澤田
	3	広報／刊行物作成／著作権	今井
	4	研究課題（テーマ決定、構成検討）	池田
7月28日(木)	1	施設見学	伊澤 <small>(近代美術館)</small>
	2	教育普及	宮下 <small>(近代美術館)</small>
	3	作品の点検・取り扱い（日本画）	池田
	4	展覧会見学	—
8月2日(火)	1	所蔵品管理／調査研究／作品収集／保存・修復	澤田
	2	総務担当の業務	板垣
	3	研究課題（リスト・図面作成）	池田
	4		
8月3日(水)	1	受付・監視の仕事	囀託員
	2	作品の点検・取り扱い（彫刻）	桐原
	3	研究課題（発表準備）	池田
	4		
8月4日(木)	1	課題発表準備（機材準備、資料配付等）	池田
	2		
	3	課題発表・講評	館長／学芸
	4	閉校式	池田

※7月28日(木)は近代美術館（長岡市）で実施

10:10出勤 実習場所：準備室

①10:10～11:30（80分）②11:50～13:10（80分）

③14:15～15:35（80分）④15:55～17:15（80分）

担当：池田珠緒、澤田佳三

新潟県立近代美術館

【調査】

展覧会関連

松矢国憲 巻菱湖作品調査・新潟市巻郷土資料館 4月13日
 藤田裕彦 萬鐵五郎作品調査・平塚市美術館 4月27日
 松矢国憲・松本奈穂子 巻菱湖作品調査・紅屋重正 6月7日
 松矢国憲 作品調査・敦井美術館 7月13日
 松矢国憲 巻菱湖作品調査・長岡市内 7月15日
 平石昌子・藤田裕彦 堀口大學作品調査 10月12日～13日
 松矢国憲 展覧会出品作品調査・東京/京都 10月18日～19日

作品調査

宮下東子 寄贈希望作品調査・長岡市栃尾美術館 11月10日
 宮下東子・松本奈穂子 岩田正巳作品調査 6月13日
 松矢国憲・松本奈穂子 森川ユキエ作品調査 6月28日
 宮下東子・藤田裕彦 池上秀敏ほか作品調査 6月30日
 伊澤朋美 武石弘三郎ほか作品調査 7月13日
 松矢国憲・松本美樹 諸作品調査 7月26日
 平石昌子・松本奈穂子 諸作品調査 9月28日
 伊澤朋美・藤田裕彦 戸張公晴作品調査 10月7日
 藤田裕彦 広川松五郎作品調査 10月31日
 伊澤朋美 武石弘三郎作品調査 12月9日
 藤田裕彦・宮下東子(南魚沼市のみ) 加山又造展作品調査・南魚沼市教育委員会/新潟市美術館 2月15日
 宮下東子 加山又造展作品調査 2月22日
 松矢国憲・松本奈穂子 寄託希望作品調査 2月24日

その他

松矢国憲・伊澤朋美 仏像調査 10月30日～31日

【図録執筆】

松矢国憲 『良寛と巻菱湖 越後が生んだ幕末の二人の書人』
 論文「良寛と巻菱湖 越後の二人の書人」及び年譜・
 作品略解
 藤田裕彦 『没後90年 萬鐵五郎展』 作品及び語句解説
 藤田裕彦 『ディズニー・アート展』 論文「ディズニーアニメーションの魅力」

【研究紀要】

新潟県立近代美術館研究紀要第16号 2017年3月31日
 松矢国憲 「新収蔵 中村彝、洲崎義郎宛書簡類について」
 青木善治 「美術館と学校教育との連携に関する一考察ー対話型鑑賞研修会における教師の変容事例から」
 伊澤朋美 「武石弘三郎《船田兵吾像》について」
 伊澤朋美 「ボランティアの自主性・創造性を生かした活動への試みとしてー「友の会ボランティアによるとっておきの美術館ツアー」取組報告」

【寄稿】

【モネ展】

読売新聞連載

平石昌子 ①《テュイルリー公園》 7月16日
 青木善治 ②ルノワール《新聞を読むクロード・モネ》 7月20日
 松本奈穂子 ③《小舟》 7月27日
 松本美樹 ④《睡蓮》 7月29日
 宮下東子 ⑤《バラの小道 ジヴェルニー》 8月5日

【ヴェネツィア展】

宮下東子 新潟日報「展覧会へようこそ 水の都の魅力 多角的に」10月29日

新潟日報連載 「ヴェネツィア展 魅惑の都市の500年」

松本奈穂子①「クロード・モネ」 11月2日
 松本奈穂子②「ロレンツォ・ロット」 11月3日
 宮下東子 ③「ドメニコ・ティントレット」 11月4日
 宮下東子 ④「リーノ・タリアピエトラ」 11月5日
 宮下東子 ⑤「カナレット」 11月6日

【良寛と巻菱湖】

松矢国憲 新潟日報「展覧会へようこそ 良寛と巻菱湖」12月23日

【講演・講義等】

新潟大学人文学部講義(美術史概説B) 10月5日～2月1日
 宮下東子 「②近世以前」 10月12日
 藤田裕彦 「⑤工芸Ⅰー輸出工芸の時代」 11月2日
 藤田裕彦 「⑥工芸Ⅱー近代工芸の誕生」 11月9日
 松矢国憲 「⑦版画」 11月16日
 伊澤朋美 「⑧彫刻」 12月21日
 松矢国憲 「⑩戦後美術 書と洋画Ⅰ」 1月11日
 宮下東子 「⑬日本画Ⅳー戦後の日本画」 1月18日
 松矢国憲 「⑭戦後美術 書と洋画Ⅱ」 1月25日
 藤田裕彦 「⑮現代美術 概念を越えて」 2月1日
 青木善治 作品鑑賞研究会講師・柏崎ソフィアセンター 1月24日
 藤田裕彦 長岡造形大学3年絵画/版画ゼミ進級展示講評会 1月30日

教員向け研修会

宮下東子 長岡市三島郡美術教育研究会 4月21日
 青木善治 長岡市教育センター研修講座 5月10日
 松本奈穂子 三条市小学校教育研究協議会図画工作部 6月24日
 宮下東子 長岡市小学校長会及び第4回研修会 10月26日
 宮下東子・松矢国憲 長岡市三島郡美術教育研究会 12月14日

【研修】

- 徳永健一・松本美樹
「平成28年度新潟県博物館協議会運営研究会」新発
田市、村上市 等 7月11日～12日
- 松本奈穂子 「平成28年度著作権セミナー」新潟県生涯学習推進
センター 7月29日
- 藤田裕彦 「国宝重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研
修会」 都道府県会館 8月2日
- 青木善治 「中越美術研究会夏期研修会」長岡造形大学 8月9日
- 宮下東子 「長岡市立北辰中学校公開授業座談会参加」 菊盛
記念美術館 10月13日
- 松本奈穂子・渡邊一麦
「平成28年度学芸員等職員研修会」足尾銅山 等
11月28日～29日
- 宮下東子 「新潟県アール・ブリュットネットワーク 第3回
協力委員会及研修会」ミュゼ雪小町（上越市）2
月25日
- 伊澤朋美・松本奈穂子
全国美術館会議 第31回学芸員研修会「作品借用時
のコンディションチェックについて」国立西洋美術
館 3月13日

【会議等】

- 徳永健一・丸山実・藤田裕彦
「新潟県博物館協議会総会」ホテル日航新潟 4月18日
- 伊澤朋美・松本奈穂子・松本美樹
「アートリンク2016 第1回連絡会議」新潟市美術
館 5月17日
- 徳永健一・藤田裕彦
「全国美術館会議総会」 ホテルニューオータニ博
多・九州国立博物館 5月26日～27日
- 伊澤朋美・松本奈穂子
「北信越博物館協議会総会」 KKRホテル金沢 6
月16日～17日
- 宮下東子 「新潟県アール・ブリュットネットワーク 第1回協
力委員会及研修会」ミュゼ雪小町（上越市）7月
23日
- 宮下東子 「平成28年度障害者の芸術活動支援モデル事業 第1
回協力委員会」ミュゼ雪小町（上越市）7月23日
- 藤田裕彦 「公開承認施設会議」文化庁 8月1日
- 松矢国憲・平石昌子・宮下東子・青木善治・宇賀田和雄・伊澤
朋美・松本奈穂子・渡邊一麦
「アートリンク2016 第2回連絡会議」 近代美術
館 10月5日
- 徳永健一・藤田裕彦
「美術館連絡協議会総会」 読売新聞社 10月26
日～27日
- 高尾和明 「都道府県立美術館副館長等事務責任者会議」高知
県立美術館 11月10日～11日
- 藤田裕彦・宇賀田和雄・松本奈穂子・渡邊一麦
「アートリンク2016 第3回連絡会議」 新潟市新
津美術館 1月11日
- 藤田裕彦・宇賀田和雄・松本奈穂子・渡邊一麦
「アートリンク2016 第4回連絡会議」 万代島美
術館 3月9日

【テレビ】

- 松矢国憲 NSTテレビ出演「良寛と巻菱湖 越後出身 二人
の書人」 12月29日

新潟県立万代島美術館

【調査】

展覧会関連

- 澤田佳三 「萬鐵五郎展」関連調査
平塚市美術館 4月27日、6月14日
茅ヶ崎市美術館 4月27日
東京文化財研究所 12月21日、3月13日
- 澤田佳三 「レオナルド・フジタとモデルたち」関連調査
名古屋市美術館 5月25日
兵庫県立美術館 5月26日
DIC川村記念美術館 11月17日
- 澤田佳三 「スタジオジブリ・レイアウト展」関連調査
愛媛県美術館 5月27日
- 今井有 「鴻池朋子展」関連調査
群馬県立近代美術館 7月6日、7月9日
- 池田珠緒 「マリメッコ展」関連調査 Bunkamuraザ・ミュージアム 1月8日、2月12日～13日
- 今井有 「マリメッコ展」関連調査 Bunkamuraザ・ミュージアム 1月25日
- 桐原浩 「チームラボ展」関連調査 會津稽古堂 3月29日

作品調査

- 澤田佳三 藤田嗣治作品調査 新津記念館 6月7日

作家調査

- 桐原浩 水島爾保布関連
国立国会図書館 6月14日、6月17日、9月6日、9月9日、10月27日、12月9日、12月10日、1月24日、2月23日
新潟県立図書館 7月1日、8月26日、10月8日
新潟大学附属図書館 12月1日
- 今井有 長沢明展（ガレリア・グラフィカ）、牛腸達夫展 gallery αM 6月1日

【図録執筆】

- 澤田佳三 「レオナルド・フジタとモデルたち」展 項目解説、作品解説
『没後90年 萬鐵五郎展』
論文「記された萬鐵五郎 一 展覧会評に見る生前の評価」及び項目解説、作品解説

【研究紀要】

- 新潟県立近代美術館研究紀要 第16号 2017年3月31日
- 桐原浩 「水島爾保布とピアズリー 一行樹社展と『モザイク』を中心に」

【寄稿】

- 桐原浩 「『ピアズリーと日本』展(上) 若き落谷虹児に影響」
『新潟日報』文化欄 6月8日
- 桐原浩 「『ピアズリーと日本』展(下) 水島爾保布に類似性」
『新潟日報』文化欄 6月9日
- 桐原浩 「幻の日本画家・水島爾保布」『リバーバンクRレポート』第15号 9月1日
- 池田珠緒 マリメッコ展特集記事「暮らし彩る北欧デザイン」
『新潟日報』 3月2日

【講演・講義等】

- 池田珠緒 鳥屋野地区公民館成人大学講座「童謡『花嫁人形』で知られる挿絵画家 落谷虹児」鳥屋野地区公民館(新潟市中央区) 5月27日
- 池田珠緒 にいがた県政出前講座「落谷虹児 一 少女達に夢を与えた作品と、波乱万丈の一生」天明会館(新潟市中央区) 9月20日
- 澤田佳三 新潟大学人文学部講義「美術史概説B」(10月5日～2月1日)
①「日本美術史概論」10月5日
③「日本洋画Ⅰ」10月19日
④「日本洋画Ⅱ」10月26日
- 今井有 美術鑑賞講座「北欧デザインの魅力」
小千谷市民会館 3月25日

【研修】

- 澤田佳三 全国美術館会議第31回学芸員研修会
国立西洋美術館 3月13日

【審査】

- 今井有 新潟県文化振興財団ロゴマーク審査
新潟県文化振興財団 7月19日
- 澤田佳三 新潟デザイン専門学校卒業修了制作展 審査員
新潟市民芸術文化会館 2月4日

【会議等】

- 澤田佳三 萬鐵五郎展会議
神奈川県立近代美術館 葉山 4月26日
東京新聞 6月14日、8月1日
印象社 9月13日、10月21日、11月18日、12月9日、1月27日
- 澤田佳三、今井有 アートリンク2016 第1回連絡会議
新潟市美術館 5月17日
- 川口剛 全国美術館会議総会
ホテルニューオータニ博多・九州国立博物館
5月26日～27日
- 川口剛 全国博物館長会議 文部科学省 6月8日
- 川口剛 北信越博物館協議会総会
KKRホテル金沢 6月16日～17日
- 今井有 鴻池朋子展会議
セゾン現代美術館東京事務所 8月2日
- 今井有 アートリンク2016 第2回連絡会議
近代美術館 10月5日
- 川口剛、桐原浩 美術館連絡協議会総会 読売新聞社
10月26日～27日
- 今井有 アートリンク2016 第3回連絡会議
新潟市新津美術館 1月11日
- 桐原浩、澤田佳三、池田珠緒、今井依里
アートリンク2016 第4回連絡会議
万代島美術館 3月9日

【その他】

- 池田珠緒 作品解説会「新潟日報新春展」新潟伊勢丹
1月10日

美術品の収集

平成28年度収集作品一覧

分野	各領域点数	合計点数
新潟の美術	日本画5 油彩画他3 彫刻1 立体4	13
日本の美術	日本画2 油彩画他3 工芸4 素描1 デザイン2 資料1	13
世界の美術	油彩画他1	1
総合計	日本画7 油彩画他7 彫刻1 工芸4 デザイン2 素描1 立体4 資料1	27

新潟の美術

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	岩田正巳 いわたまさみ 1893-1988	手向の花	1924年(大正13)	215.0×87.0	絹本彩色 軸装	寄贈
	本間翠峰 ほんますいほう 1841-1877	菖蒲図屏風(二曲一隻)	1877年(明治10)	160.4×158.6	紙本彩色 二曲一隻屏風	寄贈
		菖蒲図屏風(六曲一隻)	1877年(明治10)	160.0×337.0	紙本彩色 六曲一隻屏風	寄贈
	長井亮之 ながいりょうし 1904-2004	秋景色	昭和20~30年代	59.0×71.3	紙本彩色 額装	寄贈
竹内蘆風 たけうちろふう 1874-1939	晩秋	明治後期	74.0×41.5	絹本彩色 額装	寄贈	
油彩画他	森川ユキエ もりかわゆきえ 1918-2009	這	1959年(昭和34)	64.7×79.8	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
		ニッポン・風景	1984年(昭和59)	130.6×162.2	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
	本間ケイ ほんまけい 1942-	ナーガの旅	1996年(平成8)	162.1×130.3	油彩、カンヴァス 額装	寄贈
彫刻	戸張公晴 とばりこうせい 1939-	TORSO	1990年頃(平成2頃)	高さ86.0×横幅 33.5×奥行23.5	ブロンズ	寄贈
立体	コイズミアヤ こいずみあや 1971-	未知の信仰のための空の器 dialogue(対話)	1998年(平成10)	高さ24.0×幅40.0 ×奥行40.0	木、鉛、銅、アクリル絵具	寄贈
		未知の信仰のための空の器 pursuit(追求)	1998年(平成10)	高さ24.0×幅40.0 ×奥行40.0	木、鉛、銅、アクリル絵具	寄贈
		未知の信仰のための空の器 meditation(瞑想)	1998年(平成10)	高さ24.0×幅40.0 ×奥行40.0	木、鉛、銅、アクリル絵具	寄贈
		未知の信仰のための空の器 link(環)	1998年(平成10)	高さ24.0×幅40.0 ×奥行40.0	木、鉛、銅、アクリル絵具	寄贈

日本の美術

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
日本画	池上秀欽 いけがみしゅうほ 1874-1944	群鹿図	1907年頃(明治40頃)	各115.0×188.0	紙本彩色 二曲一双屏風	寄贈
	広川松五郎 ひろかわまつごろう 1889-1952	白梅	制作年不明	50.0×30.0	紙本彩色 軸装	寄贈
油彩画他	堀内康司 ほりうちこうじ 1932-2011	開墾	1955年(昭和30)	46.0×62.4(窓寸)	鉛筆、クレヨン、パステル、紙 額装	寄贈
		無題(案山子)	1956年(昭和31)	47.2×64.0	鉛筆、色鉛筆、インク、パステル、紙 まくり	寄贈
		日本海(浦本の浜辺・青海、糸魚川、カジ屋敷)	1950年代	47.3×62.1	鉛筆、色鉛筆、グワッシュ、紙 まくり	寄贈
工芸	広川松五郎 ひろかわまつごろう 1889-1952	襖絵紅梅図(光琳梗概図)	1946年頃(昭和21頃)	各170.0×85.0 4点組	麻地 染色 襖	寄贈
		染付牡丹額	1949年頃(昭和24頃)	23.0×87.0	布 染色 額	寄贈
		風呂先屏風	1935年頃(昭和10頃)	52.0×174.0	絹 臈纈染 屏風	寄贈
		銀鱗 松五郎陶画	昭和初期	15.0×12.0	陶 彩色	寄贈
素描	広川松五郎 ひろかわまつごろう 1889-1952	冊子	制作年不明	15.0×10.0	冊子	寄贈
		資料	中村彝 なかむらつね 1887-1924	中村彝・洲崎義郎交友関係書簡類等	1917~75年頃 (大5~昭50頃)	葉書、書状他 合計22通
デザイン	佐野研二郎 さのけんじろう 1972-	東京デザインウィークにおける企画 展出品ポスター(HOKUSAI_LINE)	2014年(平成26)	6点組	ポスター まくり	寄贈
	三木健 みぎけん 1955-	個展の告知ポスター「APPLE+」	2015年(平成27)	145.6×103.0 3点組	デジタル・プリント まくり	寄贈

世界の美術

分野	作家名(生歿年)	作品名	制作年	寸法(cm)	素材・技法・形状	購入・寄贈
油彩画他	アンリ・オットマン Henri Ottmann 1877-1927	屏風の前の裸婦	1920年頃	81.0×100.3	油彩、カンヴァス 額装	寄贈

新収蔵品

新[潟]の[美]術



日本画
岩田正巳《手向の花》



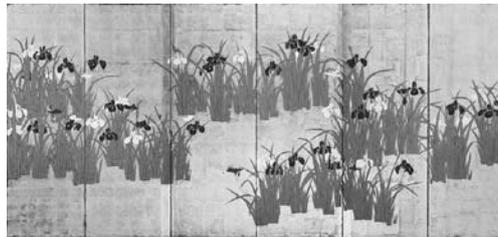
日本画
本間翠峰《菖蒲図屏風(二曲一隻)》



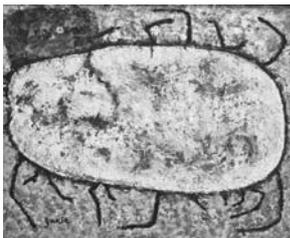
日本画
長井亮之《秋景色》



日本画
竹内蘆風《晩秋》



日本画
本間翠峰《菖蒲図屏風(六曲一隻)》



油彩画他
森川ユキエ《這》



油彩画他
本間ケイ《ナーガの旅》



立体
コイズミアヤ《未知の信仰のための
空の器 dialogue(対話)》



立体
コイズミアヤ《未知の信仰のための
空の器 pursuit(追求)》



油彩画他
森川ユキエ《ニッポン・風景》



彫刻
戸張公晴《TORSO》



立体
コイズミアヤ《未知の信仰のための
空の器 meditation(瞑想)》



立体
コイズミアヤ《未知の信仰のための
空の器 link(環)》

日本の美術



油彩画他
堀内康司《開墾》



油彩画他
堀内康司《無題〈案山子〉》



油彩画他
堀内康司《日本海(浦本の浜辺・青海、糸魚川、カシ屋敷)》



工芸
広川松五郎《換絵紅梅図(光琳梗概図)》



日本画
広川松五郎《白梅》



工芸
広川松五郎《染付牡丹額》



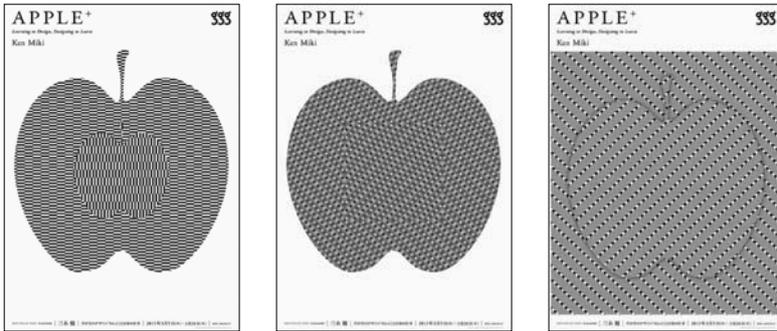
工芸
広川松五郎《銀鱗松五郎陶画》



工芸
広川松五郎《風呂先屏風》



デザイン
佐野研二郎《東京デザインウィークにおける企画展出品ポスター〈HOKUSAI_LINE〉》



デザイン
三木健《個展の告知ポスター「APPLE+」》



資料
中村彝《中村彝・洲崎義郎交友関係書簡類等》

世界の美術



油彩画他
アンリ・オットマン《屏風の前の裸婦》

美術品の修復

平成28年度 修復作品一覧

分野	作家名	作品名	制作年	修復内容	修復者	修復期間	
油彩画他	矢部友衛	わらを打つ	1951年	画面修復、額装改善（板張り除去、枠張り込み、張りの調整、金具による固定、裏面蓋装備等）	有限会社修復研究所21（東京都）	平成28年9月28日～ 平成29年3月17日	
	堀内康司	日本海(浦本の浜辺・青海、糸魚川、カジ屋敷)	1950年代	額装新調			
		無題(案山子)	1956年				
版画	深澤索一	新東京百景 築地	1929年	額装交換	有限会社はにわ（長岡市）	平成29年3月30日 （現地装備）	
	泉茂	築地風景	1933年				
	谷中安規		影絵芝居扉	1932年			額装新調
			影絵芝居第二景	1932年			
			影絵芝居第三景	1932年			
			影絵芝居第四景	1932年			
			影絵芝居第八景	1932年			
			影絵芝居第九景	1932年			
			影絵芝居第十景	1932年			
			影絵芝居第十一景	1932年			
			影絵芝居第十二景	1932年			
			影絵芝居第十三景	1932年			
	坂本善三		風	1984年			額装新調
			双	1984年			
			紀	1984年			
			玄	1987年			
			形	1987年			
	難波田龍起		海の時間	1983年			額装新調
			立像	1985年			
			怪奇な夢	1985年			
			古代的幻想	1985年			
			生物的形象A	1991年			
			生物的形象B	1991年			
			集合体	1991年			
			生命体	1991年			
			生成の詩A	1991年			
			生成の詩B	1992年			
カボグロッシ		QUARZO 1	1970年	額装新調			
		QUARZO 2	1970年				
		QUARZO 3	1970年				
		QUARZO 4	1970年				
		QUARZO 5	1970年				
		QUARZO 6	1970年				
		QUARZO 7	1970年				
		QUARZO 8	1970年				
		QUARZO 9	1970年				
		QUARZO 10	1970年				

美術品の燻蒸

平成27、28年度の収藏品等を燻蒸し、収蔵庫に収めた。

平成28年度 燻蒸作品一覧

分野	作家名	作 品 名
日本画	池上秀畝	群鹿図
日本画	岩田正巳	手向けの花
日本画	清水規	富岳
日本画	瀧和亭	四季花鳥画冊
日本画	瀧和亭	長谷川嵐渓像大月磐渓題
日本画	竹内蘆風	秋之図
日本画	長谷川嵐渓	仙山楼閣図
日本画	長谷川嵐渓	離合山水図
日本画	長谷川嵐渓	墨蘭図
日本画	長谷川嵐渓	墨竹図
日本画	長谷川嵐渓他	墨蘭図、牡丹図、七言詩
日本画	長谷川嵐渓	四季山水画冊
日本画	本間翠峰	菖蒲図屏風
日本画	長井亮之	秋景色
油画その他	木下晋	自画像
油画その他	本間ケイ	ナーガの旅
油画その他	牧野虎雄	秋近き浜
油画その他	三芳悌吉	歩道
油画その他	三芳悌吉	静物
油画その他	森川ユキエ	這
油画その他	森川ユキエ	ニッポン・風景
彫刻	野上公平	燦燦No.9
彫刻	野上公平	雲の行方No.8
彫刻	戸張公正	TORSO
工芸	広川松五郎	襖絵紅梅図（光琳梗概図）
工芸	広川松五郎	染付牡丹額
工芸	広川松五郎	風呂先屏風
工芸	広川松五郎	白梅
水彩	佐藤哲三	小鳥
素描	佐藤哲三	農婦
素描	佐藤哲三	自転車屋の職人の肖像
デザイン	三木健	個展の告知ポスター「APPLE+」
デザイン	佐野研二郎	東京デザインウィークにおける企画展出品ポスター 《HOKUSAI LINE》
資料	中村彝	洲崎義郎交友関係書簡類等
資料	長谷川嵐渓	長濱久六宛書簡
資料	広川松五郎	銀鱗 松五郎陶画
資料	広川松五郎	冊子

燻蒸者	株式会社サニーサニター（新潟県）
実施期間	平成28年11月18日～25日
使用薬剤	エキヒュームS
燻蒸方法	包み込み燻蒸処理

美術品の貸出

平成28年度 作品貸与一覧 (近代美術館所管作品)

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名			
ピアズリーと日本	宇都宮美術館	平成27年12月6日～平成28年1月31日	オーブリー・ピアズリー他	イエロー・ブック第1巻			
	滋賀県立近代美術館	平成28年2月6日～3月27日		イエロー・ブック第2巻			
	新潟県立万代島美術館	平成28年4月29日～6月26日		イエロー・ブック第3巻			
	石川県立美術館	平成28年7月23日～8月28日		イエロー・ブック第4巻			
森羅万象を刻むーデューラーから柄澤齊へ	町田市立国際版画美術館	平成28年4月29日～6月19日	アルブレヒトデューラー	メレンコリア I			
亀倉雄策と歩む	ニコンミュージアム	平成28年7月4日～10月1日	亀倉雄策資料	定規			
			亀倉雄策資料	めがね			
			亀倉雄策資料	万年筆			
			亀倉雄策資料	えんぴつけずり			
			亀倉雄策資料	えんぴつけずり			
			亀倉雄策資料	はさみ			
			亀倉雄策資料	コンパス			
			亀倉雄策資料	ピンセット			
			亀倉雄策資料	テーブカッター			
			亀倉雄策資料	色鉛筆 (中に8本)			
			亀倉雄策資料	色見本の入ったビニール袋			
			著者: 亀倉雄策 (アントワーヌ・ド・サンテグジュペリ著、堀口大豊訳、第一書房)	『夜間飛行』			
			水をみつめて～新潟県立近代美術館・万代島美術館所蔵品展	小林古径記念美術館	平成28年7月23日～9月4日	小林古径	雨
						宮 芳平	海 その1
尾竹越堂	渡し						
李 禹煥	線より						
麻田鷹司	緒那智						
村山径	雨の渦潮						
横山操	親不知夜雨						
3代 宮田藍堂	指輪 美豆波乃女						
3代 宮田藍堂	指輪 美豆波乃女						
3代 宮田藍堂	ペンダント 海の城						
山崎隆夫	雨						
東山魁夷	森の静寂						
石井柏亭	池						
小野末	夏の街 (街景)						
三輪晃久	秋氣						
高村真夫	ラバクール村						
佐藤哲三	越後の晩秋 (鴻沼村を望む)						
金昌烈	水滴						
テオドル・ルソー	ボートに乗る人のいる夏の風景						
宮田亮平	ゲルからの移行Ⅲ						
三芳悌吉	川とさかなたち15						
三芳悌吉	川とさかなたち18						
三芳悌吉	川とさかなたち21						
栢森琢也	生動						
福岡奉彦	海と鳥						
三輪晃勢	游						
國領経郎	遠い海						
小原 稔	サンパンがゆく						
安宅安五郎	水泳						
牧野虎雄	秋近き濱						
歌川広重	大磯・虎ヶ雨						
歌川広重	府中・安部川						
歌川広重	庄野・白雨						
「レオナルド・フジタとモデルたち」	DIC川村記念美術館	平成28年9月17日～平成29年1月15日				藤田嗣治	私の夢
	いわき市立美術館	平成29年4月15日～5月28日					
	新潟県立万代島美術館	平成29年6月24日～9月3日					
	秋田県立美術館	平成29年9月9日～11月12日					
「日本におけるキュビズムーピカソ・インパクト」	鳥取県立博物館	平成28年10月1日～11月13日	山口薫	夜明けの顔			
	埼玉県立近代美術館	平成28年11月23日～平成29年1月29日	坂田一男	椅子による裸婦			
	高知県立美術館	平成29年2月12日～3月26日	阿部展也	予言者			

「退任記念展 宮田亮平 喜怒哀楽」	東京藝術大学大学美術館	平成28年11月14日～11月23日	宮田亮平	ゲルからの移行皿
「動き出す！ 絵画」	和歌山県立近代美術館	平成28年11月19日～平成29年1月15日	岸田劉生 オーギュスト・ロダン	冬枯れの道路（原宿附近写生） 疲れ
「新潟の院展作家たち展」	新潟市新津美術館	平成29年2月4日～3月20日	小林古径	文殊
			藤田熊雄	とむらい
			小林大幾	佐渡の舟庫
			小林大幾	伊豆の七瀧
			斎藤満栄	橋（カレル）
			大矢 紀	信仰の島
大矢 紀	北岬			
			大矢十四彦	明けゆく

平成28年度 作品貸与一覧（万代島美術館所管作品）

展覧会名	貸出先	会期	作家名	作品名
水をみつめて 新潟県立近代美術館・ 万代島美術館所蔵作品展	小林古径記念美術館	平成28年7月23日～9月4日	ロイ・リキンスティン	睡蓮と柳
			千住博	WATERFALL
			竹内浩一	ぶどうに雨
夜明け前 知られざる日本写真開拓 史総集編	東京都写真美術館	平成29年3月7日～5月7日	金井弥一	籠手田知事令嬢
			不詳	横山松三郎像
			不詳	鈴木真一先生ご夫妻
			不詳	九段鈴木先生御夫妻

管 理 ・ 運 営



新潟県立近代美術館

コレクション展観覧者数

期間 (企画展名)	第1期 H28 4/1~5/22 (47日間)		第2期 H28 5/26~8/28 (85日間)			第3期 H28 9/1~12/4 (83日間)			第4期 H28 12/8~H29 3/20 (84日間)			第1期 H29 3/24~3/31 (7日間)	合計 (年間306日)	
	4/1~5/15 41日間 (ジブリの大博覧会 思い出のマーニー ×種田陽平展)	5/17~5/22 6日間 (コレクション 展のみ)	5/26~6/3 8日間 (コレク ション展の み)	6/4~8/21 71日間 (モネ展)	8/23~8/28 6日間 (コレクショ ン展のみ)	9/1~9/9 8日間 (コレクショ ン展のみ)	9/10~11/27 69日間 (ヴェネツィ ア展)	11/29~12/4 6日間 (コレクショ ン展のみ)	12/8~12/11 4日間 (コレクショ ン展のみ)	12/13~1/15 25日間 (良寛と 巻菱湖 展のみ)	1/17~3/20 55日間 (コレクショ ン展のみ)	3/24~3/31 7日間 (コレクション 展のみ)		
個 人	一般	68	49	69	86	105	102	66	48	28	36	654	95	1,406
	大学・高校生	4	0	0	21	11	9	8	2	3	3	65	9	135
小 計		72	49	69	107	116	111	74	50	31	39	719	104	1,541
		121		292			235			789			104	
団 体	一般	10	0	0	10	10	2	10	0	0	2	11	2	57
	大学・高校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小 計		10	0	0	10	10	2	10	0	0	2	11	2	57
		10		20			12			13			2	
無料	145	31	16	78	73	21	65	60	13	19	579	33	1,133	
免除	5	7	14	0	9	9	0	5	10	0	77	13	149	
企画展チケット	7,103	0	0	43,993	0	0	9,457	0	0	1,340	0	0	61,893	
合計	7,335	87	99	44,188	208	143	9,606	115	54	1,400	1,386	152	64,773	
	7,422		44,495			9,864			2,840			152		
コレクション展のみ合計(再掲)	232	87	99	195	208	143	149	115	54	60	1,386	152	2,880	
	319		502			407			1,500			152		

*無料には友の会会員を含む。

企画展観覧者数

企画展名	ジブリの大博覧会 思い出のマーニー×種田陽平展 4/1~5/15(41日間)	マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展 6/4~8/21(71日間)	ボストン美術館 ヴェネツィア展 9/10~11/27(69日間)	良寛と巻菱湖 12/13~1/15(25日間)	合計	
個 人	一般	57,334	57,124	10,743	1,141	126,342
	大学・高校生	3,906	2,538	411	36	6,891
小 計		61,240	59,662	11,154	1,177	133,233
団 体	一般	34	774	295	127	1,230
	大学・高校生	55	70	38	1	164
小 計		89	844	333	128	1,394
前 売	18,294	17,718	5,108		41,120	
無 料	39,148	15,988	4,115	438	59,689	
免 除	2,582	4,041	1,341	139	8,103	
合 計	121,353	98,253	22,051	1,882	243,539	

企画展名	ジブリの大博覧会	思い出のマーニー×種田陽平展	マルモッタン・モネ美術館所蔵 モネ展	ボストン美術館 ヴェネツィア展	良寛と巻菱湖	合計
図録販売数(冊)	2,411	362	2,228	397	360	5,758
音声ガイド使用数(台)	2,317		13,314	2,922		18,553

共催展

展覧会名	会期	日数	観覧者数
第46回世界児童画展	8/5～8/11	7	1,328
第27回MOA美術館長岡児童作品展	10/20～10/28	8	918
第20回長岡市中学校美術部作品展	11/14～11/15	2	807
第18回亀倉雄策賞受賞記念 三木健展 [りんごデザイン研究所] 新潟巡回展	11/19～12/11	18	1,414
第20回友の会文化祭・作品展	12/20～12/25	6	146
第47回県ジュニア美術展覧会「長岡展」	1/28～2/8	10	3,036
こどもものづくり大学校	3/18～3/26	6	680
計		57	8,329

巡回ミュージアム

開催地	会場名	会期	日数	観覧者数
糸魚川市	青海総合文化会館1階ギャラリー	9/13～9/22	10	1,331
計			10	1,331

総観覧者数

	常設展	企画展	共催展	巡回ミュージアム	合計
観覧者数	2,880	243,539	8,329	1,331	256,079

*常設展および企画展どちらも観覧した者を加えた常設展観覧者総数は64,773名。

新潟県立万代島美術館

所蔵品展・企画展 観覧者数

展覧会名	所蔵品展 現代のアートと デザイン	ピアズリーと 日本	スタジオジブリ・ レイアウト展	所蔵品展 美術家の青春	鴻池朋子展	マリメッコ展	合計	
期間	4/1～4/17 (16日間)	4/29～6/26 (55日間)	7/16～10/10 (84日間)	10/27～12/4 (36日間)	12/17～2/12 (48日間)	3/4～3/31 (26日間)		
個人	一般	465	3,277	22,708	898	2,977	5,234	35,559
	大高生	48	199	3,497	54	287	706	4,791
	小計	513	3,476	26,205	952	3,264	5,940	40,350
団体	一般		139	154		16	15	324
	大高生		33	52		68	30	183
	小計	0	172	206	0	84	45	507
前売(一般のみ)	—	502	2,923	—	547	2,825	6,797	
招待	263	983	2,752	333	1,088	689	6,108	
無料	78	285	8,807	98	339	1,119	10,726	
免除	82	348	1,481	166	305	333	2,715	
合計	936	5,766	42,374	1,549	5,627	10,951	67,203	

*所蔵品展の無料には友の会会員を含む

**小中学生は無料を含む

***招待：封筒、ピラ下、パス、その他、招待券、開場式

講堂・ギャラリーの貸出

県民の文化活動の促進に資するため、新潟県立近代美術館講堂及びギャラリー使用要項に則り、講堂は1日につき27,100円、ギャラリーは1日につき17,700円で貸し出した。

講堂使用状況

使用日	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
4/3	1日間	おさらい会	ピアノ発表会	120
4/14	半日間	音楽研究会	音楽研究会	40
4/24	1日間	翼の会発表会	ピアノ・歌の演奏会	80
5/21	半日間	長岡市私立幼稚園認定こども園協会・中越地区研修会	総会・研修会	193
5/29	半日間	大人のおさらい会	ピアノ発表会	25
6/23	半日間	5年以内層研修会	研修会	80
6/24	半日間	ふたつの介護セミナー	講習会	100
8/4	半日間	女声合唱講義・練習	女声合唱講義・練習	26
8/28	1日間	Wind of music	音楽教室発表会	50
9/4	半日間	ミニ発表会	ミニ発表会	60
9/9	半日間	音楽研究会	音楽研究会	40
9/17	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	132
9/18	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
10/1	1日間	シャンソンの発表会	発表会	168
10/13	半日間	音楽研究会	音楽研究会	40
10/15	1日間	長岡さくらの会10周年記念演奏会	演奏及び語り	194
10/23	1日間	新潟県競書大会表彰式	特別賞受賞者の表彰	180
10/29	1日間	大人のピアノ発表会	発表演奏会	60
10/30	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	108
11/3	1日間	ピアノスタジオアンダンテピアノ発表会	ピアノ発表会	200
11/6	半日間	ピアノ発表会	ピアノ演奏	120
11/12	1日間	50周年ギターコンサート	演奏会	153
11/17	半日間	吹奏楽練習	吹奏楽部の練習	27
11/19	半日間	ピアノ発表会	発表会	102
11/20	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	120
11/23	1日間	ミュージックスクール合同発表会2016	音楽発表会	69
11/26	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	60
11/27	半日間	カワイ・ドルチェの会発表会	ピアノ発表会	80
11/30	1日間	動物取扱責任者研修会	取扱業者への法定研修	190
12/3	1日間	ピアノコンサート	ピアノ発表会	80
12/11	半日間	エリーゼの会 ピアノ発表会	ピアノ発表会	100
12/17	1日間	2016ピアノコンサート	ピアノ教室発表会	40
1/29	半日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	70
2/24	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	92
2/26	1日間	新潟県書き初め、硬筆書き初め大会	表彰式	270
2/28	半日間	長岡地域「新之助」栽培研修会	研修会	160
3/4	半日間	越後一席の会	落語会	170
3/11	1日間	ステラ・ムジカ ピアノ発表会	ピアノ発表会	86
3/12	1日間	ティンカーベルピアノ発表会	ピアノ発表会	150
3/18	1日間	滝井ピアノ教室 ファミリーコンサート	ピアノ発表会	130
3/19	半日間	清水ピアノ教室発表会	ピアノ発表会	70
3/20	半日間	辻井ピアノ教室発表会	ピアノ発表会	50
3/25	半日間	長岡アントニアートピアノ発表会	ピアノ発表会	60

以上43件 (延べ日数…32.5日)

合計人数 2,997

ギャラリー使用状況

期 間	日数	行 事 名	内 容	利用者人数
8/15~8/28	14日間	平和展2016	長岡造形大学OB&OG有志会企画展	1,025
10/21~10/23	3日間	新潟県競書大会	優秀作品の展示	3,430
2/24~2/26	3日間	新潟県書き初め、硬筆書き初め大会	優秀作品の展示	6,417
3/4~3/12	8日間	第六回 白雪の会展	グループ展	313

以上4件 (延べ日数…28日)

合計人数 11,185

講座室使用状況

期 間	日数	展 示 会 名	内 容	利用者人数
4/12	1日間	ピアノ発表会	ピアノ発表会	25
4/9	1日間	ファーレン新潟相談会	相談会	4
4/10	1日間	ファーレン新潟相談会	相談会	5
4/12	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
4/26	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
5/10	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
5/31	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	6
6/14	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	14
6/28	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	11
6/29	半日間	研究部会	会議	21
7/5	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	15
7/8	1日間	会議	会議	11
7/12	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	14
7/13	1日間	会議	会議	14
8/9	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
8/10	半日間	カワイ音楽教育研究会	ピアノ講座	40
8/23	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
9/9	1日間	会議	会議	12
9/13	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	11
9/20	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	14
10/4	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	9
10/5	1日間	会議	会議	13
10/15	1日間	長岡さくらの会10周年記念演奏会	演奏及び語り	17
10/18	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	8
10/30	1日間	イリーデピアノコンサート	ピアノ発表会	10
11/1	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	11
11/3	1日間	ピアノスタジオアンダンテピアノ発表会	ピアノ発表会	200
11/4	1日間	会議	会議	11
11/12	1日間	50周年ギターコンサート	演奏会	5
11/19	半日間	ピアノ発表会	発表会	8
11/22	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	12
11/23	1日間	ミュージックスクール合同発表会2016	音楽発表会	25
11/25	半日間	セラピストとしての身体づくり	講習会	4
11/30	1日間	動物取扱責任者研修会	取扱業者への法定研修	2
12/20	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
1/24	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
1/31	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	8
2/10	半日間	会議	会議	8
2/14	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
2/21	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
3/4	半日間	越後一席の会	落語会	10
3/14	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10
3/18	1日間	滝井ピアノ教室 ファミリーコンサート	ピアノ発表会	10
3/28	半日間	フラワーサークル	フラワーアレンジ	10

以上44件 (延べ日数…29.5日)

合計人数 698

新潟県立近代美術館

展覧会名	展覧会開催期間	入場者数	回答者	回収率
ジブリの大博覧会	3月5日～5月15日	182,417	562	0.31%
モネ展	6月4日～8月21日	98,253	730	0.74%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	9月10日～11月27日	22,051	434	1.97%
良寛と巻菱湖	12月13日～1月15日	1,882	31	1.65%
合計		304,603	1,757	0.58%

I 企画展覧会の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
ジブリの大博覧会	53.7%	31.0%	5.5%	5.5%	4.3%	100.0%
モネ展	54.1%	31.8%	6.6%	3.6%	4.0%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	52.8%	38.2%	3.5%	2.1%	3.5%	100.0%
良寛と巻菱湖	35.5%	25.8%	16.1%	16.1%	6.5%	100.0%
平均	49.0%	31.7%	7.9%	6.8%	4.6%	100.0%

II 企画展覧会のきっかけ

展覧会名	新聞記事	新聞広告	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
ジブリの大博覧会	3.9%	6.7%	34.6%	1.0%	8.5%	1.7%	7.0%	1.4%	11.8%	3.1%	12.5%	7.8%	100.0%
モネ展	9.7%	8.9%	29.8%	1.8%	12.8%	4.2%	6.5%	1.6%	8.1%	1.7%	11.1%	3.9%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	10.9%	9.5%	14.9%	1.4%	17.7%	2.3%	7.5%	1.9%	8.1%	4.9%	17.0%	3.9%	100.0%
良寛と巻菱湖	19.0%	9.5%	11.9%	0.0%	7.1%	0.0%	16.7%	7.1%	14.3%	2.4%	9.5%	2.4%	100.0%
平均	10.9%	8.7%	22.8%	1.1%	11.5%	2.1%	9.4%	3.0%	10.6%	3.0%	12.5%	4.5%	100.0%

III コレクション展の感想

展覧会名	大変満足	まあまあ満足	やや不満	かなり不満	無回答	合計
ジブリの大博覧会	37.7%	27.4%	3.6%	2.8%	28.5%	100.0%
モネ展	30.1%	34.7%	4.1%	2.3%	28.8%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	27.9%	29.5%	3.0%	1.2%	38.5%	100.0%
良寛と巻菱湖	19.4%	35.5%	3.2%	3.2%	38.7%	100.0%
平均	28.8%	31.8%	3.5%	2.4%	33.6%	100.0%

IV 普段の情報源

展覧会名	新聞	テレビ	ラジオ	街頭ポスター	雑誌	インターネット	友の会だより	知人	たまたま来て	その他	無回答	合計
ジブリの大博覧会	11.6%	37.1%	4.6%	6.8%	5.2%	20.2%	0.7%	4.5%	1.2%	2.1%	6.1%	100.0%
モネ展	19.6%	31.7%	5.3%	7.8%	6.5%	19.0%	0.9%	2.9%	0.7%	1.6%	4.1%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	21.5%	30.0%	5.8%	9.7%	5.4%	17.1%	1.3%	2.7%	1.3%	2.9%	2.4%	100.0%
良寛と巻菱湖	30.2%	13.2%	11.3%	3.8%	0.0%	20.8%	1.9%	7.5%	0.0%	1.9%	9.4%	100.0%
平均	20.7%	28.0%	6.8%	7.0%	4.3%	19.3%	1.2%	4.4%	0.8%	2.1%	5.5%	100.0%

V 当館への来館回数

展覧会名	初めて	2回以上	5回以上	10回以上	無回答	合計
ジブリの大博覧会	41.3%	26.7%	11.0%	10.7%	10.3%	100.0%
モネ展	25.1%	24.4%	19.0%	24.9%	6.6%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	12.7%	23.5%	23.7%	35.5%	4.6%	100.0%
良寛と巻菱湖	12.9%	12.9%	19.4%	41.9%	12.9%	100.0%
平均	23.0%	21.9%	18.3%	28.3%	8.6%	100.0%

VI 展覧会ジャンルの希望

展覧会名	日本画	洋画 (日本)	西洋 絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	その他	無回答	合計
ジブリの大博覧会	9.7%	7.9%	9.9%	5.0%	3.9%	6.1%	4.1%	10.0%	11.6%	9.2%	9.9%	12.8%	100.0%
モネ展	17.5%	10.7%	18.5%	5.7%	5.3%	5.6%	4.1%	8.0%	8.9%	7.2%	3.6%	5.0%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	15.6%	10.2%	20.2%	7.7%	5.4%	6.8%	4.1%	7.8%	7.9%	8.0%	3.4%	2.9%	100.0%
良寛と巻菱湖	19.7%	9.9%	8.5%	4.2%	9.9%	8.5%	16.9%	7.0%	2.8%	4.2%	1.4%	7.0%	100.0%
平均	15.6%	9.7%	14.3%	5.7%	6.1%	6.8%	7.3%	8.2%	7.8%	7.2%	4.6%	6.9%	100.1%

(性別)

展覧会名	男性	女性	無回答	合計
ジブリの大博覧会	29.2%	54.8%	16.0%	100.0%
モネ展	29.9%	60.8%	9.3%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	31.8%	56.9%	11.3%	100.0%
良寛と巻菱湖	38.7%	38.7%	22.6%	100.0%
平均	32.4%	52.8%	14.8%	100.0%

(お住まい)

展覧会名	長岡市	新潟市	県内	県外	無回答	合計
ジブリの大博覧会	19.6%	28.1%	24.0%	11.6%	16.7%	100.0%
モネ展	20.0%	30.0%	28.9%	11.2%	9.9%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	22.4%	25.1%	35.3%	7.1%	10.1%	100.0%
良寛と巻菱湖	22.6%	22.6%	25.8%	12.9%	16.1%	100.0%
平均	21.2%	26.5%	28.5%	10.7%	13.2%	100.0%

(年代)

展覧会名	小・中 学生	高校・ 大学生	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70才 以上	無回答	合計
ジブリの大博覧会	34.9%	6.4%	1.8%	8.7%	9.4%	8.0%	8.7%	3.9%	2.1%	16.0%	100.0%
モネ展	20.0%	3.0%	0.8%	6.0%	7.1%	10.4%	17.0%	16.7%	8.6%	10.3%	100.0%
ボストン美術館 ヴェネツィア展	13.8%	4.4%	0.2%	9.0%	8.5%	13.4%	18.0%	14.1%	8.8%	9.9%	100.0%
良寛と巻菱湖	0.0%	0.0%	0.0%	6.5%	6.5%	6.5%	29.0%	22.6%	12.9%	16.1%	100.0%
平均	17.2%	3.5%	0.7%	7.6%	7.9%	9.6%	18.2%	14.3%	8.1%	14.0%	100.0%

新潟県立万代島美術館

展覧会名	会期	入館者数	アンケート回収数	アンケート回収率
現代のアートとデザイン	平成28年(3月12日)4月1日～4月17日	936	12	1.3%
ピアズリーと日本	平成28年4月29日～6月26日	5,766	289	5.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	平成28年7月16日～10月10日	42,374	1,506	3.6%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	平成28年10月27日～12月4日	1,549	55	3.6%
鴻池朋子展	平成28年12月17日～平成29年2月12日	5,627	192	3.4%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	平成29年3月4日～3月31日(6月11日)	10,951	156	1.4%
合 計		67,203	2,210	3.3%

※全体会期のうち、平成28年度の数を抽出

※全体会期のうち、平成28年度の数を抽出

展覧会の感想

展覧会名	良かった	まあまあ良かった	やや不満	かなり不満	無回答	合 計
現代のアートとデザイン	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
ピアズリーと日本	74.7%	21.1%	1.0%	0.7%	2.4%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	79.9%	14.3%	1.7%	1.1%	3.1%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	58.2%	25.5%	3.6%	0.0%	12.7%	100.0%
鴻池朋子展	69.3%	19.8%	4.2%	2.1%	4.7%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	75.6%	17.9%	3.8%	0.6%	1.9%	100.0%
平 均	68.0%	20.6%	2.4%	0.7%	8.3%	100.0%

作品や作家についての解説

展覧会名	適度な量である	量が少ない	量が多い	その他	無回答	合 計
現代のアートとデザイン	58.3%	25.0%	0.0%	0.0%	16.7%	100.0%
ピアズリーと日本	69.4%	8.2%	8.5%	2.0%	11.9%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	59.2%	7.9%	14.0%	1.6%	17.3%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	61.8%	9.1%	7.3%	0.0%	21.8%	100.0%
鴻池朋子展	64.6%	15.9%	1.0%	2.1%	16.4%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	64.7%	16.0%	3.8%	0.0%	15.4%	100.0%
平 均	63.0%	13.7%	5.8%	0.9%	16.6%	100.0%

展覧会名	わかりやすい	難しい	簡単すぎる	無回答	合 計
現代のアートとデザイン	58.3%	8.3%	16.7%	16.7%	100.0%
ピアズリーと日本	77.2%	14.9%	1.0%	6.9%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	69.3%	18.4%	1.5%	10.9%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	74.5%	9.1%	3.6%	12.7%	100.0%
鴻池朋子展	57.3%	25.5%	1.6%	15.6%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	73.7%	13.5%	3.8%	9.0%	100.0%
平 均	70.4%	16.3%	2.3%	11.0%	100.0%

展覧会についてどのようにお知りになりましたか

展覧会名	ポスター・チラシ	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌・フリーペーパー	知人	友の会・便り	web	その他	無回答	計
現代のアートとデザイン	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	8.3%	8.3%	0.0%	25.0%	8.3%	16.7%	100.0%
ピアズリーと日本	34.7%	11.7%	6.7%	0.3%	4.0%	13.8%	1.5%	18.7%	7.4%	1.2%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	34.5%	3.9%	23.0%	0.7%	2.5%	12.1%	1.0%	10.2%	9.3%	2.9%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	32.8%	6.6%	1.6%	1.6%	3.3%	4.9%	1.6%	19.7%	18.0%	9.8%	100.0%
鴻池朋子展	35.6%	12.4%	9.8%	0.0%	0.4%	14.7%	0.9%	17.3%	4.9%	4.0%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	33.5%	12.0%	14.4%	3.3%	7.2%	8.6%	0.5%	10.0%	8.1%	2.4%	100.0%
平 均	34.1%	7.7%	9.2%	1.0%	4.3%	10.4%	0.9%	16.8%	9.3%	6.2%	100.0%

お客様ご自身について

(1) 性別

展覧会名	男性	女性	(不明)	計
現代のアートとデザイン	16.7%	75.0%	8.3%	100.0%
ピアズリーと日本	31.1%	65.1%	3.8%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	29.0%	65.9%	5.1%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	45.5%	45.5%	9.1%	100.0%
鴻池朋子展	24.0%	72.9%	3.1%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	10.3%	86.5%	3.2%	100.0%
平均	26.1%	68.5%	5.4%	100.0%

(2) 年代

展覧会名	中学生以下	高校生	左記以外の10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	(無回答)	計
現代のアートとデザイン	8.3%	0.0%	0.0%	8.3%	41.7%	8.3%	25.0%	0.0%	0.0%	8.3%	100.0%
ピアズリーと日本	7.6%	1.4%	3.5%	18.3%	12.1%	21.8%	17.3%	11.4%	4.5%	2.1%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	37.0%	7.2%	4.1%	22.2%	9.6%	9.0%	5.3%	2.0%	0.6%	3.1%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	9.1%	1.8%	1.8%	12.7%	9.1%	16.4%	21.8%	14.5%	9.1%	3.6%	100.0%
鴻池朋子展	2.1%	5.2%	4.7%	21.4%	19.8%	16.1%	17.7%	9.4%	2.6%	1.0%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	22.4%	4.5%	3.2%	19.2%	8.3%	12.2%	13.5%	10.9%	1.9%	3.8%	100.0%
平均	14.4%	3.3%	2.9%	17.0%	16.8%	14.0%	16.8%	8.0%	3.1%	3.7%	100.0%

(3) お住まい

展覧会名	新潟市内	新潟市以外の下越地区	佐渡地区	中越地区	上越地区	県外・海外	(無回答)	計
現代のアートとデザイン	66.7%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%	16.7%	8.3%	100.0%
ピアズリーと日本	45.0%	11.1%	1.0%	14.9%	2.1%	20.8%	5.2%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	34.1%	11.8%	1.2%	14.1%	3.3%	28.6%	6.9%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	45.5%	7.3%	1.8%	12.7%	0.0%	23.6%	9.1%	100.0%
鴻池朋子展	41.7%	13.5%	1.6%	14.6%	3.6%	14.6%	10.4%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	52.6%	9.6%	0.0%	14.7%	0.6%	12.2%	10.3%	100.0%
平均	47.6%	8.9%	2.3%	11.8%	1.6%	19.4%	8.4%	100.0%

(4) 当館へは主としてどんな交通手段でおいでになりますか。

展覧会名	自家用車	徒歩・自転車	バス	タクシー	電車	貸切バス	その他	(無回答)	計
現代のアートとデザイン	46.2%	15.4%	23.1%	0.0%	7.7%	0.0%	0.0%	7.7%	100.0%
ピアズリーと日本	44.9%	11.6%	22.4%	2.6%	11.9%	0.3%	5.3%	1.0%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	61.9%	8.3%	12.8%	2.0%	8.5%	0.4%	2.9%	3.2%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	31.1%	23.0%	29.5%	0.0%	9.8%	1.6%	0.0%	4.9%	100.0%
鴻池朋子展	45.5%	17.1%	19.8%	0.9%	11.3%	0.0%	2.3%	3.2%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	58.3%	10.3%	15.4%	1.1%	10.3%	1.1%	0.6%	2.9%	100.0%
平均	48.0%	14.3%	20.5%	1.1%	9.9%	0.6%	1.8%	3.8%	100.0%

(5) 万代島美術館に来たのは何回目ですか

展覧会名	初めて	2～4回目	5回以上	回答なし	計
現代のアートとデザイン	16.7%	33.3%	33.3%	16.7%	100.0%
ピアズリーと日本	32.2%	29.1%	37.7%	1.0%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	57.6%	26.6%	13.1%	2.8%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	29.1%	20.0%	45.5%	5.5%	100.0%
鴻池朋子展	18.2%	26.6%	51.6%	3.6%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	33.3%	36.5%	25.6%	4.5%	100.0%
平均	31.2%	28.7%	34.5%	5.7%	100.0%

(6) 当館に限らず年に何回展覧会に来ますか

展覧会名	1回以下	2～4回目	5回以上	回答なし	計
現代のアートとデザイン	0.0%	38.5%	38.5%	23.1%	100.0%
ピアズリーと日本	14.9%	38.8%	42.9%	3.5%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	45.6%	41.2%	9.6%	3.6%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	7.3%	41.8%	45.5%	5.5%	100.0%
鴻池朋子展	7.8%	44.3%	44.8%	3.1%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	28.8%	44.2%	19.9%	7.1%	100.0%
平均	17.4%	41.5%	33.5%	7.6%	100.0%

(7) どんなジャンルの展覧会を望みますか

展覧会名	日本画	洋画	西洋絵画	彫刻	版画	工芸	書	写真	デザイン	現代美術	県人作家	アジアの美術	絵本	アニメーション・マンガ	その他	無回答	計
現代のアートとデザイン	18.4%	6.1%	14.3%	10.2%	6.1%	6.1%	8.2%	6.1%	4.1%	4.1%	2.0%	2.0%	4.1%	6.1%	0.0%	2.0%	100.0%
ピアズリーと日本	11.6%	7.9%	15.3%	5.3%	6.9%	6.2%	2.0%	7.1%	9.2%	9.2%	1.3%	3.0%	6.7%	6.3%	0.9%	1.1%	100.0%
スタジオジブリ・レイアウト展	9.0%	5.6%	8.2%	2.9%	2.3%	3.2%	2.0%	10.7%	7.1%	4.5%	0.6%	1.3%	11.0%	27.3%	1.6%	2.7%	100.0%
美術家の青春—ここから、絵が生まれる	12.7%	11.3%	12.2%	9.4%	7.0%	7.0%	4.2%	5.6%	5.6%	7.5%	3.3%	2.8%	3.3%	5.6%	0.9%	1.4%	100.0%
鴻池朋子展	11.7%	8.3%	12.0%	5.8%	4.5%	8.3%	2.6%	7.6%	6.6%	12.0%	2.1%	3.4%	7.0%	5.2%	1.5%	1.5%	100.0%
マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル	7.3%	7.5%	11.8%	3.7%	3.9%	5.9%	3.5%	7.7%	13.8%	6.5%	1.8%	2.6%	12.0%	8.5%	1.2%	2.2%	100.0%
平均	11.8%	7.8%	12.3%	6.2%	5.1%	6.1%	3.7%	7.5%	7.7%	7.3%	1.9%	2.6%	7.3%	9.9%	1.0%	1.8%	100.0%

組織及び業務

新潟県立美術館の業務【20年4月現在】

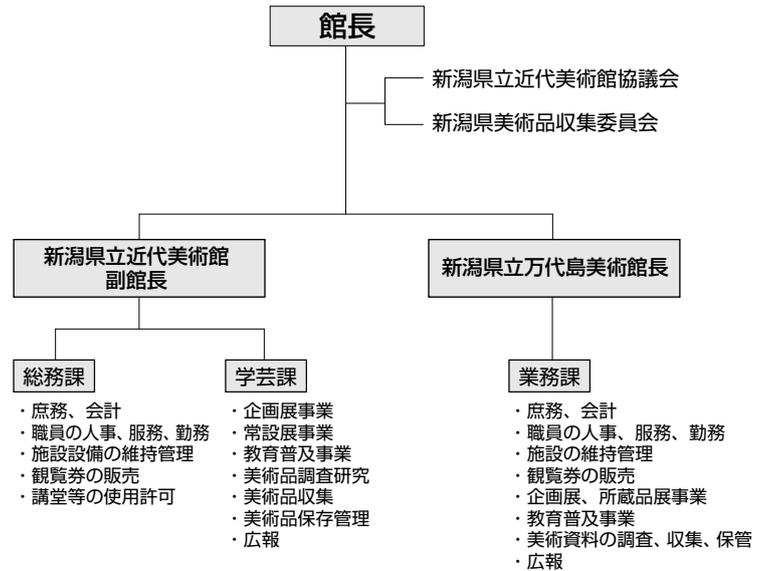
■新潟県立近代美術館条例（平成5年3月31日 新潟県条例第24号）（抜粋）

（設置）第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、新潟県立美術館（以下「美術館」という）を長岡市千秋3丁目に設置する。

2 前項に規定する美術館には、教育委員会の定めるところにより、分館として新潟県立万代島美術館（以下「万代島美術館」という。）を設置する。

（事業）第2条 美術館は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術品、美術に関する資料等（以下「美術品等」という）の収集、保管及び展示
- (2) 美術品等の利用に関し必要な説明、助言、指導等
- (3) 美術品等の調査及び研究
- (4) 美術品等に関する講演会、講習会、映写会等の主催及びその開催の援助
- (5) 前各号に掲げるもののほか、美術館の目的を達成するために必要な事業



職員

新潟県立近代美術館

館長	徳永 健一
副館長	丸山 実
●総務課 総務課長	高尾 和明
主査	茨木 晃
主任	重高 優子
非常勤職員	佐藤真希子
非常勤職員	佐野 一美
●学芸課 学芸課長	藤田 裕彦
専門学芸員	松矢 国憲
学芸課長代理	青木 善治
学芸課長代理	平石 昌子
学芸課長代理	宮下 東子
副参事	宇賀田和雄
主任学芸員	濱田真由美
主任学芸員	伊澤 朋美
美術学芸員	松本奈穂子
臨時的任用職員	松本 美樹（～H28.9.30）
臨時的任用職員	渡邊 一麦（H28.10.1～H29.3.31）
嘱託員	佐藤 和子
嘱託員	佐藤 友紀
嘱託員	風間佳代子（～H28.12.31）
嘱託員	村越万友美
嘱託員	深井 尚子
嘱託員	酒井 真李
嘱託員	武 紗織
嘱託員	中村 有斐
嘱託員	砂山 冴貴（H29.1.1～）

新潟県立万代島美術館

近代美術館万代島美術館長	川口 剛
●業務課 業務課長	桐原 浩
課長代理	板垣 和美
課長代理	澤田 佳三
課長代理	今井 有
主査	斎藤 百子
主任学芸員	池田 珠緒
美術学芸員	飯島沙耶子
臨時的任用職員	五十嵐千春（～H28.11.11）
臨時的任用職員	今井 依里（H28.11.14～H29.3.31）
嘱託員	天木ひかり
嘱託員	中嶋 美幸
嘱託員	豊島 晶子
嘱託員	齋藤 恵理
嘱託員	長井恵美子
嘱託員	佐藤美香子

新潟県立近代美術館

【施設概要】

〈名 称〉新潟県立近代美術館
 〈所 在 地〉新潟県長岡市千秋3丁目278-14
 〈設 計〉(株)日本設計
 造園設計 (株)日本設計・(株)日本造園
 設計期間 1990年9月～1991年2月
 〈監 理〉新潟県土木部都市整備局宮繕課
 (株)日本設計

〈施 工〉大成・吉原・小杉特定共同企業体
 電気工事 六興・大原・長岡特定共同企業体
 空調工事 三建・日立・越後特定共同企業体
 衛生工事 ナカムラ・北陸特定共同企業体
 ガス工事 北陸瓦斯(株)
 昇降機工事 日本オーチスエレベーター
 備品工事 (株)高島屋
 植栽工事 北陸緑化、ニューガーデン、
 長生園、宮川苑、吉茂造園、
 鈴木造園、新潟造園土木、
 長岡ガーデン、川崎農園、
 グリーン産業、松本造園

工事期間 1991年7月29日～1993年5月31日
 〈総工事費〉 9,859,851千円
 支出内訳
 建築工事費 7,442,809千円
 造園工事費 1,216,187千円
 電気工事費 79,654千円
 展示工事費 1,121,201千円
 〈主体構造〉 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、
 プレストレストコンクリート梁

基礎・地業 PHC抗
 〈規 模〉 地下1階、地上2階、塔屋1階
 軒高 13.0m
 最高高 19.250m
 主なスパン 3.9m
 階高 5.7m

〈面 積〉 敷地面積 33,800㎡
 建築面積 9,133㎡
 延床面積 10,723㎡
 地下-機械室・電気室 716㎡
 1階-展示室・収蔵庫・講堂・
 事務室・他 8,873㎡
 2階-レストラン・県民ギャラリー
 1,064㎡
 屋階-ELV機械室
 地域地区 市街化調整区域

〈面積配分〉
 導入部門 1,356㎡
 (エントランスホール636㎡、ロビー 576㎡、ほか)
 展示部門 2,674㎡
 (常設展示室391㎡+472㎡+265㎡、
 企画展示室1,332㎡ ほか)
 教育普及部門 384㎡
 (講堂234㎡、講座室53㎡、ハイビジョン67㎡、ほか)
 収蔵部門 1,746㎡
 (収蔵庫第一292㎡、第二575㎡、
 第三267㎡、作業室49㎡、ほか)
 調査研究部門 272㎡
 (研究室83㎡、資料保管室61㎡、書庫128㎡)
 管理事務部門 416㎡
 (事務室133㎡、会議室70㎡、館長室55㎡、ほか)
 設備・機械 1,017㎡
 (熱源機械室、電気室、空調機械室、ほか)
 他共用部門 2,858㎡
 (廊下、階段、ほか)

〈展示室の環境〉
 室の明るさ 70～150lux+局部照明
 照明方法 全体照明(ダウンライト・間接)
 スポットライトによる局部照明
 光源の種類 ハロゲンランプ(熱線カット)
 美術館用蛍光灯
 温度・湿度 夏季/26℃・50%
 冬季/22℃・55%

〈主な設備〉
 空調方法 個別式(単一ダクト方式・FCU方式)
 熱源:ガス・電気
 熱源機器/ガス温水発生機2台
 冷房能力/240USRT
 暖房能力/52,000kCal/h
 冷却塔/2,810,000kCal/h
 空調機器/全空気方式 空冷ヒート
 ポンプエアコンファン

給排水衛生 給 水/上水直結
 給 湯/中央式(ガス)
 個別式(電気)
 排 水/屋内合流、屋外下水道放流
 BIF床上受水槽(FRP40㎡)
 排水槽/有効0.76㎡

給排水 電 気 受 電/3相3線 50Hz 6.6kV
 660kW
 発電機/3φ3W 50Hz 6.6kV
 375kVA
 非常保安動力/300kVA
 非常保安電灯(スコット)/50kVA
 変圧器/1,400kVA7台

防 災 消火/屋内消火栓、屋外消火栓、
 ハロゲン化物消失
 排煙/自然排煙
 屋内消火栓 粉末消火器 ハロン
 消火設備 ハロン消火器 連結散
 水設備 屋外消火栓

昇降機 乗用ELV/750kg積
 (30m/分)1台
 人荷用ELV/3,000kg積
 (30m/分)1台

駐車場 屋内2台、屋外165台

〈主な外部仕上〉
 屋 根 アルミクラッド鋼板立ハゼ葺
 外 壁 四丁掛精妬器質タイル(割肌)
 二丁掛精妬器質タイル
 建 具 アルミサッシュ電解二次着色
 ステンレスサッシュH.L.仕上

外 構 御影石ブロック+陶製ブロック舗装

〈主な内部仕上〉
 エントランスホール
 天井/コンクリート打放し
 壁/御影石こぶ出し仕上
 床/御影石ジェットバーナー仕上

展示室 天井/P.B.E.P
 壁/ガラスクロスE.P
 床/タイルカーペット

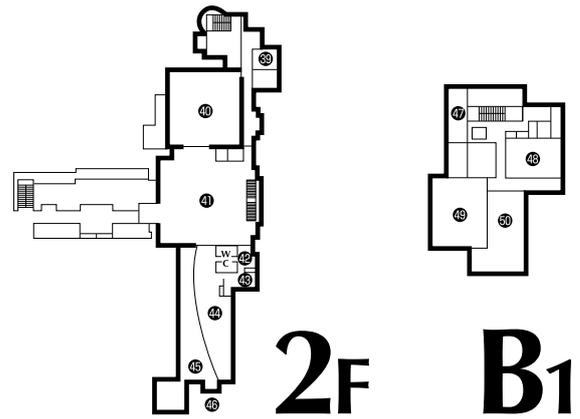
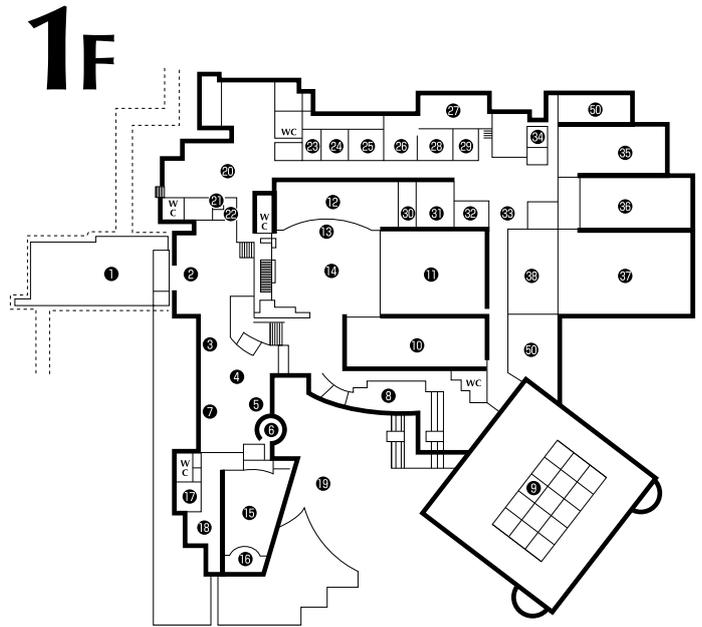
収蔵庫 天井・壁/スプルス
 床/ナラ縁甲板張

講 堂 天井/
 壁/四丁掛精妬器質タイル+P.B.E.P
 床/カーペット

研究室・事務室
 天井/岩綿吸音板
 壁/ビニールクロス貼
 床/タイルカーペット

【施設の配置】

- | | |
|---------------|-------------|
| ① キャンピ | ②⑥ 研究室 |
| ② エントランスホール | ②⑦ 書庫 |
| ③ ロビー | ②⑧ 資料保管室 |
| ④ ミュージアムショップ | ②⑨ 倉庫 |
| ⑤ データベース室 | ②⑩ フィルム保管室 |
| ⑥ ハイビジョンギャラリー | ②⑪ 撮影室 |
| ⑦ レファレンス | ②⑫ 作業室 |
| ⑧ 企画展示室ロビー | ②⑬ 荷解室 |
| ⑨ 企画展示室 | ②⑭ 燻蒸室 |
| ⑩ 展示室 1 | ②⑮ 収蔵室 1 |
| ⑪ 展示室 2 | ②⑯ 収蔵室 3 |
| ⑫ 展示室 3 | ②⑰ 収蔵室 2 |
| ⑬ 常設展示室ロビー | ②⑱ 展示備品倉庫 |
| ⑭ 中庭 | ②⑲ ガラリー控室 |
| ⑮ 講堂 | ②⑳ ガラリー |
| ⑯ ステージ | ②㉑ アトリウム上部 |
| ⑰ 講座室 | ②㉒ レストラン事務室 |
| ⑱ 講堂ロビー | ②㉓ 厨房 |
| ⑲ 屋外展示スペース | ②㉔ レストラン |
| ⑳ 事務室 | ②㉕ 吹抜 |
| ㉑ 乳児室 | ②㉖ テラス |
| ㉒ ロッカー室 | ②㉗ ドライエリア |
| ㉓ 応接室 | ②㉘ 電気室 |
| ㉔ 館長室 | ②㉙ 熱源機械室 |
| ㉕ 会議室 | ②㉚ 空調機械室 |



新潟県立万代島美術館

【施設概要】

〈機能別延床面積〉

	内訳	用途等	面積
展示室		美術品等の企画展示	1,433.09㎡
収蔵	収蔵庫	美術品等の保管	102.05㎡
	収蔵庫前室	収蔵庫の温室度を安定させる	28.15㎡
専用エレベーター		地下1階より美術品を搬入	27.59㎡
管理	事務室	学芸員、一般事務の執務室	72.66㎡
	資材倉庫	文書・書籍カタログ等の収納	32.75㎡
	準備室	展示作業用の作品移動ケース置場等	95.56㎡
	荷解室	美術品の開梱・点検場所	107.58㎡
	休憩室	嘱託員の休憩場所	10.04㎡
	応接室	来賓等の応接	13.99㎡
	トイレ	職員・来館者用	92.58㎡
	空調機械室	美術館専用の空調機械設置	120.15㎡
共通	ポンペ庫	ハロン消火設備用ポンペ庫(予)	28.63㎡
	ロビー	来館者の導入、休憩及びインフォメーション等	279.63㎡
	廊下等	来館者の通路、避難経路など	321.84㎡
	乳児室	乳児のために使用	6.35㎡
B1F	ロッカールーム	来館者の利便のために手荷物を保管	22.62㎡
	専用エレベーター(B1F)	美術品の搬入用	26.23㎡
	専用エレベーター機械室	専用エレベーター用の機械設置	13.42㎡
専用荷捌スペース	美術品の荷捌スペース	124.54㎡	
合計			2,959.45㎡

〈建築概要〉

1. 全体概要

種別／複合ビル内包型 公立美術館
 所在地／新潟県新潟市万代島5番1号
 工事期間／平成12年10月3日～平成15年3月30日
 敷地面積／103,128.93㎡(万代島一団地認定敷地全体)
 建築面積／6,017.37㎡
 延床面積／52,585.54㎡(うち、美術館2,959.45㎡)
 構造種別／鉄骨鉄筋コンクリート造
 階高／美術館フロア6.3m

2. 建築主体

設計／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
 監理／鹿島建設株式会社一級建築士事務所
 施工／鹿島・大成・福田・五洋・本間・東亜共同企業体

3. 仕上げ(美術館部分のみ)

屋根／鉄筋コンクリート下地断熱アスファルト防水押え、
 コンクリート鋼製根太組天然スレート敷
 外壁／プレキャストコンクリート下地アルミスバンドレル張り、アルミカーテンウォールふっ素樹脂焼付塗装、
 プレキャストコンクリートカーテンウォールふっ素樹脂常乾塗装
 内装／(設備概要を参照のこと)

4. 電気設備

電力引込／3相3線6.6Kv50Hz
 2回線受電、地中引込
 受変電／1階サブ変電所、キュービクル式受変電設備
 非常用電源／発電機1台、ディーゼル1000KVA、
 蓄電池400AH
 電話設備／電話配管(機器、配線は別)
 放送設備／非常放送兼用アンプ1160W、130回線、
 美術館業務用アンプ80W、5回線

5. 空調設備

熱源／全体熱源：冷温水発生器(ガス焚)
 240RT×2台
 収蔵庫：空冷ヒートポンプ
 空調機／コンパクトエアハンド7台
 単一ダクト
 換気／個別換気
 給気ファン1台、排気ファン15台

6. 昇降機

制御機構／24時間中央温湿度管理システム
 乗用／ロープ式 210m/分 定員20名1,350kg
 4基(うち、車椅子仕様1基)
 荷物用／油圧式
 15m/分 3,000kg 1基
 テーブルリフター／
 リフト 0.9m
 テーブル 2.0m×2.0m 3,000kg

〈設備概要〉

1. 展示室概要

壁仕上／不燃プラスチックボード、ガラスクロス表面仕上げ
 床仕上／フローリング(ダグラスファー)
 可動壁／不燃プラスチックボード、ガラスクロス表面仕上げ
 L4.0m×H4.5m：30枚、L2.0m×H4.5m：26枚、
 L2.4m×H4.5m：4枚
 固定展示ケース／2箇所
 (外側)スチール製・高透過ガラススチール製・アクリル焼付塗装、
 高透過ガラス・重量キャスター・アジャスター付、
 シリンダー錠付
 (内側)低ホルマリン合板、クロス張り、エアタイト、寸法
 D18.0m、W1.2m、H4.5m
 照明／全て美術館用UV/IRカットフィルター付
 ベース照明：ハロゲンウォールウォッシャー
 200W
 展示照明：ローボルトハロゲン(12V50W)
 ケース内照明：高効率照明器具(32W)及びローボルトハロゲン(12V50W)
 設定温湿度／春・夏期：23℃、60%
 秋・冬期：20℃、50%
 (変動率±3℃、±10%以内)

2. 収蔵庫概要

- 床 仕 上 / フローリング
- 壁 仕 上 / ゼオライトパネル (天井共)
- 内部寸法 / L11.5m、W7.5m、天井H3.5m
- 入口寸法 / H3.0m、W3.0m
- 収蔵庫内作品固定方法 / 収蔵棚
- 収蔵庫扉の構造及び仕様 / スチール製
耐火2時間扉
- 照 明 / 高効率照明器具 (32W)
美術館用UV/IRカットフィルター付
- 空 調 / 恒温恒湿パッケージ2台 単一ダクト (VAV)
- 設定温湿度 / 春・夏期: 20℃、60%
- 秋・冬期: 20℃、60%
- (変動率±2℃、±5%以内)

3. 搬入口関連概要

- 専用搬入口寸法 / H3.8m、W5.0m
- 高位置の接岸ドック / 地上からの高さ0.7m
- 可動接岸ドック / 0 ~ 0.9mレベルまで
- 油圧式リフト / 最大重量3,000kg
- クレーン / 最大重量3,000kg
- 搬入可能なクレーンの最大サイズ /
H3.0m、W3.0m、D3.0m
- セキュリティ / 画像センサー機械警備
- 荷解室への立入管理 / カードリーダー方式電気錠

昇降機内部寸法 / L3.0m、W3.0m、
天井H3.0m

4. 防災設備

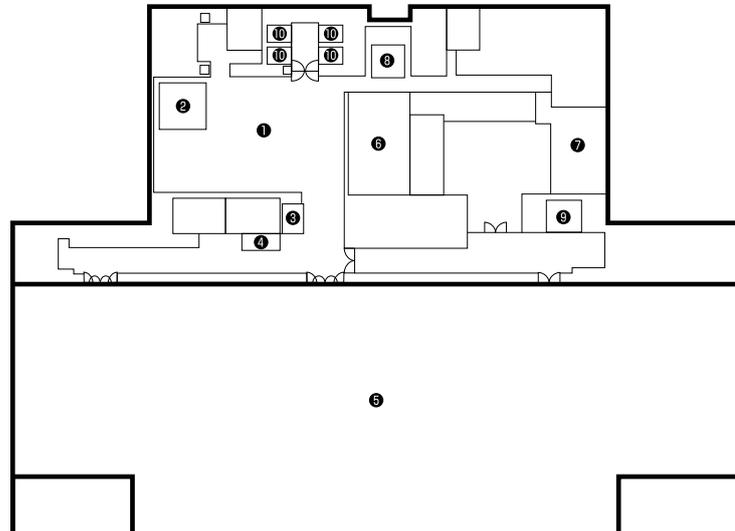
- 消火設備 / 湿式スプリンクラー
展示室、準備室、荷解室及び収蔵庫はハロン消火
- 感知器の種類 / 自動煙感知
- 火災警報への伝達 / 発信機、非常電話
- 補助消火栓 / 搬入場所1基、その他4基
- 連結送水管 / その他2基
- 消 火 器 / 搬入場所: 粉末ABC
展示室: ハロンガス
その他: 粉末ABC及びハロンガス

5. 防犯設備

- 監視設備 / ITVモニター、ITVカメラ15台
(美術館14台、EV1台)
- 機械警備設備 / 画像センサー+スピーカ
- 警備会社 / SECOM株式会社
- 使用警報機の種類 / 画像センサー及び
水銀スイッチ
- 警報入電場所 / 館内中央監視盤及び
美術館事務室
- 盗難防止ケースの種類 /
ガラス・ケース及び壁面固定ケース全てにシ
リンダー錠付

【施設の配置】

- ① エントランスホール
- ② ミュージアムショップ
- ③ 情報検索コーナー
- ④ 乳児室
- ⑤ 展示室
- ⑥ 収蔵庫
- ⑦ 事務室
- ⑧ ロッカー・自販機
- ⑨ 作品専用エレベーター
- ⑩ エレベーター



新潟県立近代美術館協議会

【委員】(依属当時)

(平成26年8月1日から平成28年7月31日まで)

●学識経験者

- 近藤フチエ (新潟大学名誉教授)
- 金子 賢治 (茨城県陶芸美術館長)
- 松本 健義 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)
- 菅野 翠清
(新潟県美術家連盟副理事長 / 北日本書芸院主幹 / 新潟県美術展覧会運営委員)
- 西條和佳子
(特定非営利法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事)

●社会教育関係者

- 竹内 伊澄
(歯科衛生士 / 上越市社会教育委員 / 上越市公民館運営審議会委員 / 上越市民芸能祭協議会副会長 / いすみジャズダンス代表)

●学校教育関係者

- 市村 吉之 (新潟市教育委員会教育総務課副参事 / 下越美術教育研究会顧問)
- 霜鳥 健二 (新潟県立加茂高校教諭 / 新潟県美術展覧会運営委員)

●一般公募

- 北嶋 伸 (社会保険労務士)
 - 地主 純
(新潟税務署非常勤職員 / まちなかアートスタジオ実行委員・手部部长)
- ※○は会長 ○は副会長

(平成28年8月1日から平成30年7月31日まで)

●学識経験者

- 丹治 嘉彦 (新潟大学教育学部教授)
- 岡塚 章子 (東京都江戸東京博物館展示企画係長)
- 松本 健義 (上越教育大学大学院学校教育研究科教授)
- 山田 一郎 (新潟県美術家連盟事務局長)
- 西條和佳子
(特定非営利法人ワーキングウイメンズアソシエーション常任理事)

●社会教育関係者

- 竹内 伊澄
(歯科衛生士 / 上越市社会教育委員 / 上越市公民館運営審議会委員 / 上越市民芸能祭協議会副会長 / いすみジャズダンス代表)

●学校教育関係者

- 古田 修
(五泉市立川東中学校長 / 新潟県美術教育連盟副会長 / 下越美術教育研究会会長)
- 佐藤 直人
(新潟県立長岡商業高等学校教諭 / 新潟県高等学校文化連盟美術・工芸専門部門副委員長)

●一般公募

- 高石真理子
 - 高橋健太郎
- ※○は会長 ○は副会長

【日程及び内容】

第1回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成28年4月25日(月) 13:00～15:00

会場：新潟県立近代美術館

- 内容：(1) 「平成27年度新潟県立近代美術館協議会評価報告書」の作成について
(2) 平成28年度事業について

第2回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成28年10月6日(木) 13:30～15:30

会場：新潟県立近代美術館

- 内容：(1) 新潟県立近代美術館協議会の概要
(2) 会長および副会長の選任
(3) 「平成27年度県立近代美術館協議会評価報告書」について
(4) 「平成28年度美術館運営のへの提言」を受けて
(5) 平成28年度近代美術館の事業計画
(6) 平成28年度県立近代美術館の中間報告

第3回新潟県立近代美術館協議会

日程：平成29年2月5日(日) 13:30～15:30

会場：新潟県立万代島美術館

- 内容：(1) 平成28年度事業の中間報告②
(2) 平成28年度評価の分野と執筆担当
(3) 作成手順およびスケジュール
(4) 次年度評価に向けた意見交換

【自己評価に対する委員評価】

平成28年7月

はじめに

美術館協議会委員により、ここに平成27年度の新潟県立近代美術館と万代島美術館の評価報告書を提出する。

近年の社会状況や芸術状況の変化に伴い、美術館に対する人々の要請も大きく変化してきている。義務教育において芸術教育の時間数が相対的に縮減され、高齢者の学習機会に対するニーズや地域文化の創生に対する期待が高まるなかで、多様な役割を自覚的に受け止めていくことが求められている。

近代美術館の創設期には、建物自体近代芸術の展望の下で構想され、伝統的な日本美術も西洋美術も受け入れ可能な器となっていた。しかしながらエスニック文化をはじめ、多様な価値観の下で育った文化に対する理解が進んだ今日、いわゆるマイナー芸術と呼ばれるような工芸、デザイン、多様なメディア美術などの展示に対してはこれまでにないような工夫が求められている。メディア・アートや総合性が美術の境界を拡張してきている。現代美術が展覧会を離れ、地域や歴史や自然との結合を取り戻そうとして地域や人々の生活の場に回帰してきたこと、従来の美的規範がより大きな価値観で捉えられるようになると、美術愛好者にとって受け入れがたい事態となっていることも確かなことである。難しい現代美術から誰にもわかる芸術が好まれるようになってのも特徴である。他方では大衆芸術と並んで非常に難解な現代美術もあり、少数だが、貴重な鑑賞者には必見の展覧会もあるわけである。

多様な趣味と経験からなる観衆のために、地域の美術館はそれぞれに特有な観点から、企画を考え、広報活動、観客や地域への鑑賞や学習会の運営、古今の芸術に関する研究を行い、作品の保存、収集、地域社会との連携等、多様な活動を通じて、芸術文化の推進に寄与してきた。

芸術の変遷と人々の芸術に対する意識のかけ離れがますます増大していく中、美術館の果たす役割はますます重要と言わざるをえない。社会教育機関として将来を見据えた戦略的取り組みに期待するとともに、これまで以上に地域の理解と支援を期待するものである。

平成28年7月

新潟県立近代美術館協議会
会長 近藤 フヂエ

第1章 県立近代美術館の自己評価に対する総括的所見

(1) 美術館運営の全般について

近代美術館と万代島美術館に地域が求めていることは、地域の文化伝統や世界の芸術文化の理解を助け、人々の芸術的素養の涵養に資することである。加えて、期待されているのは、新潟県、新潟市を訪れる人々に対し、当県および海外の多様な表現文化を紹介することである。今後、県外、国外の訪問者が増えることで、ますます常設展が重要となってくる。

本年度、近年、館独自の企画を立ち上げることが難しくなっている状況下で、県立近代美術館及び万代島美術館は、これまでにない成果を上げている。しかしながら、良い企画が必ずしも多くの観客の動員に直結しないのが現実である。県民の利用拡充を図る様々な取り組みも、すべての企画展で成功しているわけではない。人気の高い例えば「ジブリの大博覧会」のような企画と、学術性と芸術性が高いにも関わらず、入場者数が少ない展覧会があることも当然なこととして理解される。

美術館の掲げる使命の一つ、「芸術文化を踏まえた憩いと学びの場の提供と、県民に愛される美術館となる、地域や各種教育機関との連携を深める」は年々見るべき成果を上げている。同時に「新潟県の芸術文化の発掘・保存・発信の場となる」、万代島美術館は、「北東アジア、現代の美術に自配りした事業を行う」という使命についても、本年度も着実な成果が認められる。

(2) 目標設定のあり方について

自己評価の対象分野として、展覧会、教育普及、収集保存と発信と調査研究、環境と施設、協働組織が取り上げられている。通例の事業について、美術館の基本方針にかなった成果については個別の判断が示される一方、入場者数、新規来場者数、友の会の活動など、数値で判断したり、新規の取り組み数が評価されている。両館の自己評価について、協議会委員は展覧会等の機会や協議会の討議を通じて、企画展会場で入場者の満足度や反応を直接体感し、社会的な反響とあわせて、できるだけ客観的な判断となるように努めている。

(3) 目標に対する達成状況について

展覧会の企画について、両館とも意欲的な自主企画による展覧会を実施できた事実は、長期にわたる準備と調査・研究、他の機関との協力関係の結果であり、大いに評価すべき成果であろう。本県に関係ある芸術家の作品や活動を取り上げることは、重大な責務であり、他館との協力関係に発展したり、あるいは研究者の連携から発展した展覧会が開催できたりしたことにも、企画力とその推進に館員の日頃の研鑽の成果とみなすことができる。このような地域に関係深い作家を扱った「濱谷浩展」、現代美術の最先端の視点に教えられることが多い「濱谷浩展」、現代美術の最先端の一人となった「会田誠展」、万代島美術館の「醍醐寺展」、「日韓近代美術家のまなざし」、それぞれ優れた企画であり、観客数増に向けた一層の工夫を期待したい。

教育普及等関連分野については、企画に応じた鑑賞プログラムの実践と、対話型の鑑賞活動の推進を目指し、小学生の団体やその他の団体に対しパズルやカード等の資料の作成とそれらを用いた鑑賞機会の提供とワークショップの実施を行い、それと同時に教員の研修会でも鑑賞法について紹介を行うなど、美術館の教育界への貢献も評価できる。

調査・研究・収集・保存・発信分野では、予算の伴う修復が計画的に実施され、調査研究の成果は、それぞれの企画展の図録や、紀要、講座等においては公開発表された。自主企画が多かったため、図録や解説に質的な高さを追究したことで、資料性の高い成果を展開することができた。

環境・施設に関しては施設設備の修理補修のための準備の年であり、予算要求のための調査検討作業を行った。また万代島美術

館の「醍醐寺展」の開催に当たり、指定文化財の取り扱い可能な環境が整備され、この経験は今後の発展に大いに寄与するものと考えられる。

協働組織の分野では、引き続き他館、大学、自治体との協働を推進するために、巡回ミュージアムの開催、長岡市以外の、見附市との協同の模索、長岡造形大学の地域連携講座への参加、アオーレ長岡での展覧会のフィルム上映など、地域との連携が強化されたことは注目すべき事柄である。万代美術館では、地元のタクシー観光業との連携から、地域の芸術歴史的なネットワーク作りの試みや、ボランティア組織を軌道に乗せる取り組みが行われている。

以上のような分野別の取り組みとその成果について、美術館の自己評価は、おおむね妥当なものと判断する。

第2章 分野別に見た自己評価に対する委員評価

1 展覧会に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

本年度、近代美術館では、「濱谷浩」「会田誠」「亀倉雄策」という本県出身者の著名な作家を取り上げ、万代島美術館では学芸員の研究を踏まえた「日韓近代美術家のまなざし」、本県の宗教界との地道な関係づくりから実現された「醍醐寺展」に見るように、美術館独自の企画が多く取り上げられたことが高く評価される。企画会社の企画をそのまま受け入れる展覧会と比べると、美術館の実力が試される機会でもあった。本館発案の企画「濱谷浩展」が世田谷美術館との共同企画に発展したこと、万代島美術館の「日韓近代美術」が共同企画館とともに、2015年美術館連絡協議会大賞を受賞したように、各館の企画が優れたものであったことが対外的にも認められている。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

優れた企画にもかかわらず、入場者数が伸びていないことは確かに問題である。常に人気のある印象派を扱った近代美術館の「ひろしま美術館フランス美術展」も、予想以上の数の入場者が訪れていない。日本全国に共通する一般的傾向と地域の特殊な傾向があるが、それらを踏まえ、より重点的な入場者増への取り組みが期待されるが、万代島美術館の若年層への働きかけの工夫は一定の効果を上げている。だが、学術的、芸術的前衛性のゆえに、地域の美術愛好者の関心を喚起するに至っていないのは残念なことである。現代美術界の代表的存在を取り上げた「会田誠展」は、若者を中心に、関心ある者には貴重な経験ができ、大きな刺激を受けた展覧会だったが、一方では全く理解不能という鑑賞者がいたことも事実である。鑑賞者と作家の溝を埋めるための、作家来館によるワークショップは、参加者にとって作家の制作意図を理解したり、芸術観に触れたりすることができた刺激的な機会であった。本県出身者やマイナーな芸術的存在については、事前の広報や講座のような教育機会を充実させることにより、より広く、新しい世界に関心を持ってもらうように、日常的な活動に期待したいと思う。

最近多くの人々が利用するSNS、口コミの利用推進や美術館の情報サイトの充実、美術館が今後とるべき方向である。万代島美術館の「蛸川実花展」での撮影許可は、若い人々のスマホによる展覧会情報の拡散に寄与したことは確実である。TVも新聞を見ない若者が増えた今日、広報に新たな工夫に取り組む姿勢は評価される。

万代島美術館の「醍醐寺展」でも、本寺を訪れても見ることでできない貴重な作品に触れることができた。美術だけでなく、書道や茶道、宗教など多様な角度から鑑賞できたが、入場者数の増加について、検証の結果を活用し、一層の工夫と努力が期待される。

(3) 自己評価に対する総括

以上のような企画展についての各館の取り組み、展覧会のカタログ製作等の成果に対する評価を妥当なものとし、入場者数の期待値を下回る結果についての検証、「ジブリの大博覧会」の人気を他の企画展にいかにつなげるかなど、抽出された諸課題についても、一層綿密な分析を行い、次年度以降の取り組みに反映されることが期待される。

2 教育普及等関連事業に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について、今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

1. 各企画展に応じた教育プログラムに加え、コレクション展にも教育プログラムを加えて実践していく。

①コレクション展における教育プログラムとして、保護者が子どもと共に夏休みに来館して鑑賞活動をはじめとする教育普及ワークショップを経験できるよう企画し、学校向けのネット通信を利用した広報により実績をつくったことは評価される。今後の継続と発展が期待される。

②美術講演会、美術鑑賞講座、ワークショップ、映画鑑賞会、作品解説会、巡回ミュージアム等の従来からの取組に加え、ミュージアムコンサートを実施するなど、美術作品鑑賞のきっかけづくりや美術作品に親しむ環境づくりについて常に改善を図っていることは評価できる。

③「会田誠展」は現代を刺激的かつ精神的に生きる作家の生の在り様が作品やワークショップを通して展覧でき、若い世代の大きな刺激となった。今を生きる作家の展覧会を企画することで、学生や若者層の来館者の増加が進むと思われる。

④「亀倉雄策と『クリエイション』」はデザインを志す中高・大学生に貴重な機会となり好評だった。地域のデザイン力の向上にも繋がる企画展として評価できる。

2. 対話を取り入れた鑑賞活動を推進する。

①鑑賞目的で来館した学校・園のうち、27.3% (24/88) の団体が対話型鑑賞活動を利用した。多様な団体(学校・園)が利用できる、美術作品を鑑賞することの楽しさを体験する取組として継続・充実させていく必要がある。

②対話による鑑賞については、①小学校以上の学校団体に積極的に推奨し実施した点、②高等学校を含む教員向け研修会で実施した点、③学校教員との協働形式を開始した点、特に評価される。

③今後、一般団体での実施、美術館の公開講座と教員研修や大学の講義等の協働形式での研修の拡充、活動の実際がわかる研修用ビデオ教材等の充実が期待される。

○万代島美術館

1. 展覧会に関連した学習に広がりを持たせる。

①少ない人員で、学校教育や社会教育施設等の団体からの求めに応じたできる限りの鑑賞体験と作品解説を実施したことは評価できる。

②醍醐寺展は引率した高校生に評価が高かった。美術館側からも中学生・高校生に足を運ばせるような教育普及の企画と方策を期待したい。

③教育普及事業全体の参加者数は、前年度と比較して1,835名減少している。講演会、作品解説会の減少、コンサートの未開催、団体来館者の減少が要因といえる。特に、団体来館の減少、とりわけ学校等団体は著しく減少している。効果ある対策が望まれる。

④教育普及活動利用者によるインターネットでの情報発信により美術館での教育普及活動が拡散するような方策も期待される。

2. 実行委員会の構成団体とも協力し、様々なイベントを実施する。

①専門家による作品解説会は、対話による鑑賞とは異なるニーズと方法による鑑賞の場である。今後とも積極的に実施してほしい。

②施設に空間的制約があることから、講演会、作品解説会、対話型鑑賞会等の教育普及プログラムを充実させる方策を期待する。

③教員研修組織、大学教育と連動した公開講座により、教員、大学生、市民を対象とした対話型鑑賞スタッフ養成プログラムを開設し、県立美術館として県民や市民を広く対象とした対話型鑑賞の教育普及の拡大を期待する。

④古典的な美術や仏教美術に自発的に来館する中・高校生は少ない。教育委員会と協働し、中学校、高等学校の社会や国語等も含めた教育課程と連動した教育プログラムを開発し、中高生に日本及び世界の多様な文化や歴史に実際に出会う機会を保障することが期待される。

(2) 自己評価に対する総括

○近代美術館

幼児から高齢者まで、幅広い年代層への教育普及プログラムの充実が試みられていることはたいへん評価される。対話による鑑賞は、中学校や高等学校への拡大、教員研修組織との連動、学校教員との協働形式も達成しており、スタッフ養成に向け教育機関や市民団体と連動した更なる充実が期待される。また、今後の教育改革が社会と目標を共有することも志向されていることより、教育委員会を介して各学校種の教育課程との連携が期待される。企画展及びコレクション展それぞれ自体が美術館の教育普及の根幹にあることも、今年度の取り組みで示された。美術館の教育普及機能のさらなる充実を期待したい。

○万代島美術館

建物の空間的制約、政令都市の文化的社会的制約、スタッフの制約を、自明な前提とするのではなく、県庁所在の政令指定都市にある県立美術館としての果たすべき役割について、文化行政課の主導のもと新潟県教育委員会と緊密な連携をとり、改めて検討をいただきたい。万代島美術館については、平成22年以降の重点目標、取り組み、事業目標と体制の見直しを行い、全県及び、特に下越地域の学校や市民に充実した教育普及の提供が可能な体制の早期の確立を期待したい。

3 調査・研究、収集・保存、発信に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

県出身作家、巡回展作家の調査・研究が順調に進められた。亀倉雄策資料は展覧会として公開され、図録の形で資料目録化することができた。新潟の書、武石弘三郎、萬鐵五郎は次年度開催展覧会分として行われた。

研究成果発表も順調で、「会田誠展」図録論文、中村木子に関する研究紀要論文など、充実した成果を上げた。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性及その効果について

特に亀倉雄策資料整理と展覧会発表はなかなか困難な戦後グラフィックデザイン作品の保存・研究・公開の模範となる先例を作り出したことは大きく評価される。また館としての現代美術に対する見識、日本の美術館があまり得意としていない近現代書の研究の基礎資料集を作成したことは、県内書活動に光を当てるだけに止まらず、近現代書研究の一例を作り出すことにもなる。

(3) 自己評価に対する総括

微に入り細に入りなかなか価値の高い調査・研究が行われたことを評価したい。一方で現代美術の最先端に切り込み、もう一方で出身作家の地道な調査を進める、バランスの取れた計画、進行状況は大変貴重である。修復が、規模が小さいながらも順調であることは大変うれしい。

4 環境・設備に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

大規模改修に向けて改修施設調査業務委託費の予算付け等を行い計画的に取り組んでいる事は評価できる。

○万代島美術館

来館者に快適な環境を提供する為に計画的に施設整備に取り組んでいるのは大変評価出来る。「醍醐寺展」で指定文化財を無事に展示公開できた事は大変評価でき、館の自信にも繋がったと思う。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性及その効果について

○近代美術館

館として改修箇所、概算事業費をまとめ、その後28年度に先行して実施する調査の予算要求を行い、教育庁内で説明・検討した結果、大規模改修施設調査業務委託費の予算付けが出来た事は評価できる。

開館30周年に向けたリニューアルを期待する。

また、常設展の来館者増加に向けての方策が必要と考える。

○万代島美術館

移動式展示ケースが清掃され、とても展示が見やすくなった。また、スリッパの貸し出しなどの細やかな気配りもあり、リピーターにつながると考える。

引き続き展示スペース以外の施設の清掃も徹底してほしい。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については客観的に評価され、妥当と思う。

展示の方法、展示場所の設定には様々な課題はあると思うが独自性のある思い切った展示の検討も必要と考える。

5 協働組織に関する評価

(1) 実施目標に対する達成状況について

○近代美術館

「湯沢町での巡回ミュージアムをはじめとして、長岡市以外との協働活動も視野に入れながら活動を進める」という取組目標については、巡回ミュージアム開催にあたって開催地に関わりのある作家（作品）に目を向けるとともに開催自治体からの要望をもとに展示内容を選択決定するという、協働の基本姿勢を確保していることをまず評価したい。

その上で、担当職員の負担が増えるかもしれないが、地元美術愛好団体など開催地の住民に企画や準備、開催期間中のイベントなど、巡回ミュージアムの一部に関わってもらうようにすると、地域住民の意識がさらに高まり、近代美術館本館への来訪促進にも繋がるのではないかと。

また、見附市との連携が3年目を迎え、新たなプログラム開発へ発展しているのは素晴らしい。その一方で3年目ということは、この間の事業評価をするにも相応しい時期であり、3年度目が終了した際には児童や保護者の意識調査や追跡調査を行うなど、事業評価をしっかりと行って貰いたい。

その上で、保育園児対象から保護者への拡充、加えて高齢者向けのプログラムの検討など、他の自治体との連携にも応用

できる策を講じて貰いたい。

また、長岡造形大学と連携して実施している「こどもものづくり大学校」は、幼児から大学生まで幅広く人材を育て、美術館のファンを創るという点で大変有効と思われるため、ぜひ継続をして頂きたい。

その一方で、27年度において初めて長岡市側からの実践的な協力を得られたというのであれば、なぜこれまで市の側からの協力が得られなかったのか、なぜ27年度は得られたのか、その理由を分析し、次年度以降に反映させて貰いたい。

「友の会、アートボランティアとの協働」については、友の会のボランティアによる美術館ツアーなど、相互にメリットのある「win&win」の関係が成立していることを高く評価する。互いのコミュニケーションを更に活発化させ、他の団体や組織との協働にも繋げて貰いたい。

「新潟アートリンク」については、開始当初のスタンプラリーから「学芸員同士の交流」に発展したことを高く評価したい。会議の持ち回り制なども県内の美術学芸員の資質向上のために有効であると考えられる。このような取組を通して、スタンプラリーやパネル紹介以上の魅力的な企画が誕生することを期待する。

○万代島美術館

以前からの継続目標である「美術館と友の会及びサポートメンバー（ボランティア）との間での協働や連携活動を推進する」については、万代島美術館において友の会によるアートカフェが開催されたり、サポートメンバーによる資料整理が展覧会の開催の力になったりした点など、具体的な成果があったことを最初に評価したい。

上記のような、美術館と協働することで得られる「やりがい」や「楽しみ」を多くの人たちに知ってもらおうことがサポートメンバーの拡充を図る場合には有効となるだろう。しかしながら、サポートメンバーの拡充をどの程度目指しているのかなど、館の姿勢がいまひとつ明確に示されていないのが残念である。また、職員の手が足りないという状況が継続的にあるのなら、新潟市で活動している市民団体に目を向け、協働の検討をすることも有効と思われる。

「近隣施設と連携・協働する」という目標については、タクシードライバーへの説明会やスタンプラリーの継続に加え、醍醐寺展で地元寺院の協力で法要を行ったこと、新潟市主催「水と土の芸術祭」への協力を行ったことを評価したい。

その一方で、前年度に実施されていたホテル日航新潟や「りゅーとびあ」との協働などが実施されなかったことは残念である。

昨年度の評価報告書に記載した内容と重複するが、新潟市は、コンベンションを含め、コンサート、スポーツなど多様な要素による観光に力を入れている。その新潟市において、最も利便性の高い立地にある美術館が万代島美術館である。

今年度の新たな取組として「現美新幹線」と関連して、「観光タクシープラン」への参加、JRのパンフレット掲載などが行われたが、新潟市における美術や文化の拠点として万代島エリア全体の魅力に貢献し、その結果、万代島美術館の魅力も高まる、そのような視点で近隣施設と連携協働を進めていって頂きたい。

(2) 今年度活動の取組内容の妥当性とその効果について

○近代美術館

「湯沢町での巡回ミュージアムをはじめとして、長岡市以外との協働活動も視野に入れながら活動を進める」という取組は、「地域の人々と協働しながら、県民の誇りとなる新潟県の文化を発信する」という当館の社会的使命と大変合致している。

開館から20年以上が経ち、新潟県が誇る美術家や作品に関する見識や所蔵品を相応に有している当館が、どれだけ多くの人たちに美術に親しみ、次の時代に繋がる人材育成の端緒を担うことが出来るか。

前年度の阿賀町に続く湯沢町での巡回ミュージアムや見附市で実施した保育園児向けのプログラムなどは、この点で大変妥当な取組である。ただし、その効果については、協働の成果を客観的に測定したデータがないため、現時点においては評価ができない。この点を改善するためにも、見附市との協働の3年度目が終了した際には、児童や保護者の意識調査や追跡調査などを通して効果測定を行って貰いたい。

「友の会、アートボランティアとの協働」、「新潟アートリンクの拡充」も、当館の使命を具体的な形で示す妥当な取組である。こちらについては、協働による事業内容の広がり、学芸員やボランティアなど協働に関わる人数が増えていることから、一定の効果が上がっていると推測される。

○万代島美術館

「サポートメンバーの活動を軌道に乗せる」については、美術館業務を円滑に進めるために一定の成果があり、メンバー自身にとっても「やりがい」や「楽しみ」を得る意味ある取組と考える。

しかし、サポートメンバーの人数が目立った増加がみられないこと、友の会によるボランティア活動が万代島美術館においても始まったことを考えると、「サポートメンバーの活動を軌道に乗せる」ことが重点目標のままで良いのか検討が必要かもしれない。

今後も友の会との連携が進んでいくのであれば、27年度の取り組みとして掲げられている「美術館と友の会及びサポートメンバーとの間での協働や連携活動を推進する」の方が「重点的な事業目標」として適当かもしれない。

また、(1)の中でも触れたが、美術や文化に関わる市民活動が盛んである地の利を生かし、他の市民団体との協働にも目を向けた方が効果を生みやすいかもしれない。

「近隣施設と連携・協働する」についても同じだが、新潟市に立地していることを前向きに生かし、より具体的な協働目標を掲げて頂くことを希望する。

(3) 自己評価に対する総括

自己評価については、おおむね妥当と考える。

しかし、27年度については、近代美術館が長岡市から初めて実践的な申し出を受けたり、万代島美術館がタクシー会社から観光タクシープランの提案を受けるなど、他者から働きかけを受けて協働した事例が例年よりも目立ったように思われる。

「他者から協働の提案を受ける＝美術館が魅力的で身近な存在である」と考えれば「評価すべき点」であるが、相手から申し出を受けて実施したことは申し出がなければ実施されなかったかもしれないと考え、少し甘い自己評価かもしれない。

次年度は、美術館の側がより主体的に取り組み、その結果、他者からの働きかけも増加する、そんな姿を期待したい。

第3章 平成28年度県立近代美術館運営への提言

近藤 フチエ 会長

美術館が住民に親しめるよう、関係を緊密にするために、住民参加に重点を置くような活動体制を作りたい。今日、教育をはじめ、多様な経験を通じて自らの精神生活と社会生活の質を高めようとする生涯学習の時代、情報を一方的に与えられることでは満足せず、より深い理解と共感を得るために積極的に参加し力をつけようと望む人々が増えていく。作品鑑賞でも、主体的に自

らの言葉で語ることでできる鑑賞法や、ワークショップのような体験型学習法、さらに古くからヨーロッパの大美術館で行われて来た模写の機会の提供、新企画展の予備的学習の機会の提供、学習ボランティアの協力や養成などが、これからの美術館に対して地域が求めていく方向と考えられる。地域との芸術文化的な連携は、美術館とそこで取り上げられる表現活動をより身近な存在とし、地域の創造力を活性化してくれると確信している。

金子 賢治 副会長

国立西洋美術館が世界遺産に登録されたことは大きな話題になったが、私は地域の産業振興、文化振興に有効なのは、無形文化財制度、世界遺産、地元の名を冠したなにかの公募展だと思っている。私の専門である工芸に即してより具体的に言えば、無形文化財制度と工芸、世界無形文化遺産に登録された工芸、陶芸ないし工芸の世界的公募展、ということになる。勿論ここで言いたいのは、これらと美術館活動を連携させるということである。例えば新潟県では小千谷縮・越後上布が無形文化遺産に登録され、重要無形文化財（保持団体指定）でもあり、このほか経済産業大臣指定の伝統的工芸品（13産地16品目）や、重要無形文化財保持者（2名）の存在もある。

これらの中から美術館の所蔵にふさわしい近代的な意味での作家の作品を抽出し、それを展示しないし所蔵し、折に触れて公開し、その際「タッチ・アンド・トーク」を開催する。「タッチ・アンド・トーク」とは、作品に直に触ってもらい、その触感、温かさ、冷たさ、厚さ、薄さ、重さなどを体感してもらい、その後展示作品を見ながらその解説をする。言うまでもないが、直に触ってもらう作品は、所蔵品ないし展示品とは別のものを用意する。

工芸は素材を特定、限定して制作されるものである。従って彫刻は絵画などと比べて、素材性がかなり強い。その理解にはどうしても直に触れてもらうことが不可欠である。それと無形文化財制度ないし様々な工芸関係制度を連携させるのである。そのことで無形文化財思想という世界標準にまでなった日本発の考え方を理解してもらおう。工芸に対する関心を高める。来館者を増やす。そして地元の文化への理解を深めるのである。そこに無形文化遺産の「和食」を絡めることもできる。前年にも書いた「茶道」「茶事」を絡めることもできる。是非考えていただきたいものである。

松本 健義 委員

教育普及活動は、平成22年ごろより取り組まれている「対話による鑑賞」により、事業や組織間の連携に拡充がみられ、美術館と県民及び教育機関との互恵的な連携が進んだ。これは単に美術館だけの取り組みではなく、教育機関の教育課程や教育方法にも変化を生み出している。学校と地域が目的や方法を共有した、これからの新しい教育の展開を示している。一人ではなく、他者とともに美術の文化や歴史にふれ、自らが感じ方や感じたことを表現して交流することは、多様な美術文化の普及と理解にとどまるものではない。個々人の多様な見方、感じ方、ふるまい方を、美術作品を鑑賞することを通して相互に知ることであり、そうした差異（違い）に基づいて自分あたりまえとしている見方、感じ方、考え方、ふるまい方に気づき、その場での他者との交流を通して、新たなものへとつくり変えて成り立たせていくこと（教育）につながる。美術作品にふれる活動自体の普及に取り組みされている姿勢は、鑑賞者の年代、作品に応じて、今後も充実したものとへと深化充実されることを期待している。

一方、美術館をめぐる地域行政や教育行政とのあいだには、こうした取り組みを支えて、地域住民や小・中・高校生に十分な経験を提供できない状況にある。近代美術館と長岡市、万代島美術館と新潟市のあいだで、広報、教育普及の取り組み、人事等について、連携が緊密ではなく、十分な成果を生みにくい状況にあることも協議会を通じて理解した。幼児から高齢者まで、さまざまな県民のために美術館が十分に機能し、利用されるよう、文化

行政課、教育委員会、美術館の連携の下、こうした制度的な障壁が解消されるような、地域行政との互恵的な体制へと移行する対策を、一日も早く実現することを切に希望する。

菅野 翠濤 委員

若い世代を美術館に呼ぶという企画、試みは今後も続けて欲しいと思うが、逆に高年齢層が美術館に足を運ぶ企画を考えていく事も入場者を確保するには近道ではないだろうか。若い世代のほぼ二倍の人口が団塊の世代を中心に控えている訳だから。時間の余裕もあり、ある程度の経済的な余裕もあるこの年代が興味を持つ様なものを（歴史的なものが中心になるだろうが）、多く計画して欲しい。

もう一点。各展覧会の入場者数が報告されるが、その都度思うことがある。長岡ではなく新潟で開催すればもっと多くの入場者が集まるだろうなど。そこで、ある程度多くの入場者が見込めそうな企画の際は、長岡、新潟両会場で二度に亘って開催することが出来ないのだろうか。それぞれの近隣地域の人にとって喜ばれ、入場者数の増加につながる事だと思うのだが。

西條 和佳子 委員

今年度、提言をしたことは「万代島美術館の空きスペースの改善と有効活用」である。

理由は3点。1点目は「使われていないスペースが余りにも何もされずに放置されているように見える」ことである。万代島ビルの本フロアを占める美術館であるにも関わらず、エレベーターを降りて鑑賞コーナーに入るまでの右手に広がるスペースの閑散としている様子を見るたびに、なんとも言えないわびしさと「もったいない」という気がしてならない。

2点目の理由は、万代島美術館には来訪者が腰を下ろせる場所が圧倒的に足りないことである。長岡の県立近代美術館に比べれば鑑賞フロアの面積は小さいかもしれないが、美術鑑賞は丁寧に時間をかけて鑑賞すればするほど時間がかかり、健康な成人でも相応に脚が疲れるものである。

それなのに残念ながら万代島美術館には鑑賞コーナーを出た後、腰を下ろして休憩をすることができる椅子やベンチが見当たらない。そのため、時折、受付手前の傘立てに腰を下ろして休んでいる人を見かけることもある。また、私自身、娘と一緒に鑑賞に訪れることがしばしばあるが、娘は鑑賞後にショップで買い物をするのを楽しみとしているため、場合によっては30分以上それに付きあわなくてはならず、待っていることが苦痛で苦痛で仕方ない。

しかし、娘のように鑑賞後の楽しみとしてショップに立ち寄る来訪者は他にも多いだろうし、それも美術館が県民に提供できる喜びの一つだろうと考える。そのように考えたとき、来館者が鑑賞後の疲れを癒しながら余韻に浸り、あるいは同行者の買い物を苦痛なく待つことができるよう、長岡市の近代美術館に設置されているような休憩コーナーが万代島美術館の空きスペースに設置されても良いのではないだろうか。

そして3点目の理由は、万代島という新潟市を代表するエリアの一つに立地している美術館であること。また、第2章のなかでも触れたが、新潟市内には美術部のある中学高校、大学もあるし、芸術に関わる市民団体も活発に活動をしている。万代島という立地を生かし、美術や芸術を愛好する市民や若者に活用をして貰ったり、協働イベントを実施したりと、機能的で活気のあるスペースとして是非有効活用をして頂きたい。

その結果、人が集い、新たな文化や交流が生まれるスペースになったら、どんなに素敵なことであろうかと考える。

竹内 伊澄 委員

なぜ、新潟県はこんなに細長い県なのか…とつくづく感じる。ここ上越から万代島美術館まで131km、車で1時間41分、ちよ

と観に行くには遠い。住んでいる場所によって芸術に出会う機会に格差があるのは不平等だと思ひ、遠くの県民が眞の芸術に出会うきっかけ作りとその方策が必要と考える。集客も運営上重要だが、子ども達の感性を高め、豊かな情操を養う事が県立美術館の役目と考える。他の委員の方からも同様の提案があったかと思うが、再度以下の事を提案する。

- 幼年期に印象に残った事は一枚の絵画のように鮮明に覚えているものである。その点で若年層、特に若い親子に焦点を再度しばって見てはどうだろうか。

出前講座を保育園、小・中学校で大々的に展開し、PTA行事、講演会等に取り入れてもらい、親子での参加を促す事によって、自ずと保護者に周知され、集客にもつながると思う。そして何よりも子ども達が、眞の芸術にふれる機会が出来ると言うことである。

しかし、学校側からは保護者に声を掛けても来てもらえないのではないかと、消極的な姿勢も覗われると思うが、取り敢えず声を掛けてみる事が大切である。そして何よりも継続する事である。

継続する事によって徐々に成果は出て来る。成果を焦らずに芸術に出会うきっかけ作りをお願いしたいと思う。

- 学校団体に積極的に働きかけて、利用を促す取り組みをされているが出来る限り対話解説、もしくは導入解説を取り入れて頂けるように働きかけてほしいと思う。作品の背景、そして作品の手法などを聞く事によって美術により一層興味を持ってもらえるのではないだろうか。
- 近代美術館、万代島美術館、それぞれの美術館の立地条件をいかした展示を、たまには展示の場所、方法も概念にとらわれない奇想天外な発想を期待している。

市村 吉之 委員

多くの県民が、美術作品を鑑賞する喜びを味わい、美術に親しみを持ち、人生を豊かにする一つのツールとして美術館を利用する。このような芸術文化環境の実現を目指し、近代美術館、万代島美術館が、企画や展示等の工夫・改善について地道に努力を重ねられていることに深く敬意を表する。

両美術館が、真摯な取組をこれまで継続しているのにもかかわらず、近年、漫画やアニメーション、写真等の話題性のある企画展は、ますます来館者数が増加し、反面、古典及び純粋芸術の企画展のそれは伸び悩み傾向にある。この課題解決の一助になればと思ひ、次の5点を提言する。

- 1 企画展から企画展への接続を考えた広報を工夫する。企画展の来館者が、その次の企画展に来場したくなるような仕掛けを館内に展示したり、ポスター・パンフレットに掲載したりする。例えば、次回企画展に関連する問い（クイズやパズル等）を掲出し、それに対する答えは、次回企画展に来場しなければ分からないといったような仕掛けである。
- 2 情報端末機器の操作やSNSの利用に長じている若年層（中学生～大学生）をターゲットにした取組をより一層工夫する。例えば、蠟川実花展で、ある一定の効果があつた「会場の一部を写真撮影可にし、SNSを通しての口コミ拡散をねらう」といった取組の他に、企画展のアンケートの実施方法を情報端末機器を使った形態にするなどである。
- 3 教育普及事業、とりわけ教育プログラムの充実を図り、学校等の団体来館者数のさらなる増加を目指す。例えば、これまでのような企画展、常設展を利用した美術館内での対話型鑑賞会に加えて、巡回ミュージアムや出前講座で、小さな対話型鑑賞会を実施する。いわゆる所蔵作品またはそのレプリカ等を用いて、興味付けのためのミニ対話型鑑賞会を開催するのである。それを契機に、児童生徒の美術館での鑑賞につなげていくようにする。
- 4 教育プログラムの一層の充実、万代島美術館のみならず近

代美術館においても、配置職員数の状況等から見て高いハードルである。したがって、教育プログラムの開発・実施については、市町村立美術館や教育研究団体（県・市小研図画工作部、中教研美術部、県美術教育連盟（上越・中越・下越の美術教育研究団体が加盟））等との積極的な連携を模索する。県立美術館が場を提供し、市町村等の他館の学芸員や教育研究団体の所属教員が対話型鑑賞会を実施するなどの環境を整備していく。

- 5 美術館を利用する学校の二極化の緩和を目指し、教員への研修機会の充実を図る。学校単位や学年学級単位で美術館に来館するのは、その学校に美術館利用に積極的な教員が存在するからである。図画工作・美術以外の教科の教員が、美術作品を鑑賞する喜びを味わい、美術に親しみを持ち、人生を豊かにする一つのツールとして美術館を利用するようにならない。他教科教員へ対話型鑑賞会等の研修を行うことで、美術教育へのサポーターを増やす取組を進めていくことが大切である。

以上の5つの提言の中には、すでに検討中のものであるかもしれない。これらの中から一つでも多く、実際の取組として実現することを願っている。

霜島 健二 委員

近年の近代美術館・万代島美術館の取組みは、家族連れにアピールした企画が多い。少子高齢化が進み、どこの観光地やレジャー施設も来場者が伸び悩む中、美術館の方向性は将来の展望に立っているとと思われる。

新しい客層を呼び込み、且つ、今までの顧客にも満足感を与える展覧会企画を打ち出すには、従来の発想を大きく転換して行かなければならず、個人の力は言うに及ばず、組織の改編を含めた館全体の改革も必要になっていられると思われる。美術館の中に企画や広報、他施設との連携を専門に担当する部署の設置、さらには外部委託も検討する必要があるように思われる。

高校生も含め、若者に大きなインパクトを与えた企画として「会田誠展」があつた。現在を力強く生き、様々な方向性を持つ現役作家の全貌を紹介した展覧会は、「現代美術」の枠を超えて意義深かつた。

美術館は評価の定まった作家を取り上げることが多いが、共通の価値観を持つ現在進行形の作家こそ、今を生きる人たちに訴える力がある。こうした展覧会を毎年一回は企画して欲しい。そのことが、美術館に若者の足を向けさせる最良の手段と考える。

万代島美術館の「亀倉雄策展」、そして近代美術館の「亀倉雄策と『クリエイション』展」はデザイン関係の展覧会が少ない中、デザインに関心を持たなかった人たちにもデザインとは何かを考えさせる場となった。商品は中身や機能が良くても、パッケージやデザインが良くなければ売れない時代に入り、商品開発とデザインはもはや一体化している。そのデザイン界をリードした本県出身の亀倉雄策にスポットを当てた企画は、将来デザインの世界に進もうとする若者にも大きな刺激を与えた。

会田誠と亀倉雄策、本県出身の2人の展覧会は、改めて自主企画の良さを感じた。今後も独自の企画を続けてもらいたい。

他県の県立美術館と比較して、本県は2つの県立美術館を有し、それぞれの立地や展示会場の特長を活かした企画に取り組んでいる。これらも2つの美術館が連携し、他県にはできない多面的で多様な企画を展開してもらいたい。

その2つの美術館を自由に行き来できるチケットや交通手段の必要性を強く感じる。「現美新幹線」も走り始めた今、JRともタイアップして、広く県内のアート空間を巡るツアーも期待したい。

北嶋 伸 委員

昨年度も度々県立近代美術館と万代島美術館に足を運ばせていただき、展示と運営に企画・運営に携わる職員の皆様の日頃の努力と創意工夫を感じることができた。そんな中、私が提言できる

新潟県美術品収集委員会

ことは限られているが、一般的な来館者の視点から感じた事を二つほど述べてみたい。

一つ目は、時間が限られている人でもその中で効率良く鑑賞できる工夫を考えてはどうか。美術館から足が遠のく要因として、「じっくり鑑賞する時間がなかなか取れない…」という人も多いであろう。私も仕事や日々の雑事に追われ、気づくと会期が経ていたことも多々ある。個人差はあろうが私の場合は、じっくり鑑賞すると2時間程度は滞在することになる。例えば、1時間や30分で鑑賞したい人向けに、概ねその時間内で鑑賞出来るよう、展示のポイントとなる作品にマークを付けるなどしてはどうか。余計なお世話と感じる人もいると思うが、限られた時間で来館者の満足度を高める効果はあるかもしれない。

二つ目は、展示スペース以外のスペースの使い方や、売店やレストランなどの付帯施設の活用にもひと工夫ほしい。長時間じっくり鑑賞すると結構疲れるものであり、早く見終えた者が同行者を外で待つことも多く、ゆっくり座って休める場所をより充実させてほしい。近代美術館にある大きなソファは人気だが、場所を取る割には座れる人数に限りがあり、混んでいる時でもより多くの人が寛げるようになると良いと思う。万代島美術館の入場受付前のガランとしたスペースももったいなく感じる。県民の創作活動の展示やワークショップに使ってもらうことはできないだろうか。売店（ミュージアムショップ）やレストランもひと頑張りしてほしい。売店（ミュージアムショップ）は限定品を求める人で賑わう時はあっても、陳列や商品揃えに変化が少なくワクワク感に乏しい。近代美術館2階のレストランも恵まれたロケーションを生かせておらず、接客及び食事のレベルとも惜しい。現状でよしとせず、展示は見ないけど立ち寄りた、食べに行きたいと思わせる位の品質を目指すことが、美術館全体の魅力を向上させ、訪れる人を増やすことに繋がるであろう。

運営は外部委託であろうから難しい面もあると思われるが、いずれも美術館の魅力づくりには大切な施設なので、運営委託業者とも力を合わせて魅力向上に努めていただきたい。

池主 純 委員

2年間協議委員として会議に出席させていただき、勉強になった。そして美術館関係者、他の協議委員の方々が美術館をよくしようと熱心に話し合い、とても意義深いものだと思感じた。

私が活動しているフルマチ・アートスタジオには、作家から一般の方まで幅広い年代の人たちがたくさん来る。そこでみなさんに美術館について話を聞き、それが会議に反映されたらと思い、委員をしてきた。

県外の作家は、企画内容もいいし、空いていて作品をじっくり鑑賞できるのが嬉しい、と言っていた。

私は、新潟市に住んでいるので、万代島美術館をもっとみなさんに知ってもらい、活用してもらいたいと強く思う。万代島美術館は、せっかく日航ホテルと同じ建物にあるので、部屋にパンフレットを置いてもらう、ホテルのバスを美術館利用のお客様も乗れるようにする。旅行会社に美術館との日航ホテルのバックを組んでもらう。同じ建物の飲食店とのコラボバックや企画展の特別メニューを作ってもらったりと、色々できることはあると思っている。

万代島美術館はボランティアが少ないということだったが、新潟市は市民団体の活動が活発なので、その団体と共同で活動するのの一つの方法だと思う。

個人的感想は、やはり説得力と保証があるので、お伝えした方は100%見に行ってくれる。いわゆるクチコミ効果である。

私は、これで任期が終わるが、引き続き美術館の発信をしたいと思っている。

【委員】

宮田 亮平（文化庁長官）欠席

◎草薙奈津子（平塚市美術館長）

本江 邦夫（多摩美術大学教授）欠席

前川 公秀（DIC川村記念美術館顧問）

柳原 正樹（京都国立近代美術館長、富山県水墨美術館顧問）欠席

松本 透（東京国立近代美術館特任研究官）

郷 晃（新潟大学教育学部教授）

◎は委員長代理

【日程及び内容】

平成28年度「新潟県美術品収集委員会」

日程：平成29年1月15日(日)

内容：(1) 平成28年度美術品収集について

① 収集候補の全体説明

② 収集候補の内覧

③ 収集候補作品の協議

(2) その他

新潟県立美術館友の会

新潟県立美術館友の会は、新潟県立近代美術館開館の翌年、平成6年4月8日に「新潟県立近代美術館友の会」として発足。平成15年、新潟県立万代島美術館の開館にともない2館共通の友の会組織となり、「新潟県立美術館友の会」と改称した。

広く美術を愛する人達を中心として、美術館の活動及び運営に協力するとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深め、芸術文化の普及、向上を図ることを目的として活動している。

【会費・会員の種類】

一般会員	一般	2,000円	376人
	学生他	1,000円	1028人
ファミリー会員		4,000円	91人
特別会員	個人	30,000円	0人
	法人		25人
		計	1,520人

【会員の特典】

- ・会員証による近代美術館コレクション展、万代島美術館所蔵品の無料観覧
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展を観覧できるモニター券の配布（モニター券1枚で一回観覧可）
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展の優待観覧（団体料金）
- ・企画展図録の割引
- ・近代美術館、万代島ビル内のレストランの割引
- ・友の会だより、美術館パンフレット等の配布
- ・近代美術館、万代島美術館の企画展開場式への参加

【役員体制】

会 長 丸山 結香
副 会 長 小林 新治、上松 和義、山本 正明、宮澤奈緒子、
蒲木みゆき、目黒 真弓
理 事 渡辺 雅明、丸岡 稔
監 事 松永 芳文、永塚 重松
代 議 員 阿部 貴子、阿部美恵子、永島 賢司、大平 剛、
恩田 里士、片野 トク、佐藤 丈二、近藤フジエ、
高橋 信雄、高田 博俊、羽賀 享、原 和彦、
樋口 栄治、保坂 太、丸山 智、宮本 恵子、
山梨玲江子、舛岡 武雄、久島 芳尚、高石 恒一、
中川 アイ、金子かおる、金子 明子
名誉顧問 豊口 協
顧 問 徳永 健一、平山 征夫、和田 裕
相 談 役 澤 秀一郎
事 務 局 佐藤 夏代

【事業内容】

- 友の会独自事業および美術館との共済事業
- ◇5月7日 モネ展エントランスホール演出
 - ◇5月16日 代議員会
会場：近代美術館講座室
 - ◇5月21日 ワークショップ
「コンテを使って～癒しの絵を描こう～」
 - ◇5月28日 美術鑑賞ツアー「現美新幹線」
行き先：越後湯沢
参加者：20名
 - ◇5月28日 ビアズリーと日本展講演会
 - ◇7月2日 モネ展講演会
 - ◇7月30日 ワークショップ「夏休み子どもアート」
 - ◇8月27日 ワークショップ「くっつけてつくろう」
 - ◇9月11日 ヴェネツィア展講演会
 - ◇9月17日 美術鑑賞ツアー「金沢」
行き先：金沢21世紀美術館他
参加者：38名
 - ◇10月1日 ワークショップ「オープン粘土でつくろう」
 - ◇10月23日 とっておきの美術館ツアー
 - ◇11月12日 こらぼde茶会
 - ◇11月19日 アートカフェ
会場：ジュンク堂
参加者：16名
 - ◇12月3日 ワークショップ
「らせんに編む～ストールをつくろう」
 - ◇12月20日～25日 第20回作品展
会場：近代美術館ギャラリー
作品数：38点
来場者：146名
 - ◇12月25日 意見交換会および懇親会
会場：ホテルニューオータニ長岡
参加者：24名
 - ◇1月21日 鴻池朋子展トークイベント
- ◇友の会だよりの発行（カラー版1回、速報4回）

沿革

《新潟県立近代美術館》

昭和63年度予算で美術館建設調査費計上

昭和63年12月

「新潟県美術品収集基金条例」制定

平成元年10月

新潟県美術館建設基本構想を策定

平成2年3月

新潟県美術館建設基本計画を策定

平成2年3月

県立近代美術館建設の設計者選考方式を指名設計競技（コンペ）に決定

平成2年3月

指名設計競技の参加設計事務所5社を決定

平成2年7月

県立近代美術館建設指名設計競技審査会開催

(株)日本設計の作品が入選

平成2年8月

設計業務の委託を(株)日本設計と契約

平成3年2月

県立近代美術館建設の実施設計策定

平成3年5月

県立近代美術館建設工事入札

大成・吉原・小杉特定共同企業体等が落札

平成3年7月

県議会で建設工事の契約承認

平成3年7月

新潟県立近代美術館の建設着工

平成4年12月

県立近代美術館建設本体工事完了・引き渡し

平成5年3月

新潟県立近代美術館条例公布

平成5年4月

新潟県立近代美術館発足

平成5年7月

開館

《新潟県立近代美術館万代島美術館》

平成12年8月

新潟県新美術館基本構想を発表

平成13年2月

新潟県新美術館基本計画を策定

平成14年4月

新潟県新美術館開設準備室発足

平成15年8月

新美術館の名称を一般公募により「新潟県立万代島美術館」と決定

平成15年3月

朱鷺メッセ万代島ビル竣工

平成15年4月

新潟県立近代美術館万代島美術館発足

平成15年7月

開館

平成28年度
新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館 年報

編集 新潟県立近代美術館／新潟県立万代島美術館

印刷 株式会社滝沢印刷
発行 平成29年9月14日



THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART

新潟県立近代美術館

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum